

第398图 第298号住居跡出土遺物実測図

床 全体的に平坦で、中央部がよく踏み固められている。

ピット 1か所(P₁)。P₁は径25cmの円形で、深さ30cmである。出入り口に伴うピットと考えられる。

覆土 3層からなり、自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子少量
- 3 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物 土師器片142点, 須恵器片52点, 灰釉陶器片20点, 土製品1点, 石製品1点, 鉄製品1点が出土している。1の土師器坏は中央付近の床面直上から逆位で出土しており、ほかはすべて覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から奈良時代の8世紀中葉と考えられる。

第298号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第398図 1	坏 土師器	A[12.0] B(3.7)	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部上位に弱い稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部ヘラ削り。	長石・雲母にぶい橙色 普通煤付着	P1325 40% 中央付近床直
2	高台付坏 須恵器	A 16.4 B 6.6 D 10.5 E 1.3	口縁部一部欠損。高台はハの字状に開く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面クロコナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	砂粒・石英 灰褐色 良好	P1326 90% 覆土中
3	甕 須恵器	A[31.2] B(11.3)	口縁部片。口縁部は外反する。口縁部上位に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面に4本櫛歯による波状文が施されている。	石英・長石 灰色 良好	P1327 10% 覆土中
4	短頸壺 須恵器	A[11.4] B(10.8)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ。	石英・長石・雲母 暗灰黄色 良好 煤付着	P1328 25% 覆土中
5	長頸瓶 須恵器	B(10.3) D[10.7] E 0.8	底部片。短い高台が付く。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面クロコナデ。	石英・長石 暗オリーブ灰色 良好	P1329 15% 覆土中
6	長頸瓶 灰釉陶器	B(1.6) D[13.2] E 0.9	底部片。短い高台が付く。	底部高台貼り付け後、ナデ。	砂粒 暗灰色 良好	P1334 5% 覆土中
7	蓋 灰釉陶器	A[13.0] B(1.2)	口縁部片。口縁部は短く折り返されている。	口縁部内・外面クロコナデ。	砂粒 黄灰色 良好	P1330 5% 覆土中
8	平瓶 灰釉陶器	B(6.4)	頸部片。頸部は直立気味に立ち上がる。	頸部内・外面クロコナデ。	砂粒 黄灰色 良好	P1332 10% 覆土中
9	長頸瓶 灰釉陶器	B(5.3)	頸部片。頸部はやや外傾して立ち上がる。	頸部内・外面クロコナデ。	砂粒 にぶい赤褐色 良好	P1333 10% 覆土中 井ヶ谷78号窯様式

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
10	不明土製品	3.3	1.9	0.5	0.6	5	覆土中	D P1004

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
11	小玉	0.4	0.25	0.1	0.06	覆土中	Q1004 頁岩

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第398図12	刀子	(6.9)	1.4	0.5	(7)	覆土中	M1023

第299号住居跡（第399図）

位置 調査6区南部，N13do区。

重複関係 第297・298号住居跡を掘り込んでおり，本跡が新しい。また第273号住居跡が本跡の上に構築されているので，本跡が古い。

規模と平面形 長軸4.26m，短軸3.82mの長方形である。

主軸方向 N-3°-W

壁 壁高は31～47cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床 全体的に平坦で，中央部がよく踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は長さ130cm，袖幅165cm，壁外への掘り込みは35cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は楕円形に浅く掘りくぼめられ，煙道部は火床部から外傾して立ち上り，途中に平坦面を持ち，さらに緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子中量，炭化粒子少量，ローム粒子微量
- 2 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子中量，焼土小ブロック・ローム粒子微量
- 3 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子中量，焼土小ブロック・ローム粒子少量
- 4 黒褐色 焼土粒子多量，炭化粒子中量，ローム粒子少量

覆土 7層からなり，焼土，炭化材が多量に含まれ，人為堆積である。

土層解説

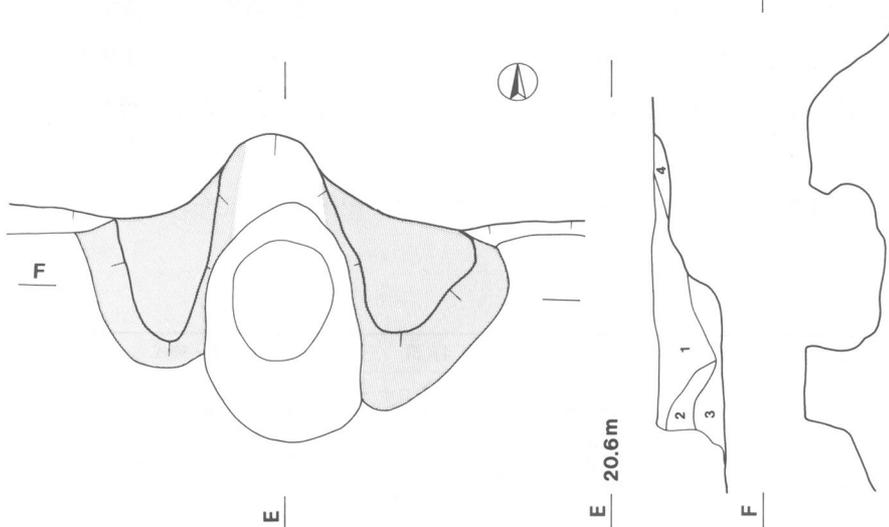
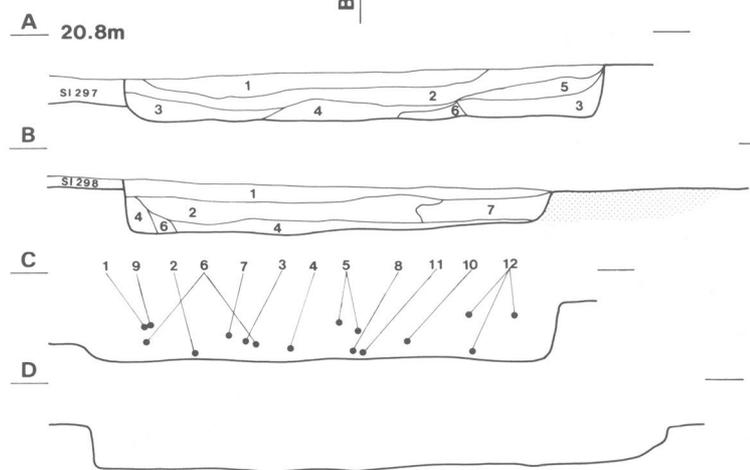
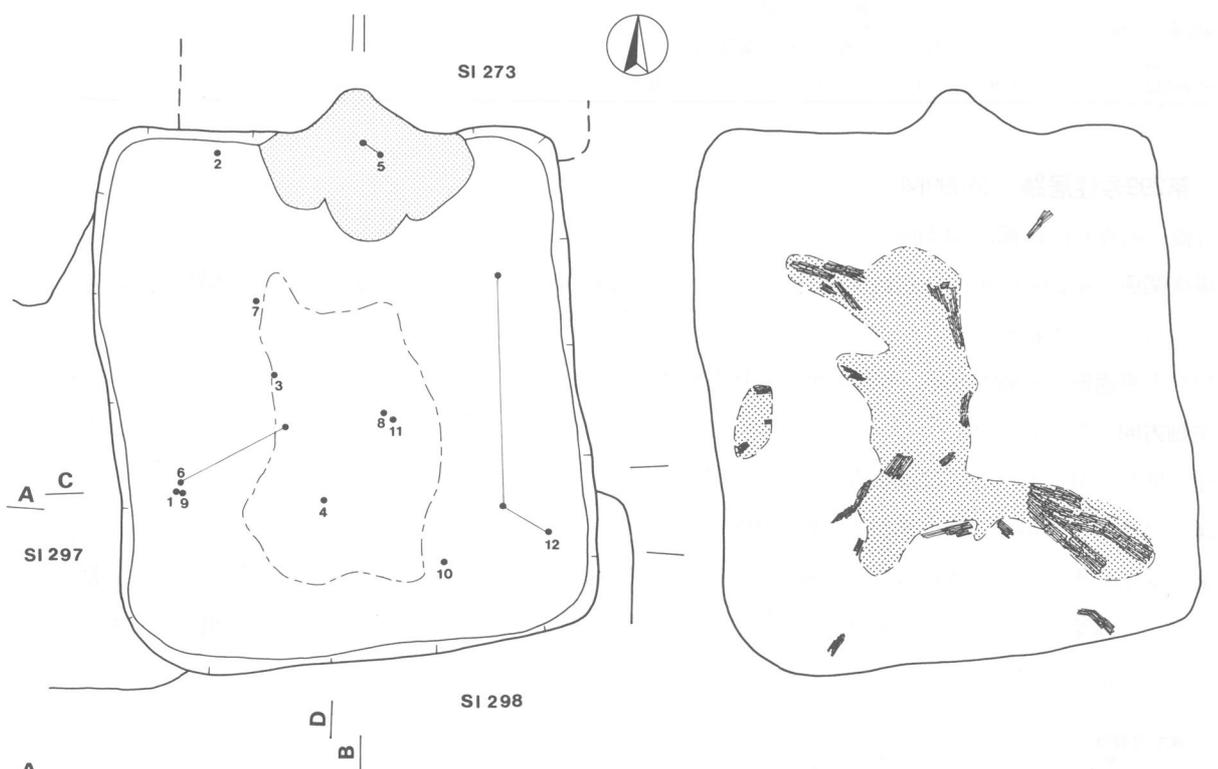
- 1 黒褐色 ローム粒子中量，炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 2 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック少量，炭化物微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子多量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
- 5 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子中量，炭化物少量
- 6 黒褐色 焼土粒子・炭化物多量，ローム小ブロック中量
- 7 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子中量，焼土小ブロック・炭化物少量

遺物 土師器片881点，須恵器片463点，礫4点が出土している。1の土師器坏は西壁際の覆土上層から逆位で，3の土師器坏，4の土師器鉢は中央付近の覆土中層から正位で，5の土師器小形甕は竈内から逆位で，7の須恵器坏は中央付近の覆土中層から正位で，8の須恵器坏は中央付近の覆土下層から逆位で，9の須恵器坏は西壁際の覆土中層から，11の須恵器甕は中央付近の覆土下層から，12の須恵器甕は東壁際の覆土上層からそれぞれ出土している。

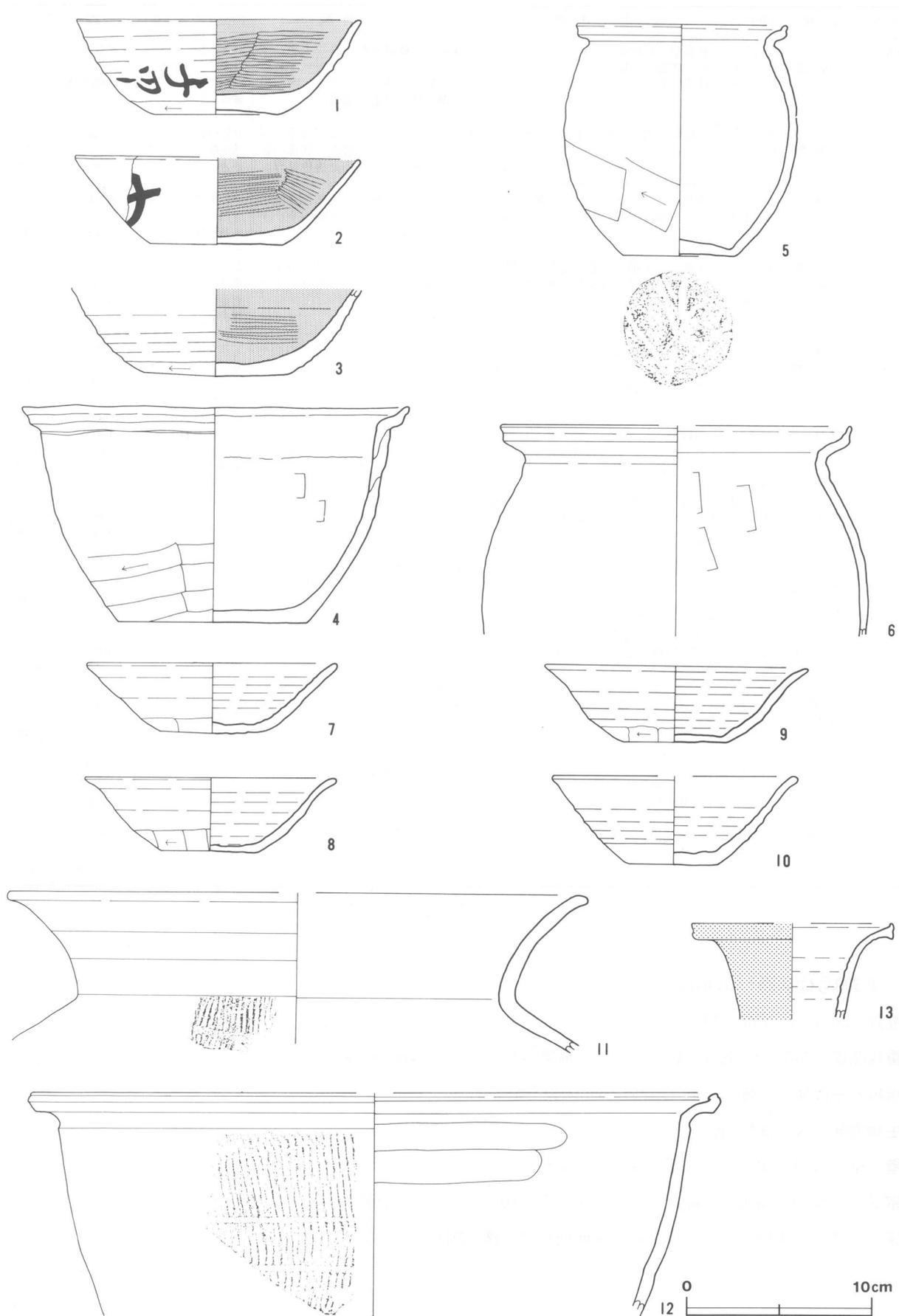
所見 本跡は焼失家屋で，時期は遺構の形態や出土遺物から平安時代の9世紀後葉と考えられる。

第299号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第400図1	坏 土師器	A 15.0 B 5.1 C 6.8	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。内面へラ磨き。底部回転ヘラ切り後，ナデ。内面黒色処理。体部外面に墨書。	石英・長石・雲母 外面にふい褐色 内面黒色 普通	P1335 70% 西壁際覆土上層



第399图 第299号住居跡実測図



第400図 第299号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第400図 2	坏 土師器	A[15.1] B 4.6 C 7.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ切り後、ナデ。内面黒色処理。体部外面に墨書。	石英・長石・雲母 外面にぶい褐色 内面黒色 普通	P 1336 30% 北壁際覆土下層
3	坏 土師器	B(4.7) C 7.3	口縁部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面ロクロナデ。体部外面下端ヘラ削り。内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ切り後、ナデ。内面黒色処理。	砂粒・石英・長石・雲母 外面橙色・内面黒色 普通 二次焼成	P 1337 80% 中央付近覆土中層
4	鉢 土師器	A 21.0 B 11.7 C 10.2	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面中位から下位ヘラ削り。内面ヘラナデ。底部ヘラ削り。	砂粒・石英・長石・雲母 橙色 普通 煤付着	P 1338 50% 中央付近覆土中層
5	小形甕 土師器	A 11.4 B 12.6 C 6.0	体部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は強く外反する。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位ヘラ削り。内面ナデ。底部に木葉痕。	長石・雲母 橙色 普通 煤付着	P 1339 60% 竈内
6	甕 土師器	A[19.0] B(11.4)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ。	石英・雲母 褐色 普通 外面煤付着	P 1340 10% 西壁際覆土中層
7	坏 須恵器	A 13.4 B 3.8 C 5.8	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、ヘラ削り。	石英・長石・雲母 灰白色 普通	P 1341 90% 中央付近覆土中層
8	坏 須恵器	A 13.4 B 4.9 C 5.2	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ削り。	砂粒・石英・長石・雲母 灰色 普通	P 1342 80% 中央付近覆土下層
9	坏 須恵器	A 14.2 B 4.2 C 5.5	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、ヘラ削り。	石英・長石・雲母 灰色 普通	P 1343 80% 西壁際覆土中層
10	坏 須恵器	A[13.2] B 4.8 C 4.8	体部から口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ削り。	石英・長石・雲母 暗灰色 普通 煤付着	P 1344 50% 南東コー ナー覆土中層
11	甕 須恵器	A[31.0] B(8.6)	口縁部片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面縦方向の平行叩き。	石英・長石・雲母 褐灰色 普通	P 1345 10% 中央付近覆土下層
12	甕 須恵器	A[36.8] B(12.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面縦方向の平行叩き。	石英・長石・雲母 褐灰色 良好	P 1346 10% 東壁際覆土上層
13	長頸瓶 灰釉陶器	A[10.6] B(5.2)	口縁部片。口縁部は外反して立ち上がる。	口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒 灰色 良好	P 1331 10% 覆土中 黒笹90号窯様式

第300号住居跡（第401図）

位置 調査6区南部，M14_j区。

重複関係 第301・302号住居跡が上部に構築されており，本跡が古い。

規模と平面形 長軸4.58m，短軸4.07mの長方形である。

主軸方向 N-9°-E

壁 壁高は34～36cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 上幅10～15cm，下幅5～10cm，深さ5～10cmほどで，断面形はU字形である。全周している。

床 全体的に平坦で，出入り口から竈前面がよく踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は長さ130cm，袖幅160cm，壁外への掘り込みは35cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は円形に浅く掘りくぼめられ，煙道部は火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量
- 4 黒褐色 焼土粒子中量，炭化粒子少量，焼土小ブロック・ローム粒子微量
- 5 暗褐色 焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量
- 6 暗褐色 焼土粒子中量，炭化粒子・ローム粒子少量，焼土小ブロック微量
- 7 明褐色 焼土粒子中量，炭化粒子少量，焼土小ブロック・ローム粒子微量

ピット 3か所(P₁～P₃)。P₁，P₂は径35～45cmの円形で，深さ33～63cmである。いずれも支柱穴と考えられる。P₃は径40cmの円形で，深さ27cmである。出入り口に伴うピットと考えられる。

覆土 9層からなり，自然堆積である。

土層解説

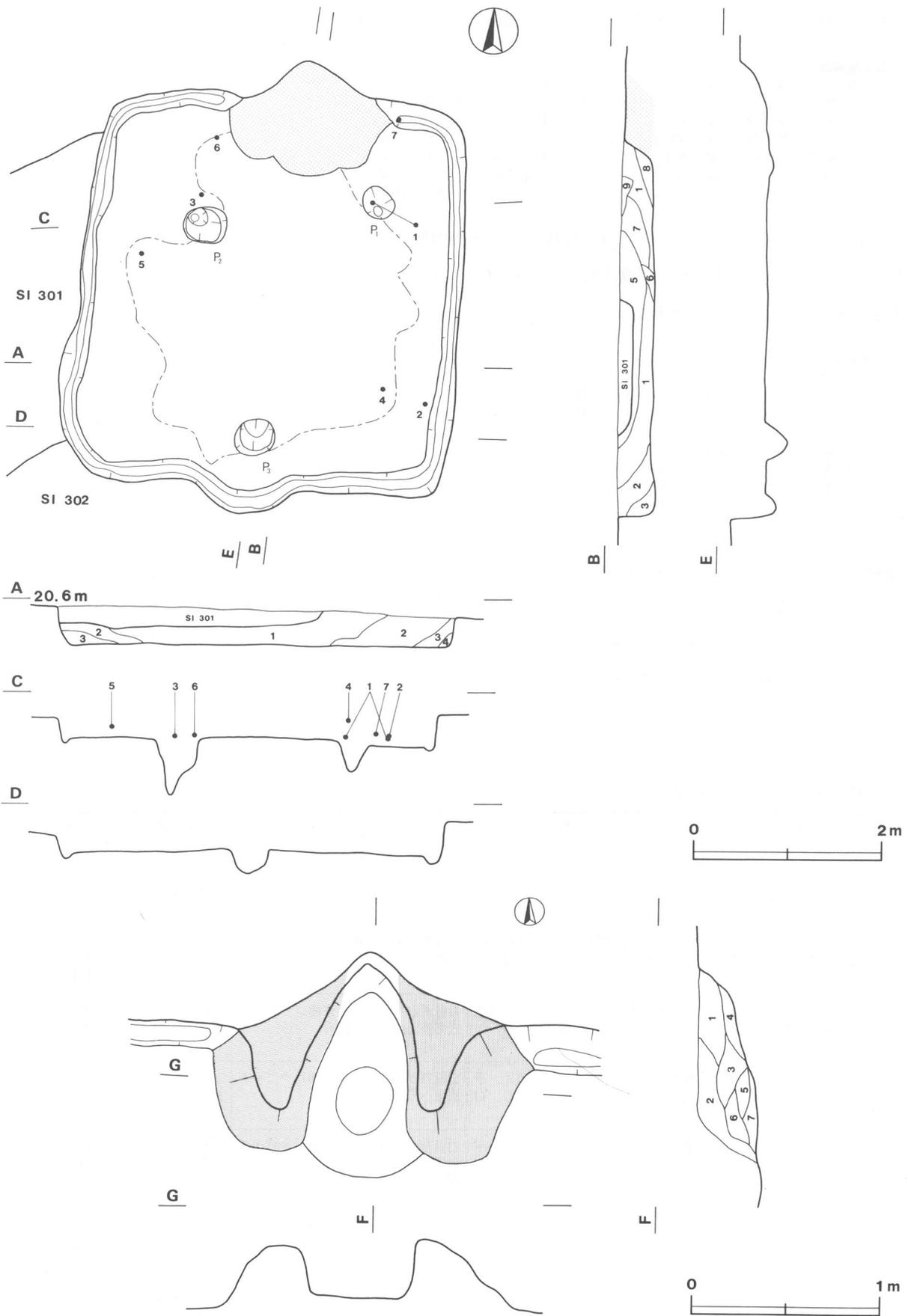
- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・炭化物・ローム中ブロック微量
- 2 黒褐色 焼土小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 極暗褐色 焼土小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 4 黒褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック微量
- 6 黒褐色 ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 7 黒褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 8 黒褐色 ローム粒子少量，焼土小ブロック・ローム中・小ブロック微量
- 9 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子微量

遺物 土師器片241点，須恵器片61点が出土している。1の土師器甕はP₁付近の覆土下層から，2の土師器甕は東壁際の覆土下層から，3の須恵器坏はP₂付近の覆土下層から，4の須恵器坏は南東コーナー付近の覆土中層から，6の須恵器盤は左袖部付近と北壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。7は須恵器甕の体部片で，外面には横位の平行叩きが施されている。

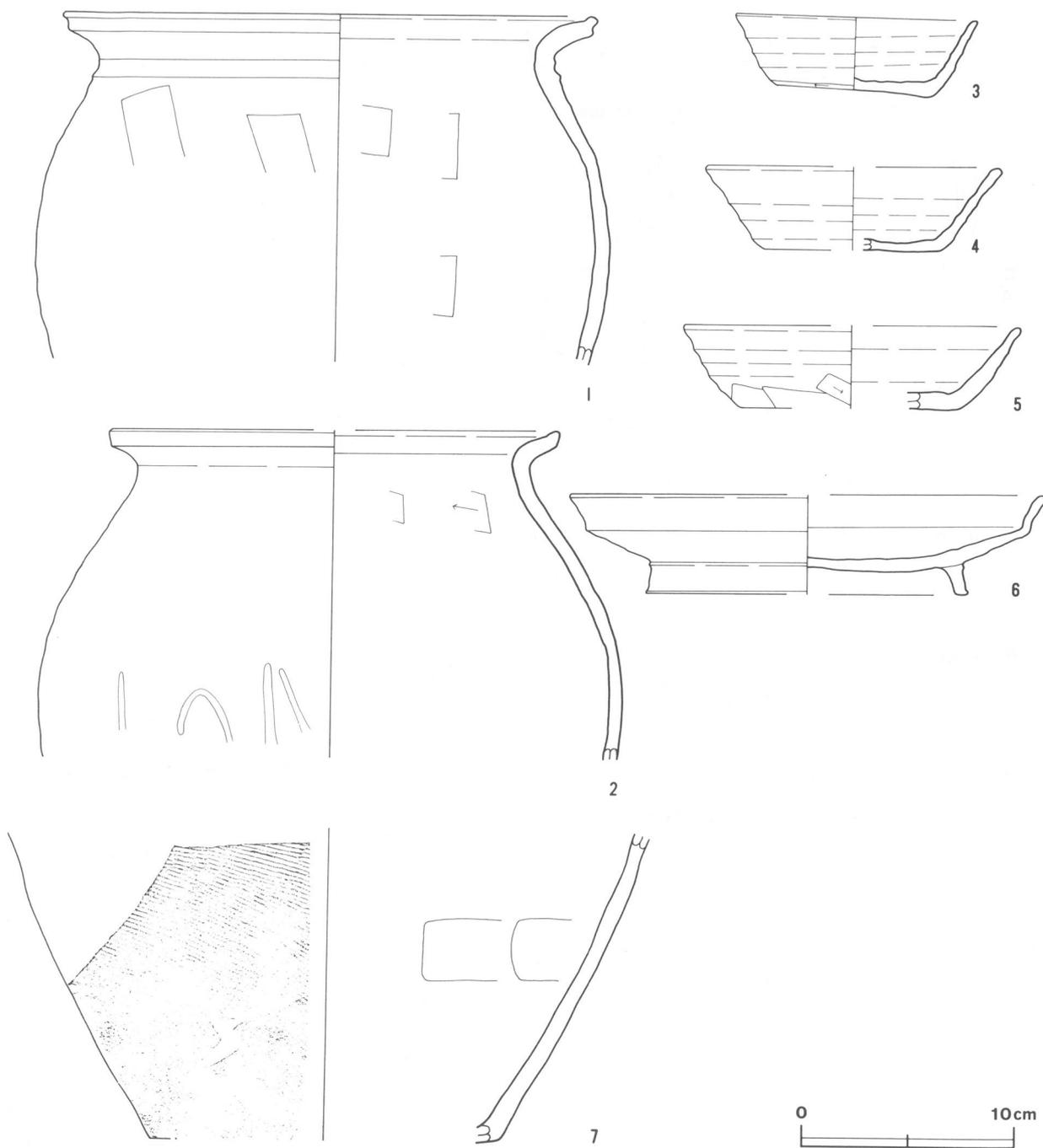
所見 本跡の時期は，遺構の形態や出土遺物から平安時代の8世紀後葉と考えられる。

第300号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第402図 1	甕 土師器	A 25.2 B (16.6)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面へラナデ。	砂粒・石英・長石・雲母・スコリア にぶい褐色 普通 煤附着	P 1348 40% P ₁ 付近覆土下層
2	甕 土師器	A [21.2] B (15.6)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ磨き。内面へラナデ。	石英・長石・雲母・スコリア にぶい赤褐色 普通	P 1349 10% 東壁際覆土下層
3	坏 須恵器	A 11.5 B 3.7 C 7.1	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面クロナデ。底部多方向のへラ削り。	砂粒・石英・長石・雲母 黄灰色 良好	P 1350 70% P ₂ 付近覆土下層
4	坏 須恵器	A [14.2] B 4.0 C [8.2]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面クロナデ。底部へラ削り。	石英・長石・雲母 橙色 普通	P 1347 30% 南東コーナー付近覆土中層
5	坏 須恵器	A [16.0] B 4.0 C [10.4]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から底部内・外面クロナデ。体部下端手持ちへラ削り。底部へラ削り。	砂粒・石英・長石・雲母 灰黄褐色 良好	P 1351 30% 西壁際覆土中層
6	盤 須恵器	A [22.6] B 4.8 D [15.2] E 1.5	底部から口縁部片。高台はハの字状に開く。体部は外傾して立ち上がり，体部と口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部から体部内・外面クロナデ。底部へラ削り後，高台貼り付け。	砂粒・石英・長石 灰黄色 良好	P 1352 20% 左袖付近・北壁付近覆土下層
7	甕 須恵器	B (14.6)	体部片。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面に横方向の平行叩き。内面へラナデ。	長石・雲母 黄灰色 良好	P 1531 10% 北壁際覆土下層



第401图 第300号住居跡実測图



第402図 第300号住居跡出土遺物実測図

第301号住居跡（第403図）

位置 調査6区南部，M13jo区。

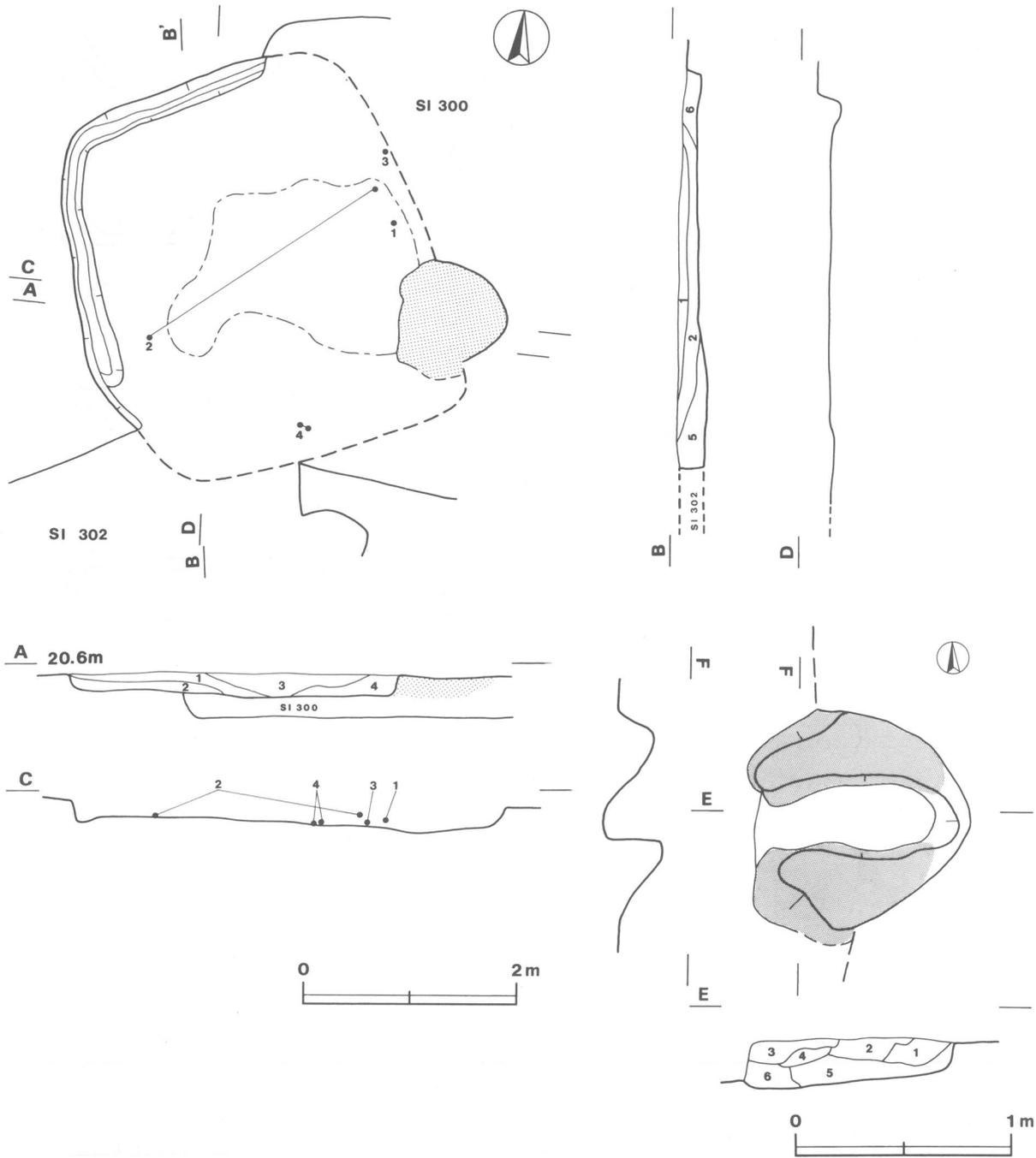
重複関係 第302号住居跡を掘り込んでおり，また第300号住居跡の上部に構築されているので，本跡が新しい。

規模と平面形 長軸[3.74]m，短軸[3.32]mの長方形と推定される。

主軸方向 [N-65°-E]

壁 壁高は16~17cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 北壁下から西壁下にかけて巡っている。上幅20~25cm，下幅10~12cm，深さ8cmほど，断面形はU字形である。



第403図 第301号住居跡実測図

床 全体的に平坦で、竈前面から中央部がよく踏み固められている。

竈 北東壁東コーナー寄りに付設されている。規模は長さ100cm、袖幅105cm、壁外への掘り込みは45cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は楕円形に浅く掘りくぼめられ、煙道部は火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 極暗赤褐色 焼土粒子中量, 焼土中・小ブロック・炭化粒子少量, 炭化物・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 焼土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量
- 3 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム粒子微量
- 4 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 5 極暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック微量
- 6 極暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量

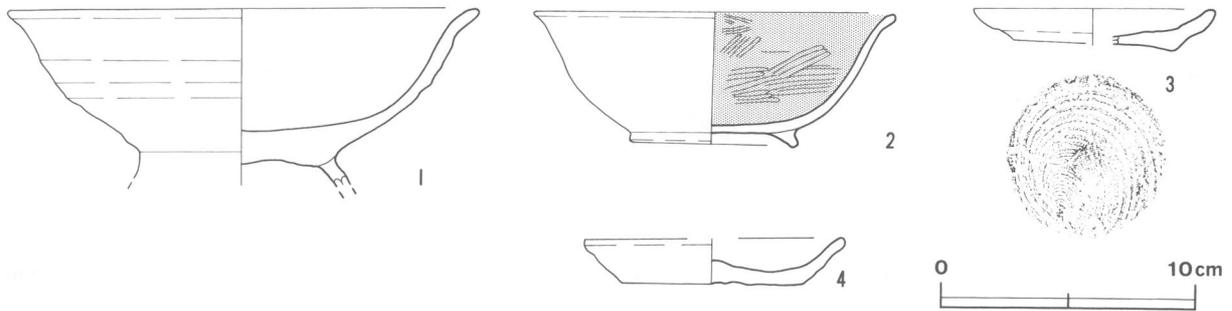
覆土 6層からなり、自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子・焼土粒子微量
- 3 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 4 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 6 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量

遺物 土師器片282点、須恵器片53点が出土している。1の土師器高台付坏は左袖付近の覆土下層から正位で、2の土師器高台付碗は南西壁と北東壁の覆土下層から出土し接合している。3の土師器小皿は北東壁際の覆土下層から、4の土師器小皿は南東壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から平安時代の10世紀以降と考えられる。



第404図 第301号住居跡出土遺物実測図

第301号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第404図 1	高台付坏 土師器	A 18.6 B (7.0) E (1.1)	高台部一部欠損。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部外面ロクロナデ。底部内面ナデ。高台貼り付け後、ナデ。	砂粒 浅黄橙色 普通 外面煤付着	P 1354 90% 左袖付近覆土下層
2	高台付碗 土師器	A 14.0 B 5.3 D 6.6 E 0.6	口縁部一部欠損。高台は短く開く。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。高台貼り付け後、ナデ。内面黒色処理。	砂粒・スコリア 外面橙色 内面黒色 普通	P 1355 90% 南西壁・ 北東壁際 覆土下層
3	小皿 土師器	A 9.6 B 1.6 C 6.4	底部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転系切り。	石英・長石・雲母・ スコリア 浅黄橙色 普通	P 1356 95% 北東壁際覆土下層
4	小皿 土師器	A [10.2] B 1.8 C 7.1	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転系切り。	砂粒・長石・雲母・ スコリア 橙色 普通 煤付着	P 1357 50% 南東壁際覆土下層

第302号住居跡 (第405図)

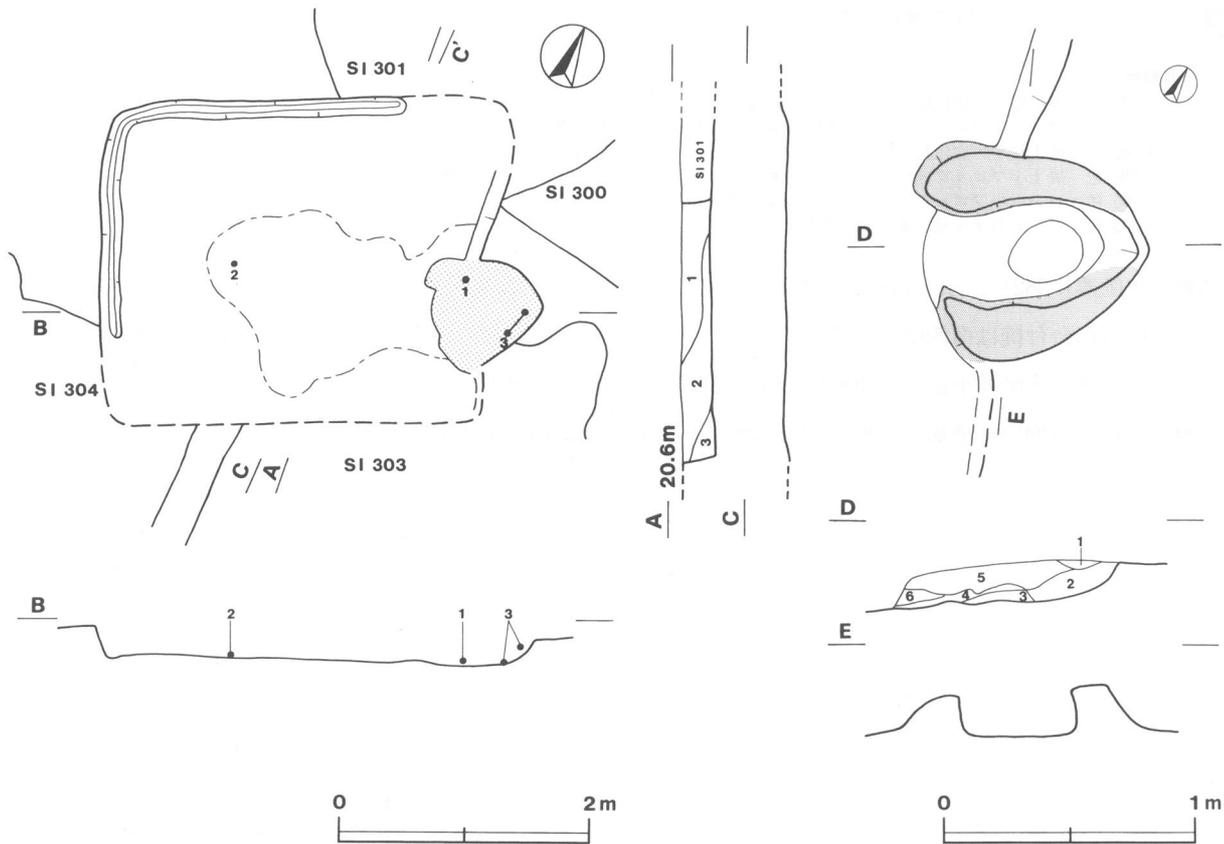
位置 調査6区南部、N13a0区。

重複関係 第300・303・304号住居跡の上部に構築されており、本跡が新しい。また第301号住居跡に掘り込まれているので、本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.30m、短軸[2.60]mの長方形と推定される。

主軸方向 N-65°-E

壁 壁高は24cmで、外傾して立ち上がる。



第405図 第302号住居跡実測図

壁溝 北西壁下から南西壁下にかけて巡っている。上幅12cm，下幅8cm，深さ5cmほどで，断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で，竈前面から中央部がよく踏み固められている。

竈 北東壁東コーナー寄りに付設されている。規模は長さ90cm，袖幅85cm，壁外への掘り込みは45cmである。袖部は砂質粘土で構築されており，両袖部には雲母片岩の補強材が用いられている。火床部は楕円形に浅く掘りくぼめられ，煙道部は火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量，焼土中ブロック微量
- 2 黒褐色 焼土粒子・焼土小ブロック少量，焼土中ブロック微量
- 3 暗褐色 炭化粒子中量，焼土粒子少量
- 4 黒褐色 炭化粒子多量，焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 5 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子少量
- 6 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量

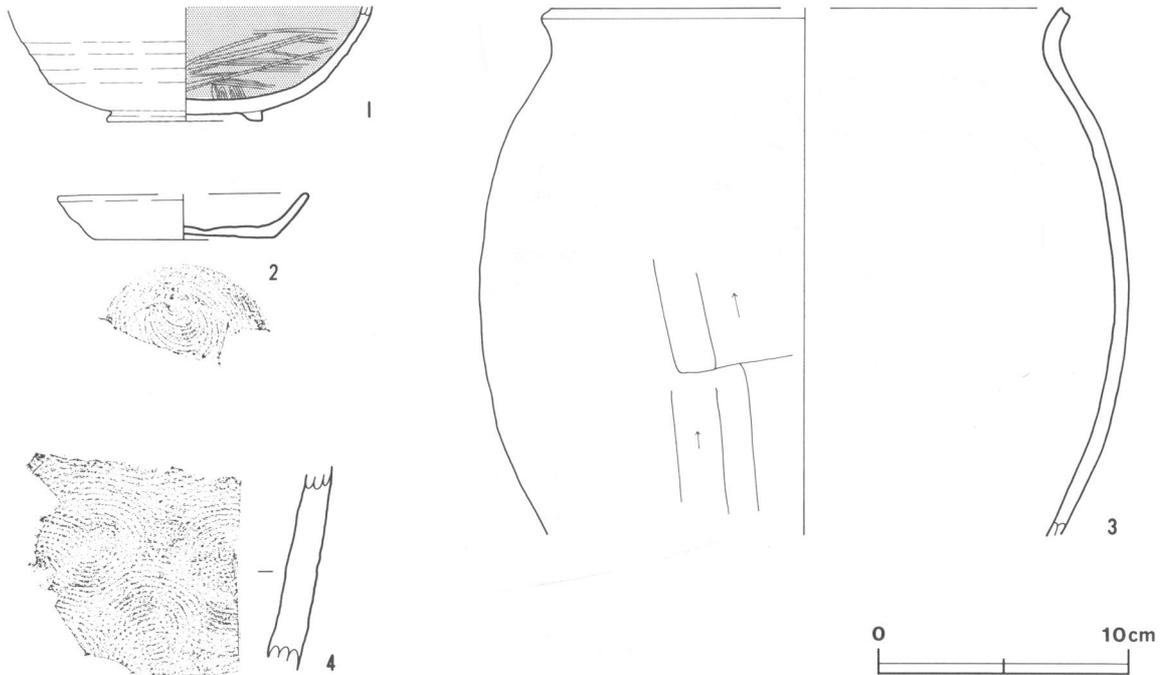
覆土 3層からなり，自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量，炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物 土師器片230点，須恵器片60点が出土している。1の土師器高台付椀は竈内から，2の土師器小皿は中央付近の床面直上から逆位で，3の土師器甕は竈内からそれぞれ出土している。4は須恵器甕の体部片で，外面には同心円叩きが施されている。

所見 本跡の時期は，遺構の形態や出土遺物から平安時代の10世紀以降と考えられる。



第406図 第302号住居跡出土遺物実測図

第302号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第406図 1	高台付碗 土師器	B (4.5) D 6.1 E 0.4	底部から体部にかけての破片。高台は短く開く。体部は内彎して立ち上がる。	口縁部から体部外面ロクロナデ。内面へラ磨き。高台貼り付け後、ナデ。内面黒色処理。	砂粒・長石・雲母・スコリアにぶい 橙色 内面黒色 普通	P1358 40% 竈内
2	小皿 土師器	A [10.0] B 1.8 C [7.2]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。底部回転系切り。	砂粒・雲母・スコリアにぶい 橙色 普通	P1359 40% 中央付近床直
3	甕 土師器	A [20.4] B (21.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。	石英・雲母・スコリアにぶい 橙色 普通	P1360 20% 竈内

第303号住居跡 (第407図)

位置 調査6区南部, N13b0区。

重複関係 第302・306号住居跡が上部に構築され、第175号土坑に掘り込まれているので、本跡が古い。また第305号住居跡を掘り込んでおり、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸4.36m, 短軸4.07mの方形である。

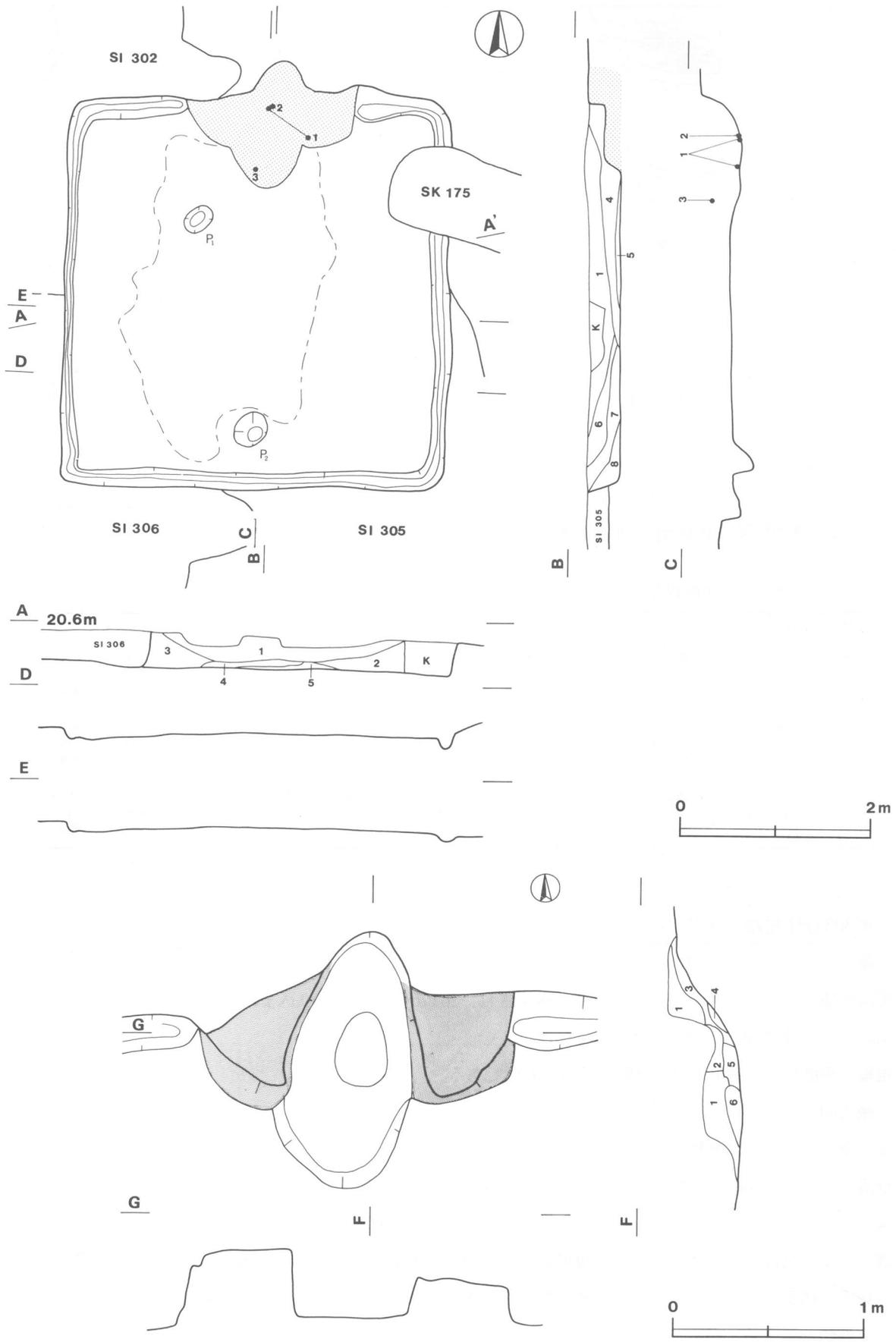
主軸方向 N-0°

壁 壁高は38cmで、外傾して立ち上がる。

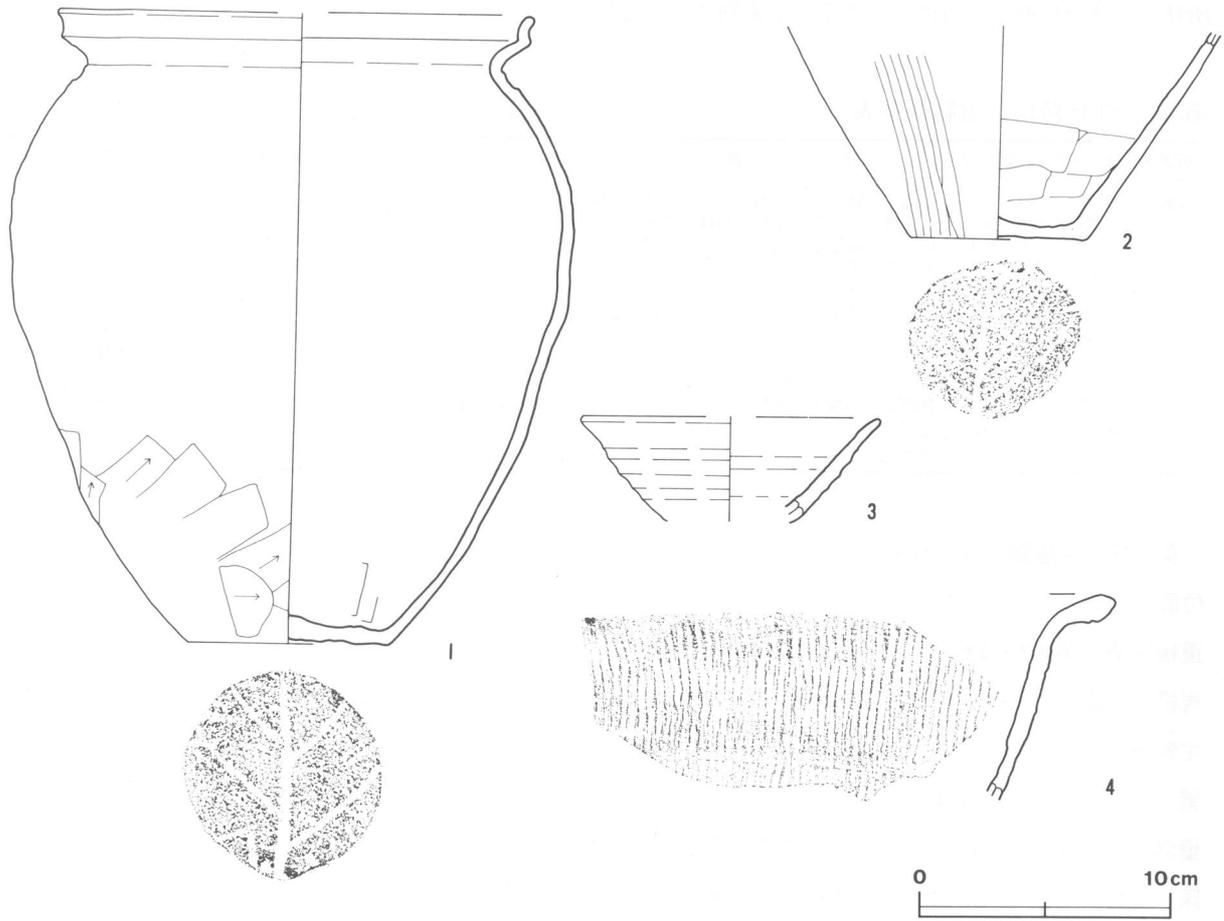
壁溝 上幅12~15cm, 下幅8~10cm, 深さ8cmほどで、断面形はU字形である。全周している。

床 全体的に平坦で、出入り口付近から竈前面にかけてよく踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は長さ138cm, 袖幅165cm, 壁外への掘り込みは25cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は楕円形に浅く掘りくぼめられ、火熱を受け赤変している。煙道部は火床部から外傾して立ち上がる。



第407図 第303号住居跡実測図



第408図 第303号住居跡出土遺物実測図

竈土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
- 3 極暗褐色 焼土粒子・炭化粒子中量
- 4 黒褐色 焼土粒子多量, 炭化粒子中量
- 5 黒褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子少量
- 6 黒褐色 炭化粒子多量, 焼土粒子中量, 焼土小ブロック微量

ピット 2か所(P₁, P₂)。P₁は径25cmの円形で、深さ28cmである。支柱穴と考えられる。P₂は径30cmの円形で、深さ25cmである。出入り口に伴うピットと考えられる。

覆土 8層からなり、人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム中・小ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック微量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 6 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・ローム中ブロック微量
- 7 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 8 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量

遺物 土師器片332点, 須恵器片94点が出土している。1の土師器甕は竈右袖部の補強材として逆位で、2の土師器甕、3の須恵器坏は竈内からそれぞれ出土している。4は須恵器甕の体部片で、外面に縦位の平行叩きが施されている。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から平安時代の9世紀後葉と考えられる。

第303号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第408図 1	甕 土師器	A [18.8] B 25.5 C 8.0	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。端部は外上方つまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。底部に木葉痕。	砂粒・石英・長石・雲母 明赤褐色 普通 二次焼成	P1361 60% 右袖補強材
2	甕 土師器	B (8.6) C 7.0	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面下位縦方向のヘラ磨き。内面ヘラナデ。底部に木葉痕。	砂粒・石英・長石・雲母・スコリア にぶい赤橙色 普通	P1362 20% 竈内
3	坏 須恵器	A [11.8] B 4.3	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面クロナデ。	砂粒・石英・長石・雲母・スコリア 灰褐色 普通 煤付着	P1363 10% 竈内

第304号住居跡（第409図）

位置 調査6区南部，N13b9区。

重複関係 第302・306・307号住居跡が上部に構築されており，本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.85m，短軸3.60mの方形である。

主軸方向 N-7°-W

壁 壁高は38cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 上幅20cm，下幅15cm，深さ8cmほどで，断面形はU字形である。全周している。

床 全体的に平坦で，出入り口付近から竈前面にかけてよく踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は長さ95cm，袖幅128cm，壁外への掘り込みは32cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。須恵器こね鉢が支脚に転用され，火床部中央に置かれている。火床部は円形に浅く掘りくぼめられ，煙道部は火床部から外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック微量
- 2 黒褐色 炭化粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子微量
- 3 黒褐色 焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック微量
- 4 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
- 5 黒褐色 焼土小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
- 6 黒褐色 焼土中・小ブロック・炭化粒子多量
- 7 黒褐色 焼土小ブロック・炭化物少量，炭化粒子・ローム粒子微量
- 8 極暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子・ローム粒子微量

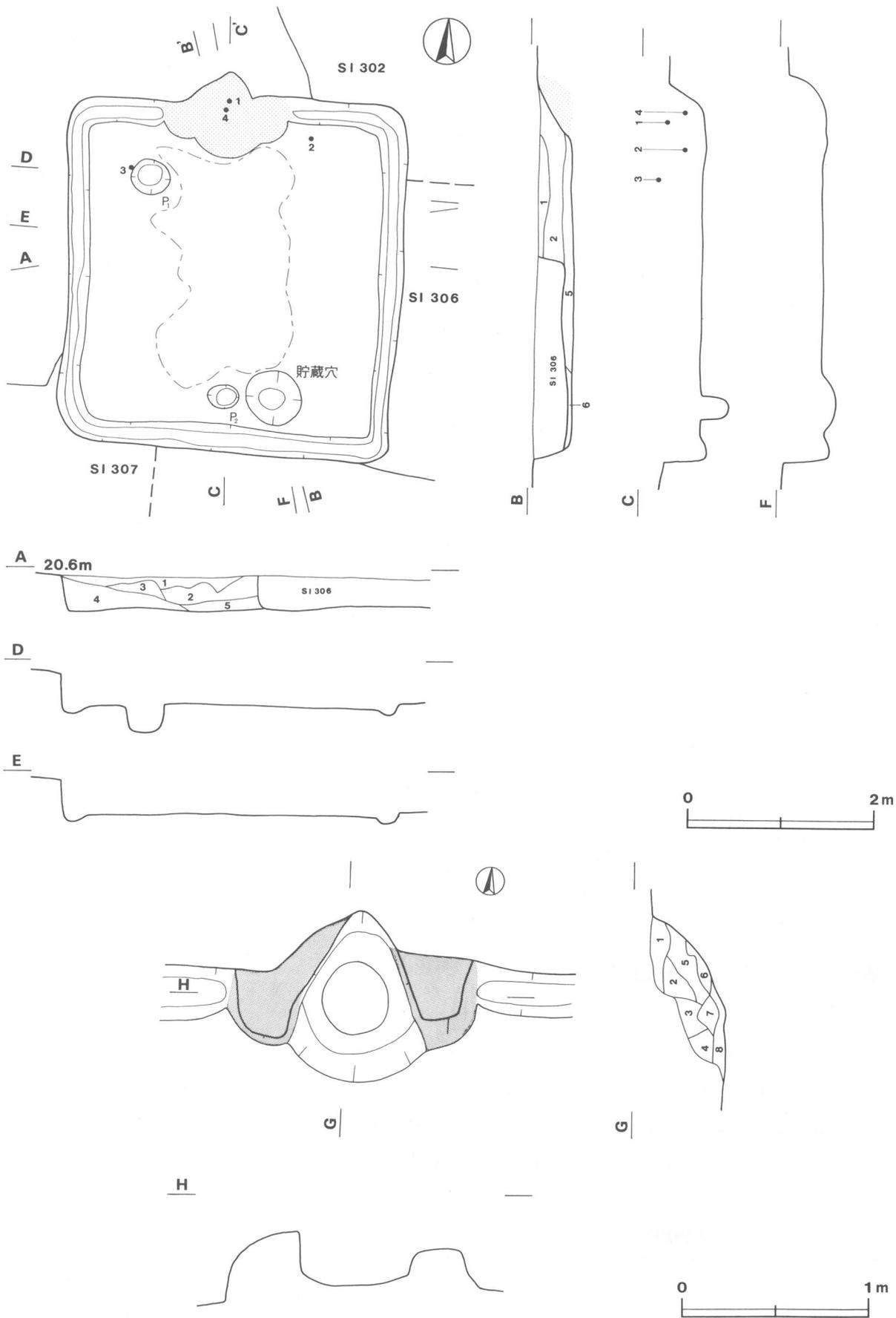
ピット 2か所(P₁，P₂)。P₁は径40cmの円形で，深さ30cmである。主柱穴と考えられる。P₂は径32cmの円形で，深さ30cmである。出入り口に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 P₂付近に付設されている。径60cmの円形で，深さ16cmである。断面形は皿状をしている。

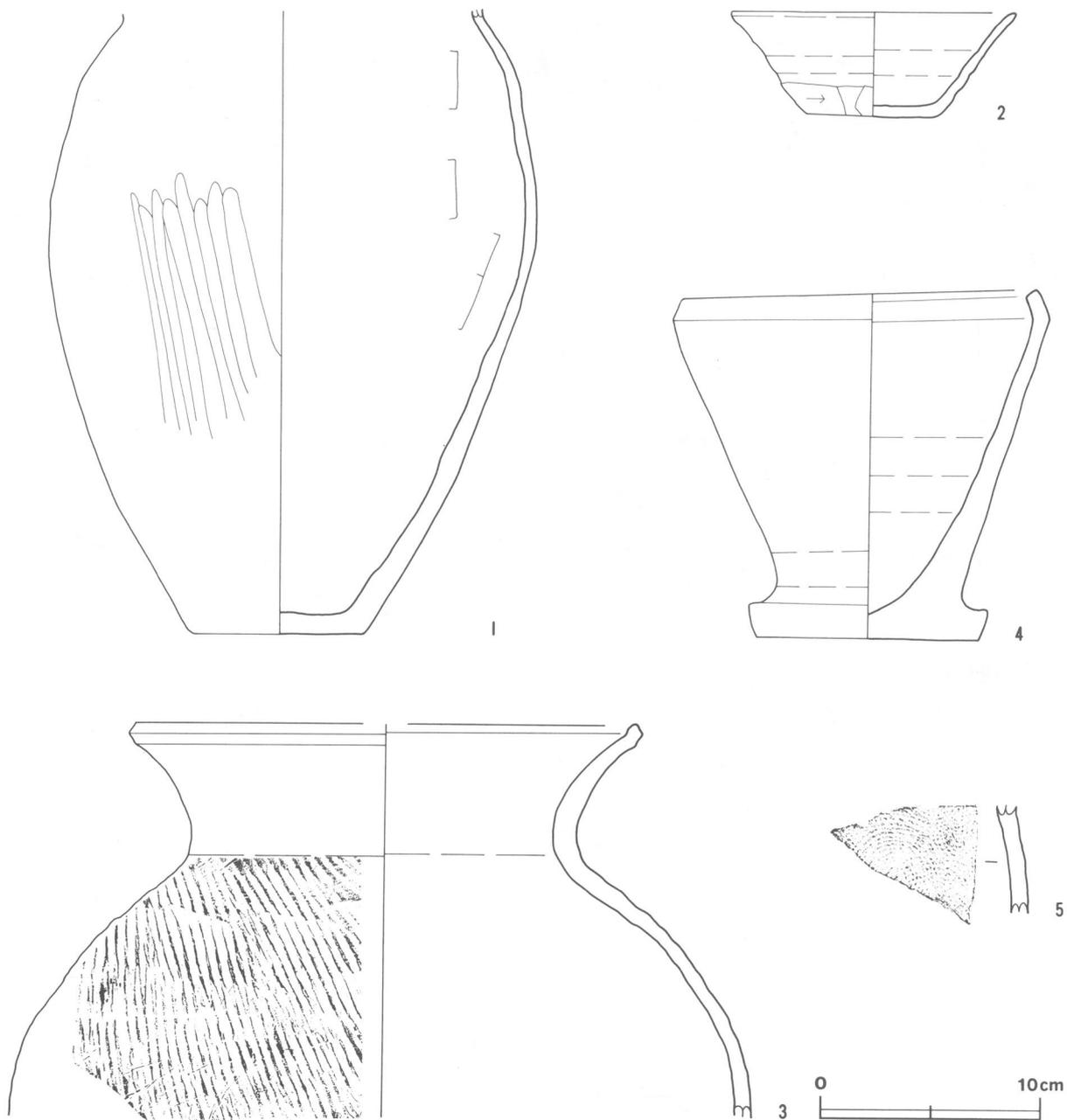
覆土 6層からなり，覆土中にロームブロックが多く含まれ人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 極暗褐色 焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量



第409图 第304号住居跡実測图



第410図 第304号住居跡出土遺物実測図

遺物 土師器片334点、須恵器片106点が出土している。1の土師器甕は竈内から正位の状態で、2の須恵器坏は右袖付近の覆土中層から正位で、3の須恵器甕はP1付近の覆土上層からそれぞれ出土している。4の須恵器こね鉢は竈の支脚として使用されていた。5は須恵器甕の体部片で、外面には同心円叩きが施されている。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から平安時代の9世紀中葉と考えられる。

第304号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第410図 1	甕 土師器	B (28.7) C 7.8	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面縦方向のヘラ磨き。内面ヘラナデ。底部に木葉痕。	砂粒・石英・長石・雲母にふい橙色 普通 二次焼成	P1364 70% 竈内

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第410図 2	坏 須恵器	A 13.0 B 4.8 C 5.8	口縁部一部欠損。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。底部ヘラ切り後、ヘラ削り。	砂粒・石英・長石 灰色 良好	P1365 70% 右袖付近覆土中層
3	甕 須恵器	A [23.0] B (18.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部縦方向の平行叩き。	砂粒・石英・長石・ 雲母 灰色 普通 煤付着	P1366 20% P1付近覆土上層
4	こね鉢 須恵器	A 16.3 B 16.2 C 10.0	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部ヘラ削り。	砂粒・長石 灰色 良好 二次焼成	P1367 90% 支脚転用

第306号住居跡（第172図）

位置 調査6区南部，N13b0区。

重複関係 第303～305号住居跡の上部に構築されており，本跡が新しい。

規模と平面形 長軸[3.30]m，短軸[3.16]mの方形と推定される。

主軸方向 [N-92°-E]

壁溝 南壁下で確認した。上幅15cm，下幅8cm，深さ10cmほどである。断面形はU字形である。

床 ほぼ平坦であるが，北東コーナー付近が傾斜している。竈前面が踏み固められているが，全体に軟らかい。

竈 東壁南東コーナー寄りに付設されている。規模は長さ95cm，袖幅78cm，壁外への掘り込みは65cmである。

袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は楕円形に浅く掘りくぼめられ，煙道部は火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子・ローム中・小ブロック微量
- 3 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量，炭化粒子・炭化物微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 極暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量，焼土小ブロック微量

覆土 4層からなり，人為堆積である。

土層解説

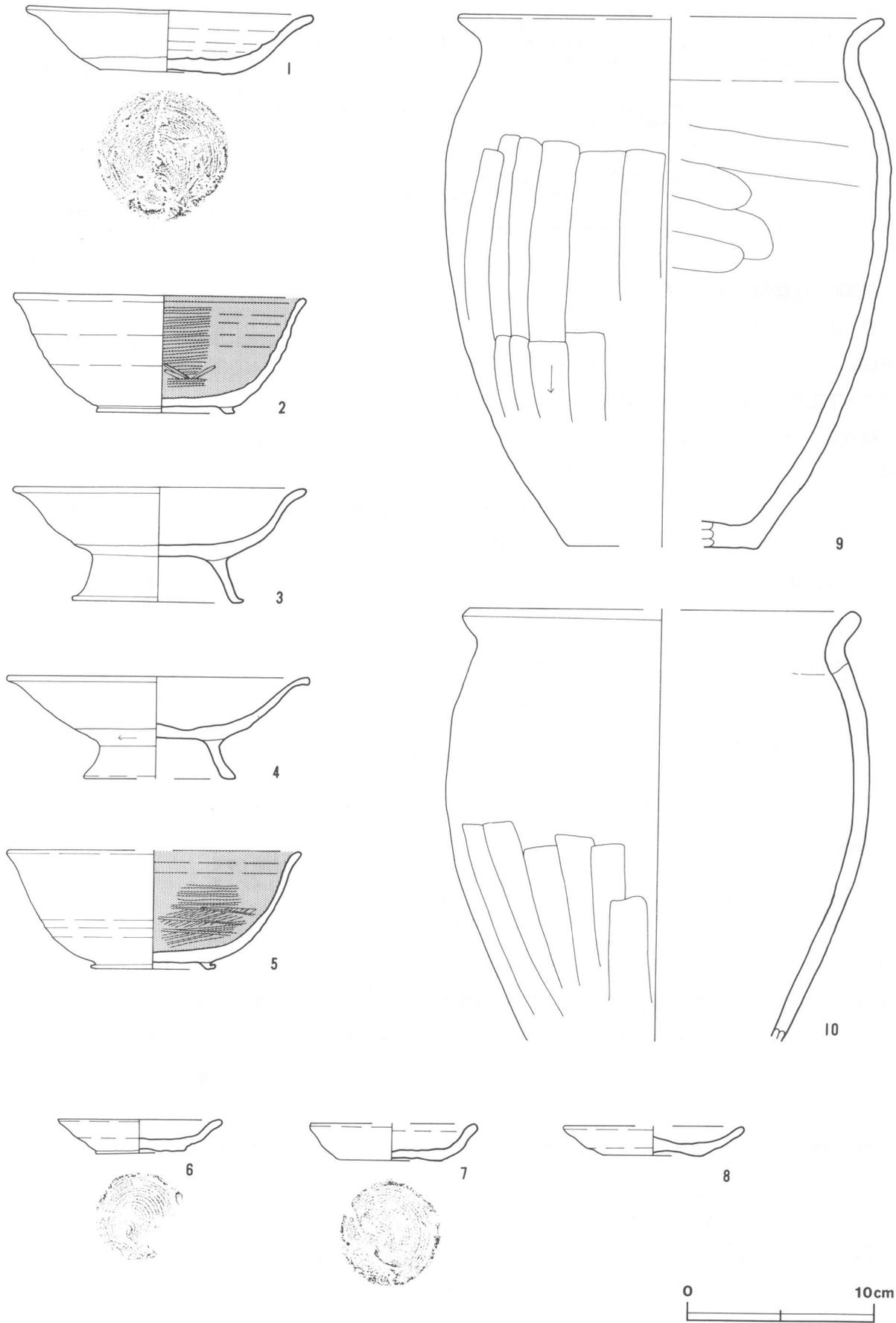
- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック微量
- 4 黒褐色 ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック微量

遺物 土師器片528点，須恵器片64点が出土している。1の土師器坏は中央付近の覆土下層から逆位で，2の土師器高台付椀は北壁際の覆土下層から，3の土師器足高高台坏は西壁際の覆土下層から逆位で，4の土師器足高高台坏は中央付近の覆土下層から逆位で，5の土師器高台付椀は北西コーナー付近の覆土下層から，7の土師器小皿は東壁際の覆土下層から逆位で，8の土師器小皿，9，10の土師器甕は竈内からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は，遺構の形態や出土遺物から平安時代の10世紀以降と考えられる。

第306号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第411図 1	坏 土師器	A 15.0 B 3.4 C 7.0	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通 煤付着	P1371 80% 中央付近覆土下層



第411图 第306号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第411図 2	高台付碗 土師器	A 15.6 B 7.4 D 7.3 E 0.3	口縁部一部欠損。高台は短く、ハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部外面ロクロナデ。内面へラ磨き。高台貼り付け後、ナデ。内面黒色処理。	砂粒 外面にぶい橙色 内面黒色 良好	P1372 80% 北壁際覆土下層
3	足高高台杯 土師器	A 15.6 B 9.0 D 9.1 E 2.5	口縁部一部欠損。高台は長く開く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部内面ナデ。高台貼り付け後、ナデ。	砂粒 橙色 普通	P1373 80% 西壁際覆土下層
4	足高高台杯 土師器	A 16.0 B 5.5 D[8.0] E 2.0	高台・口縁部一部欠損。高台は長く開く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部内面ナデ。高台貼り付け後、ナデ。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通 煤付着	P1374 80% 中央付近 覆土下層
5	高台付碗 土師器	A[15.6] B 6.4 D 6.7 E 0.4	底部から口縁部にかけての破片。高台は短く、ハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部内面へラ磨き。高台貼り付け後、ナデ。内面黒色処理。	砂粒・スコリア 外面にぶい赤褐色 内面黒色 普通 煤付着	P1375 35% 北西コーナー 付近覆土下層
6	小皿 土師器	A 8.8 B 1.7 C 4.8	底部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転系切り。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P1376 80% 覆土中
7	小皿 土師器	A[8.7] B 2.0 C 5.4	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転系切り。	砂粒・スコリア にぶい橙色 普通	P1377 60% 東壁際覆土下層
8	小皿 土師器	A[9.6] B 1.6 C 5.4	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転へラ切り。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P1378 60% 竈内
9	甕 土師器	A[22.4] B 28.7 C[10.2]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。	砂粒・長石・スコリア にぶい橙色 普通 内・外面煤付着	P1379 35% 竈内
10	甕 土師器	A[20.4] B(23.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。	砂粒・石英・スコリア 暗赤褐色 普通	P1380 20% 竈内

第307号住居跡（第412図）

位置 調査6区南部，N13c9区。

重複関係 第304・308号住居跡の上部に構築されており，本跡が新しい。

規模と平面形 長軸[4.33]m，短軸3.42mの長方形と推定される。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は24cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 南壁下を除き巡っている。上幅15cm，下幅8cm，深さ5cmほどで，断面形はU字形である。

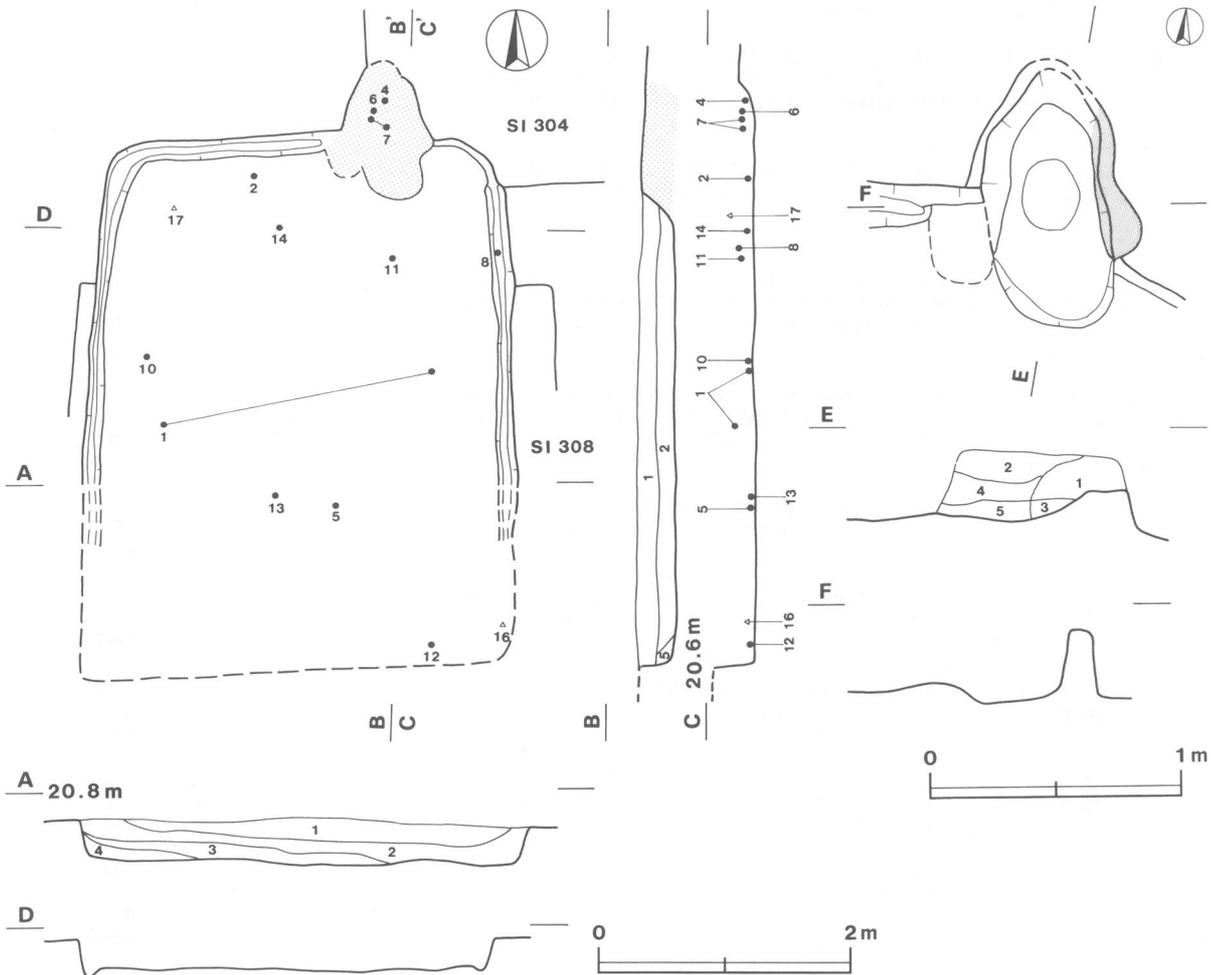
床 全体的に平坦で，軟らかい。

竈 北壁中央部に付設されている。左袖は確認できなかったが，規模は長さ110cm，袖幅[85]cm，壁外への掘り込みは48cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。竈内から雲母片岩が出土しており，袖部の補強材に使用したと思われる。火床部は楕円形に浅く掘りくぼめられ，煙道部は火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，炭化粒子少量，炭化物微量
- 2 黒褐色 焼土粒子中量，炭化粒子少量
- 3 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子中量，焼土小ブロック少量
- 4 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 黒褐色 焼土粒子多量，炭化粒子中量，炭化物少量

覆土 5層からなり，自然堆積である。



第412図 第307号住居跡実測図

土層解説

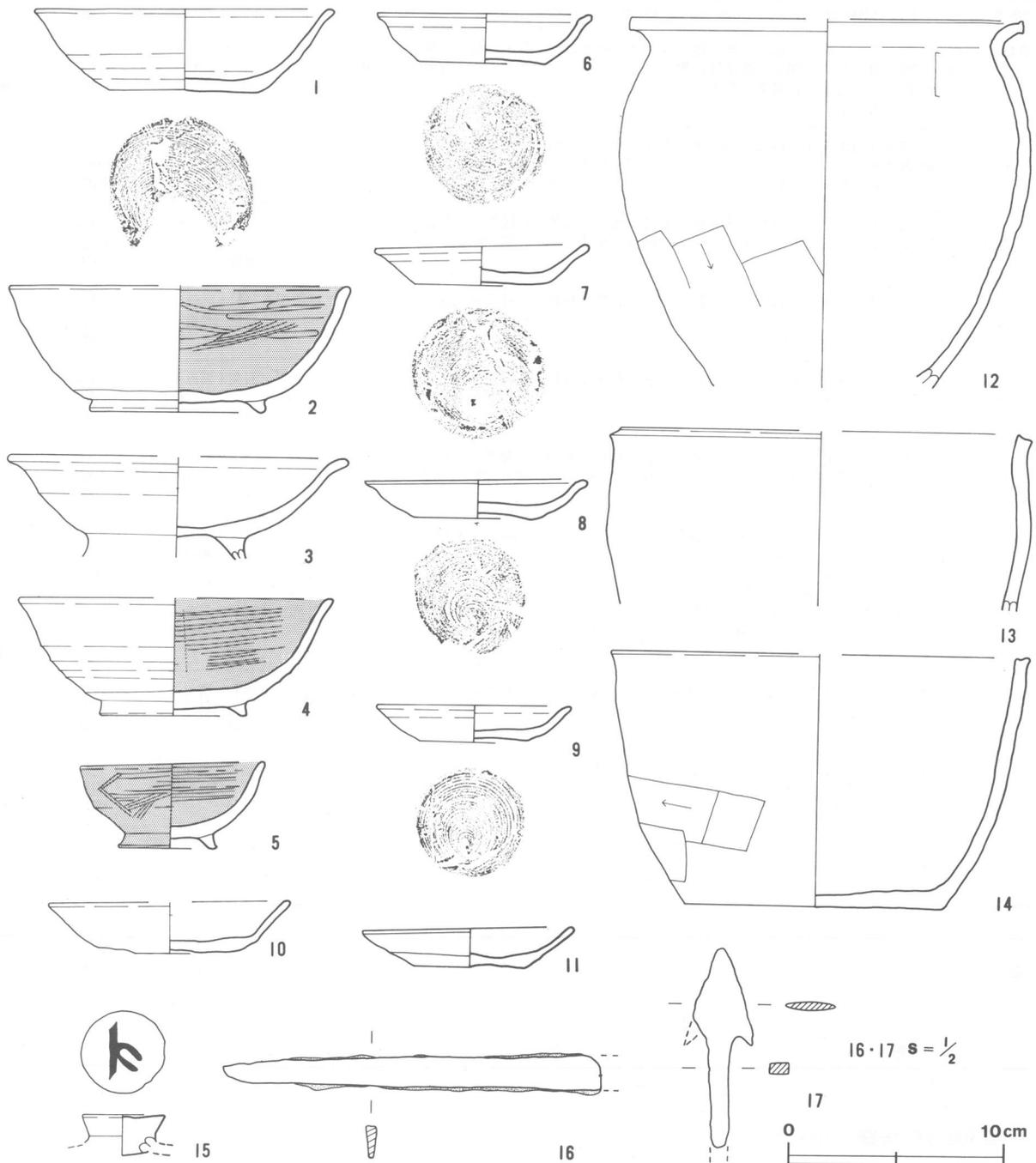
- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物 土師器片1403点, 須恵器片410点, 陶器10点, 鉄製品2点, 鉄滓7点, 礫3点が出土している。1の土師器坏は西壁際と東壁際の覆土下層から出土し接合している。2の土師器高台付椀は左袖部付近の覆土下層から正位で, 4の土師器高台付椀, 6, 7の土師器小皿は竈内から, 5の土師器小形高台付椀は中央付近の覆土下層から正位で, 8の土師器小皿は東壁際の覆土中層から正位で, 10の土師器小皿は西壁際の覆土下層から正位で, 16の刀子は南東コーナー付近の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態や出土遺物から平安時代の10世紀以降と考えられる。

第307号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第413図 1	坏 土師器	A 14.0 B 4.0 C 6.9	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転系切り。	砂粒・スコリア 橙色 普通	P1386 40% 東・西壁 際覆土下層



第413図 第307号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第413図 2	高台付碗 土師器	A[15.8] B 6.0 D 8.0 E 0.6	口縁部一部欠損。高台は短く、ハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。高台貼り付け後、ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母 外面灰黄褐色 内面黒色 良好	P1387 70% 左袖付近 覆土下層
3	高台付杯 土師器	A[15.8] B(4.6) E(1.0)	底部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。高台貼り付け後、ナデ。磨減が著しい。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P1388 40% 覆土中
4	高台付碗 土師器	A[14.6] B 5.5 D 6.7 E 0.6	底部から口縁部にかけての破片。高台は短く開く。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。高台貼り付け後、ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母 外面橙色 内面黒色 普通	P1389 40% 竈内

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第413図 5	小 形 高台付碗 土 師 器	A 8.5 B 7.4 D 4.4 E 0.8	口縁部一部欠損。高台はハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	内・外面ヘラ磨き。高台貼り付け後、ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 内・外面黒色 良好	P1398 80% 中央付近覆土下層
6	小 皿 土 師 器	A 10.0 B 2.3 C 5.8	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転系切り。	砂粒・石英・長石・ 雲母 にぶい橙色 普通	P1381 99% 竈内
7	小 皿 土 師 器	A 10.0 B 2.0 C 6.0	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転系切り。	石英・雲母・スコリア ア 橙色 普通	P1382 99% 竈内
8	小 皿 土 師 器	A 10.4 B 1.9 C 5.1	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転系切り。	砂粒・雲母 橙色 普通 二次焼成 煤付着	P1383 95% 東壁際覆土中層
9	小 皿 土 師 器	A 9.0 B 1.8 C 5.0	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転系切り。	石英・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P1384 99% 覆土中
10	小 皿 土 師 器	A[11.0] B 2.4 C 6.4	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	石英・長石・雲母・ スコリア 浅黄橙色 普通	P1385 50% 西壁際覆土下層
11	小 皿 土 師 器	A 9.9 B 2.0 C 5.1	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通 内面タール付着	P1399 100% 竈付近覆土下層
12	小 形 甕 土 師 器	A[18.0] B 17.0	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。	砂粒・石英・長石・ 雲母 灰黄褐色 普通	P1390 40% 南東コー ナー付近覆土下層
13	鉢 土 師 器	A[18.6] B(8.3)	口縁部片。口縁部は直立気味に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通	P1391 10% 中央付近覆土下層
14	鉢 土 師 器	A[18.4] B 11.8 C[12.0]	底部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P1392 40% 竈付近覆土下層
15	蓋 須 恵 器	F 3.8 G 1.9	つまみ片。擬宝珠状のつまみが付く。	つまみ上面に朱書。	砂粒・石英・長石・ 雲母 灰褐色 良好	P1393 10% 覆土中

図版番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
16	刀 子	(11.8)	1.1	0.4	(15)	南東コーナー付近覆土下層	M1024
17	鉄 鏃	(6.3)	1.9	0.4	(7)	北西コーナー付近覆土下層	M1025 50%

第308号住居跡 (第414図)

位置 調査6区南部, N13c9区。

重複関係 第307号住居跡, 第166号土坑に掘り込まれており, 本跡が古い。また第309号住居跡を掘り込んでいるので, 本跡が新しい。

規模と平面形 長軸4.40m, 短軸4.00mの長方形である。

主軸方向 N-10°-E

壁 壁高は53~56cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 南壁下を除き確認した。上幅15~18cm, 下幅10~15cm, 深さ8~10cmほどで, 断面形は逆台形である。

床 全体的に平坦で, 中央部がよく踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。第307号住居跡に掘り込まれて遺存状況が悪く, 規模は長さ170cm, 袖幅[120]cm, 壁外への掘り込みは89cmである。袖部は遺存状況から, 砂質粘土で構築されていたと思われる。火

床部は楕円形に浅く掘りくぼめられ、煙道部は火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子多量, 炭化粒子中量
- 2 黒褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子少量, 炭化物微量
- 3 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 極暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子中量
- 5 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子中量, 焼土小ブロック少量
- 6 黒褐色 炭化粒子中量, 焼土粒子少量, 焼土小ブロック微量
- 7 灰褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子少量
- 8 灰褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック微量
- 9 暗褐色 炭化粒子中量, 焼土粒子少量

炉 中央部に付設されている。長径110cm, 短径95cmの楕円形で, 浅く掘りくぼめた地床炉である。火床面は硬く焼き締まっている。

炉土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化物微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量

ピット 2か所 (P₁, P₂)。P₁は径25cmの円形で, 深さ30cmである。出入り口に伴うピットと考えられる。P₂は中央部東壁寄りに付設されている。長径80cm, 短径55cmの楕円形で, 深さ50cmである。断面形は鍋底状である。1層は, 粘土が張ってある状態であった。性格は不明である。

P₂土層解説

- 1 にぶい黄橙色 粘土多量
- 2 黒褐色 焼土粒子・粘土少量, 焼土小ブロック・炭化物・ローム粒子微量
- 3 黒褐色 粘土中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化物微量

覆土 9層からなり, 自然堆積である。

土層解説

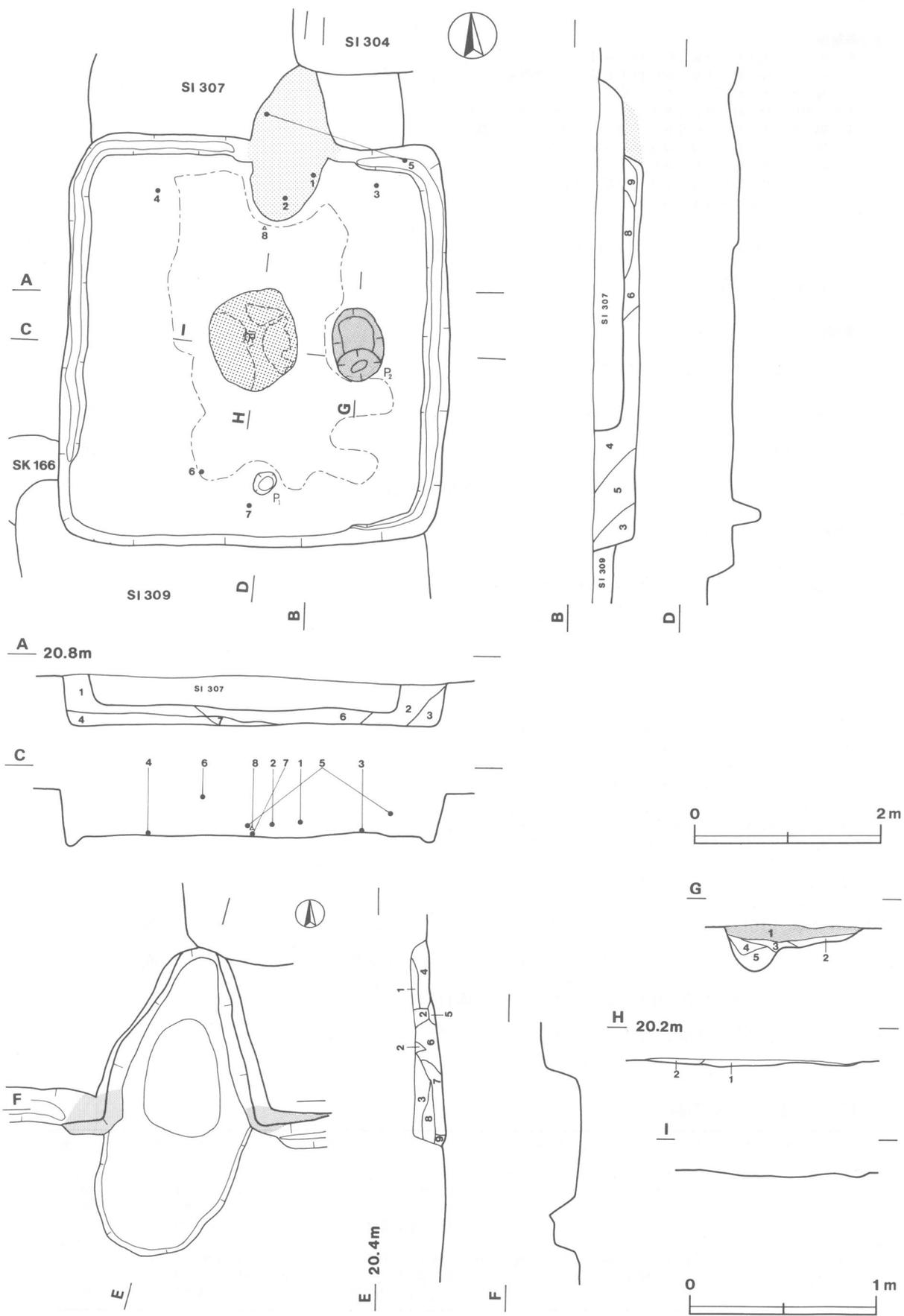
- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 4 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック微量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 6 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子中量
- 7 黒褐色 炭化粒子多量, 焼土粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック微量
- 8 黒褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 9 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子多量

遺物 土師器片101点, 須恵器片117点, 鉄製品1点が出土している。1, 2の土師器坏は竈内から, 3の土師器高台付坏は北東コーナー付近の覆土下層から正位で, 4の土師器高台付坏は北壁際の床面直上から正位で, 7の須恵器甕は南壁際の床面直上から, 8の刀子は竈付近の覆土下層からそれぞれ出土している。

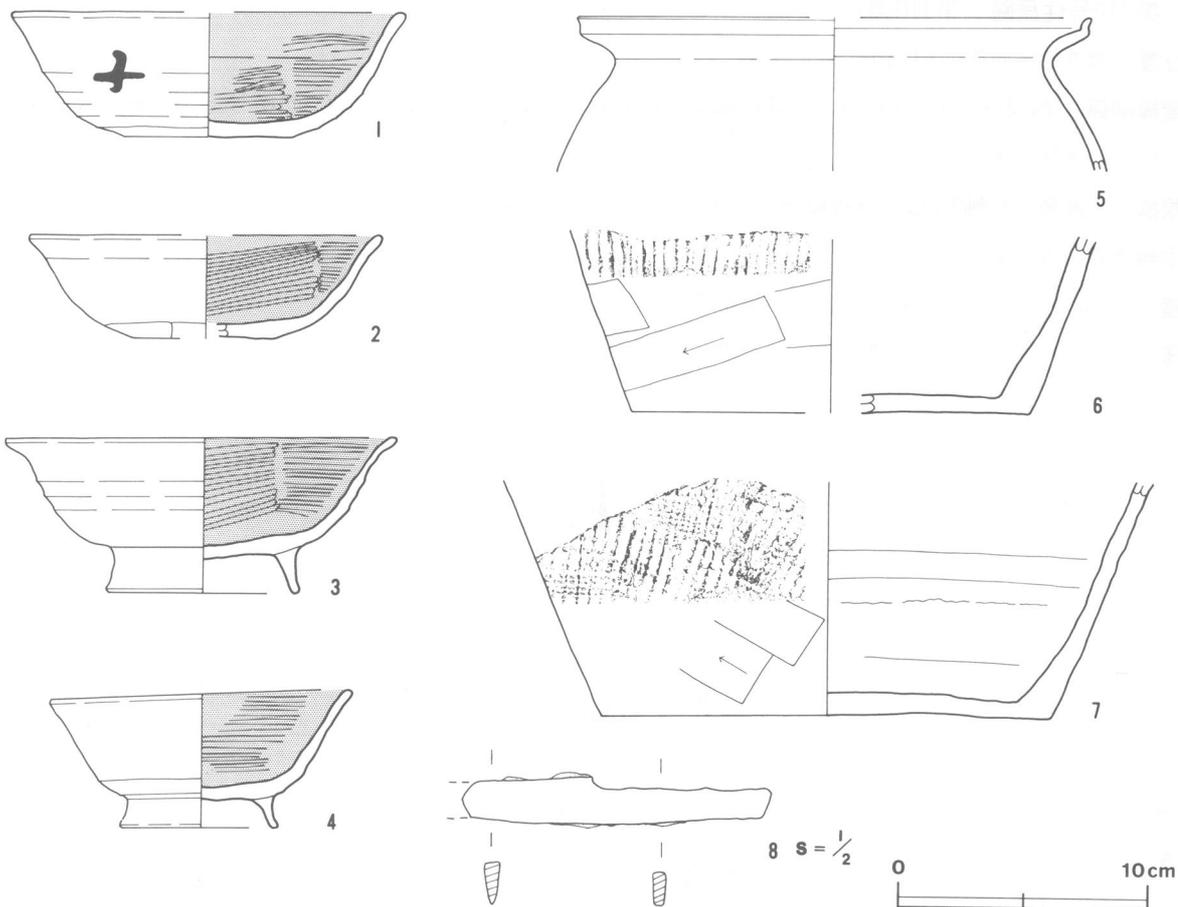
所見 本跡の時期は, 遺構の形態や出土遺物から平安時代の9世紀後葉と考えられる。

第308号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第415図 1	坏 土師器	A[15.6] B 5.0 C 6.7	体部から口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり, 口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部下端手持ちへら削り。内面へら磨き。底部へら削り。内面黒色処理。体部外面に墨書。	砂粒・雲母 外面灰黄褐色 内面黒色 良好 煤付着	P1394 50% 竈内
2	坏 土師器	A[14.0] B 4.1 C[5.4]	底部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり, 口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部下端手持ちへら削り。内面へら磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母・スコリア 外面にぶい橙色 内面黒色 良好	P1395 40% 竈内



第414图 第308号住居跡実測図



第415図 第308号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第415図 3	高台付坏 土師器	A 15.7 B 6.2 D 7.5 E 1.9	口縁部一部欠損。高台は長く、ハの字状に開く。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部内面へラ磨き。高台貼り付け後、ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母 外面橙色 内面黒色 普通	P1396 80% 北東コーナー 付近覆土下層
4	高台付坏 土師器	A 12.0 B 5.6 D 6.0 E 1.4	口縁部一部欠損。高台は長く、ハの字状に開く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部内面へラ磨き。高台貼り付け後、ナデ。内面黒色処理。	砂粒 外面浅黄橙色 内面黒色 普通	P1397 70% 北壁際床直
5	甕 土師器	A [20.6] B (6.2)	口縁部片。口縁部は強く外反する。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・石英・長石・ 雲母 しぶい橙色 普通	P1400 10% 北東コー ナー付近覆土中層
6	甕 須恵器	B (7.0) C [16.0]	底部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部下位へラ削り。内面ナデ。体部外面に縦方向の平行叩き。	砂粒・雲母 橙色 普通	P1401 20% 南壁際覆土上層
7	甕 須恵器	B (9.6) C [19.0]	底部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部下位へラ削り。内面ナデ。体部外面に平行叩き。	砂粒・石英・長石・ 雲母 黄灰色 普通	P1402 20% 南壁際床直

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
8	刀子	(8.2)	1.3	0.4	(12)	甕付近覆土下層	M1026

第310号住居跡（第416図）

位置 調査6区西部，N13d9区。

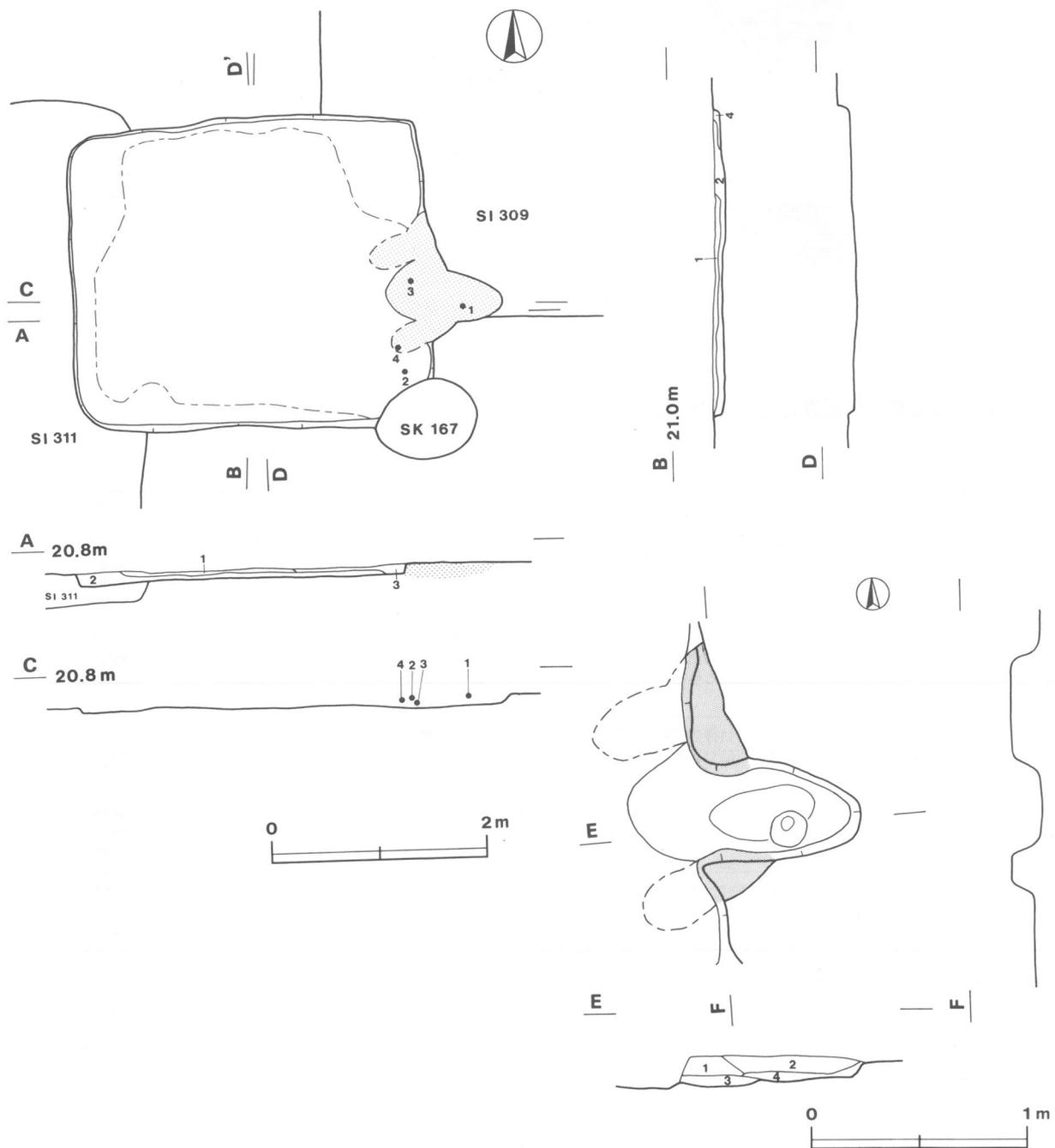
重複関係 第309・311号住居跡の上部に構築されており，本跡が新しい。また第167号土坑に掘り込まれているので，本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.32m，短軸2.89mの長方形である。

主軸方向 N-90°-E

壁 壁高は10cmほどで，緩やかに立ち上がる。

床 全体的に平坦で，中央部がよく踏み固められている。



第416図 第310号住居跡実測図

竈 東壁中央部に付設されている。削平により袖部の遺存状況は悪く、規模は長さ110cm、袖幅[120]cm、壁外への掘り込みは65cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は楕円形に浅く掘りくぼめられ、煙道部は削平され不明である。

竈土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量、焼土小ブロック微量
- 2 黒褐色 炭化粒子多量、焼土中・小ブロック・炭化粒子中量、ローム粒子少量、焼土大ブロック微量
- 3 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子中量、ローム粒子少量、焼土小ブロック微量
- 4 黒褐色 焼土粒子中量、炭化粒子・ローム粒子少量

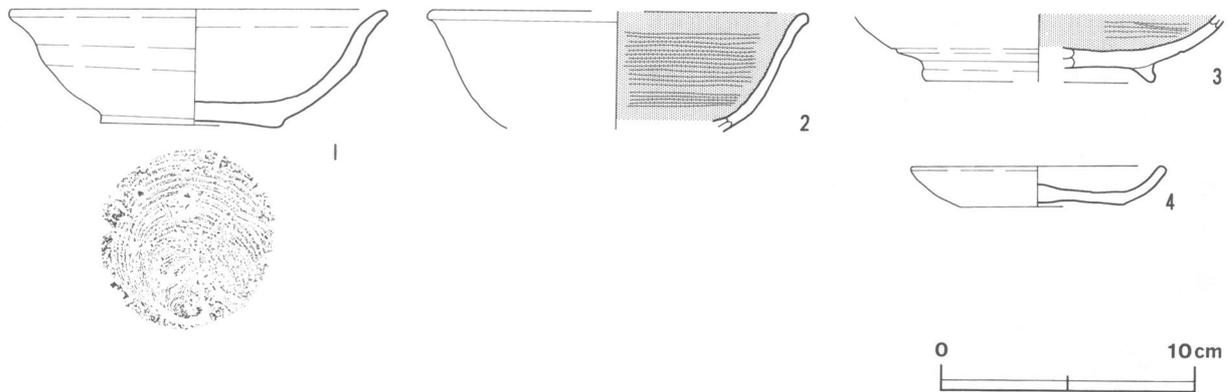
覆土 4層からなるが、覆土が浅く堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子多量、炭化粒子・ローム小ブロック微量

遺物 土師器片117点、須恵器片32点が出土している。1の土師器坏は竈内から逆位で、2の土師器碗、4の土師器小皿は右袖部付近の覆土下層から、3の土師器高台付坏は竈内からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から平安時代の10世紀以降と考えられる。



第417図 第310号住居跡出土遺物実測図

第310号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第417図 1	坏 土師器	A 14.8 B 4.6 C 7.0	体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒 橙色 普通	P1403 95% 竈内
2	碗 土師器	A[14.4] B(4.7)	口縁部片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部外面ロクロナデ。内面へラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母・スコリア 外面橙色 内面黒色 普通	P1404 15% 右袖付近覆土下層
3	高台付坏 土師器	B(2.7) D[9.0] E 0.8	底部片。高台は短く、ハの字状に開く。	内面へラ磨き。高台貼り付け後、ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・スコリア 外面橙色 内面黒色 普通	P1405 20% 竈内
4	小皿 土師器	A 10.0 B 2.1 C 6.5	口縁部一部欠損。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転へラ切り。	スコリア 橙色 普通	P1406 90% 右袖付近覆土下層

第311号住居跡（第418図）

位置 調査6区西部，N13e7区。

重複関係 第312号住居跡に掘り込まれており，また第310号住居跡が本跡の上部に構築されているので，本跡が古い。

規模と平面形 長軸5.04m，短軸4.78mの方形である。

主軸方向 N-1°-W

壁 壁高は34～37cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 第312号住居跡に掘り込まれている部分を除き，ほぼ全周している。上幅20cm，下幅10cm，深さ6cmほどで，断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で，中央部がよく踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は長さ120cm，袖幅115cm，壁外への掘り込みは15cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は楕円形に浅く掘りくぼめられ，袖の内壁は火熱を受け赤変している。煙道部は火床部から外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子中量，炭化粒子少量
- 2 暗褐色 焼土粒子少量，炭化粒子微量
- 3 黒褐色 焼土粒子中量，炭化粒子少量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子中量
- 5 黒褐色 焼土粒子中量，炭化粒子少量
- 6 黒褐色 焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 7 極暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子多量，焼土小ブロック中量
- 8 灰褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量，炭化粒子中量

ピット 2か所(P₁，P₂)。P₁，P₂は径42cmの円形で，深さ41～50cmである。いずれも支柱穴と考えられる。

覆土 6層からなり，ロームブロックが多量に見られ，人為堆積である。

土層解説

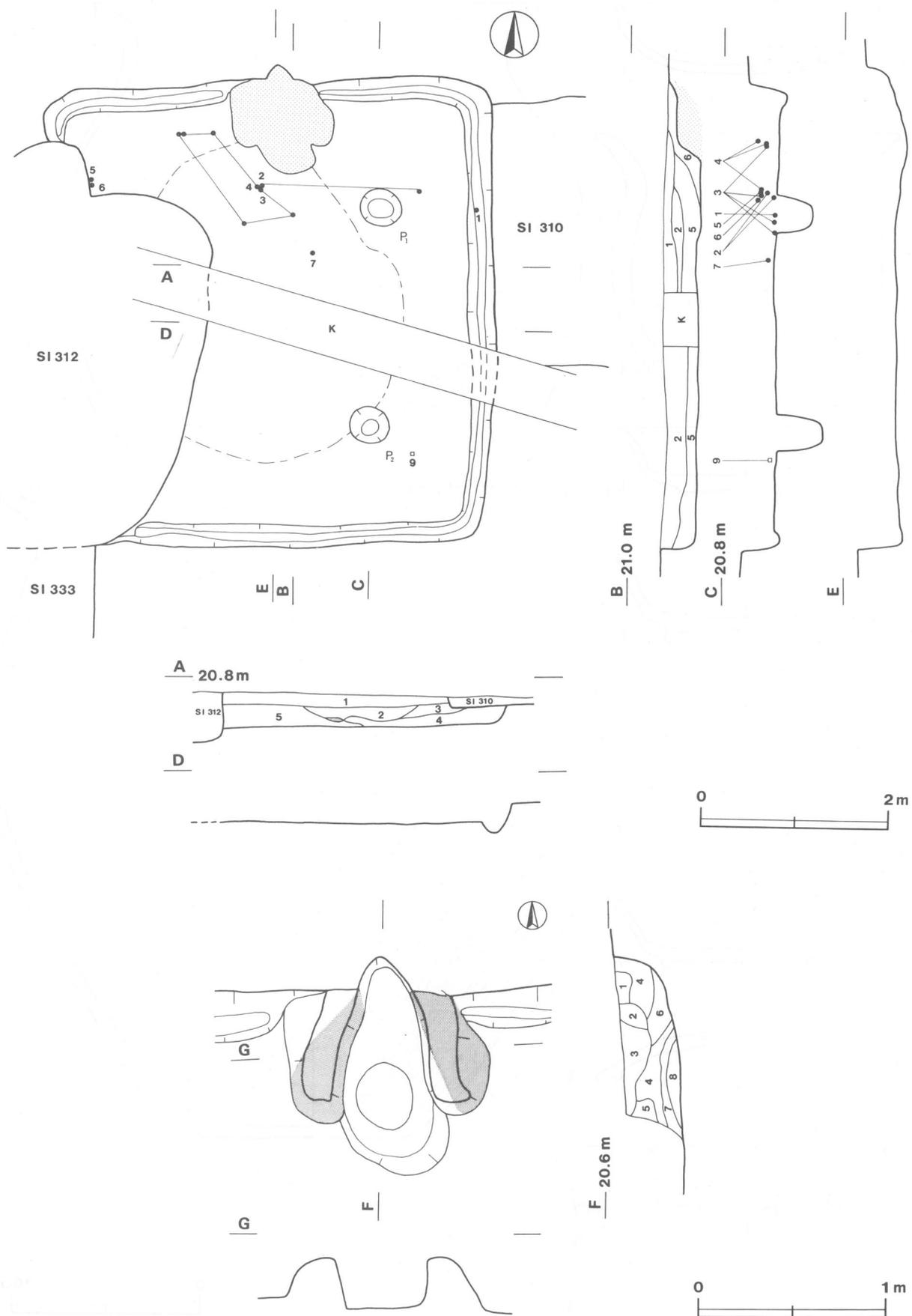
- 1 黒褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック微量
- 3 極暗褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
- 4 極暗褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック微量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム大・中ブロック微量
- 6 極暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量

遺物 土師器片256点，須恵器片40点，石製品1点が出土している。1の土師器坏は東壁際の覆土下層から逆位で，2の土師器甕はP₁付近の覆土下層から，3の土師器甕，4の土師器小形甕は竈付近の覆土下層と中層から，5の須恵器坏，6の須恵器高台付坏は北西コーナー付近から，5は覆土下層から逆位で，6は覆土中層から，7の須恵器高台付坏は中央付近の覆土下層から逆位でそれぞれ出土している。

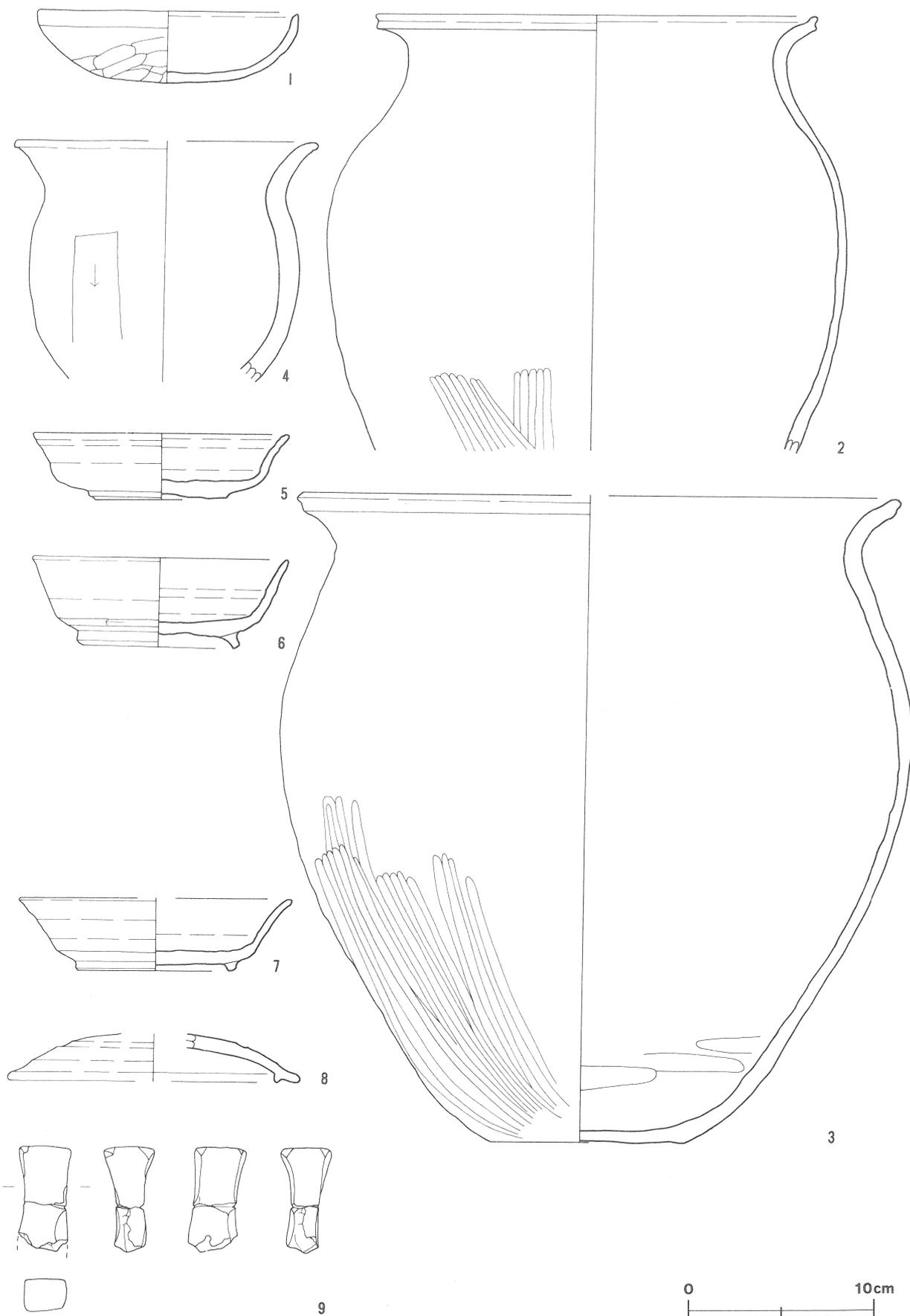
所見 本跡の時期は，遺構の形態や出土遺物から奈良時代の8世紀前葉と考えられる。

第311号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第419図 1	坏 土師器	A 14.0 B 3.9	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部ヘラ削り。	砂粒・雲母 赤褐色 普通	P1407 95% 東壁際覆土下層
2	甕 土師器	A 23.6 B (24.7)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部ヘラ磨き。内・外面磨減が著しい。	砂粒・長石・雲母・スコリア にぶい橙色 普通 煤付着	P1408 50% P ₁ 付近覆土下層



第418图 第311号住居跡実測図



第419图 第311号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第419図 3	甕 土師器	A [32.0] B 34.9 C 10.3	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面中位から下位にかけて縦方向のヘラ磨き。体部内面ナデ。底部ヘラ削り。	砂粒・石英・長石・雲母 橙色 普通 外面煤付着	P1409 40% 甕付近覆土下層
4	小形甕 土師器	A [16.0] B (13.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・石英 にぶい橙色 普通	P1410 25% 甕付近覆土中層
5	坏 須恵器	A 13.6 B 3.5 C 7.4	口縁部一部欠損。平底。二次底面がある。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	長石 灰色 良好	P1411 75% 北西コー ナー付近覆土下層
6	高台付坏 須恵器	A 13.6 B 4.8 D 8.1 E 0.8	体部一部欠損。高台は短く、ハの字状に開く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	砂粒・長石 青灰色 良好	P1412 95% 北西コー ナー付近覆土中層
7	高台付坏 須恵器	A [14.6] B 5.0 D 8.6 E 0.5	口縁部一部欠損。高台は短く開く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	砂粒・長石 灰白色 良好	P1413 70% 中央付近覆土 下層
8	蓋 須恵器	A [15.4] B (2.6)	口縁部片。口縁部内側に短いかえりが付く。	口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・石英・長石・雲母 灰黄褐色 普通	P1414 15% 覆土中

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
9	砥石	(5.2)	2.8	1.7	(41)	南東コー ナー付近覆土下層	Q1005 凝灰岩

第312号住居跡 (第420図)

位置 調査6区西部, N13e7区。

重複関係 第311号住居跡を掘り込んでおり、本跡が新しい。また第333号住居跡が上部に構築されているので、本跡が古い。

規模と平面形 本跡の西部は調査区域外に延びているが、長軸4.00m、短軸[3.50]mの長方形と推定される。

主軸方向 N-10°-E

壁 壁高は56cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 東壁下で確認した。上幅20cm、下幅8~12cm、深さ7cmほどで、断面形は逆台形である。

床 全体的に平坦で、中央部がよく踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。耕作によって袖部が攪乱されており遺存状況は悪く、規模は長さ105cm、袖幅[100]cm、壁外への掘り込みは53cmである。袖部は砂質粘土で構築されており、袖の内壁は火熱を受け赤変している。火床部は楕円形に浅く掘りくぼめられ、煙道部は火床部から外傾して立ち上がる。

竈土層解説

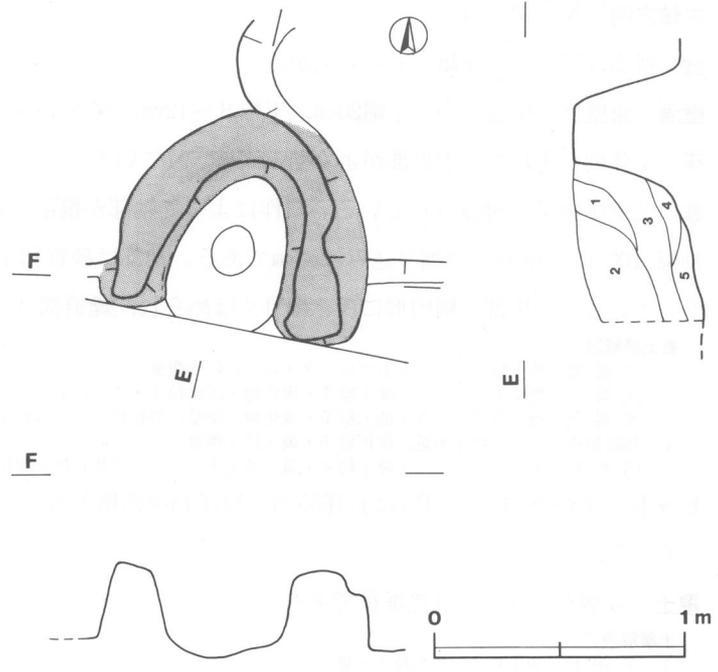
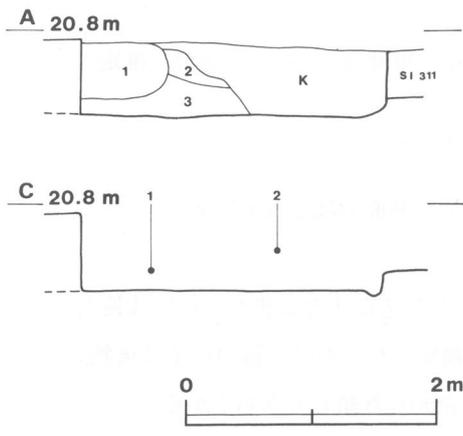
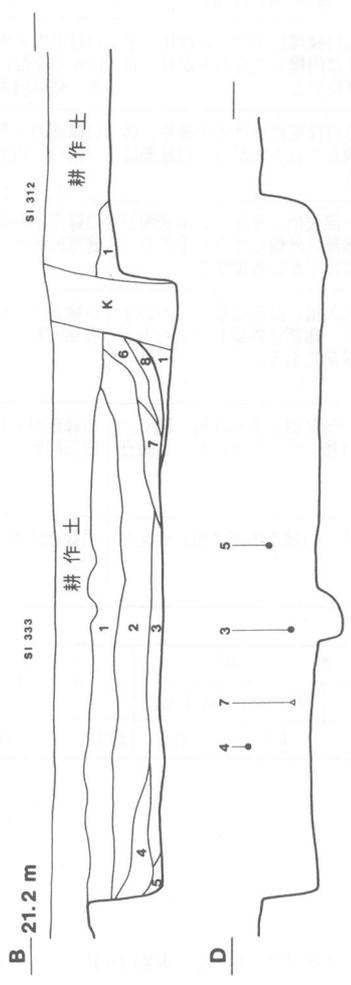
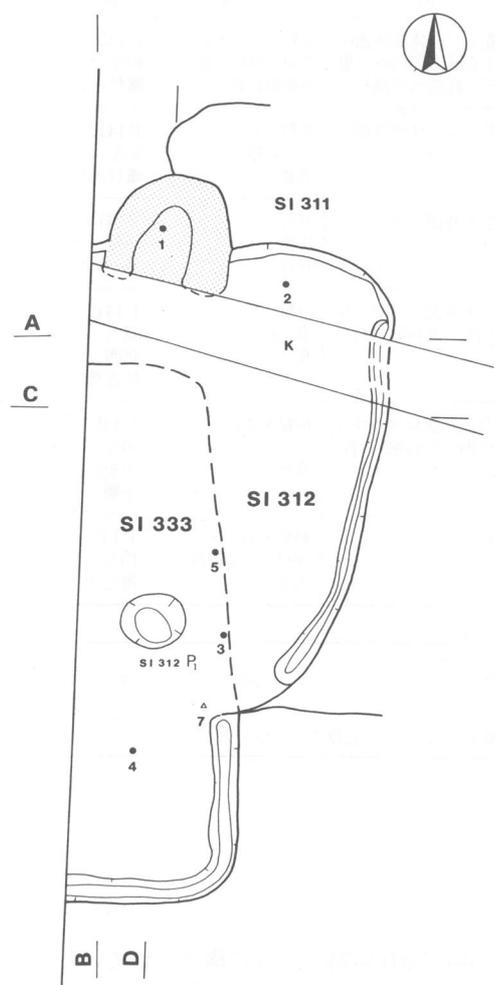
- 1 黒褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 3 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、炭化物・ローム粒子微量
- 4 極暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・焼土粒子微量
- 5 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量、焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子・ローム粒子微量

ピット 1か所(P₁)。P₁は長径55cm、短径45cmの楕円形で、深さ21cmである。出入り口に伴うピットと考えられる。

覆土 3層からなり、自然堆積である。

土層解説

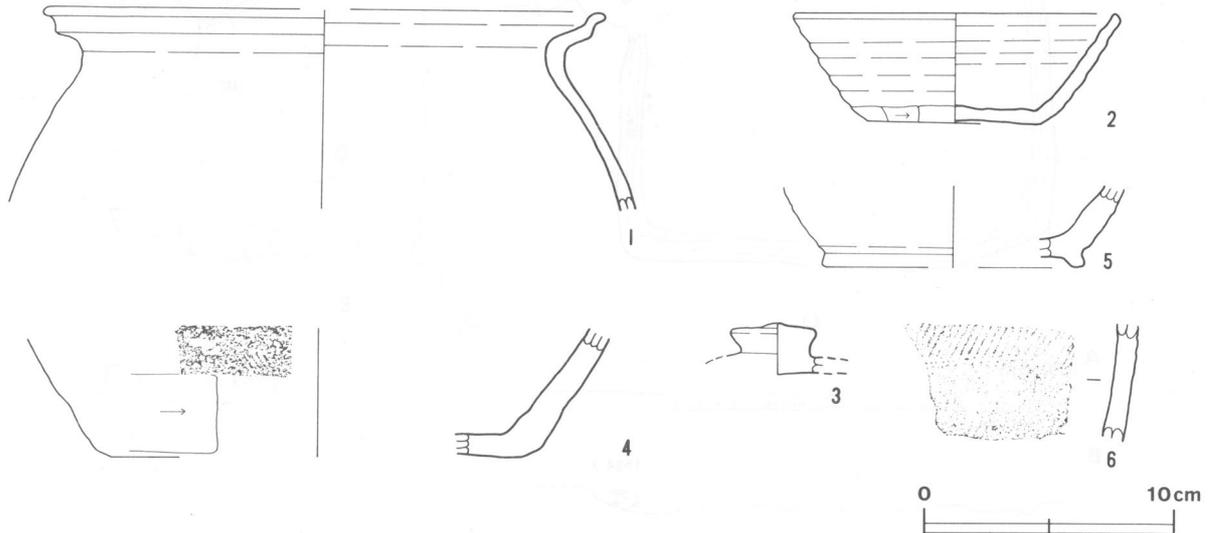
- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量



第420図 第312・333号住居跡実測図

遺物 土師器片313点、須恵器片73点、鉄滓2点が出土している。1の土師器甕は竈内から、2の須恵器坏は北東コーナー付近の覆土上層から正位でそれぞれ出土している。6は須恵器甕の体部片で、外面には縦位の平行叩きが施されている。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から平安時代の8世紀後葉と考えられる。



第421図 第312号住居跡出土遺物実測図

第312号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第421図 1	甕 土師器	A[22.0] B(8.0)	口縁部片。口縁部は強く外反する。端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P1415 15% 竈内
2	坏 須恵器	A 15.0 B 4.5 C 7.0	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面クロナデ。体部下端手持ちへら削り。底部一方向の手持ちへら削り。	砂粒・長石 黄灰色 良好	P1416 100% 北東コーナー付近覆土上層
3	蓋 須恵器	F 3.4 G 1.3	つまみ片。擬宝珠状のつまみが付く。	内面クロナデ。	砂粒 黄灰色 普通	P1417 5% 覆土中
4	甕 須恵器	B(5.2) C[16.4]	底部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面下位へら削り。内面ナデ。外面に平行叩き。	砂粒・長石・雲母 にぶい黄橙色 普通	P1418 5% 覆土中
5	壺 須恵器	B(3.3) D[10.0] E 0.6	底部片。高台は短く、ハの字状に開く。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面クロナデ。	砂粒・石英・長石・雲母 にぶい黄橙色 普通	P1419 5% 覆土中

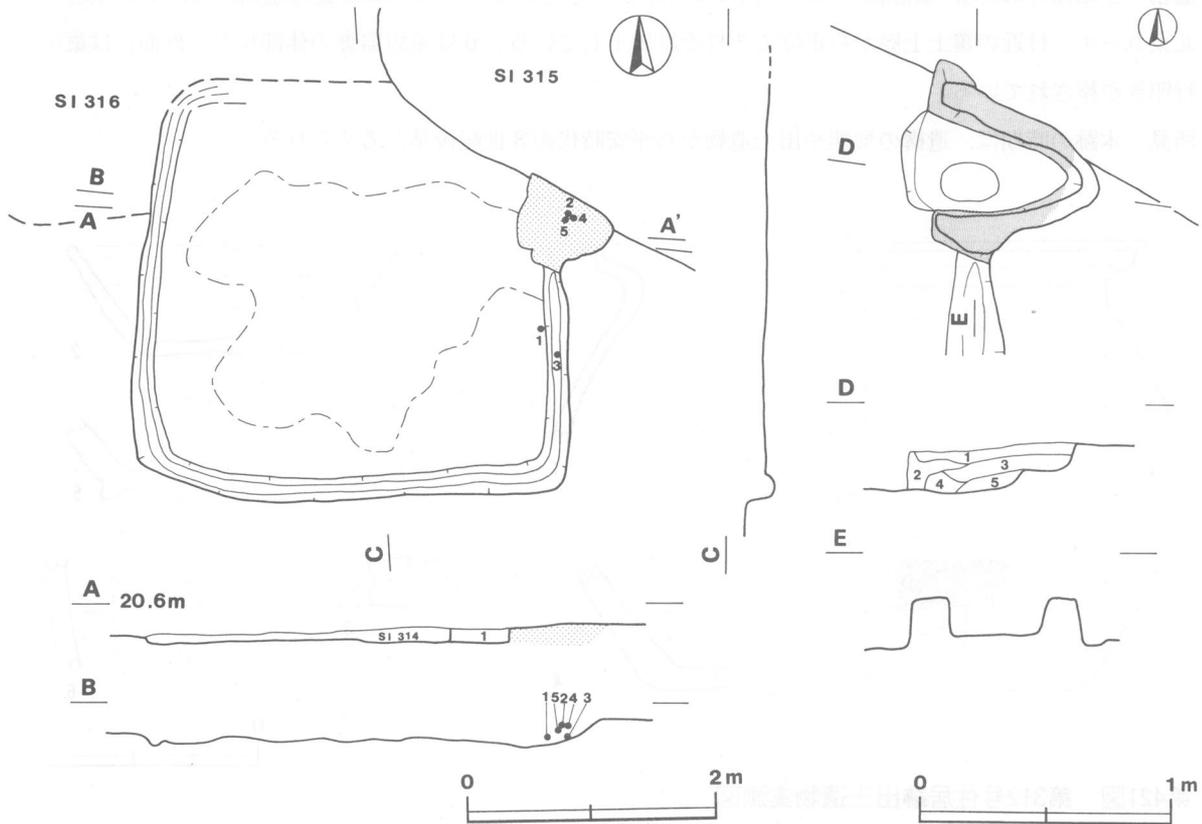
第313号住居跡 (第422図)

位置 調査6区西部、N13b8区。

重複関係 第315号住居跡に掘り込まれ、第314号住居跡が本跡の上部に構築されているので、本跡が古い。また第316号住居跡を掘り込んでいるので、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸3.43m、短軸[3.40]mの方形と推定される。

主軸方向 N-90°-E



第422図 第313号住居跡実測図

壁 壁高は20cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 北壁下を除き確認した。上幅15cm、下幅7cm、深さ5cmほどである。断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で、中央部がよく踏み固められている。

竈 東壁北東コーナー寄りに付設されている。規模は長さ80cm、袖幅75cm、壁外への掘り込みは45cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は楕円形に浅く掘りくぼめられ、煙道部は火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、炭化物・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 3 黒褐色 炭化粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子少量、焼土大・中ブロック微量
- 4 黒褐色 焼土粒子多量、炭化粒子中量
- 5 黒褐色 焼土粒子中量、焼土中・小ブロック・炭化粒子少量

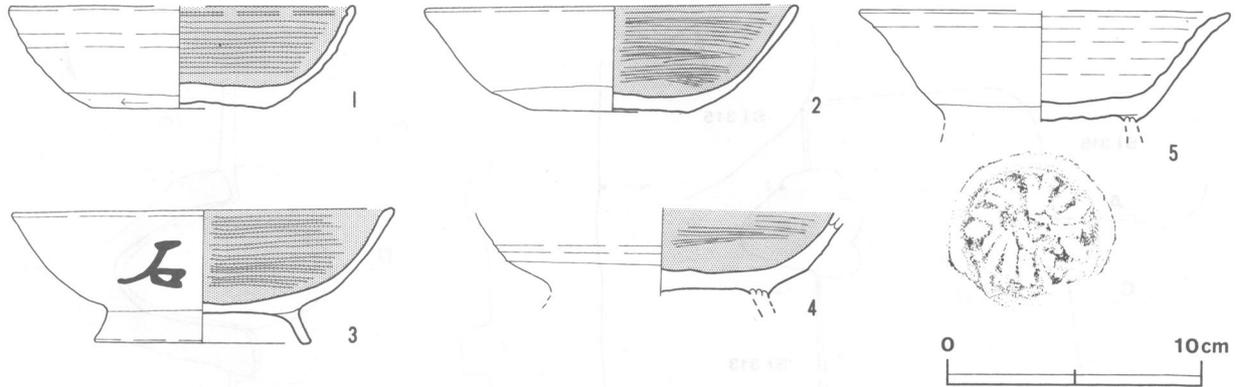
覆土 単一層であり、覆土が浅く堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子中量、焼土小ブロック・炭化物・ローム粒子微量

遺物 土師器片77点、須恵器片29点が出土している。1の土師器坏、3の土師器高台付坏は東壁際の覆土下層から逆位で、2の土師器坏、4の土師器高台付坏、5の須恵器高台付坏が竈内からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から平安時代の10世紀以降と考えられる。



第423図 第313号住居跡出土遺物実測図

第313号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第423図 1	坏 土師器	A [13.6] B 4.1 C 6.8	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部内面に沈線が巡る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。内面へラ磨き。底部回転へラ切り。内面黒色処理。	砂粒・石英・雲母 外面赤褐色 内面黒色 普通	P1420 60% 東壁際覆土下層
2	坏 土師器	A 14.4 B 4.4 C 6.2	体部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部下端手持ちへラ削り。内面へラ磨き。底部へラ削り。内面黒色処理。	砂粒・長石・雲母・スコリア 外面褐色 内面黒色 普通	P1421 55% 竈内
3	高台付坏 土師器	A 14.9 B 5.4 D 8.4 E 1.4	高台は長く、ハの字状に開く。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。内面へラ磨き。高台貼り付け後、ナデ。体部外面に墨書。内面黒色処理。	砂粒・石英・雲母・スコリア 外面橙色 内面黒色 普通	P1422 95% 東壁際覆土下層
4	高台付坏 土師器	B (3.1)	底部片。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ロクロナデ。内面へラ磨き。高台貼り付け後、ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・スコリア 外面にぶい赤褐色 内面黒色 普通	P1423 30% 竈内
5	高台付坏 須恵器	A [14.5] B (4.4) E (0.3)	高台部、口縁部一部欠損。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はやや外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部に菊花状調整痕。	砂粒・雲母・スコリア にぶい赤褐色 普通	P1424 40% 竈内

第314号住居跡 (第424図)

位置 調査6区西部, N13b7区。

重複関係 第313号住居跡の上部に構築され、第316号住居跡を掘り込んでいるので、本跡が新しい。また第315号住居跡に掘り込まれており、本跡が古い。

規模と平面形 長軸[3.40]m, 短軸[1.95]mの長方形と推定される。

主軸方向 N-93°-E

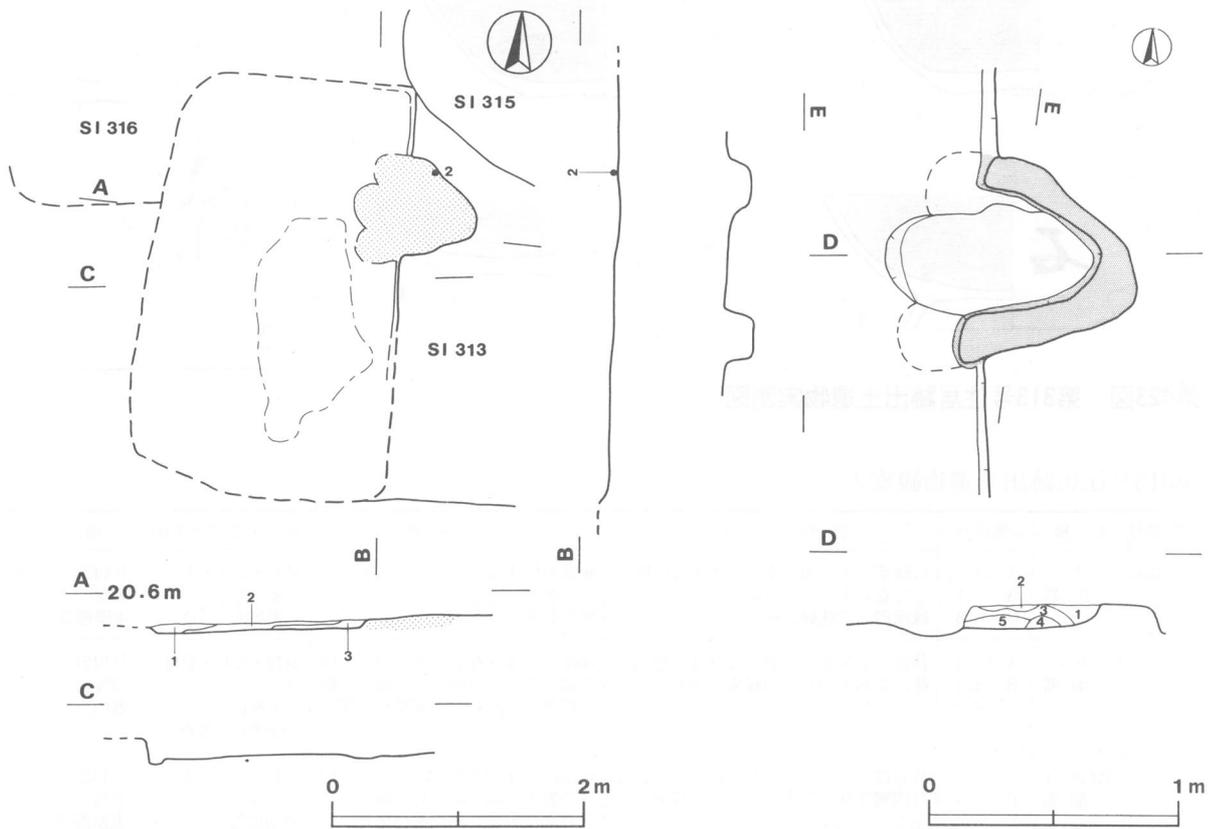
壁 壁高は5cmほどで、緩やかに立ち上がる。

床 全体的に平坦で、中央部から南壁にかけてよく踏み固められている。

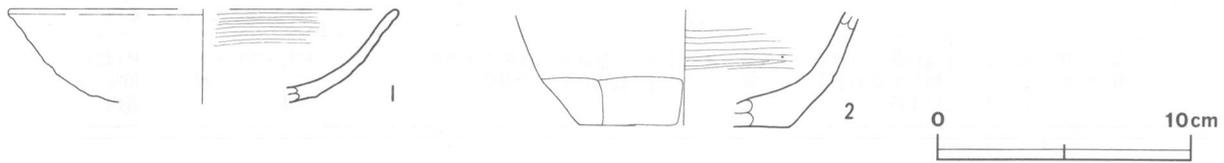
竈 東壁北東コーナー寄りに付設されている。袖部の遺存状況は悪く、規模は長さ95cm, 袖幅[85]cm, 壁外への掘り込みは55cmである。袖部は遺存状況から、砂質粘土で構築されていたと思われる。火床部は楕円形に浅く掘りくぼめられ、煙道部は削平され不明である。

竈土層解説

- 1 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量, 炭化物微量
- 3 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子中量, 焼土小ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量
- 5 黒褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子少量



第424図 第314号住居跡実測図



第425図 第314号住居跡出土遺物実測図

覆土 3層からなるが、覆土が浅く堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量

遺物 土師器片48点, 須恵器片14点が出土している。2の土師器鉢は竈内から出土している。

所見 本跡に伴う遺物が少なく時期を明確にできないが, 10世紀以降とみられる第313号住居跡の上部に構築されていることから, 平安時代の10世紀以降と考えられる。

第314号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第425図 1	坏 土師器	A[15.2] B(3.7)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり, 口縁部にいたる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。	砂粒・雲母・スコリアにぶい橙色普通	P1426 10% 覆土中
2	鉢 土師器	B(4.6) C[8.2]	底部片。体部は外傾して立ち上がる。	体部下端手持ちヘラ削り。内面ヘラ磨き。	砂粒・長石・スコリアにぶい橙色普通	P1425 10% 竈内

第315号住居跡 (第426図)

位置 調査6区西部, N13a8区。

重複関係 第313・314・316号住居跡を掘り込んでおり, 本跡が新しい。

規模と平面形 長軸3.65m, 短軸3.60mの方形である。

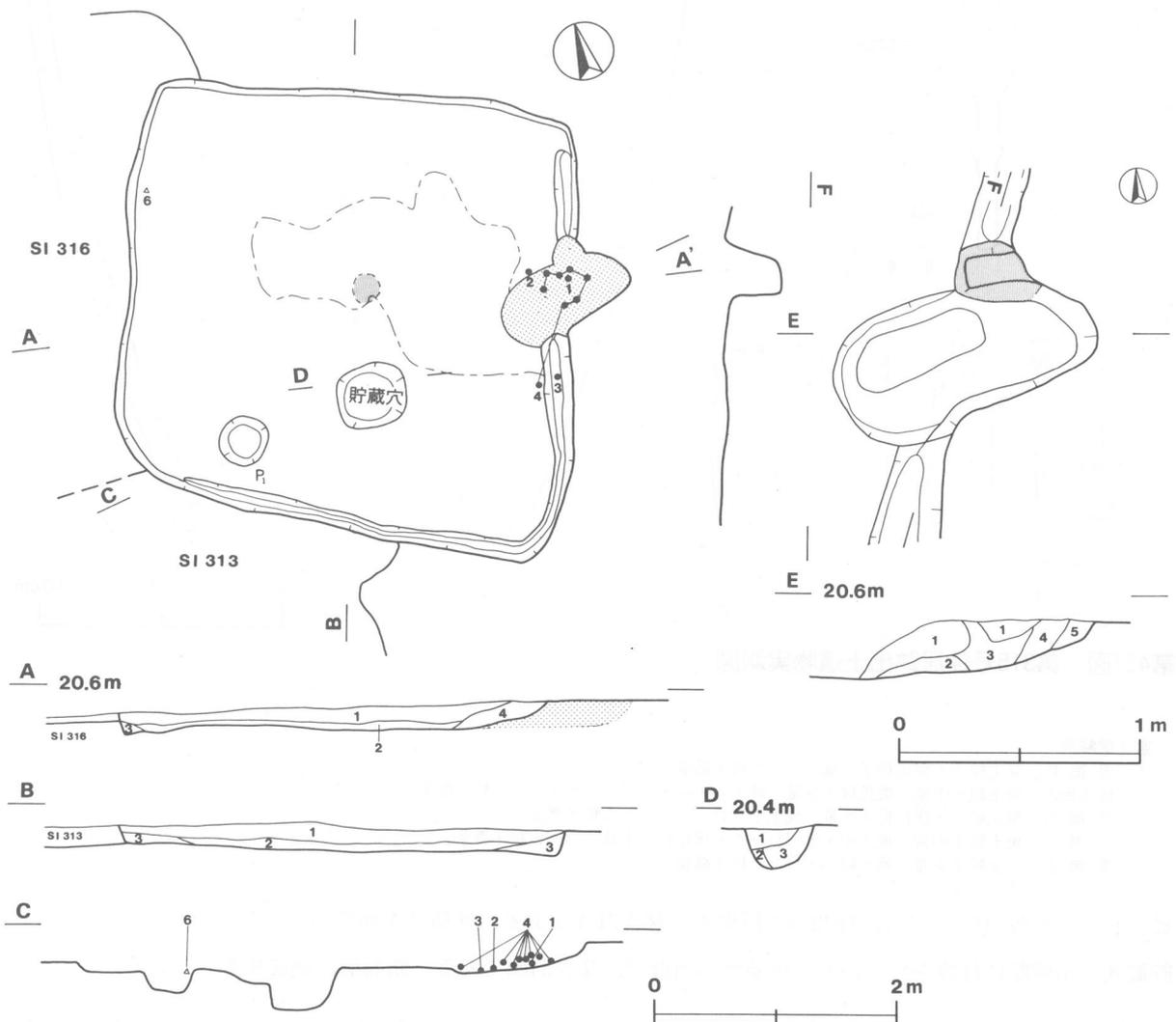
主軸方向 N-110°-E

壁 壁高は13cmで, 外傾して立ち上がる。

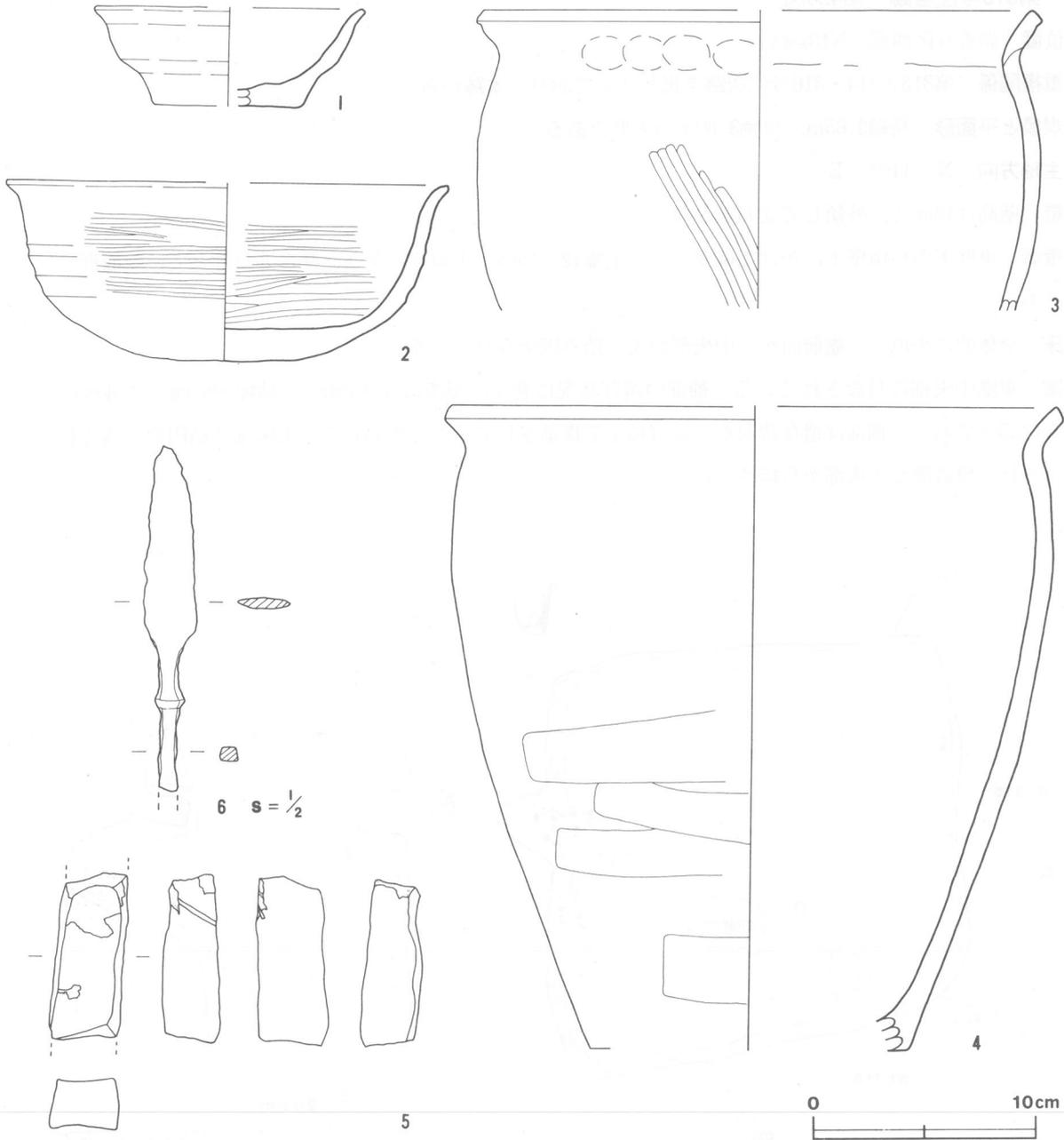
壁溝 東壁下から南壁下にかけて確認した。上幅12~15cm, 下幅5~7cm, 深さ5cmほどで, 断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で, 竈前面から中央部がよく踏み固められている。

竈 東壁中央部に付設されている。袖部の遺存状況は悪く, 規模は長さ120cm, 袖幅(95)cm, 壁外への掘り込みは55cmである。袖部は遺存状況から砂質粘土で構築されていたと思われる。火床部は楕円形に浅く掘りくぼめられ, 煙道部は火床部から緩やかに立ち上がる。



第426図 第315号住居跡実測図



第427図 第315号住居跡出土遺物実測図

甕土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土大・中・小ブロック・ローム粒子微量
- 3 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量, 焼土小ブロック・ローム粒子微量
- 4 暗褐色 焼土粒子中量, 焼土中・小ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 5 黒褐色 炭化粒子少量, 焼土粒子・ローム粒子微量

ピット 1か所(P₁)。P₁は径42cmの円形で、深さ21cmである。性格は不明である。

貯蔵穴 南壁際に付設されている。径55cmの円形で、深さ34cmである。断面形は鍋底状をしている。

貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 極暗褐色 ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム大・中ブロック微量

覆土 4層からなり、自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・ローム中ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量
- 4 黒褐色 焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム粒子少量、ローム小ブロック微量

遺物 土師器片313点、須恵器片45点、鉄製品1点、土製品1点が出土している。1の土師器坏、4の土師器甗は竈内から、2の土師器鉢は竈付近の覆土下層から、3の土師器甕は東壁際からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から平安時代の10世紀以降と考えられる。

第315号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第427図 1	坏 土師器	A[12.0] B 4.5 C[7.0]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転系切り。	砂粒・長石・スコリア 浅黄橙色 普通	P1427 30% 竈内
2	鉢 土師器	A[19.7] B 8.1	体部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。内・外面ヘラ磨き。	砂粒・長石にぶい橙色 良好	P1428 45% 竈付近覆土下層
3	甕 土師器	A[24.8] B(13.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦方向のヘラ磨き。内面ナデ。体部外面に指頭押圧。	砂粒・石英・雲母・スコリアにぶい赤褐色 普通	P1429 10% 東壁際覆土下層
4	甗 土師器	A[27.2] B 29.0 C[14.4]	底部から口縁部にかけての破片。多孔式。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・スコリア 橙色 普通	P1430 20% 竈内

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
5	不明土製品	(4.9)	2.3	1.6	(21)	覆土中	D P1005
6	鉄 鍍	(10.5)	1.6	0.4	(12)	西壁際覆土下層	M1027 70%

第317号住居跡（第428図）

位置 調査6区西部，M13j7区。

重複関係 第318号住居跡を掘り込んでおり、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸3.30m，短軸3.16mの方形である。

主軸方向 N-6°-E

壁 壁高は14～21cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

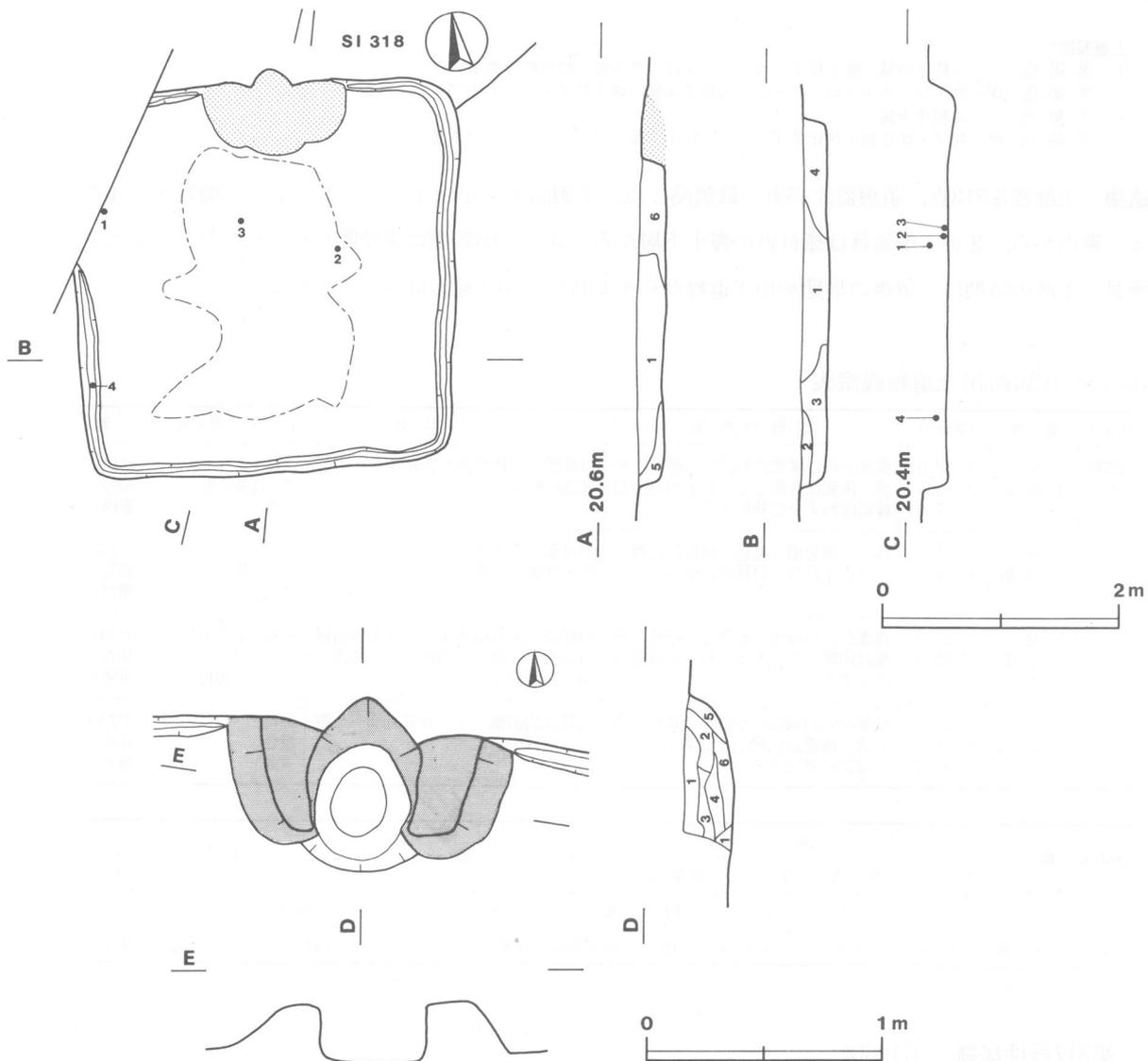
壁溝 上幅8～12cm，下幅5～8cm，深さ5cmほどで、断面形はU字形である。ほぼ全周している。

床 全体的に平坦で、竈前面から中央部がよく踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は長さ80cm，袖幅115cm，壁外への掘り込みは10cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は円形に浅く掘りくぼめられ、煙道部は火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・ローム中ブロック微量
- 2 黒褐色 炭化粒子多量、焼土粒子中量、焼土小ブロック少量
- 3 暗褐色 焼土粒子少量
- 4 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子多量
- 5 黒褐色 炭化粒子多量、焼土粒子少量、焼土小ブロック微量
- 6 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子多量



第428図 第317号住居跡実測図

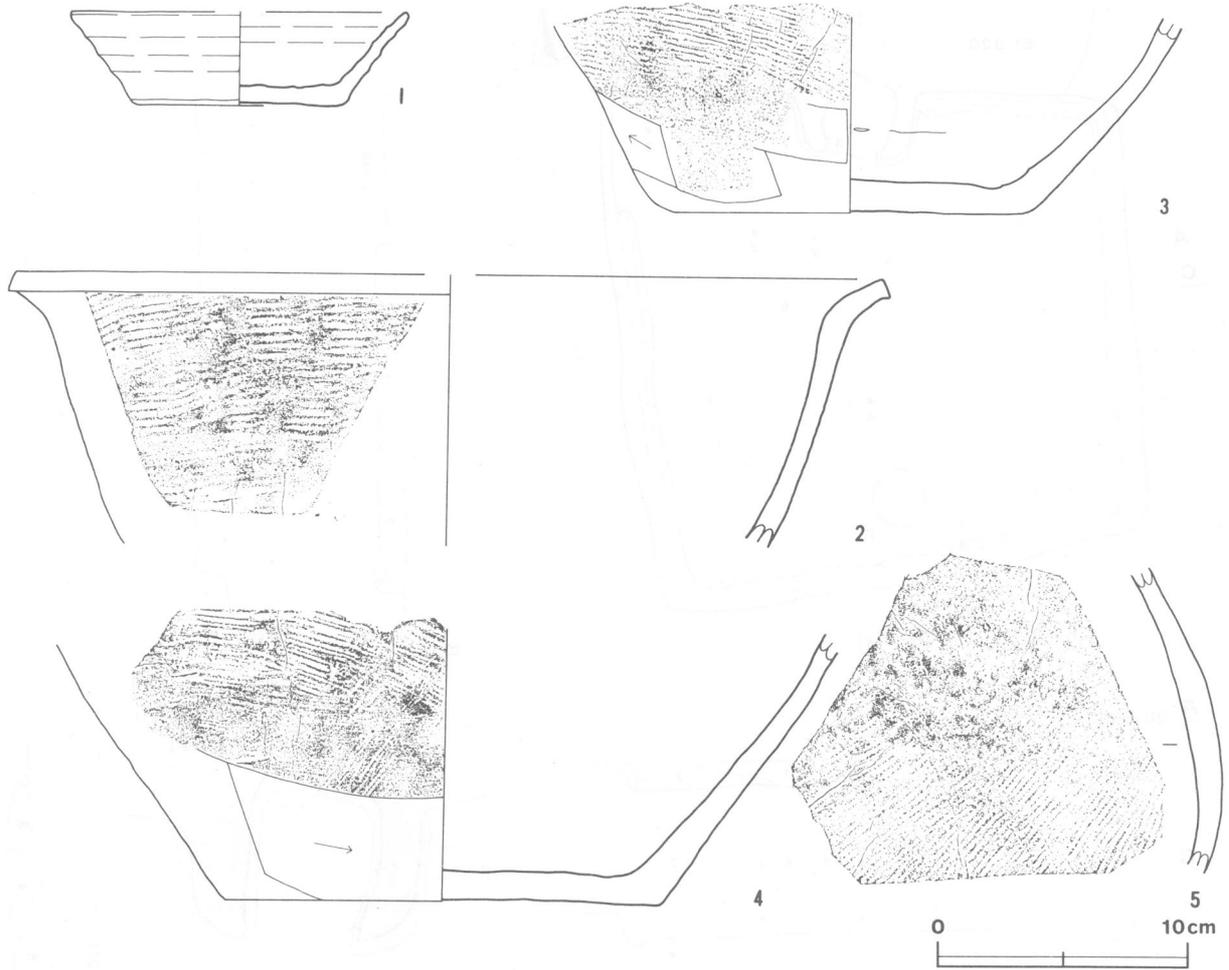
覆土 6層からなり、ブロック状の堆積で人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量, ローム中・小ブロック中量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中・小ブロック少量
- 4 極暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 5 極暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 6 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量

遺物 土師器片142点, 須恵器片11点が出土している。1の須恵器坏は北西コーナー付近の覆土上層から逆位で, 2, 3の須恵器甕は中央付近の覆土下層からそれぞれ出土している。5は須恵器甕の体部片で, 外面には横位の平行叩きが施されている。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態や出土遺物から平安時代の8世紀中葉と考えられる。



第429図 第317号住居跡出土遺物実測図

第317号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第429図 1	坏 須恵器	A[13.4] B 3.8 C 8.0	体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面クロナデ。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・長石・雲母 オリーブ灰色 良好	P1437 50% 北西コー ナー付近覆土上層
2	甕 須恵器	A[34.6] B(10.9)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面に横方向の平行叩き。	砂粒・雲母 灰黄色 良好	P1438 10% 中央付近覆土下層
3	甕 須恵器	B(7.9) C 14.0	底部片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面に横方向の平行叩き。体部下位ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・石英・長石・ 雲母 灰黄色 良好	P1439 30% 中央付近覆土下層
4	甕 須恵器	B(11.0) C 17.4	底部片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面に横方向の平行叩き。体部下位ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・石英・雲母 灰黄色 普通	P1440 30% 西壁際覆土中層

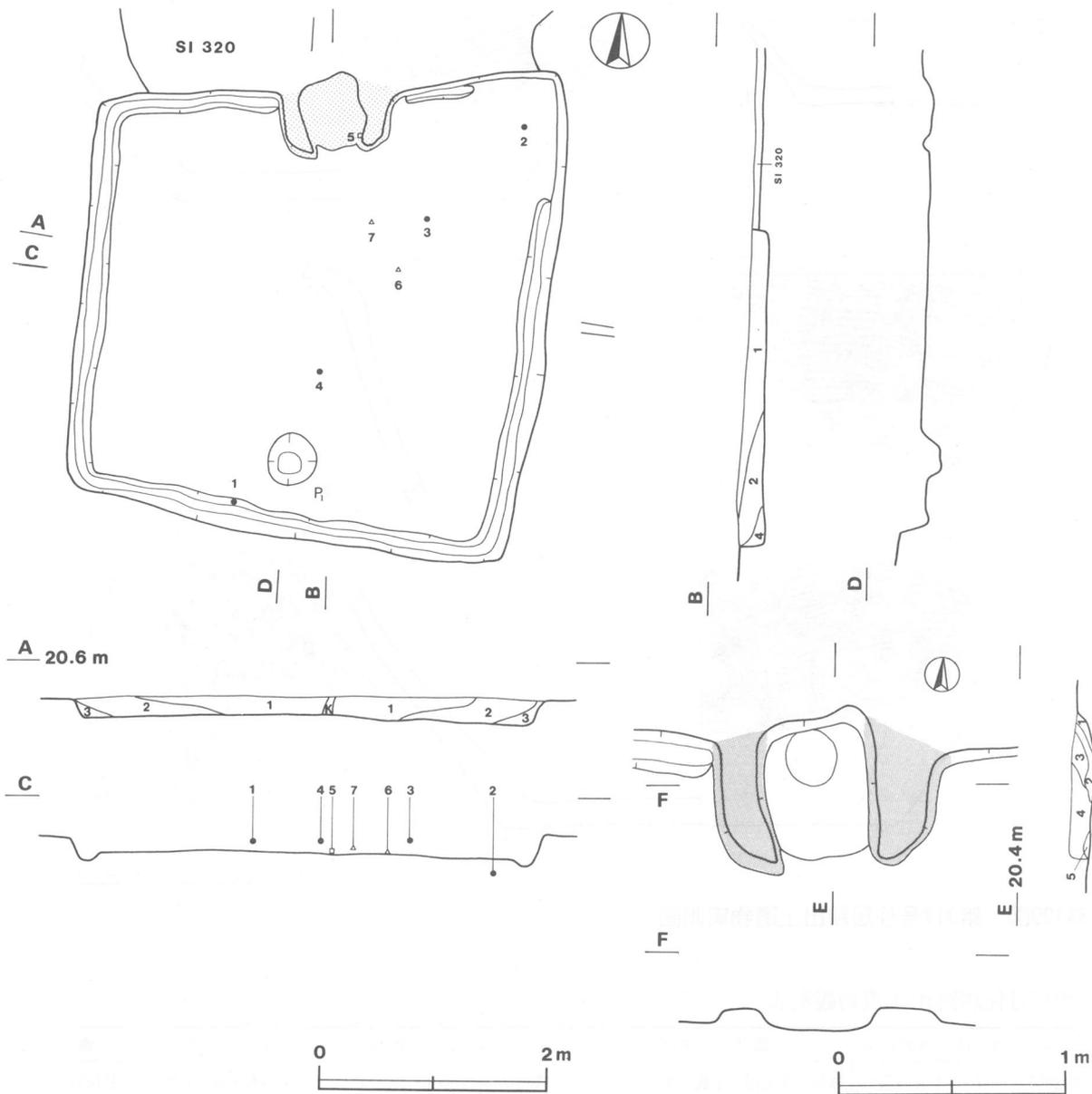
第319号住居跡（第430図）

位置 調査6区西部，M13i9区。

重複関係 第320号住居跡が上部に構築されており，本跡が古い。

規模と平面形 長軸4.00m，短軸3.86mの方形である。

主軸方向 N-6°-E



第430図 第319号住居跡実測図

壁 壁高は12~23cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 北東コーナーを除き全周している。上幅13cm、下幅8cm、深さ5cmほどで、断面形はU字形である。

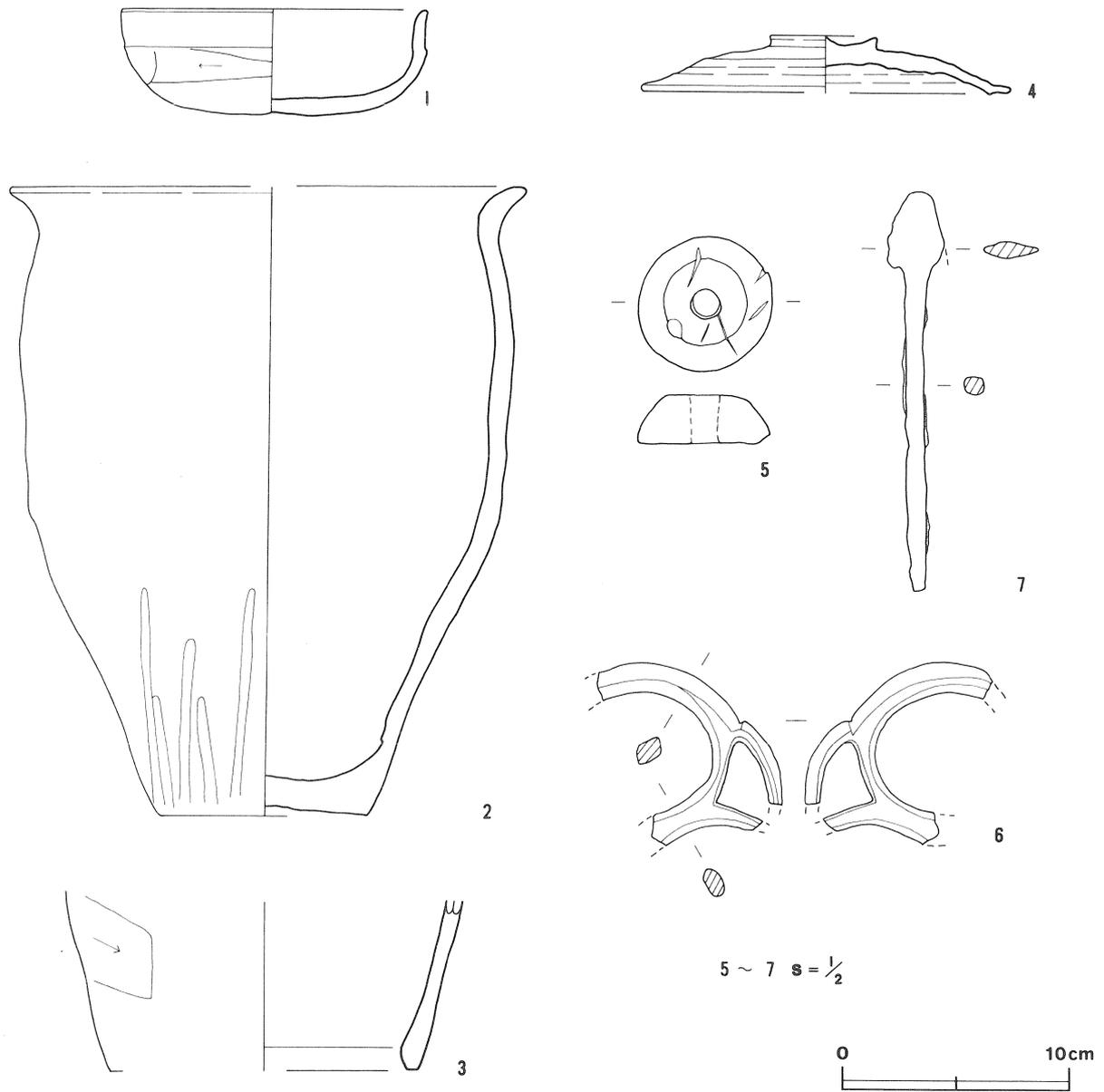
床 全体的に平坦で、軟らかい。

竈 北壁中央部に付設されている。袖部の遺存状況は悪く、規模は長さ85cm、袖幅[98]cm、壁外への掘り込みは30cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は円形に浅く掘りくぼめられ、煙道部は第320号住居跡に掘り込まれ不明である。

竈土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 2 極暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 3 極暗褐色 焼土粒子中量, 焼土中ブロック微量
- 4 極暗褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック微量
- 5 黒褐色 砂多量

ピット 1か所(P₁)。P₁は径45cmの円形で、深さ18cmである。出入りに伴うピットと考えられる。



第431図 第319号住居跡出土遺物実測図

覆土 4層からなり、自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量

遺物 土師器片120点, 須恵器片9点が出土している。1の土師器坏は南壁際の覆土中層から逆位で, 2の土師器甕は北東コーナー付近の床面に底部が埋もれた状態で正位で出土している。4の須恵器蓋は中央付近の覆土中層から正位で, 6の不明銅製品, 7の鉄鏃は中央付近の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態や出土遺物から奈良時代の8世紀前葉と考えられる。

第319号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第431図 1	坏 土師器	A 13.4 B 4.7	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へラ削り。内面ナデ。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通 外面煤付着	P1445 80% 南壁際覆土中層
2	甕 土師器	A[22.7] B 27.9 C 9.0	体部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部下位縦方向のへラ磨き。内面ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母 にぶい褐色 普通 外面煤付着	P1446 60% 北東コーナー覆土床直
3	甑 土師器	B(7.5) C[13.4]	底部から体部らかけての破片。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面下位へラ削り。	砂粒・雲母 にぶい黄褐色 普通	P1447 5% 中央付近覆土中層
4	蓋 須恵器	A[16.4] B 2.5 F 4.7 G 0.5	口縁部一部欠損。ボタン状のつまみが付く。天井部は笠形をしている。口縁部内面に、短いかえりが付く。	天井部外面へラ削り。内面ロクロナデ。口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・長石 灰黄褐色 普通	P1448 60% 中央付近覆土中層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考	
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
5	紡錘車	3.9	1.5	0.9	33	竈内	Q1006 滑石	90%

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
6	不明銅製品	(5.4)	5.3	0.6	(25)	中央付近覆土下層	M1028	
7	鉄 鍍	11.8	(1.7)	0.6	(14)	中央付近覆土下層	M1029	80%

第320号住居跡 (第432図)

位置 調査6区西部, M13h9区。

重複関係 第319・323号住居跡の上部に構築されており, 本跡が新しい。

規模と平面形 長軸3.34m, 短軸[2.92]mの長方形と推定される。

主軸方向 N-65°-E

壁 壁高は14~18cmで, 外傾して立ち上がる。

床 第319号住居跡の上部に床を構築しており, ほぼ平坦で全体的に軟らかい。

竈 東壁中央部に付設されている。規模は長さ75cm, 袖幅78cm, 壁外への掘り込みは35cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は楕円形に浅く掘りくぼめられ, 煙道部は火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗褐色 粘土中量, 焼土粒子少量
- 2 黒褐色 炭化粒子中量, 焼土粒子微量
- 3 極暗褐色 焼土粒子・炭化粒子中量
- 4 黒褐色 炭化粒子多量, 焼土粒子中量

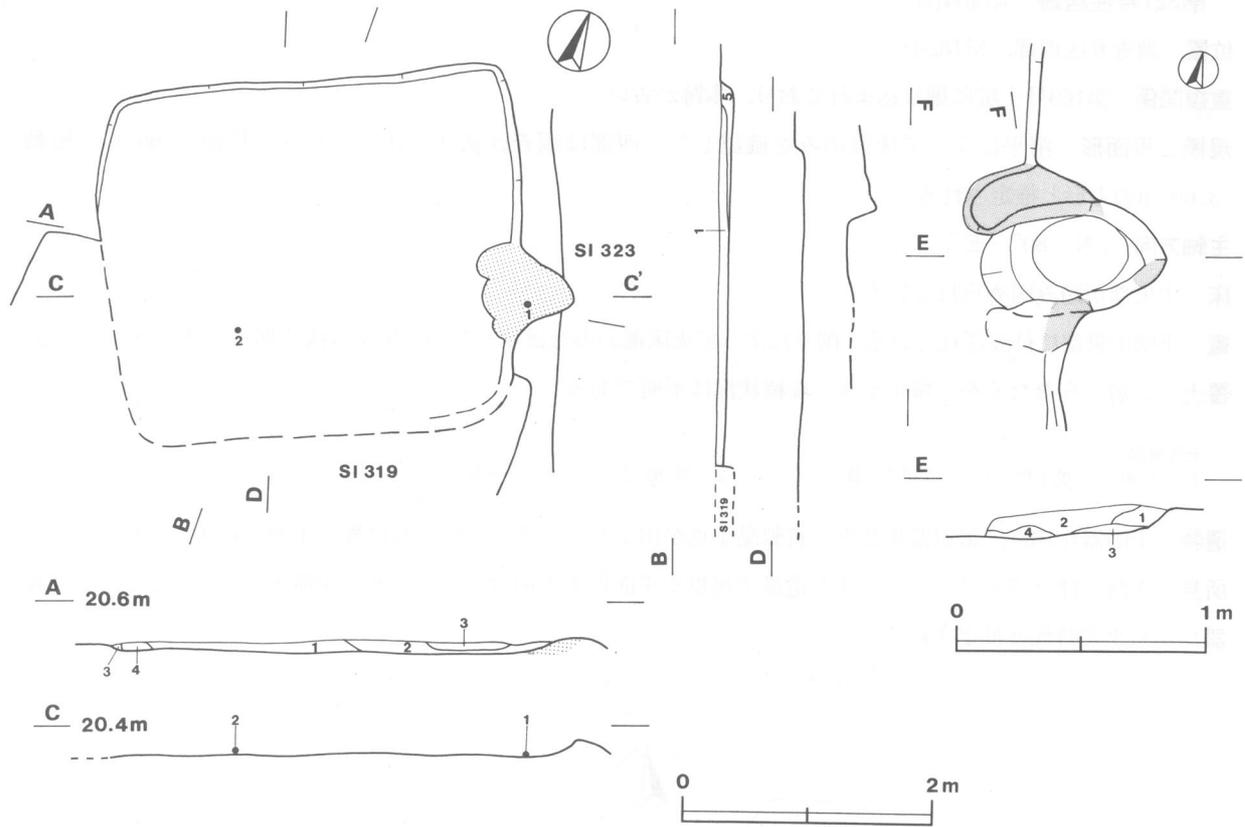
覆土 5層からなり, 自然堆積である。

土層解説

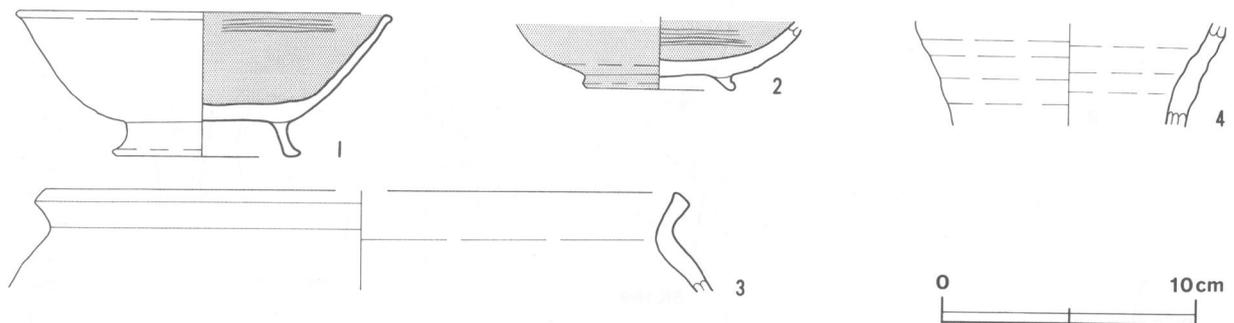
- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 極暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子少量

遺物 土師器片93点, 須恵器片4点が出土している。1の土師器高台付碗は竈内から, 2の土師器高台付碗は中央付近の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態や出土遺物から平安時代の10世紀以降と考えられる。



第432図 第320号住居跡実測図



第433図 第320号住居跡出土遺物実測図

第320号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第433図 1	高台付碗 土師器	A 14.6 B 5.8 D 7.2 E 1.4	体部一部欠損。高台は長く、ハの字状に開く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。内面へラ磨き。高台貼り付け後、ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母 外面橙色 内面黒色 普通	P1449 60% 竈内
2	高台付碗 土師器	B(2.9) D 5.8 E 0.7	底部片。高台は短く開く。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ロクロナデ。内面へラ磨き。高台貼り付け後、ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 内・外面黒色 普通	P1450 20% 中央付近覆土下層
3	甕 土師器	A[24.8] B(3.9)	口縁部片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・石英・長石・ 雲母 灰黄褐色 普通	P1451 5% 覆土中
4	長頸瓶 須恵器	B(4.0)	頸部片。頸部は外傾して立ち上がる。	頸部内・外面ロクロナデ。	砂粒 褐灰色 普通	P1452 5% 覆土中

第321号住居跡（第434図）

位置 調査6区西部，M13g3区。

重複関係 第169号土坑に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形 削平によって床面のみを確認した。西部は調査区域外に延びており，長軸[3.65]m，短軸[3.60]mの方形と推定される。

主軸方向 [N-80°-E]

床 中央部が踏み固められている。

竈 東壁中央部に付設されている。削平によって火床部のみを確認した。火床部は浅く掘りくぼめられている。

覆土 2層からなるが，覆土が浅く堆積状況は不明である。

土層解説

1 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子少量

2 黒褐色 ローム粒子少量

遺物 土師器片16点，須恵器片2点，石製品1点が出土している。1の砥石は覆土中から出土している。

所見 本跡に伴う遺物は少なく，また遺構の規模や平面形も不明な点が多いが，東竈を有していることと土師器片から平安時代と推定される。



第434図 第321号住居跡・出土遺物実測図

第321号住居跡出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第434図1	砥石	(7.6)	4.5	1.7	(99)	覆土中	Q1007 凝灰岩

第322号住居跡（第436図）

位置 調査6区西部，M13f9区。

重複関係 第169号土坑に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.30m，短軸2.50mの長方形である。

主軸方向 N-130°-E

壁 壁高は5～13cmで，緩やかに立ち上がる。

床 全体的に平坦で，竈前面がよく踏み固められている。

竈 南壁南東コーナー寄りに付設されている。削平により袖部の遺存状況は悪く，規模は長さ86cm，袖幅(45)cm，壁外への掘り込みは55cmである。粘土が散在していることから，袖部は砂質粘土で構築されていたと思われる。火床部は円形に浅く掘りくぼめられ，煙道部は削平され確認できなかった。

竈土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子中量，炭化粒子・ローム粒子少量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子多量，炭化粒子・ローム粒子少量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子多量，炭化粒子中量，ローム粒子少量
- 4 赤褐色 焼土粒子多量，炭化粒子少量，ローム粒子微量
- 5 暗赤褐色 焼土粒子中量，炭化粒子・ローム粒子少量
- 6 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量

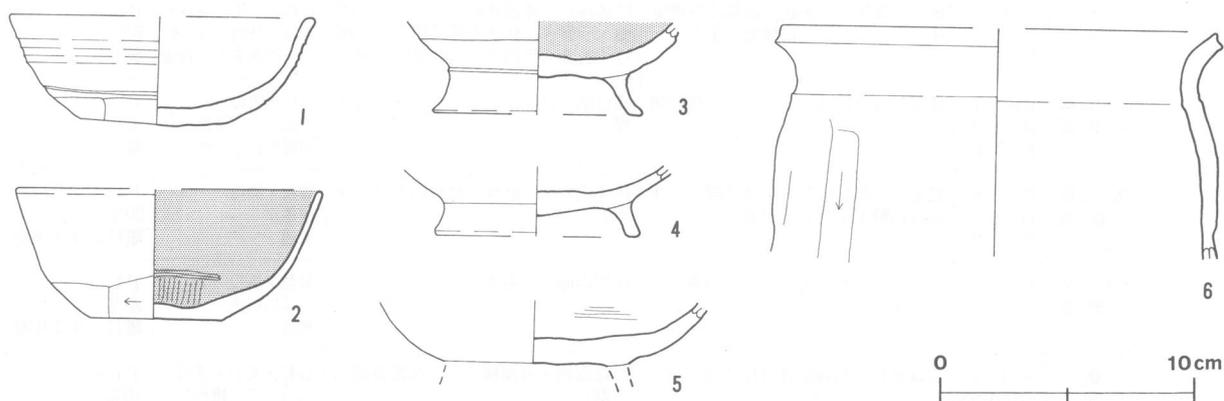
覆土 2層からなるが，覆土が浅く堆積状況は不明である。

土層解説

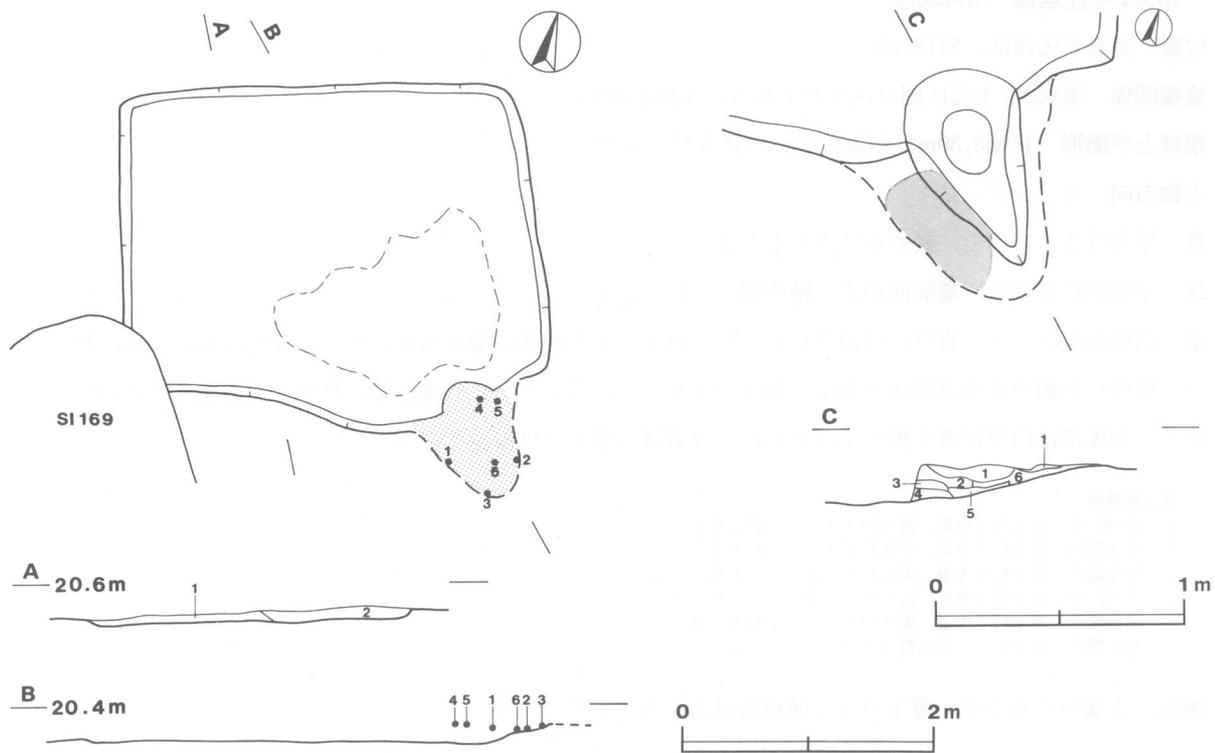
- 1 暗褐色 ローム粒子少量，ローム中・小ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量

遺物 土師器片39点，須恵器片2点が出土している。1，2の土師器坏，3の土師器高台付椀は竈内から，4，5の土師器高台付椀は竈付近の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は，遺構の形態や出土遺物から平安時代の10世紀以降と考えられる。



第435図 第322号住居跡出土遺物実測図



第436図 第322号住居跡実測図

第322号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第435図 1	坏 土師器	A[11.8] B 4.8 C 5.8	体部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへら削り。底部へら削り。	砂粒・長石 橙色 普通	P1453 45% 竈内
2	坏 土師器	A[11.9] B 5.2 C 5.1	体部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。内面へら磨き。体部下端手持ちへら削り。底部へら削り。内面黒色処理。	砂粒・石英・長石・ 雲母 外面にぶい橙 色 内面黒色 普通	P1454 50% 竈内
3	高台付椀 土師器	B(3.7) D[8.2] E 1.6	底部片。高台は長く、ハの字状に開く。	高台貼り付け後、ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母 外面にぶい黄橙色 内面黒色 普通	P1455 30% 竈内
4	高台付椀 土師器	B(2.8) D[8.0] E 1.3	底部片。高台はハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がる。	体部内面へら磨き。高台貼り付け後、ナデ。	砂粒・雲母 橙色 普通	P1456 20% 竈付近覆土中層
5	高台付椀 土師器	B(2.5)	底部片。高台欠損。体部は内彎して立ち上がる。	体部内面へら磨き。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P1457 20% 竈付近覆土中層
6	甕 土師器	A[17.2] B(8.9)	口縁部片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。	砂粒・長石・雲母・ スコリア 橙色 普通	P1458 10% 竈内

第324号住居跡（第180図）

位置 調査6区西部，M13go区。

重複関係 第323・325号住居跡を掘り込んでおり，本跡が新しい。

規模と平面形 長軸3.76m，短軸3.21mの長方形である。

主軸方向 N-13°-W

壁 壁高は12cmで，緩やかに立ち上がる。

壁溝 北東コーナー付近を除き確認した。上幅12~15cm，下幅8~10cm，深さ6cmほどで，断面形は逆台形である。

床 全体的に平坦で，出入り口から竈前面にかけてよく踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は長さ90cm，袖幅110cm，壁外への掘り込みは45cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部には雲母片岩の支脚が二つ並んで置かれている。火床部は楕円形に浅く掘りくぼめられ，煙道部は火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量，焼土中ブロック微量
- 2 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 焼土粒子少量，炭化物・ローム粒子微量
- 4 黒褐色 焼土粒子・ローム小ブロック少量，炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 5 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量
- 6 極暗赤褐色 焼土粒子多量，炭化粒子中量，焼土中・小ブロック・炭化粒子少量
- 7 暗褐色 焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量
- 8 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量

ピット 1か所(P₁)。P₁は径30cmの円形で，深さ18cmである。出入り口に伴うピットと考えられる。

覆土 4層からなるが，覆土が浅く堆積状況は不明である。

土層解説

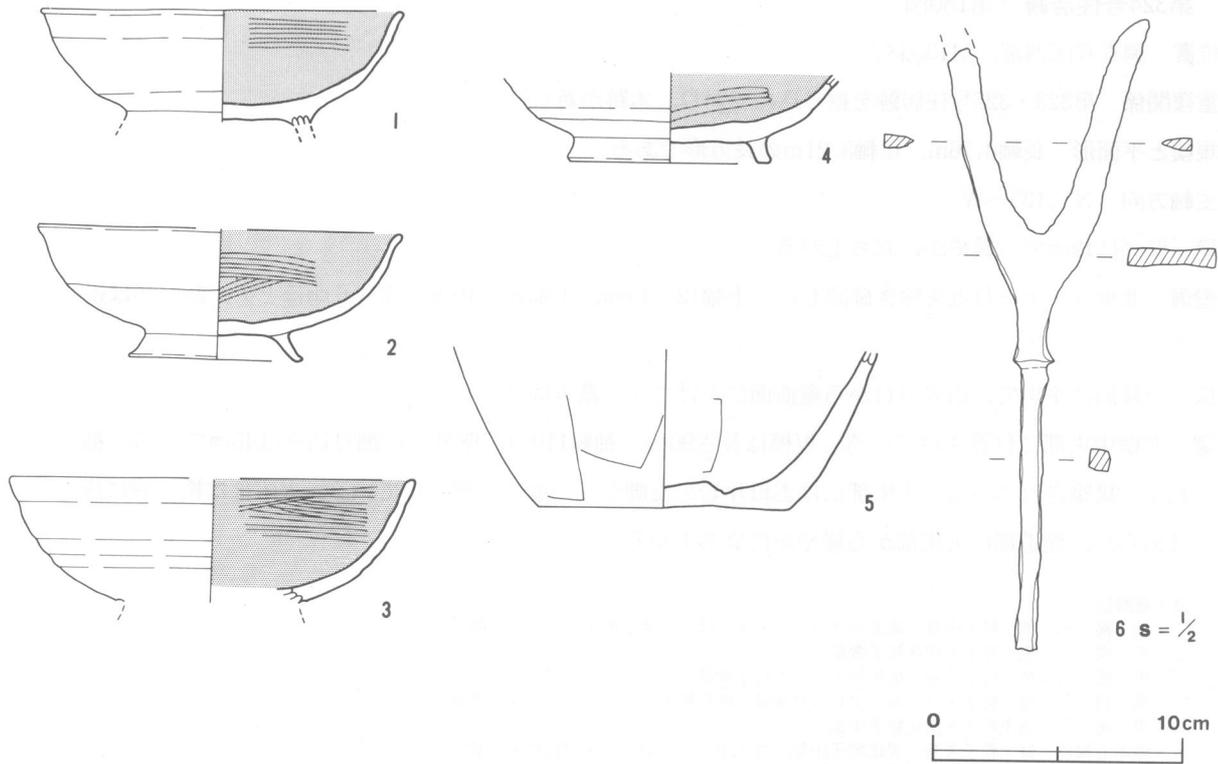
- 1 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物 土師器片194点，須恵器片9点，鉄製品1点が出土している。1の土師器高台付坏は竈右袖部付近と東壁際の覆土下層から，2~4の土師器高台付碗，5の土師器甕は竈内から，6の鉄鏃は北西コーナー付近の覆土中層から出土している。

所見 本跡の時期は，遺構の形態や出土遺物から平安時代の10世紀以降と考えられる。

第324号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第437図 1	高台付坏 土師器	A 14.4 B (4.7)	高台欠損。体部は内彎して上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	長石・雲母・スコリア 外面橙褐色 内面黒色 普通 二次焼成	P1462 90% 右袖・東壁際 覆土下層
2	高台付碗 土師器	A [14.5] B 5.2 D 7.0 E 1.0	体部一部欠損。高台はハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。高台貼り付け後，ナデ。内面黒色処理。	石英・長石 外面にぶい褐色 内面黒色 普通	P1463 35% 竈内



第437図 第324号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第437図 3	高台付碗 土師器	A [16.2] B 5.0	体部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母 外面明赤褐色 内面黒色 普通	P1464 30% 竈内
4	高台付碗 土師器	B (3.6) D 7.8 E 0.9	底部片。高台はハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がる。	体部内面ヘラ磨き。高台貼り付け後、ナデ。内面黒色処理。	石英・長石・雲母 外面にぶい褐色 内面黒色 普通	P1465 35% 竈内
5	甕 土師器	B (6.3) C 10.1	底部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面下位ヘラ削り。内面ヘラナデ。	石英・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P1466 10% 竈内

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
6	鉄 鏃	(17.0)	5.2	0.5	(30)	北西コーナー付近覆土中層	M1030 70%

第326号住居跡 (第438図)

位置 調査6区西部, M14_i区。

重複関係 第288号住居跡を掘り込んでおり, また第325号住居跡の上部に構築されているので, 本跡が新しい。

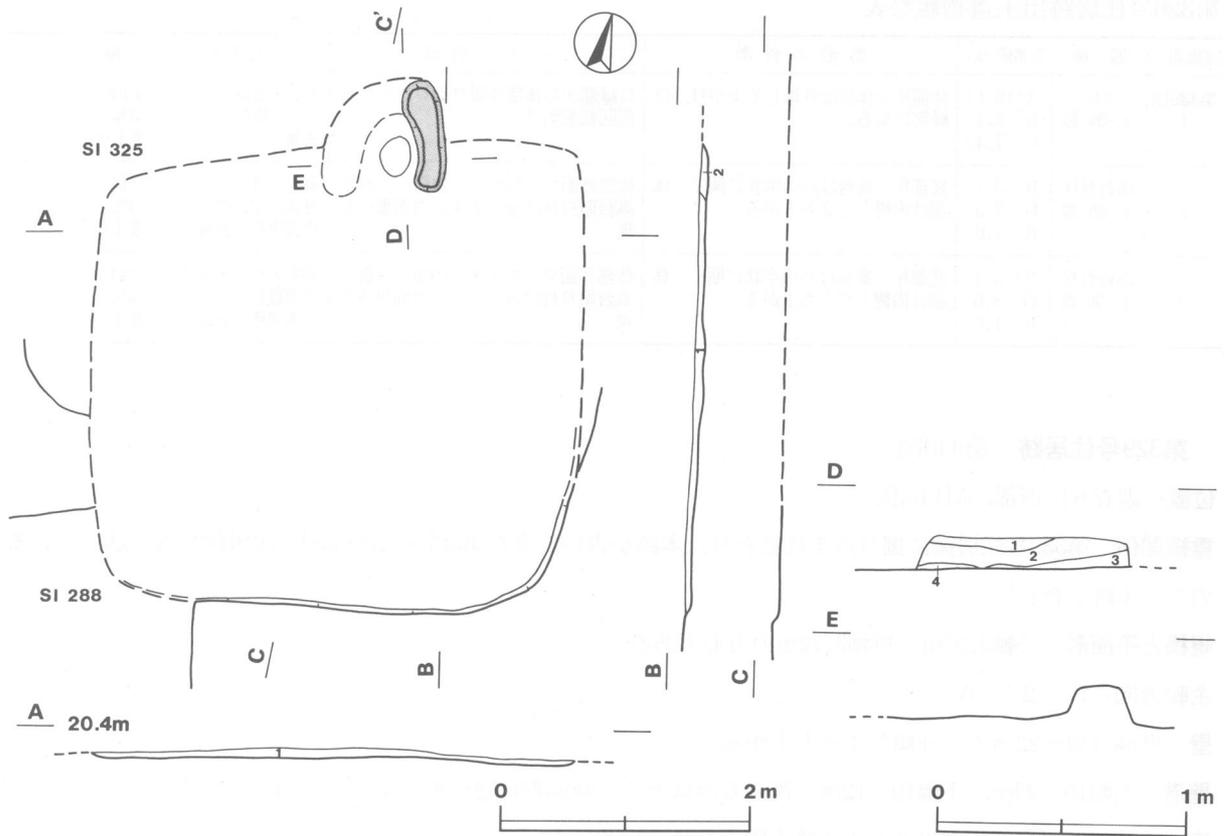
規模と平面形 長軸[3.84]m, 短軸[3.79]mの方形と推定される。

主軸方向 [N-9°-W]

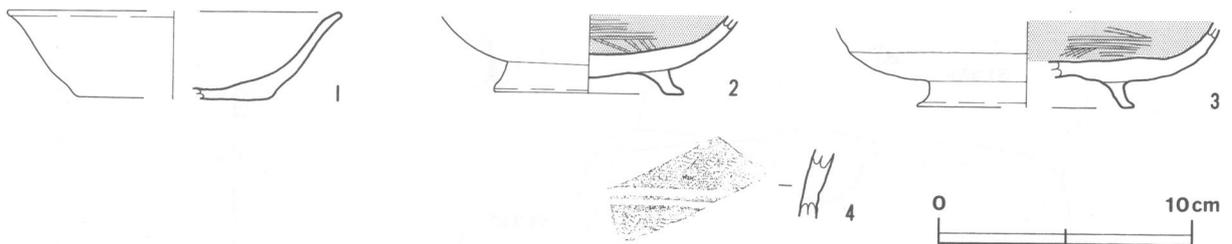
壁 壁高は4~5cmで, 緩やかに立ち上がる。

床 ほぼ平坦である。

竈 北壁中央部に付設されている。削平により火床部のみを確認した。遺存状況から, 袖部は砂質粘土で構築されていたと思われる。火床部は楕円形に浅く掘りくぼめられている。



第438図 第326号住居跡実測図



第439図 第326号住居跡出土遺物実測図

竈土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子多量
- 2 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子多量
- 3 黒褐色 炭化粒子中量, 焼土粒子少量
- 4 極暗褐色 焼土粒子多量

覆土 2層からなるが、覆土が浅く堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・ローム中・小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土中・小ブロック・炭化物・炭化粒子微量

遺物 土師器片155点, 須恵器片5点が出土している。1の土師器坏, 2, 3の土師器高台付坏は覆土中からそれぞれ出土している。4は須恵器甕の口縁部片で, 外面には2本の平行沈線と櫛歯の刺突文が施されている。

所見 本跡に伴う遺物が少なく明確な時期を断定できないが, 出土遺物から平安時代の10世紀以降と考えられる。

第326号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第439図 1	坏土師器	A[13.1] B 3.4 C[7.4]	体部片。体部は外傾して上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。底部回転系切り。	長石・雲母にぶい橙色普通	P1467 25% 覆土中
2	高台付坏土師器	B(3.1) D 7.5 E 1.0	底部片。高台はハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ロクロナデ。内面へラ磨き。高台貼り付け後、ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母 外面にぶい褐色 内面黒色 普通	P1473 40% 覆土中
3	高台付坏土師器	B(3.4) D[8.6] E 1.0	底部片。高台はハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ロクロナデ。内面へラ磨き。高台貼り付け後、ナデ。内面黒色処理。	砂粒・長石・雲母 外面橙色 内面黒色 普通	P1474 15% 覆土中

第329号住居跡 (第440図)

位置 調査6区西部, M14e1区。

重複関係 第339号住居跡に掘り込まれており、本跡が古い。また第327・328・330号住居跡を掘り込んでいるので、本跡が新しい。

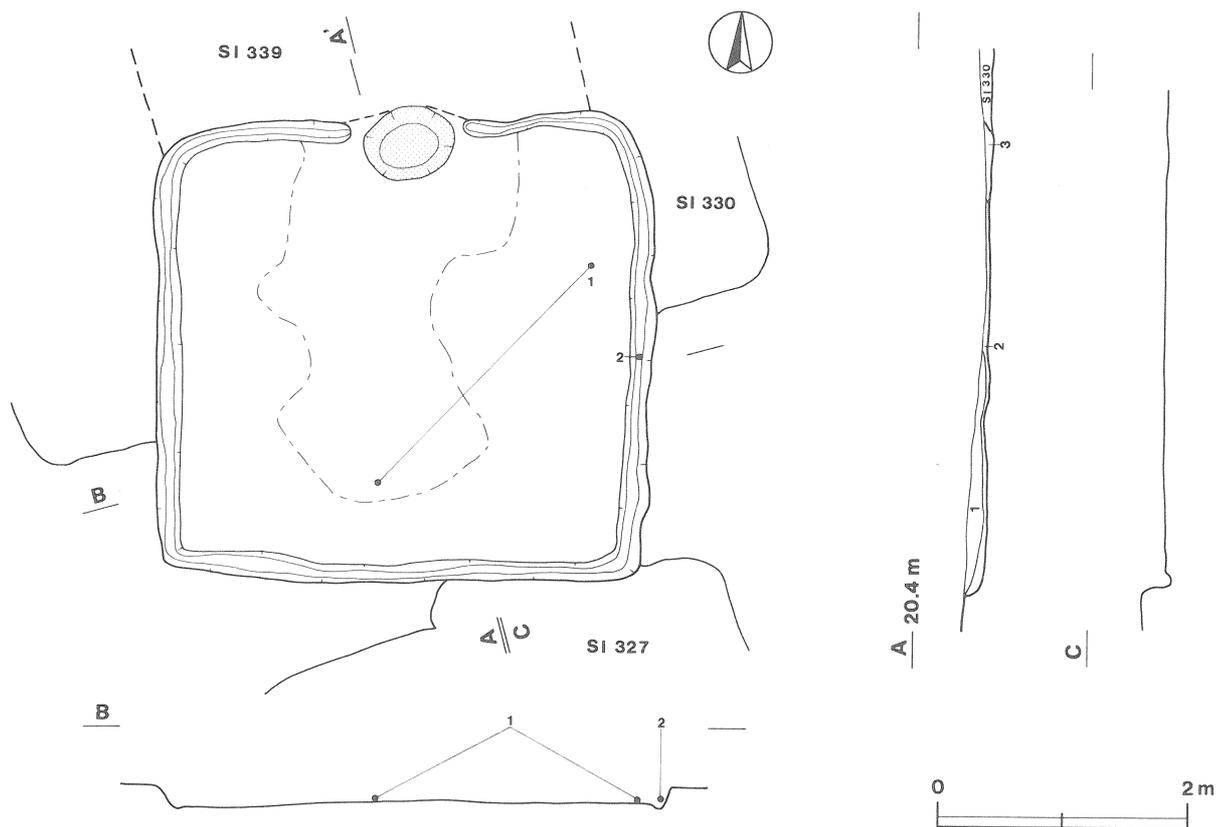
規模と平面形 長軸3.97m, 短軸3.72mの方形である。

主軸方向 N-2°-W

壁 壁高は12~22cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 上幅10~20cm, 下幅10~12cm, 深さ5cmほどで、断面形は逆台形である。全周している。

床 全体的に平坦で、中央部がよく踏み固められている。



第440図 第329号住居跡実測図

竈 北壁中央部に付設されている。第339号住居跡に掘り込まれ、火床部の一部を確認しただけである。

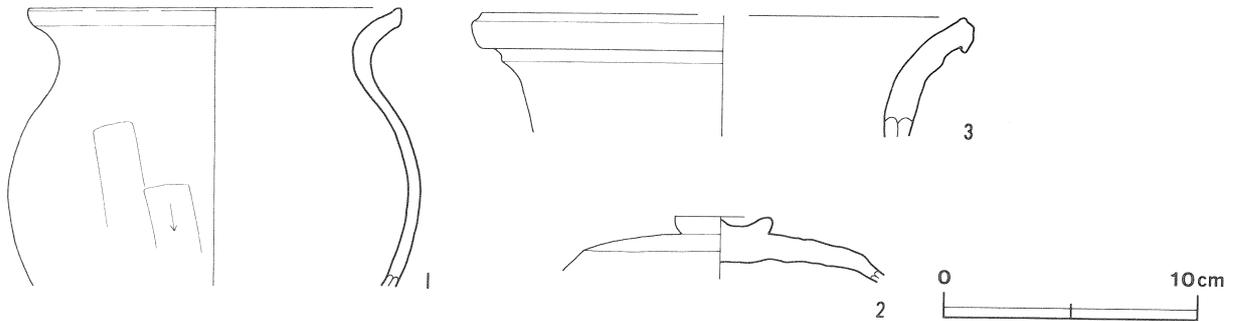
覆土 3層からなるが、覆土が浅く堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量

遺物 土師器片31点、須恵器片8点が出土している。1の土師器甕は東壁際と中央付近の覆土下層から、2の須恵器蓋は東壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から奈良時代の8世紀前葉と考えられる。



第441図 第329号住居跡出土遺物実測図

第329号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第441図 1	甕 土師器	A 14.4 B (11.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。	砂粒・長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P1485 35% 中央・東壁際覆土下層
2	蓋 須恵器	B (2.5) F 3.7 G 0.7	口縁部欠損。ボタン状のつまみが付く。	天井部外面へラ削り。内面ロクロナデ。	砂粒・長石・雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P1486 35% 東壁際覆土下層
3	甕 須恵器	A [19.0] B (4.8)	口縁部片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母 黒色 普通	P1487 5% 覆土中

第333号住居跡 (第420図)

位置 調査6区西部, N13e区。

重複関係 第312号住居跡の上部に構築されており、本跡が新しい。

規模と平面形 本跡の西部が調査区域外に延びており、南北軸(4.32)m、東西軸(1.30)mで平面は不明である。

長軸方向 [N-0°]

壁 壁高は44cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 南東コーナー付近で確認した。上幅15cm、下幅10cm、深さ3cmほどである。断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で、中央部に凹凸が見られる。

竈 調査区域外に付設されていたものと考えられる。

覆土 8層からなり、ロームブロックが多量に見られ人為堆積である。

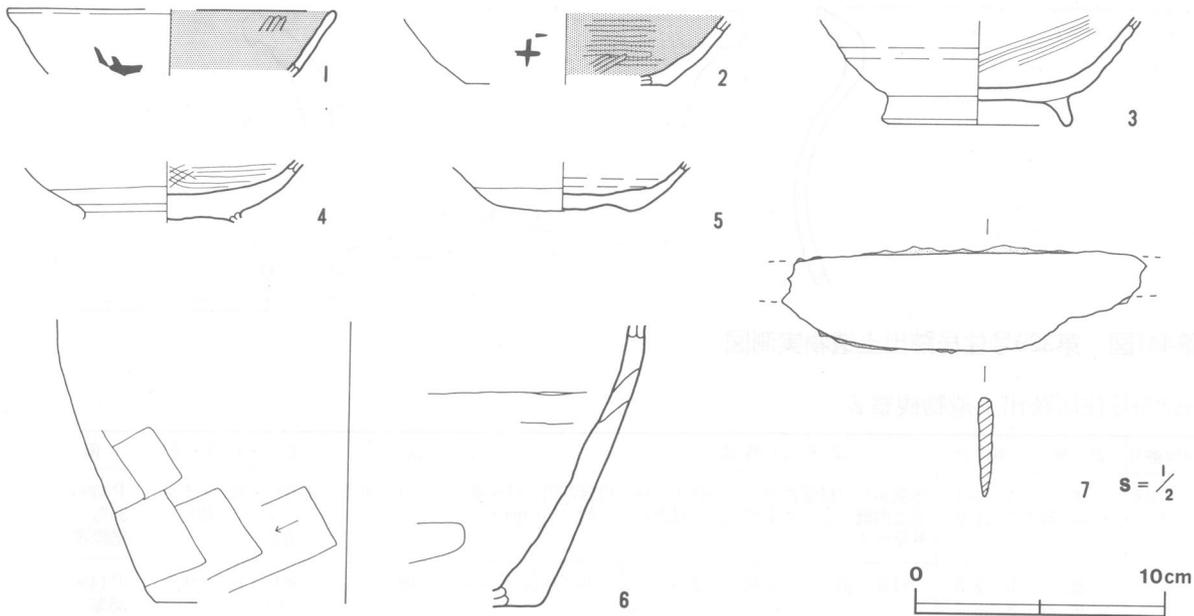
土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子・焼土粒子少量
- 2 黒褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子・焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量

- 3 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化物・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック中量, 焼土粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 5 黒褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・焼土小ブロック少量, 焼土粒子微量
- 6 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 炭化粒子少量, 焼土粒子・ローム大・中ブロック微量
- 7 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 8 黒褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量

遺物 土師器片132点, 須恵器片185点, 鉄製品2点が出土している。3の土師器高台付坏, 5の須恵器坏は東壁際の覆土中層と上層から, 4の土師器高台付坏は南東コーナー付近の覆土上層から, 7の鉄製手鎌は東壁際覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態や出土遺物から平安時代の9世紀後葉と考えられる。



第442図 第333号住居跡出土遺物実測図

第333号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第442図 1	坏 土師器	A[13.0] B(2.7)	口縁部片。体部は内彎気味に立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部外面ロクロナデ。体部内面へラ磨き。体部外面に墨書。内面黒色処理。	砂粒・雲母にぶい黄褐色 普通	P1496 5% 覆土中
2	坏 土師器	B(2.8) C[8.0]	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面ロクロナデ。体部内面へラ磨き。体部外面に墨書。内面黒色処理。	砂粒・雲母・スコリア 外面にぶい褐色 内面黒色 普通	P1497 5% 覆土中
3	高台付坏 土師器	B(4.4) D 7.6 E 1.2	底部から体部にかけての破片。高台はハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ロクロナデ。体部内面へラ磨き。高台貼り付け後, ナデ。	砂粒・石英・雲母・スコリア にぶい黄褐色 普通	P1498 20% 東壁際覆土中層
4	高台付坏 土師器	B(2.5) E(0.5)	底部から体部にかけての破片。高台欠損。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ロクロナデ。内面へラ磨き。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P1499 30% 南東コーナー付近覆土上層
5	坏 須恵器	B(2.0) C 5.4	底部片。平底。体部は外反して立ち上がる。	体部下端手持ちへラ削り。底部へラ削り。	砂粒・雲母 灰黄色 普通 煤附着	P1500 30% 東壁際覆土上層
6	甕 須恵器	B(11.3) C[15.2]	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面下位へラ削り。内面ナデ。輪積み痕。	砂粒・石英・長石・雲母 にぶい黄褐色 普通	P1501 10% 覆土中

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第442図7	手鎌	(9.6)	3.0	0.4	(25)	東壁際覆土中層	M1032	60%

第335号住居跡（第444図）

位置 調査6区南部，O13h9区。

規模と平面形 本跡の南部は調査区域外に延びており，南北軸(0.90)m，東西軸3.44mで，平面形は不明である。

主軸方向 N-15°-E

壁 壁高は12~14cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 北壁下で確認した。上幅15cm，下幅10cm，深さ8cmほどで，断面形はU字形である。

床 ほぼ平坦で，竈前面がよく踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は長さ95cm，袖幅120cm，壁外への掘り込みは15cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は楕円形に浅く掘りくぼめられ，煙道部は火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- | | |
|----------------------------------|---------------------------------|
| 1 にぶい赤褐色 焼土粒子多量 | 7 にぶい赤褐色 焼土粒子多量，焼土小ブロック・ローム粒子少量 |
| 2 赤褐色 焼土大ブロック多量 | 8 暗赤褐色 炭化粒子中量，焼土粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 炭化粒子多量，焼土粒子少量 | 9 暗赤褐色 炭化粒子中量 |
| 4 にぶい赤褐色 焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，炭化粒子少量 | 10 明黄褐色 ローム大ブロック少量 |
| 5 明赤褐色 焼土粒子多量，焼土中・小ブロック少量 | 11 暗赤褐色 焼土粒子微量 |
| 6 暗赤褐色 焼土粒子多量 | |

ピット 1か所(P₁)。P₁は長径95cm，短径65cmの楕円形で，深さ10cmである。断面形は皿状である。位置や土層から灰を捨てたものと思われる。

ピット土層解説

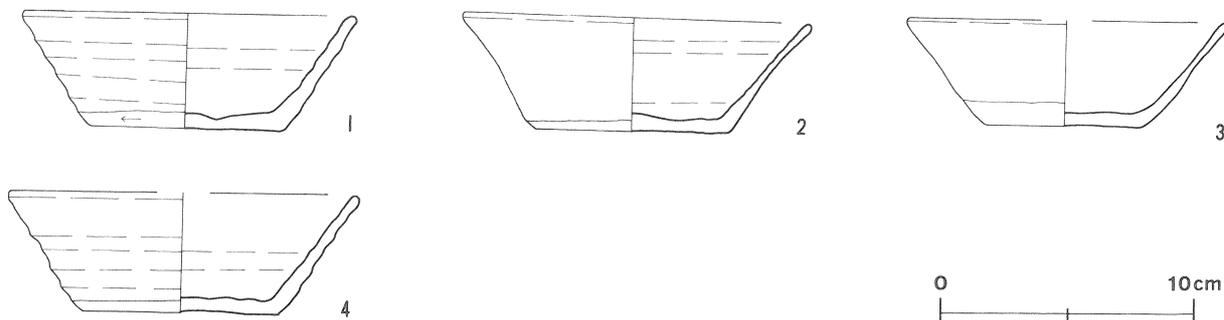
- | | |
|-----------------------|------------------------------------|
| 1 極暗赤褐色 焼土粒子少量，炭化粒子微量 | 2 暗赤褐色 焼土粒子多量，炭化粒子少量，焼土小ブロック・炭化物微量 |
|-----------------------|------------------------------------|

覆土 4層からなるが，覆土が浅く堆積状況は不明である。

土層解説

- | |
|---------------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子中量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 焼土粒子少量，炭化粒子・ローム粒子微量 |

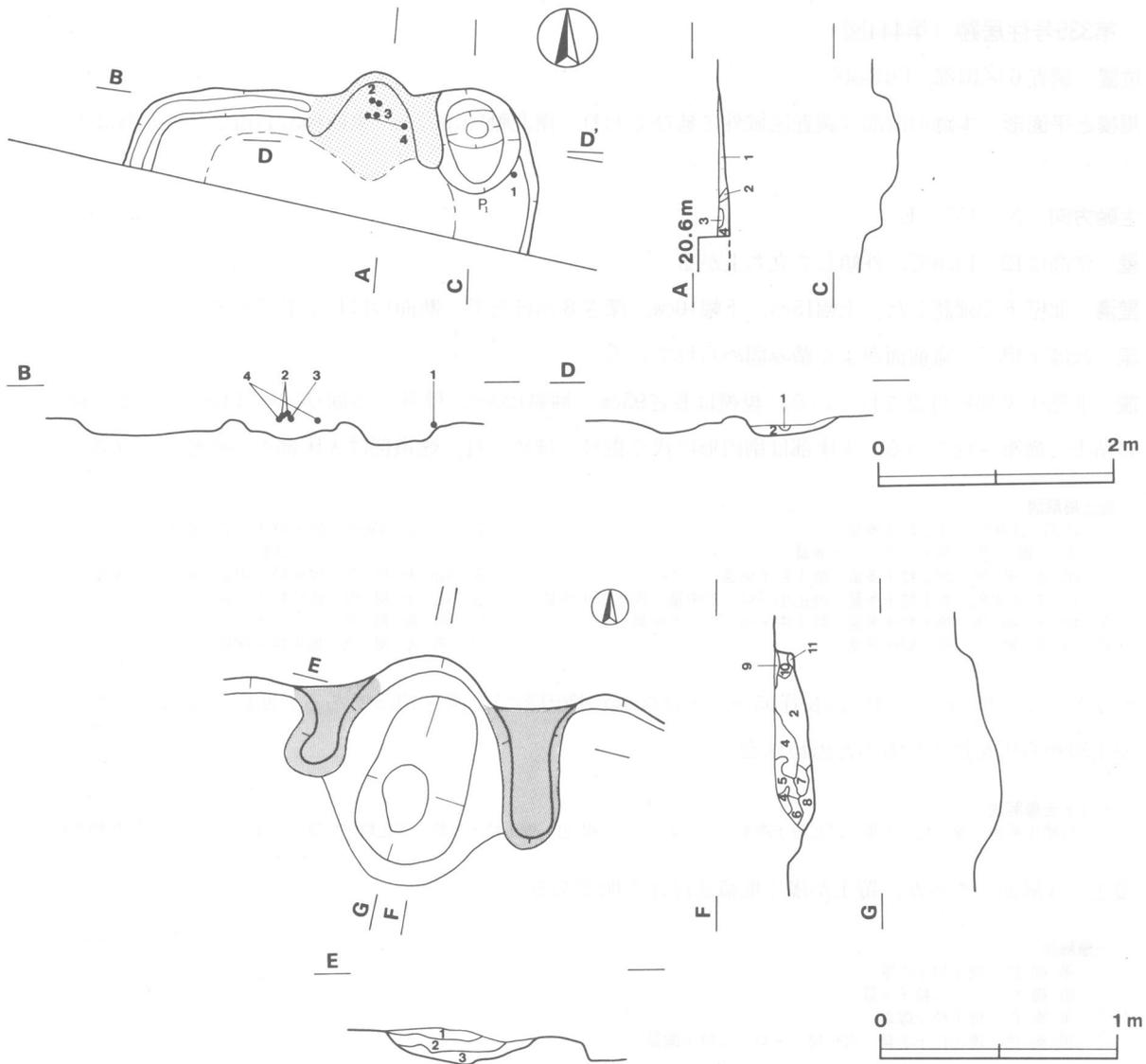
遺物 土師器片85点，須恵器片22点，不明鉄製品2点が出土している。1の須恵器坏は東壁際の床面直上から



第443図 第335号住居跡出土遺物実測図

正位で、2、3、4の須恵器坏は竈内からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から奈良時代の8世紀後葉と考えられる。



第444図 第335号住居跡実測図

第335号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第443図 1	坏 須恵器	A 13.0 B 4.6 C 7.6	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部ヘラ削り。	砂粒・長石・雲母にぶい黄褐色 普通	P1504 90% 東壁際床直
2	坏 須恵器	A 13.5 B 4.6 C 7.6	体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・石英・長石・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P1505 50% 竈内
3	坏 須恵器	A [12.4] B 4.2 C 6.0	体部口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ削り。	砂粒・石英・長石・雲母 褐灰色 普通	P1506 30% 竈内

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第443図 4	坏 須恵器	A [13.6] B 4.8 C 7.6	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後、ヘラ削り。	砂粒・石英・雲母 暗灰黄色 普通	P1507 20% 竈内

第337号住居跡（第445図）

位置 調査6区南西部，N13f8区。

重複関係 第336号住居跡を掘り込んでおり，本跡が新しい。

規模と平面形 長軸3.86m，短軸3.58mの方形である。

主軸方向 N-5°-E

壁 壁高は32cmで，外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦で，竈前面から出入り口にかけてよく踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。袖部の遺存状況は悪く，規模は長さ75cm，袖幅[85]cm，壁外への掘り込みは5cmほどである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は楕円形に浅く掘りくぼめられ，煙道部は火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 黒褐色 焼土粒子少量，炭化物・炭化粒子微量
- 4 極暗赤褐色 焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，炭化粒子微量
- 5 極暗赤褐色 焼土粒子多量，焼土小ブロック少量，炭化粒子微量

ピット 2か所(P₁，P₂)。P₁は径20cmの円形で，深さ53cmである。主柱穴と考えられる。P₂は径40cmの円形で，深さ35cmである。出入り口に伴うピットと考えられる。

覆土 7層からなり，自然堆積である。

土層解説

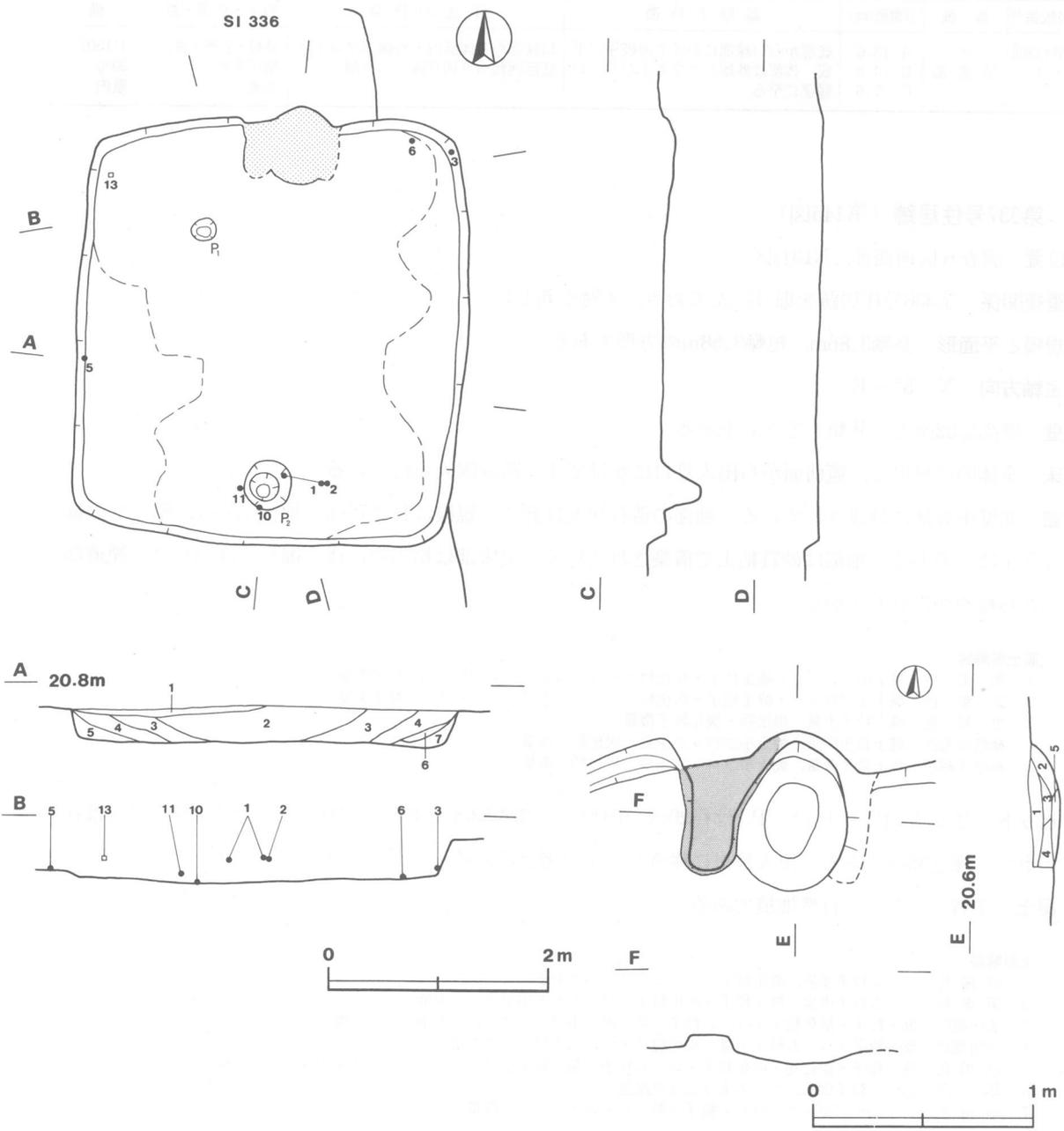
- 1 暗褐色 ローム粒子多量，焼土粒子・ローム小ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・ローム中・小ブロック少量
- 3 極暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量，焼土小ブロック・ローム小ブロック微量
- 4 極暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量，炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 5 暗褐色 焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム粒子少量，焼土小ブロック・ローム大・中ブロック微量
- 6 褐色 ローム粒子中量，ローム大ブロック微量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック微量

遺物 土師器片440点，須恵器片83点，石製品2点が出土している。1，2の須恵器坏はP₂付近の覆土中層から逆位で，3の須恵器坏は北東コーナー付近の覆土下層から，5の須恵器蓋は西壁際の覆土下層から逆位で，6の須恵器蓋は北東コーナー付近の覆土下層から，11の須恵器甗はP₂付近の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は，遺構の形態や出土遺物から奈良時代の8世紀中葉と考えられる。

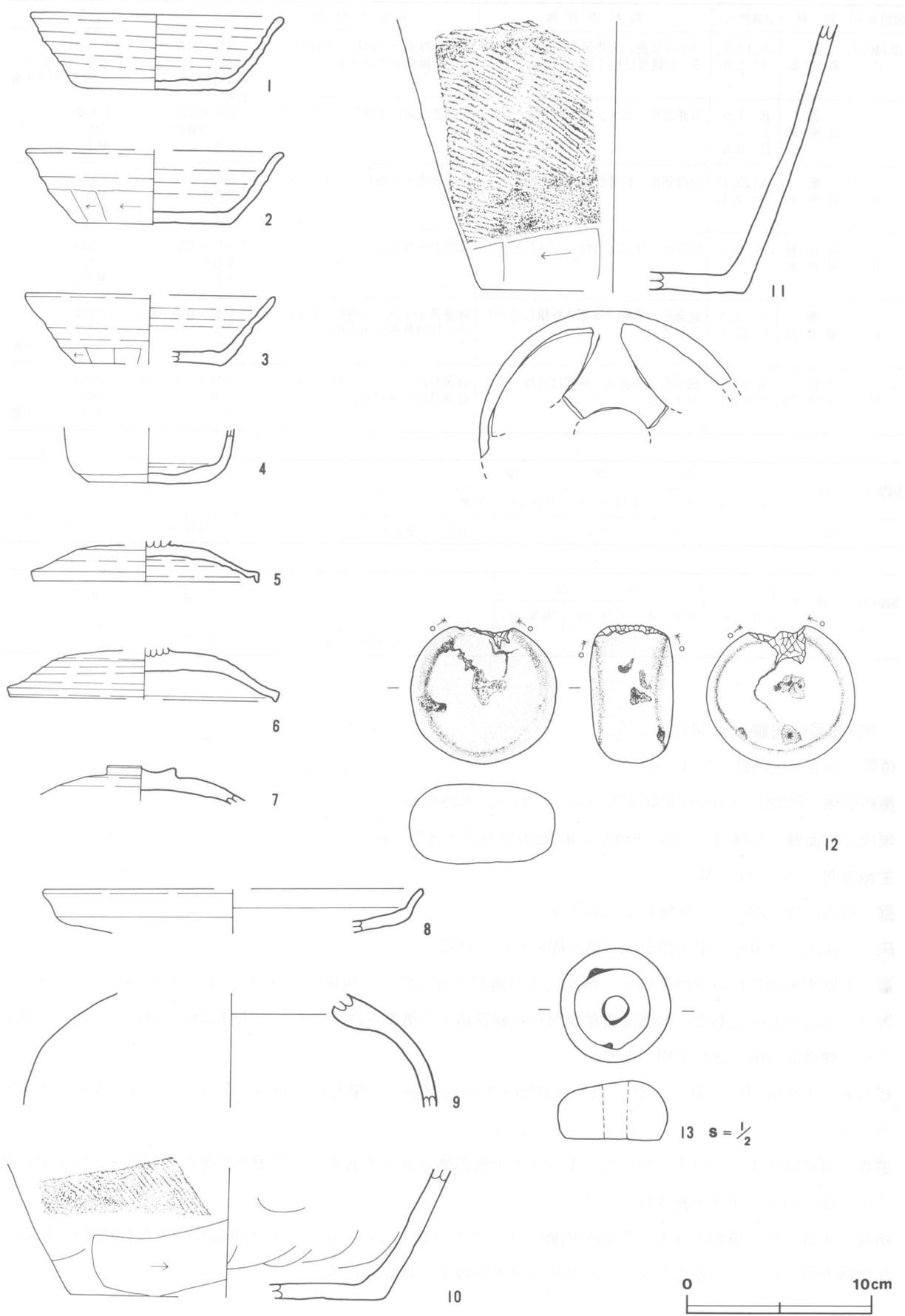
第337号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第446図 1	坏 須恵器	A 13.5 B 4.1 C 8.0	体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後，ヘラ削り。	砂粒・長石・雲母 暗灰黄色 良好	P1514 60% P ₂ 付近覆土中層



第445図 第337号住居跡実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第446図 2	坏 須恵器	A[13.8] B 4.1 C 8.4	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへら削り。底部多方向のへら削り。	砂粒・石英・雲母 灰黄色 普通	P 1515 40% P ₂ 付近覆土中層
3	坏 須恵器	A[13.5] B(3.8) C[8.0]	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへら削り。底部へら削り。	砂粒・石英・雲母 灰黄色 良好	P 1516 40% 北東コー ナー付近覆土下層
4	坏 須恵器	B(3.0) C 6.2	底部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部へら削り。	砂粒・長石・雲母 黄灰色 普通	P 1517 30% 覆土中
5	蓋 須恵器	A 12.4 B(2.2)	つまみ欠損。天井部は笠形をしている。口縁部は短く折り返されている。	天井部外面へら削り。内面ロクロナデ。口縁部ロクロナデ。	砂粒・石英・雲母 灰色 良好	P 1518 90% 西壁際覆土下層



第446图 第337号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第446図 6	蓋 須恵器	A[14.7] B(2.8)	つまみ欠損。天井部は笠形をしている。口縁部は短く折り返されている。	天井部外面へら削り。内面ロクロナデ。口縁部ロクロナデ。	砂粒・長石 灰色 普通	P1519 50% 北東コー ナー付近覆土下層
7	蓋 須恵器	B 1.9 F 3.7 G 0.5	天井部片。ボタン状のつまみが付く。	天井部外面へら削り。内面ロクロナデ。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通	P1520 50% 覆土中
8	盤 須恵器	A[20.4] B(2.4)	口縁部片。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母 黄灰色 普通	P1521 5% 覆土中
9	長頸瓶 須恵器	B(6.2)	体部片。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母 黄灰色 良好	P1523 5% 覆土中
10	甕 須恵器	B(7.2) C[15.8]	底部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面下位へら削り。内面へらナデ。体部外面に平行叩き。	砂粒・長石・雲母 灰色 良好	P1524 10% P ₂ 付近覆土下層
11	甌 須恵器	B(14.7) C[14.4]	底部片。多孔式。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面下位へら削り。内面ナデ。体部外面に平行叩き。	砂粒・石英・雲母 灰色 普通	P1525 20% P ₂ 付近覆土下層

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
12	磨石	7.4	8.0	4.4	—	412	覆土中	Q1009 安山岩 100%

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	高さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
13	紡錘車	3.9~4.2	2.2	0.9	46	北西コー ナー付近覆土中層	Q1010 凝灰岩 100%

第339号住居跡（第447図）

位置 調査6区西部，N14e1区。

重複関係 第329・330号住居跡を掘り込んでおり，本跡が新しい。

規模と平面形 長軸[4.31]m，短軸[3.46]mの長方形と推定される。

主軸方向 [N-20°-W]

壁 壁高は12~22cmで，外傾して立ち上がる。

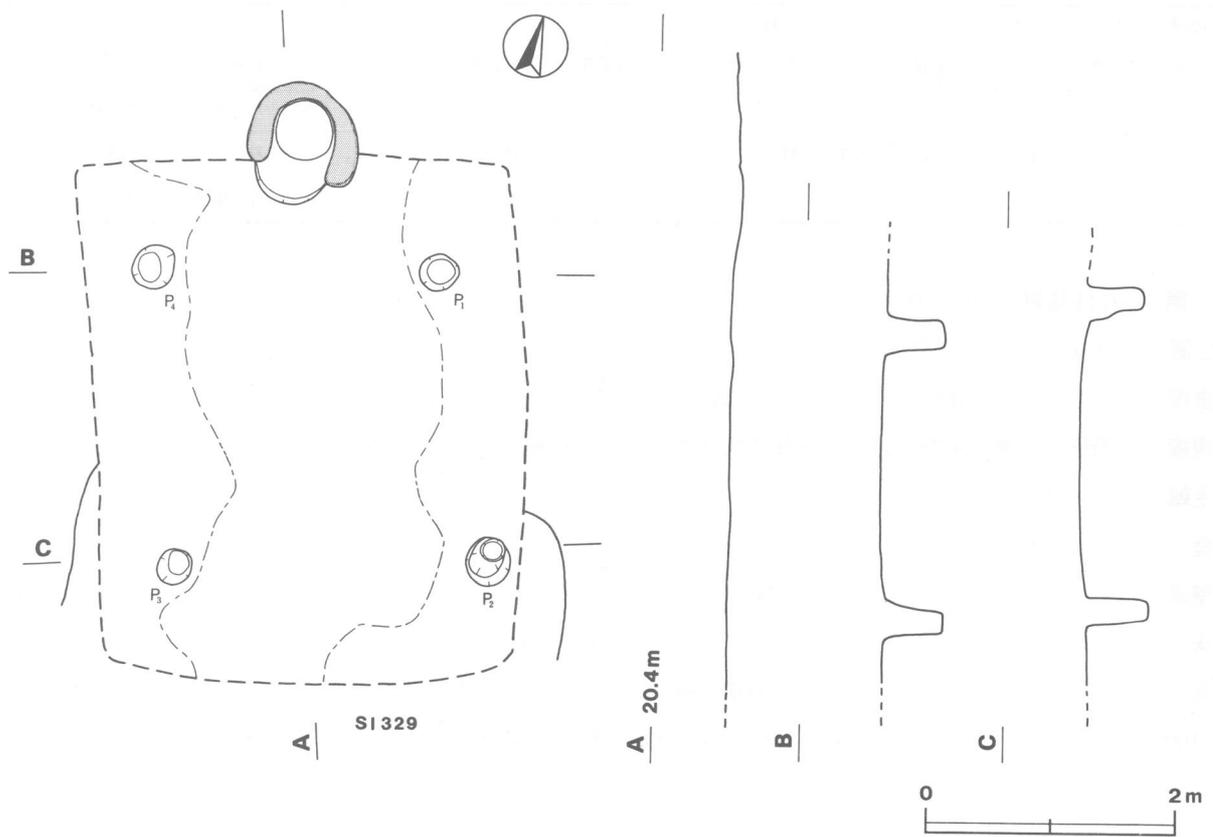
床 全体的に平坦で，中央部がよく踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。削平により遺存状況は悪く，規模は長さ(100)cm，袖幅(80)cm，壁外への掘り込みは(50)cmである。袖部は遺存状況から砂質粘土で構築されている。火床部は楕円形に浅く掘りくぼめられ，煙道部は削平され不明である。

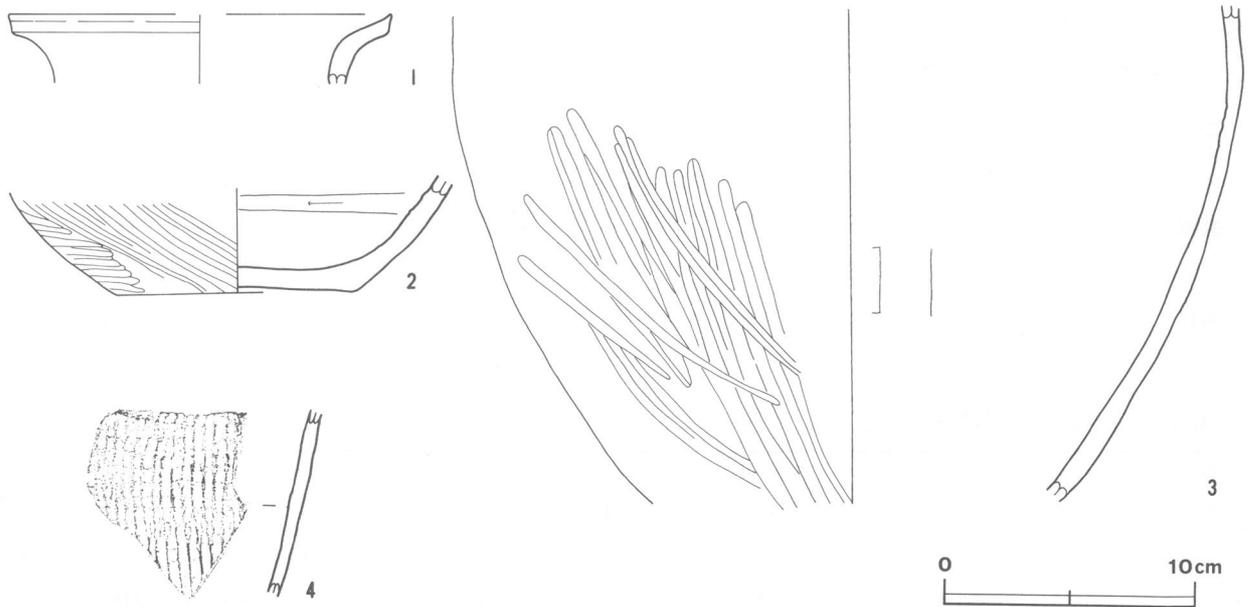
ピット 4か所(P₁~P₄)。P₁~P₄は径25~35cmの円形で，深さ44~52cmである。いずれも支柱穴と考えられる。

遺物 須恵器片4点が出土している。1~3の土師器甕は混入である。4は須恵器甕の体部片で，外面には横位後，縦位の平行叩きが施されている。

所見 本跡に伴う遺物が少なく時期を明確にすることは難しいが，出土した土師器片や8世紀前葉の第329号住居跡を掘り込んでいることから平安時代の9世紀後葉と推定される。



第447図 第339号住居跡実測図



第448図 第339号住居跡出土遺物実測図

第339号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第448図 1	甕 土師器	A[15.7] B(2.7)	口縁部片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P1526 5% 覆土中

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第448図 2	甕 土師器	B(4.6) C 9.6	底部片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面下位・底部ヘラ磨き。内面ヘラナデ。	砂粒・石英・雲母に ぶい黄色 普通 外面煤付着	P1491 40% 覆土中
3	甕 土師器	B(19.4)	体部片。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ヘラ磨き。内面ヘラナデ。	砂粒・石英・雲母に ぶい橙色 普通 外面煤付着	P1528 20% 覆土中

第340号住居跡（第449図）

位置 調査6区中央部，M15_{g1}区。

重複関係 第186号住居跡，また第14・15号溝に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形 本跡の東側は調査区域外に延びているが，長軸[4.40]m，短軸4.00mの長方形と推定される。

主軸方向 N-8°-E

壁 壁高は12～23cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 西壁下から南壁下で確認した。上幅12～15cm，下幅5～8cm，深さ6cmほどで，断面形は逆台形である。

床 全体的に平坦で，竈前面から出入り口にかけてよく踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。第14号溝に掘り込まれ，袖部の遺存状況は悪く，規模は長さ(95)cm，袖幅(100)cm，壁外への掘り込みは20cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は楕円形に浅く掘りくぼめられている。煙道部は削平され不明である。

竈土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子中量，焼土粒子少量
- 2 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子中量
- 3 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子多量
- 5 暗褐色 焼土粒子少量，炭化粒子微量
- 6 暗褐色 炭化粒子多量，焼土粒子少量

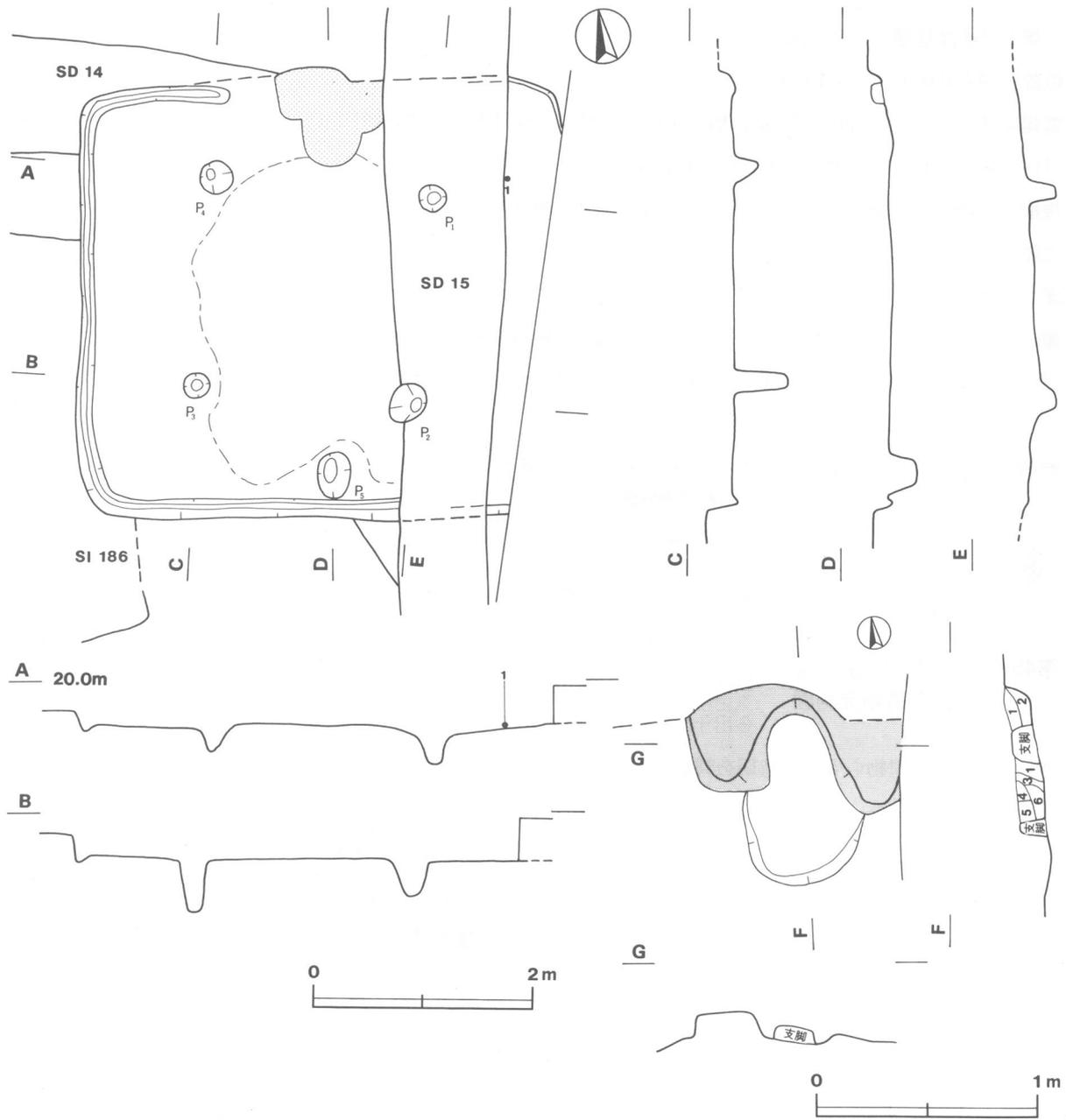
ピット 5か所(P₁～P₅)。P₁～P₄は径25～40cmの円形で，深さ24～52cmである。いずれも支柱穴と考えられる。P₅は長径40cm，短径31cmの楕円形で，深さ26cmである。出入り口に伴うピットと考えられる。

遺物 土師器片130点，須恵器片8点が出土している。1の土師器甕は北東コーナー付近の覆土下層から，2の須恵器坏は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は，遺構の形態や出土遺物から奈良時代の8世紀前葉と考えられる。

第340号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第450図 1	甕 土師器	A[24.2] B(8.7)	口縁部片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。端部は外上方につまみ上げられている。	砂粒・雲母・スコリアに ぶい赤褐色 普通 外面煤付着	P1529 10% 北東コーナー付近覆土下層
2	坏 須恵器	A[10.6] B 3.9 C[5.0]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部ヘラ削り。磨滅が著しい。	砂粒・石英・長石・雲母 灰黄色 普通	P1530 10% 覆土中



第449图 第340号住居跡实测图



第450图 第340号住居跡出土遺物实测图

③ 時期不明

第203号住居跡 (第282図)

位置 調査6区北部, M15j4区。

重複関係 第204号住居跡の上部に構築されており, 第6号掘立柱建物跡に掘り込まれていることから, 第204号住居跡より新しく, 第6号掘立柱建物跡より古い。

規模と平面形 長軸[3.70]m, 短軸[3.50]mの方形と推定される。

主軸方向 [N-25°-E]

床 全体的に平坦である。

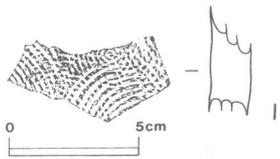
竈 北側に付設されている。削平されており, 竈の痕跡しか確認できなかった。

ピット 2か所(P₁, P₂)。P₁は長径52cm, 短径42cmの楕円形, 深さ24cm, 断面形は逆台形で, 支柱穴と考えられる。P₂は長径46cm, 短径[40]cmの楕円形, 深さ10cmで, 性格は不明である。

貯蔵穴 南西コーナー部に位置する。長径84cm, 短径78cmの不整楕円形, 深さ30cm, 断面形は逆台形である。

貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子微量, ローム粒子少量
- 2 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子中量



第451図 第203号住居跡出土遺物実測図

覆土 残っていた覆土が浅く土層が確認できなかった。

遺物 土師器片34点, 須恵器片2点が出土している。第451図1の須恵器甕の体部片は, 体部外面に同心円状の叩きが施され, 南西コーナー付近の覆土中から出土している。

所見 本跡は, 遺物も少なく時期を判断するのは困難であるが, 出土遺物から古墳時代後期以降と考えられる。

第263号住居跡 (第453図)

位置 調査6区中央部, M14e5区。

重複関係 第198・266・267号住居跡の上部に構築されており, 本跡が新しい。また第146・161号土坑に掘り込まれているので, 本跡が古い。

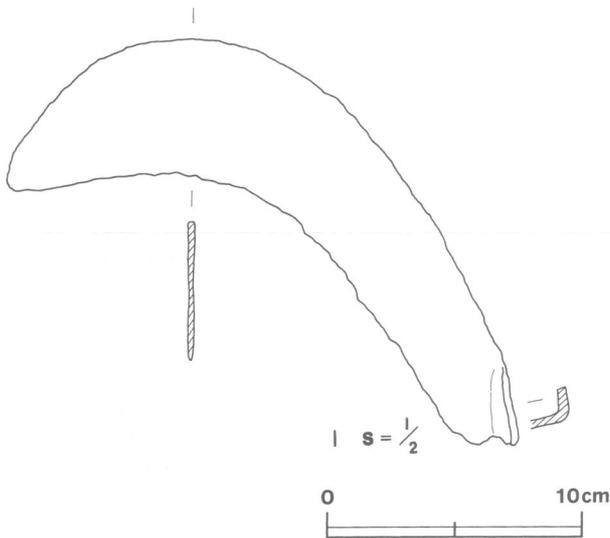
規模と平面形 床面と竈袖部を確認しただけであるが, 長軸[4.15]m, 短軸[3.02]mの長方形と推定される。

主軸方向 [N-90°-E]

壁 壁高は10~22cmで, 外傾して立ち上がる。

床 よく踏み固められている。

竈 東壁に付設されており, 削平により袖の一部を確認しただけである。袖部は砂質粘土で構築されている。



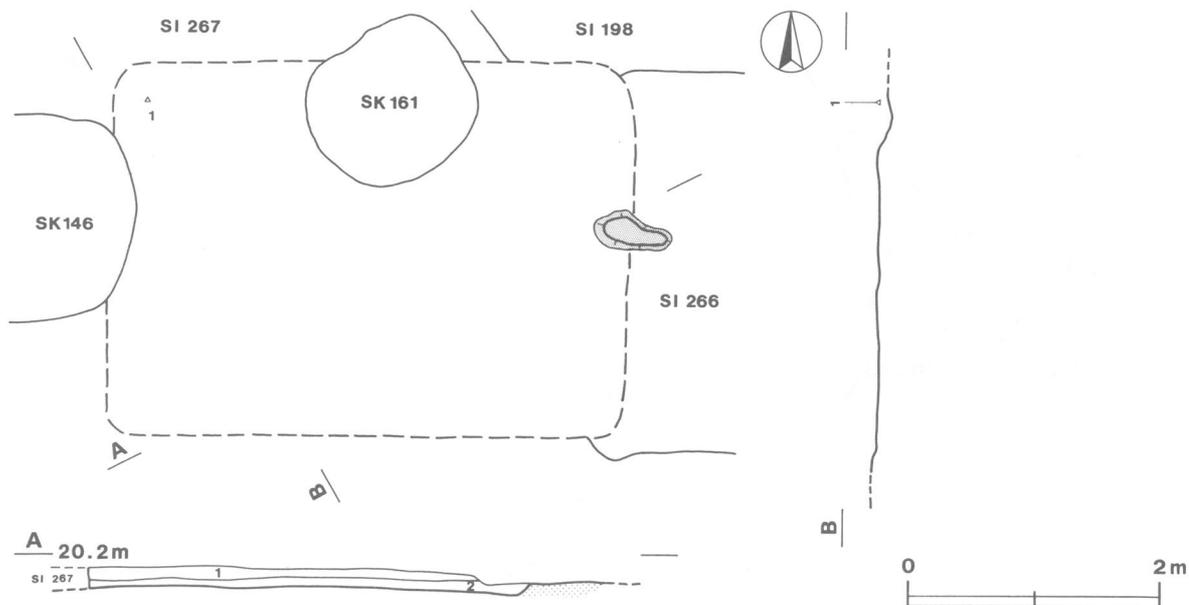
第452図 第263号住居跡出土遺物実測図

覆土 2層からなるが, 覆土が浅く堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量, ローム粒子少量

遺物 土師器片199点, 須恵器片27点, 白磁片1点, 鉄製品1点が出土している。1の鉄製鎌は北西コーナー付近の覆土下層から出土している。



第453図 第263号住居跡実測図

所見 本跡に伴う遺物が少なく、明確な時期を断定できないが、遺構の形態や出土遺物から平安時代以降と推定される。

第263号住居跡出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第452図1	鎌	(14.7)	8.6	0.25	(49)	北西コーナー覆土下層	M1010 70%

第280号住居跡 (第454図)

位置 調査6区中央部, M14g3区。

重複関係 第281~283号住居跡を掘り込んでおり、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸5.58m, 短軸3.50mの長方形である。

長軸方向 N-85°-E

壁 壁高は40~70cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 北壁下から西壁下にかけて確認した。上幅15~20cm, 下幅10~15cm, 深さ5cmである。断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で、中央部がよく踏み固められている。

ピット 1か所(P₁)。P₁は径30cmの円形で、深さ39cmである。性格は不明である。

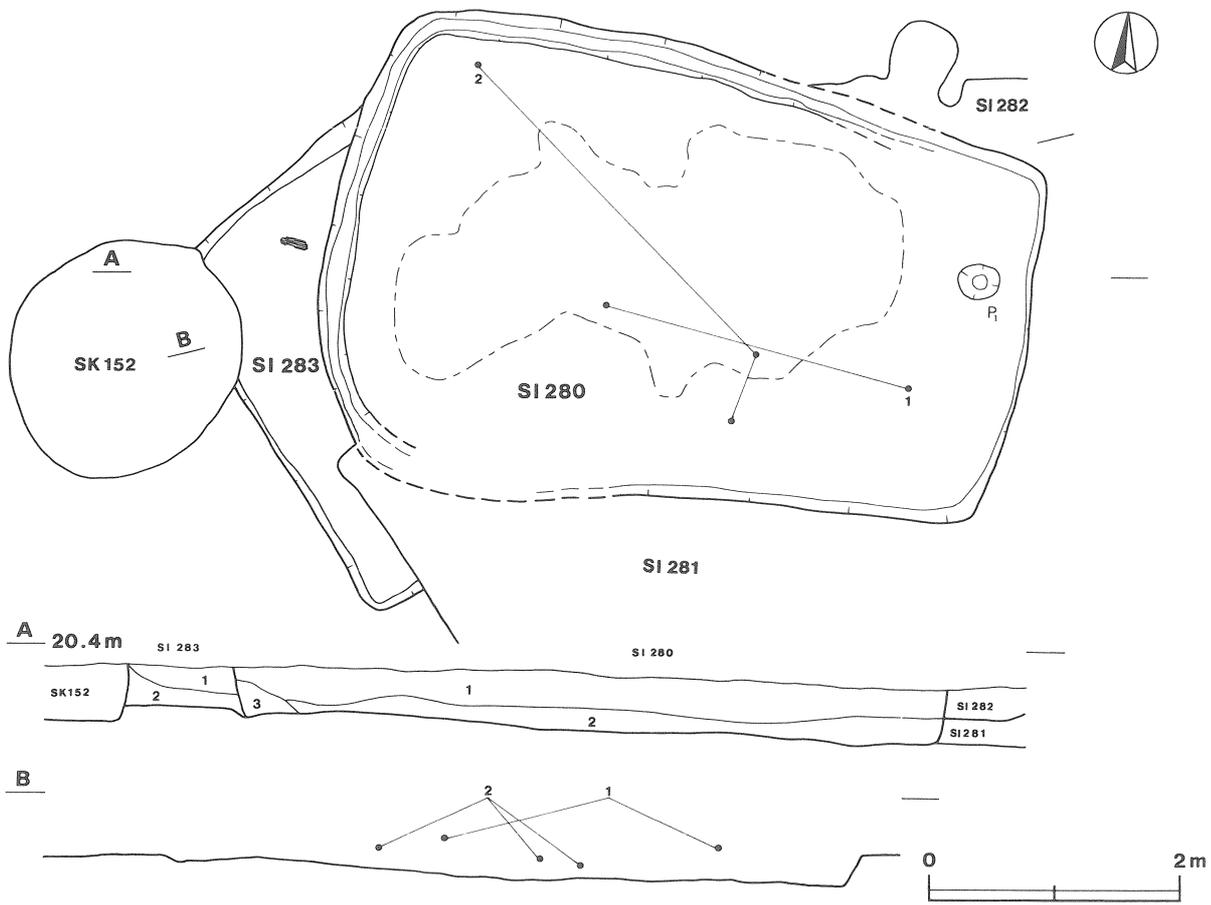
覆土 3層からなり、ロームブロックが大量にみられることから人為堆積である。

土層解説

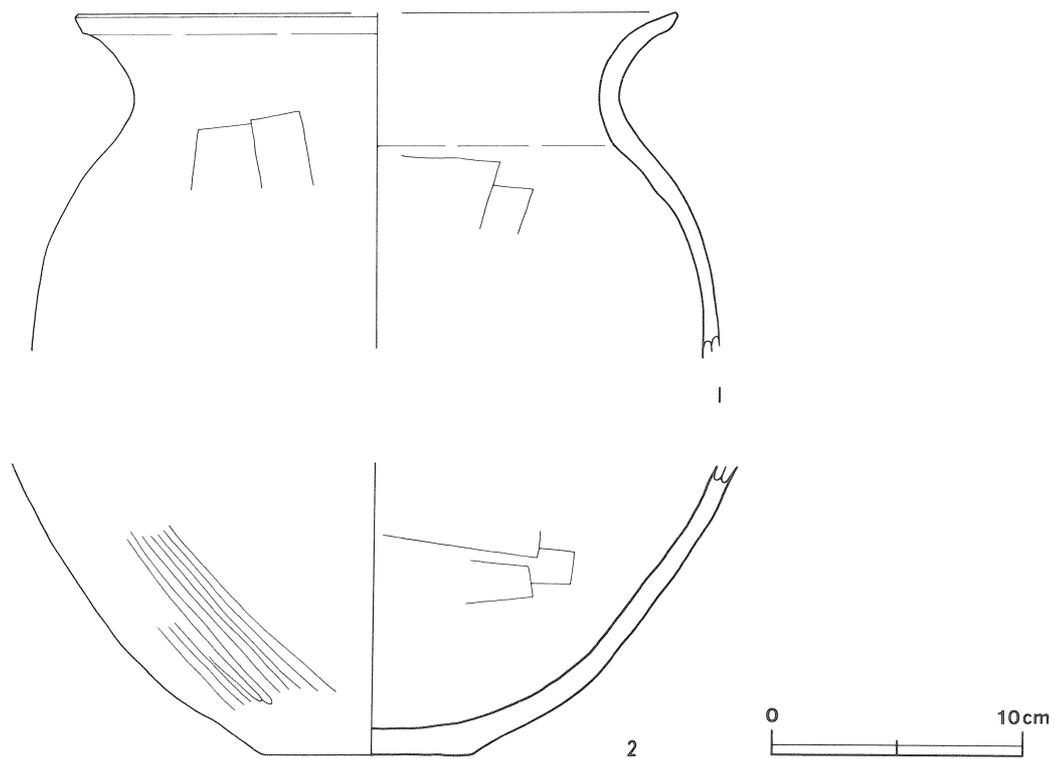
- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム大・中ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック多量, 炭化物・ローム中ブロック中量, 焼土粒子・ローム大ブロック微量

遺物 土師器片700点, 須恵器片97点が出土している。1の土師器甕, 2の土師器甕は混入である。

所見 本跡に伴う遺物が少なく時期を断定できないが、第282号住居跡を掘り込んでいることから平安時代の10世紀以降と考えられる。



第454图 第280・283号住居跡実測図



第455图 第280号住居跡出土遺物実測図

第280号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第455図 1	甕 土師器	A[24.0] B 13.9	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面へラナデ。	石英・長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P1229 5% 中央付近覆土上層
2	甕 土師器	B(11.8) C 8.3	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面縦方向のへラ磨き。内面へラナデ。	砂粒・石英・長石・雲母 橙色 普通	P1230 10% 南壁際覆土中層

第338号住居跡 (第196・197図)

位置 調査6区南西部, N13f7区。

重複関係 第336号住居跡を掘り込んでおり, 本跡が新しい。

規模と平面形 長軸2.13m, 短軸1.96mの方形である。

長軸方向 N-18°-E

壁 壁高は54cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。南壁中央部を掘り込んで, 出入り口と思われる階段が付設されている。

床 平坦で, 踏み固めはみられない。

ピット 4か所(P₁~P₄)。P₁~P₄は径20cmの円形で, 深さ7~30cmである。いずれも支柱穴と考えられる。

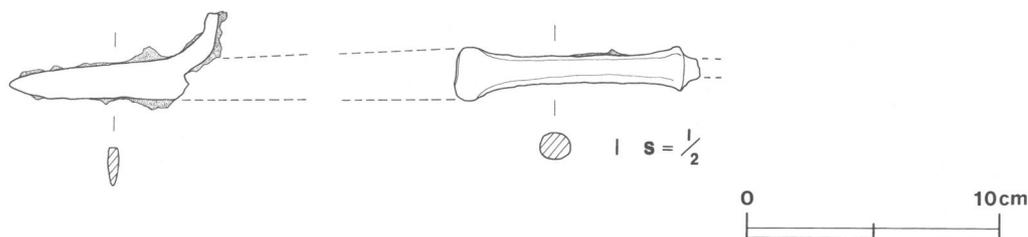
覆土 12層からなり, ブロック状の堆積をしており人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム大・中・小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中・小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 極暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 6 極暗褐色 ローム粒子中量, ローム中・小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム大ブロック微量
- 8 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 9 極暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 10 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 焼土粒子・ローム大・中ブロック微量
- 11 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 12 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量

遺物 土師器片108点, 須恵器片23点, 鉄製品1点, 礫1点が出土している。1の鉄製刀子は中央付近から出土している。

所見 本跡に伴う遺物が少なく時期を明確にすることは難しいが, 古墳時代後期の第336号住居跡を掘り込んでいることから, 古墳時代後期以降と考えられる。



第456図 第338号住居跡出土遺物実測図

第338号住居跡出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第456図1	刀	(18.0)	1.4	0.8	(21)	中央付近覆土下層	M1035

表4 熊の山遺跡6区住居跡一覧表

住居跡 番号	位置	主軸方向 (長軸方向)	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内 部 施 設						覆土	出 土 遺 物	備 考 新旧関係(古→新)
							壁溝	主柱穴	出入口 ピット	炉・竈	貯蔵穴	不明 ピット			
131	L15e1	N-50°-W	方形	5.90 × 5.76	4~10	平坦	全周	3	1	炉2	-	-	自然	土師器(碗、埴、高坏、甕) 石製勾玉、紡錘車	SI142→本跡→SI161,162
132	L14j3	N-76°-E	方形	4.78 × 4.60	22~34	平坦	全周	4	-	東竈	-	-	自然	土師器(坏、高坏、甕)	SI211→本跡→SI149
133	L14g4	N-31°-W	長方形	6.90 × 6.32	10~32	平坦	全周	4	1	炉	-	1	人為	土師器(碗、高坏、埴、器台、甕)	
134	L14h5	[N-104°-E]	[方形]	[3.30]×[3.30]	-	平坦	-	-	-	東竈	1	-	人為	土師器(坏)	
135	L14i5	[N-84°-E]	[方形]	[3.00]×[3.00]	10	平坦	-	-	-	東竈	1	-	人為	土師器(坏)	SI194→本跡
136	L14f6	[N-80°-E]	[長方形]	[4.00]×[3.00]	-	平坦	-	-	-	東竈	-	-	-	土師器(坏)	SI137→本跡
137	L14f7	N-3°-W	方形	5.70 × 5.70	6~20	平坦	一部	4	1	竈	-	-	自然	土師器(坏、高坏) 釘	本跡→SI136,138,139
138	L14f8	N-6°-W	方形	4.10 × 3.90	4~18	平坦	全周	2	1	竈	-	-	人為	土師器(坏、碗、甕) 須惠器(蓋)	SI137,143→本跡→SI139
139	L14g8	N-100°-E	[長方形]	[3.55]×[2.95]	8~12	平坦	一部	-	-	竈	-	-	-	土師器(坏、高台付碗、小皿、甕) 刀子	SI137,138→本跡
140	L14d8	N-4°-E	方形	4.80 × 4.40	18~20	平坦	全周	4	1	竈	-	2	人為	土師器(甕) 須惠器(坏、蓋) 釘	SI141→本跡
141	L14d9	N-37°-W	方形	6.10 × 5.80	28~34	平坦	一部	4	1	竈	-	-	人為	土師器(坏、甕) 釘、白玉	SI142→本跡→SI140
142	L15e1	[N-30°-W]	[方形]	[5.30]×[5.30]	6	平坦	一部	1	-	-	-	-	人為		本跡→SI131,141
143	L13g9	N-64°-E	方形	4.20 × 4.20	8~30	平坦	-	4	-	東竈	-	-	人為	土師器(坏、鉢、甕)	本跡→SI138,144~146
144	L14g9	[N-0°]	方形	4.04 × [3.70]	10~26	平坦	一部	-	-	竈	-	-	-	土師器(甕) 須惠器(坏、高台付坏、蓋、長頸瓶)	SI143→本跡→SI145,146
145	L14g9	[N-70°-E]	[方形]	[3.40]×[3.40]	-	-	-	-	-	東竈	-	-	-	土師器(高台付坏)	SI143,144,146,147→本跡
146	L14h9	[N-49°-W]	[長方形]	6.10 × [5.20]	8~10	平坦	-	2	-	北西竈	-	1	-	土師器(坏) 小玉、支脚	SI143,144,147→本跡→SI145,148
147	L14h9	[N-40°-W]	[方形]	[3.70]×[3.70]	-	平坦	-	1	-	竈	1	-	-	土師器(碗、甕)	SI144→本跡→SI145,146
148	L14i0	N-91°-E	長方形	4.70 × 3.60	2~5	平坦	全周	-	1	東竈	1	-	-	土師器(坏、高台付碗、小皿) 紡錘車、鉢	SI146→本跡
149	M14a8	N-3°-E	方形	3.35 × 3.20	5~42	平坦	一部	-	-	竈	-	-	人為	須惠器(蓋、長頸瓶)	SI132,211→本跡→SI150
150	M14a8	N-4°-E	方形	3.70 × 3.70	24~46	平坦	全周	-	1	竈	-	-	人為	須惠器(坏、高台付坏、蓋、甕)	SI149→本跡→SI151
151	M14a8	N-89°-E	長方形	4.30 × [3.10]	2~18	平坦	一部	-	-	竈	1	-	-	土師器(坏、碗、高台付碗、足高高台坏、小皿、甕) 須惠器(甕)	SI150,152,195→本跡
152	M14c8	[N-22°-E]	[長方形]	[8.60]×[7.85]	18~35	平坦	全周	-	-	炉	1	1	人為	土師器(高坏、器台、甕、台付甕、蓋、有段盤、ミニチュア土器)	本跡→SI151,180~182,193,197
153	L14i8	N-88°-E	長方形	3.60 × [3.00]	10	平坦	一部	-	-	東竈	1	-	人為	土師器(高台付碗、小皿、碗、坏)	SI155→本跡→SI154
154	L14j7	N-91°-E	長方形	4.30 × [2.90]	15~18	平坦	一部	2	1	東竈	1	-	人為	土師器(小皿、甕) 土師質土器(内耳鍋)	SI153,156→本跡
155	L14i8	N-0°	長方形	4.50 × 3.64	6~18	平坦	全周	1	1	竈	-	-	人為	土師器(甕) 須惠器(坏) 刀子、釘	本跡→SI153
156	L14j6	N-88°-E	方形	3.35 × [3.20]	6~20	平坦	-	-	-	東竈	-	-	-	土師器(坏、碗、高台付碗)	本跡→SI154
157	L15i1	N-5°-E	方形	3.70 × 3.38	10~16	平坦	一部	-	-	竈	-	-	人為	土師器(坏、高台付碗、甕) 須惠器(坏、蓋) 砥石、刀子、鉄鏝	SI167→本跡
158	L15d2	[N-88°-W]	[方形]	[3.40]×[3.40]	8	-	-	-	-	竈	-	-	-	須惠器(蓋) 刀子	本跡→SK131
159	L15d4	N-19°-W	長方形	6.00 × 5.30	12~21	平坦	一部	4	1	竈	-	-	人為	土師器(坏、碗、甕) 須惠器(甕) 支脚	本跡→SI160
160	L15d5	[N-6°-W]	[方形]	[3.30]×[3.12]	30~40	平坦	-	-	-	竈	-	-	-	須惠器(坏、蓋)	SI159→本跡
161	L15e2	N-91°-E	方形	[3.30]×3.12	10	凹凸	-	3	-	東竈	-	-	-	土師器(坏、高台付碗、置き竈)	SI131,162→本跡
162	L15f2	N-24°-W	方形	5.63 × 5.48	20~27	平坦	全周	4	1	竈	1	-	人為	土師器(坏、甕、甕) 小玉、砥石	SI131→本跡→SI161,163
163	L15f3	N-57°-E	方形	4.40 × 4.32	6~18	平坦	-	-	-	竈	-	-	人為		SI162,165→本跡
164	L15g4	N-2°-E	方形	4.70 × 4.40	10~12	平坦	全周	4	1	竈	-	-	自然	土師器(甕) 須惠器(高台付坏) 支脚	SI165,168→本跡
165	L15g3	N-30°-W	長方形	[8.50] × 8.08	22~24	平坦	一部	6	1	-	-	-	人為	土師器(坏、碗) 須惠器(坏身、甕) 不明鉄製品	SI167→本跡→162~164,166,SB6
166	L15h2	N-33°-W	長方形	3.78 × 2.50	29	平坦	全周	-	-	竈	-	-	人為	土師器(足高高台碗、小皿、甕、碗)	SI165,167→本跡→SK133
167	L15h1	[N-38°-W]	[方形]	[6.60]×[6.60]	-	-	-	-	-	-	-	-	-	土師器(埴、甕、壺)	本跡→SI157,165,166,SK133,SB6
168	L15g5	N-0°	長方形	6.77 × [5.70]	10~16	平坦	一部	3	1	炉	1	-	人為	不明石製品	本跡→SI164,169,170
169	L15h6	N-2°-E	方形	5.30 × 4.83	8~12	平坦	全周	4	1	竈2	-	-	人為	土師器(甕) 須惠器(坏、甕) 不明鉄製品	SI168→本跡
170	L15g5	[N-0°]	[方形]	[3.56]×[3.21]	6	平坦	一部	-	-	竈	-	-	-		SI168→本跡
171	M15a8	[N-4°-E]	[長方形]	[4.43]×[3.76]	-	平坦	-	2	-	竈	-	-	-		
172	M15d0	N-2°-E	方形	3.30 × 3.24	4~20	平坦	-	1	1	竈	1	-	人為	須惠器(坏、盤、甕)	
173	M15g6	[N-40°-W]	[方形]	[3.60]×[3.38]	-	平坦	-	-	-	炉	-	-	-	土師器(高坏)	

住居跡 番号	位置	主軸方向 (長軸方向)	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内 部 施 設						覆土	出 土 遺 物	備 考 新旧関係(古→新)
							壁溝	主柱穴	出入口 ピット	炉・竈	貯蔵穴	不明			
174	M15f ₁	[N-95°-E]	[方形]	[4.70]×[4.45]	2~6	平坦	-	-	-	竈	-	-	-	土師器(坏)	
175	M15d ₃	[N-48°-W]	方形	4.60×4.46	8~10	平坦	-	4	1	竈	-	-	人為	土師器(甕) 砥石	SI176→本跡
176	M15d ₂	[N-40°-W]	[長方形]	[5.79]×[4.92]	2~6	平坦	-	2	-	炉	-	-	-		本跡→SI175
177	M15b ₂	[N-3°-E]	[方形]	4.22×[4.08]	8~10	平坦	-	4	1	竈	-	1	自然	土師器(甕) 須恵器(蓋) 支脚	
178	M15d ₂	[N-11°-E]	[長方形]	[3.60]×[3.00]	2~8	平坦	-	3	1	竈	-	-	自然	土師器(甕) 須恵器(坏, 蓋)	
179	M14b ₄	[N-13°-E]	方形	7.13×6.98	20~36	平坦	全周	6	1	炉2	1	-	人為	土師器(高坏, 坩, 甕)	本跡→SK134, 137
180	M14c ₃	[N-11°-E]	方形	4.50×4.48	20~52	平坦	全周	4	-	竈	-	-	自然	土師器(甕) 須恵器(坏, 高台付坏)	SI152, 181→本跡→SI182, 195
181	M14b ₉	[N-28°-W]	[方形]	[4.70]×[4.70]	3~20	-	一部	-	-	-	-	-	人為		SI152→本跡→SI180, 195
182	M14d ₃	[N-5°-W]	方形	[5.05]×4.93	32~38	平坦	全周	3	-	竈	-	-	人為	須恵器(坏, 高台付坏, 甕, 甕) 土	SI152, 180→本跡→SI183
183	M14d ₃	[N-92°-E]	方形	[3.33]×3.06	18~32	平坦	一部	1	-	東竈	-	-	人為	土師器(高台付碗, 小皿, 甕) 須恵	SI182→本跡
184	M15e ₂	[N-91°-E]	長方形	3.76×3.20	5~12	平坦	一部	-	-	東竈	-	-	人為	土師器(坏, 小皿, 甕)	本跡→SD15
185	M14f ₀	[N-96°-E]	長方形	4.22×3.70	3~12	平坦	-	1	-	東竈	-	-	自然	土師器(高台付坏, 甕) 須恵器(蓋)	SI260→本跡→SD14, S1262不明
186	M14g ₀	[N-3°-E]	長方形	4.65×3.32	16~20	平坦	一部	3	-	竈	-	-	自然	土師器(坏, 高台付坏, 小皿) 砥石,	SI262, 340→本跡
187	M16c ₁	[N-20°-E]	[長方形]	4.38×(1.50)	36~46	平坦	-	-	-	竈	-	-	人為	土師器(皿, 甕) 須恵器(坏,	本跡→SI199
188	L14j ₁	[N-90°-E]	長方形	3.40×2.80	8~18	平坦	全周	-	-	東竈	2	-	人為	土師器(坏, 小皿) 砥石, 不明鉄製	SI194→本跡
189	L14j ₂	[N-2°-W]	長方形	3.70×3.31	32~40	平坦	全周	4	1	竈	-	-	人為	土師器(甕) 須恵器(坏, 蓋)	SI212→本跡
191	M14a ₁	[N-73°-E]	長方形	3.80×2.80	8~14	平坦	全周	-	-	東竈	-	-	自然	土師器(高台付坏, 甕)	
192	M14c ₂	[N-10°-E]	長方形	3.00×2.60	4~10	平坦	-	1	-	竈	1	-	人為	土師器(甕) 須恵器(蓋)	
193	M14d ₇	[N-15°-E]	方形	4.90×4.80	44	平坦	全周	4	-	竈	-	-	自然	土師器(坏, 甕) 須恵器(坏, 高台付	SI152, 197, 198→本跡
194	L14j ₃	[N-66°-E]	[方形]	[4.86]×[4.66]	5	平坦	-	-	-	-	-	-	-	土師器(高坏, 坩, 甕) 砥石	本跡→SI135, 188
195	M14b ₈	[N-1°-E]	方形	3.60×3.45	4~12	平坦	全周	-	1	竈	-	-	-	須恵器(坏, 盤, 甕) 紡錘車	SI150, 152, 180, 181→
197	M14c ₃	[N-1°-W]	方形	5.88×5.60	43~55	平坦	全周	3	-	竈	1	-	人為	土師器(坏, 甕) 須恵器(坏, 蓋,	SI152, 198→本跡→SI193, SK136
198	M14c ₃	[N-33°-W]	方形	8.04×8.00	40	平坦	全周	2	-	竈	-	-	人為	土師器(坏, 高坏, 甕, 碗, ミニチュ	SI267→本跡→SI193, 197, 263, 266, SK145, 153, SD14, 大形1
199	M15d ₀	[N-25°-E]	-	(2.60)×(1.30)	29~34	凹凸	-	-	-	-	1	-	-	土師器(高台付坏, 甕) 須恵器(坏)	SI187→本跡
200	M15a ₅	[N-5°-W]	[方形]	[3.80]×[3.70]	2	平坦	-	-	-	竈	-	1	-		
201	L15i ₄	[N-30°-E]	[方形]	[3.40]×[3.40]	-	平坦	-	-	-	竈	-	-	-	土師器(坏, 小皿, 甕) 須恵器(甕)	SI204→本跡→SB6
202	M15a ₄	[N-3°-E]	長方形	4.00×3.20	1~4	平坦	-	-	1	竈	-	-	-	土師器(坏) 須恵器(蓋)	SI203→本跡
203	M15j ₄	[N-25°-E]	[方形]	[3.70]×[3.50]	-	平坦	-	1	-	竈	1	1	-		SI204→本跡→SB6
204	L15i ₄	[N-35°-W]	方形	[6.40]×6.10	27	平坦	-	4	1	竈	1	-	人為	土師器(坏, 甕) 須恵器(蓋, 甕)	本跡→SI201, 203, SB6
205	M14i ₉	[N-125°-E]	長方形	5.16×3.58	8~10	平坦	全周	1	-	東竈	1	-	自然	土師器(坏, 高台付坏, 小皿) 管状	SI206, 213, SK144→本跡
206	M14i ₉	[N-85°-E]	-	3.50×(1.00)	22~24	平坦	一部	1	-	-	1	-	自然	土師器(高坏, 壺)	本跡→SI205, 213
207	M14h ₈	[N-108°-E]	[方形]	[3.16]×[2.86]	-	平坦	-	-	-	東竈	1	2	人為	土師器(高台付坏, 小皿)	SI213→本跡→SI208
208	M14h ₈	[N-87°-E]	長方形	4.44×3.86	20~25	平坦	一部	-	-	東竈	-	-	人為	土師器(高台付坏, 小皿, 高台付小	SI207, 209, 213→本跡
209	M14h ₇	[N-20°-E]	長方形	4.18×3.20	28	平坦	一部	1	-	竈	-	-	人為	土師器(甕)	SI272→本跡→SI208, 210
210	M14h ₆	[N-100°-E]	長方形	4.16×3.38	14~17	平坦	全周	-	-	東竈	-	-	人為	土師器(高台付坏, 甕)	SI209→本跡
211	L14j ₃	[N-8°-E]	-	5.28×(1.70)	2~4	平坦	-	-	-	炉	-	-	-	土師器(壺)	本跡→SI32, 149
212	L14j ₂	[N-23°-W]	-	(3.85)×(2.00)	28	平坦	-	1	-	-	1	-	人為	土師器(坩)	本跡→SI189
213	M14h ₈	[N-28°-W]	方形	5.01×5.00	25~38	平坦	全周	4	1	竈	1	-	人為	土師器(坏, 碗, 甕)	SI206→本跡→SI205, 207, 208, SK138, 139
214	N14c ₀	[N-102°-E]	長方形	[4.70]×3.20	13	平坦	一部	2	-	-	-	-	人為	土師器(高台付坏, 高台付碗, 小皿)	SI215, 216→本跡→SI222
215	N14d ₀	[N-10°-E]	方形	3.38×3.30	20~30	平坦	全周	-	1	竈	-	-	自然	土師器(坏)	本跡→SI214
216	N14b ₉	[N-14°-E]	方形	4.70×4.30	23~44	平坦	一部	4	-	竈	-	-	人為	土師器(甕) 須恵器(坏, 高台付坏,	本跡→SI214, 217
217	N14c ₃	[N-18°-E]	長方形	4.94×4.25	38~52	平坦	全周	6	1	竈	-	-	人為	土師器(高甕, 甕) 須恵器(坏, 高台	SI216, 218→本跡
218	N14c ₃	[N-5°-E]	-	(3.64)×(1.42)	12	平坦	一部	-	-	炉	-	-	-		本跡→SI217, 225
219	N14e ₀	[N-90°-E]	隅丸長方形	3.68×2.98	24~40	平坦	全周	-	-	-	-	1	人為	土師器(坏)	
220	N14c ₈	[N-13°-E]	方形	5.20×4.56	8~44	平坦	全周	4	1	竈	-	1	人為	土師器(甕) 須恵器(坏, 盤)	
221	N14c ₇	[N-4°-W]	長方形	4.80×3.48	47	平坦	全周	-	-	竈2	-	1	人為	土師器(坏, 高台付碗, 小皿, 耳皿,	SI225→本跡→SI223

住居跡 番号	位置	主軸方向 (長軸方向)	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内 部 施 設						覆土	出 土 遺 物	備 考 新旧関係(古→新)
							壁溝	柱穴	出入口 ピット	炉・竈	貯蔵穴	不 明 ピット			
222	N15c1	[N-34°-W]	-	(2.80)×(0.90)	10	平坦	一部	-	-	北西竈	-	-	-	土師器	SI214→本跡
223	N14c7	N-3°-E	隅丸方形	[4.10]×3.70	16~22	平坦	-	2	-	竈	1	-	人為	土師器(坏,高台付椀,高台付坏,小皿,甕)	SI221,225,226→本跡
224	M14b5	N-92°-E	長方形	3.04×2.63	19~27	平坦	一部	-	-	竈	-	-	人為	土師器(高台付坏,小皿)	本跡→SK212~214
225	N14c7	N-5°-E	方形	4.48×4.00	44~58	平坦	全周	-	1	1	-	-	人為	土師器(坏,甕)須惠器(坏,甕)	SI218,226→本跡→SI221,223
226	N14d7	[N-60°-W]	-	4.00×(1.60)	38~54	平坦	一部	-	1	-	-	-	人為	須惠器(坏,高台付坏)	本跡→SI223,225
227	N14g8	N-93°-E	方形	3.01×[2.50]	13~24	平坦	一部	-	-	東竈	-	-	自然	須惠器(坏)鉄鏝	
228	N14i9	[N-8°-W]	[方形]	[4.60]×[4.35]	15	平坦	-	1	-	竈	-	-	-	土師器(坏,甕)	
229	N14i0	N-13°-E	方形	3.16×[3.14]	13	平坦	-	-	-	-	-	-	-	須惠器(甕)	本跡→SD13
230	O14a0	N-31°-E	長方形	3.42×3.08	25	平坦	全周	-	1	竈	1	-	人為	須惠器(坏,蓋)	
231	N14i7	N-9°-E	方形	4.15×3.80	12~48	平坦	全周	4	-	竈	-	-	自然	土師器(坏,甕)	
232	N14h6	N-29°-E	方形	3.36×3.24	14~20	平坦	全周	-	1	竈2	-	-	自然	土師器(坏,高台付椀,甕)須惠器(坏)	
233	N14g5	N-15°-E	方形	4.44×4.18	24~36	平坦	全周	4	1	竈	-	1	自然	土師器(坏,甕)須惠器(坏,蓋)刀子	SK142→本跡
234	N14f6	N-93°-E	方形	3.09×3.08	16	平坦	全周	2	-	東竈	-	-	自然	土師器(坏,椀,高台付坏,高台付椀,足高台坏,小皿,甕)	SI236,SK142→本跡
235	N13d5	N-8°-E	方形	3.47×3.26	25~32	平坦	全周	-	-	竈	-	-	自然	土師器(坏)支脚	
236	N14e5	N-7°-E	長方形	4.00×3.49	42~60	平坦	一部	-	-	竈	-	-	自然	土師器(甕)須惠器(坏)針	本跡→SI234,237
237	N14e1	N-6°-W	長方形	2.96×2.53	15	平坦	-	-	-	-	-	-	-	土師器(高台付椀,小皿)	SI236→本跡
238	N14g3	N-5°-E	[長方形]	[4.28]×3.58	20~32	平坦	-	2	-	竈	1	-	自然	土師器(坏,椀,高台付坏,小皿)	本跡→SI239
239	N14g2	N-17°-E	長方形	3.01×2.71	32	平坦	-	-	-	炉	-	-	人為		SI238→本跡
240	N14i2	N-90°-E	長方形	3.10×2.58	18~22	凹凸	-	-	-	東竈	-	-	自然	土師器(小皿)不明鉄製品	SI243→本跡
241	N14i1	N-1°-E	方形	3.42×3.37	28~34	平坦	全周	-	-	竈	-	-	自然	土師器(甕)須惠器(坏,蓋,甕,鉢)鉄鏝	SI243→本跡→SI242
242	N14j1	N-9°-E	[長方形]	4.26×[3.24]	20~25	平坦	一部	-	-	竈	-	-	自然	土師器(高台付椀)須惠器(甕)	SI241,243→本跡
243	N14j2	N-14°-W	方形	4.68×4.44	26~38	平坦	全周	4	-	竈	-	-	人為	土師器(坏,鉢,甕)須惠器(こね鉢)	本跡→SI240~242,244
244	O14a2	N-0°	方形	3.55×3.44	20~34	平坦	全周	2	1	竈	1	-	自然	土師器(甕)須惠器(坏,蓋,甕,甕)不明土製品,鉄鏝	SI243→本跡→SI242,245
245	O14a1	N-13°-W	方形	3.42×3.28	4~10	平坦	-	-	-	竈2	-	-	自然	土師器(高台付椀,小皿,甕)紡錘車	SI244→本跡
246	N13f0	[N-76°-E]	[長方形]	[3.80]×[2.75]	-	平坦	-	-	-	東竈	-	-	-	土師器(高台付坏,高台付椀)	
247	N13j0	N-0°	方形	3.26×3.00	43~46	平坦	全周	-	1	竈	1	-	人為	須惠器(坏,高台付坏,蓋,皿)紡錘車	SI248→本跡
248	N13j3	N-5°-E	長方形	[3.44]×2.94	28	平坦	一部	-	-	竈	-	-	人為	土師器(甕)	本跡→SI247,249
249	N13i8	N-2°-W	方形	5.10×4.98	48~52	平坦	全周	4	1	炉・竈	-	-	人為	土師器(坏,高台付坏,高台付椀,高台付皿,甕)須惠器(坏,高台付坏,蓋,甕)灰釉陶器(長頸瓶)剣	SI248→本跡
250	N13h0	N-7°-W	方形	3.93×3.88	11~13	平坦	-	-	-	-	-	-	-	土師器(坏,甕)	本跡→SI251
251	N13h9	N-5°-E	方形	3.88×3.88	40~43	平坦	全周	4	1	竈	-	-	自然	土師器(甕)須惠器(坏,蓋)	SI250→本跡
252	O13b0	N-86°-E	[長方形]	3.54×[2.58]	8~22	平坦	-	2	-	東竈	1	-	人為	土師器(坏,高台付坏,高台付椀)	
253	O13a9	N-0°	[方形]	4.92×[4.68]	28~44	平坦	一部	4	1	竈	-	-	人為	土師器(坏,甕)鎌	本跡→SI254,SK143
254	N13j8	N-5°-E	方形	3.68×3.50	38~46	平坦	全周	-	1	竈	-	-	人為	土師器(坏,甕)須惠器(坏,蓋,甕)	SI253,255→本跡
255	N13j7	N-0°	[長方形]	4.75×[3.50]	34	平坦	一部	2	-	竈	-	-	自然	土師器(甕,甕)須惠器(甕)	本跡→SI254
257	N13i7	[N-90°-E]	-	(2.50)×(1.50)	13	平坦	-	-	-	竈	-	-	自然	土師器(坏,高台付椀,小皿)	SI258→本跡
258	N13h7	N-5°-E	[方形]	5.02×[4.30]	16~25	平坦	一部	4	1	竈	-	-	自然	土師器(甕,甕)須惠器(蓋)	本跡→SI257,SK184
259	M15f3	[N-60°-W]	-	(6.00)×(4.00)	12~13	平坦	-	-	-	竈	1	-	-	土師器(坏)	本跡→SK159
260	M14e9	N-25°-W	長方形	5.36×4.70	6~10	平坦	一部	4	1	竈	-	1	-	土師器(坏,甕)	本跡→SI185,261,262,SK161,SD14
261	M14f8	N-11°-E	方形	5.21×5.10	30~50	平坦	全周	4	1	竈	-	1	自然	土師器(坏,甕)須惠器(坏,長頸瓶,甕)鎌	SI260→本跡→SI262,SD14
262	M14g9	N-97°-E	[長方形]	[4.80]×3.26	29~48	平坦	一部	-	-	竈	1	1	-	土師器(高台付椀)	SI261→本跡→SI186,SD14,SI185不明
263	M14e5	[N-90°-E]	長方形	[4.15]×[3.02]	10~22	平坦	-	-	-	東竈	-	-	-	鎌	SI198,266,267→本跡→SK146,161
264	M14f6	N-90°-E	[長方形]	[3.00]×2.72	6~12	平坦	-	-	-	竈2	-	2	-	土師器(高台付坏,甕,羽釜)鉄鏝	SI198,265,大形2→本跡
265	M14f5	[N-90°-E]	[長方形]	[3.70]×[3.10]	4~6	平坦	-	-	-	東竈	-	-	-	土師器(坏,高台付坏)須惠器(坏)刀子	大形2→本跡→SI264
266	M14e5	N-0°	方形	3.24×3.10	25~42	平坦	全周	-	1	竈	-	-	自然	土師器(坏,高台付坏,高台付小皿)須惠器(甕)	SI198,267→本跡→SI263,SD14
267	M14e4	N-35°-W	方形	[5.88]×5.70	10~22	平坦	全周	3	1	炉	1	-	-	土師器(高坏,甕,壺)	SI198,263,266,SK146,161,162→本跡
268	M14j8	N-28°-E	[長方形]	[4.00]×3.28	22~31	平坦	-	-	-	竈	-	-	自然	土師器(坏,高台付坏,甕,鉢)	本跡→SI269,276

住居跡 番号	位置	主軸方向 (長軸方向)	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内 部 施 設						覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
							壁溝	主柱穴	出入口 ピット	炉・竈	貯蔵穴	不明 ピット			
269	N14b7	N-10°-E	方形	4.06×3.92	18~35	平坦	一部	-	-	竈	1	-	自然	土師器(坏,高台付椀,高台付碗,小皿,甕)	SI268→本跡
270	M14j5	N-95°-E	長方形	3.71×3.27	7~28	平坦	全周	-	-	東竈	-	-	自然	土師器(高台付坏,高台付椀,鉢,甕)	本跡→SK149
271	M14i5	N-3°-E	長方形	4.20×3.30	11~28	平坦	一部	-	-	竈	1	-	自然	土師器(坏,高台付坏,高台付椀,甕)	SI272,277→本跡→SK148
272	M14i6	N-0°	方形	3.90×3.87	32~37	平坦	全周	4	1	竈	-	-	自然	土師器(坏,椀,甕,甗)須惠器(坏,蓋)	SI274→本跡→SI209,271,277
273	N14c1	[N-90°-E]	-	-	-	-	-	-	-	東竈	-	-	-	須惠器(坏)	SI299,305→本跡
274	M14j7	N-16°-E	方形	4.96×4.70	26	平坦	一部	4	1	竈	-	-	自然	土師器(坏,甕)鎌	本跡→SI272,275,276
275	M14j7	N-4°-E	-	-	26~28	平坦	一部	-	-	竈	-	1	人為	土師器(高台付椀,小皿)須惠器(坏,刀子)	SI274→本跡 SI276不明
276	M14j7	[N-90°-E]	-	-	20~30	平坦	一部	-	-	東竈	-	-	自然	土師器(坏,椀,高台付椀)	SI268,274→本跡 SI275不明
277	M14h5	[N-0°]	[長方形]	[3.25]×[2.80]	18~26	平坦	-	-	-	-	-	-	-	土師器(高台付坏,高台付椀)	SI272,281→本跡→SI271,SK150
278	M14i2	N-85°-E	長方形	3.38×2.87	30~35	平坦	全周	-	-	東竈	1	-	人為	土師器(足高台坏,甕)	SI279→本跡→SK151
279	M14h3	N-8°-W	[方 形]	5.15×5.10	10~20	平坦	-	-	1	炉5	1	1	-	土師器(高坏,甕)	本跡→SI278,281~283,SK151
280	M14g3	N-85°-E	長方形	5.58×3.50	40~70	平坦	一部	-	-	-	-	1	人為	土師器(甕)	SI281~283→本跡
281	M14h4	N-38°-W	方 形	8.40×8.38	44~55	平坦	全周	4	1	竈	1	-	自然	土師器(坏,高坏,甕,甗,甗,手理ね土器)須惠器(甗)耳環	SI279,283→本跡→SI277,280,282,284
282	M14h4	[N-0°]	[長方形]	[6.48]×[4.50]	20~32	平坦	一部	-	-	竈	-	-	人為	土師器(高台付椀,甕)	SI279,281,283→本跡→SI280
283	M14g3	-	-	(3.20)×(2.00)	20~32	平坦	-	-	-	-	-	-	-	-	SI279→本跡→SI280,281,SK152
284	M14i1	N-4°-E	長方形	3.32×2.93	14~23	平坦	一部	-	-	-	-	-	自然	土師器(高台付椀)	SI281→本跡→SI285,SK165
285	M14j1	N-8°-E	方 形	3.83×3.83	16~25	平坦	全周	-	-	竈	-	1	自然	土師器(坏,小皿,甕)土玉,鉄鏝,不明鉄製品	SI284,286→本跡
286	N14a4	N-17°-E	長方形	3.80×2.86	13~23	平坦	一部	-	-	-	-	1	自然	土師器(高坏)	本跡→SI285,287
287	N14b3	N-92°-E	長方形	3.75×3.22	16~23	平坦	全周	-	-	東竈	1	-	人為	土師器(高台付椀,小皿,甕)砥石	SI286→本跡
288	M14i1	N-22°-W	長方形	2.64×2.18	6	凹凸	-	-	-	炉	-	-	-	土師器(埴,甕,壺)	本跡→SI326
289	M14d3	N-1°-E	長方形	4.28×2.90	20~24	平坦	全周	-	1	竈	-	-	自然	土師器(坏,甕)	SI292→本跡→SI291
290	N14c1	N-8°-W	長方形	6.11×5.14	10	平坦	-	-	-	炉	1	-	-	土師器(高坏,埴,甕)	本跡→SI291
291	N14c3	N-9°-E	方 形	3.40×3.28	35~45	平坦	全周	-	1	竈	-	-	自然	土師器(坏,甕)須惠器(坏,甕,甗)	SI289,290→本跡
292	N14c2	N-0°	[方 形]	[5.30]×[5.23]	10~18	平坦	一部	2	-	炉2	1	-	自然	土師器(甕,壺)砥石	本跡→SI273,289,293
293	N14d2	N-3°-E	方 形	4.28×4.12	29~58	平坦	全周	2	1	竈	-	-	自然	土師器(甕)須惠器(高台付坏,高坏,甕,甗)鎌	SI292→本跡→SK155,168
294	N14e2	N-3°-W	長方形	4.12×3.38	14~22	平坦	一部	-	-	竈	-	-	自然	土師器(坏,高台付坏,甕)鉄鏝,鉄斧,刀子	SI295→本跡
295	N14e2	N-31°-W	方 形	5.35×5.21	26~38	平坦	全周	4	1	竈	1	-	自然	土師器(坏,甕)	本跡→SI294,SK155
296	N13e0	N-15°-E	方 形	4.18×3.78	30~52	平坦	全周	-	1	竈	-	-	自然	土師器(甕)須惠器(坏)	SI298,309→本跡→SI297
297	N13d0	N-4°-W	[方 形]	[3.20]×[3.16]	24~34	平坦	一部	1	1	竈	-	-	自然	須惠器(坏)	SI296,298→本跡→SI299
298	N14e1	N-3°-W	-	4.12×(3.10)	14~16	平坦	一部	-	1	-	-	-	自然	土師器(坏)須惠器(高台付坏,甕,蓋,短頸壺,長頸壺)灰釉陶器	本跡→SI296,297,299,SK168
299	N13d0	N-3°-W	長方形	4.26×3.82	31~47	平坦	-	-	-	竈	-	-	人為	土師器(坏,鉢,甕)須惠器(坏,甕)灰釉陶器(長頸瓶)	SI297,298→本跡→SI273
300	M14j1	N-9°-E	長方形	4.58×4.07	34~36	平坦	全周	2	1	竈	-	-	自然	土師器(甕)須惠器(坏,甕,盤)	本跡→SI301,302
301	M13j0	[N-65°-E]	[長方形]	[3.74]×[3.32]	16~17	平坦	一部	-	-	東竈	-	-	自然	土師器(高台付坏,高台付椀,小皿)	SI300,302→本跡
302	N13a0	N-65°-E	[長方形]	3.30×[2.60]	24	平坦	一部	-	-	東竈	-	-	自然	土師器(高台付椀,小皿,甕)	SI300,303,304→本跡→SI301
303	N13b0	N-0°	方 形	4.36×4.07	38	平坦	全周	1	1	竈	-	-	人為	土師器(甕)須惠器(坏)	SI302,306,SK175→本跡→SI305
304	N13b9	N-7°-W	方 形	3.85×3.60	38	平坦	全周	1	1	竈	1	-	人為	土師器(甕)須惠器(坏,甕,こね鉢)	本跡→SI302,306,307
305	N13b0	[N-17°-W]	-	5.17×(3.30)	23~40	平坦	一部	-	-	-	-	-	人為	土師器(甕)須惠器(高台付坏,甕)	本跡→SI273,303,306
306	N13b0	[N-92°-E]	[方 形]	[3.30]×[3.16]	-	平坦	一部	-	-	東竈	-	-	人為	土師器(坏,高台付椀,足高高台坏,小皿,甕)	SI303~305→本跡
307	N13c9	N-0°	[長方形]	[4.33]×[3.42]	24	平坦	一部	-	-	竈	-	-	自然	土師器(坏,高台付坏,高台付椀,小皿,甕,鉢)須惠器(蓋)刀子,鉄鏝	SI304,308→本跡
308	N13c9	N-10°-E	長方形	4.40×4.00	53~56	平坦	一部	-	1	炉・竈	-	1	自然	土師器(坏,高台付坏,甕)須惠器(甕)刀子	SI309→本跡→SI307,SK166
309	N13d9	N-92°-W	方 形	4.32×3.99	20~26	平坦	全周	4	1	西竈	-	-	人為	-	本跡→SI296,308,310,SK166
310	N13d9	N-90°-E	長方形	3.32×2.89	10	平坦	-	-	-	東竈	-	-	-	土師器(坏,椀,高台付坏,小皿)	SI309,311→本跡→SK167
311	N13e7	N-1°-W	方 形	5.04×4.78	34~37	平坦	一部	2	-	竈	-	-	人為	土師器(坏,甕)須惠器(坏,高台付坏,蓋)砥石	本跡→SI310,312
312	N13e7	N-10°-E	[長方形]	4.00×[3.50]	56	平坦	一部	-	1	竈	-	-	自然	土師器(甕)須惠器(坏,蓋,甕,壺)	SI311→本跡→SI333
313	N13b8	N-90°-E	[方 形]	3.43×[3.40]	20	平坦	一部	-	-	東竈	-	-	-	土師器(坏,高台付坏)須惠器(高台付坏)	SI316→本跡→SI314,315
314	N13b7	[N-93°-E]	[長方形]	[3.40]×[1.95]	5	平坦	-	-	-	東竈	-	-	-	土師器(坏,鉢)	SI313,316→本跡→SI315

住居跡 番号	位置	主軸方向 (長軸方向)	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内 部 施 設						覆土	出 土 遺 物	備 考 新旧関係(古→新)
							壁溝	主柱穴	出入口 ピット	炉・竈	貯蔵穴	不明 ピット			
315	N13a8	N-110°-E	方形	3.65 × 3.60	13	平坦	一部	-	-	東竈	1	1	自然	土師器(坏, 鉢, 甕, 甌) 鉄鏝	SI313, 314, 316→本跡
316	N13a7	[N-10°-W]	[方形]	[4.94]×[4.52]	-	平坦	-	-	-	炉	1	-	-	土師器(高坏, 甕) 紡錘車	本跡→SI313~315
317	M13j7	N-6°-E	方形	3.30 × 3.16	14~21	平坦	全周	-	-	竈	-	-	人為	須恵器(坏, 甕)	SI318→本跡
318	M13i8	N-57°-E	-	(5.10)×(4.20)	8~11	平坦	一部	3	1	北東竈	-	-	-	土師器(坏, 甕)	本跡→SI317
319	M13i9	N-6°-E	方形	4.00 × 3.86	12~23	平坦	全周	-	1	竈	-	-	自然	土師器(坏, 甕, 甌) 須恵器(蓋) 紡錘車, 鉄鏝	本跡→SI320
320	M13h9	N-65°-E	[長方形]	[3.34]×[2.92]	14~18	平坦	-	-	-	東竈	-	-	自然	土師器(高台付碗, 甕) 須恵器(長頸瓶)	SI319, 323→本跡
321	M13g8	[N-80°-E]	[方形]	[3.65]×[3.60]	-	平坦	-	-	-	東竈	-	-	-	砥石	本跡→SK169
322	M13f9	N-130°-E	長方形	3.30 × 2.50	5~13	平坦	-	-	-	南東竈	-	-	-	土師器(坏, 高台付碗, 甕)	本跡→SK169
323	M13h0	N-28°-W	方形	6.91 × 6.30	4~14	平坦	一部	1	-	-	-	-	-	土師器(高坏, 壺)	本跡→SI320, 324~326
324	M13g0	N-13°-W	長方形	3.76 × 3.21	12	平坦	全周	-	1	竈	-	-	-	土師器(高台付坏, 高台付碗, 甕) 鉄鏝	SI323, 325→本跡
325	M14h1	N-2°-W	方形	5.07 × 4.86	16~22	平坦	全周	4	1	竈	-	-	人為	土師器(坏, 甕)	SI323→本跡→SI324, 326
326	M14i1	[N-9°-W]	[方形]	[3.84]×[3.79]	4~5	平坦	-	-	-	竈	-	-	-	土師器(坏, 高台付坏)	SI288, 325→本跡
327	M14f1	N-17°-W	方形	4.04 × 3.75	20~34	平坦	全周	4	-	竈	-	-	自然	土師器(坏, 甕) 須恵器(甕)	SI328→本跡→SI329
328	M14f2	N-22°-W	[方形]	[6.00]×[5.88]	8~16	平坦	-	1	1	炉	-	2	-	土師器(罎, 鉢, 壺)	本跡→SI327, 329, 330, 339
329	M14e1	N-2°-W	方形	3.97 × 3.72	12~22	平坦	全周	-	-	竈	-	-	-	土師器(甕) 須恵器(蓋, 甕)	SI327, 328, 330→本跡→SI339
330	M14e1	N-18°-W	方形	6.40 × 6.24	5~20	平坦	全周	4	-	竈	-	-	-	土師器(坏, 甕) 須恵器(坏) 鎌	SI328→本跡→SI329, 339
331	O13f8	N-10°-W	長方形	4.27 × 2.98	2~8	平坦	一部	-	-	竈	-	1	-	土師器(甕) 須恵器(平瓶) 砥石	
332	O13f0	N-10°-E	方形	3.46 × 3.42	28	平坦	全周	4	1	竈	-	-	-	土師器(坏)	
333	N13e6	[N-0°]	-	(4.32)×(1.30)	44	平坦	一部	-	-	竈	-	-	人為	土師器(坏, 高台付坏) 須恵器(坏, 平瓶) 手鎌	SI312→本跡
334	O13h0	N-11°-W	方形	3.66 × 3.36	5~22	平坦	-	1	-	竈	-	2	-	土師器(坏, 甕)	
335	O13h9	N-15°-E	-	3.44 × (0.90)	12~14	平坦	一部	-	-	竈	-	1	-	須恵器(坏)	
336	N13f8	N-9°-W	方形	6.53 × 6.40	15~30	平坦	一部	4	1	竈	-	-	人為	土師器(坏, 甕, 甌) 須恵器(坏, 平瓶) 刀子, 鎌, 剣形模造品	本跡→SI337, 338
337	N13f8	N-5°-E	方形	3.86 × 3.58	32	平坦	-	1	1	竈	-	-	自然	須恵器(坏, 蓋, 盤, 甕, 甌, 長頸瓶) 紡錘車, 磨石	SI336→本跡
338	N13f7	N-18°-E	方形	2.13 × 1.96	54	平坦	-	4	-	-	-	-	人為	刀子	SI336→本跡
339	M14e1	[N-20°-W]	[長方形]	[4.31]×[3.46]	12~22	平坦	-	4	-	竈	-	-	-	土師器(甕)	SI329, 330→本跡
340	M15g1	N-8°-E	[長方形]	[4.40]×[4.00]	12~23	平坦	一部	4	1	竈	-	-	-	土師器(甕) 須恵器(坏)	本跡→SI186, SB14, 15

* 重複している住居跡の壁溝は、ほぼ推定できるものは全周とし、推定するには困難なものは一部とした。

(2) 掘立柱建物跡

調査6区の北部から、掘立柱建物跡1棟を検出した。以下、検出した建物跡の特徴や出土遺物について記載する。

第6号掘立柱建物跡 (第458図)

位置 調査6区北部, M15a1区。

重複関係 第165・167・201・203・204号住居跡を掘り込んでいることから、第165・167・201・203・204号住居跡より新しい。第210号土坑と重複しているが、切り合いがないため、新旧関係は不明である。

規模 東西4間, 南北2間の建物跡で、東西9.10m, 南北6.10mである。柱間寸法は桁行1.05~1.57m, 梁行2.10~2.25mである。柱穴の掘り方は、平面形が長軸85~130cm, 短軸65~112cmの不整長方形で、深さ60~80cmである。柱痕は、P₂, P₃, P₆~P₉, P₁₁で確認されている。柱は、径23~31cmである。

桁行方向 N-83°-Wの東西棟である。

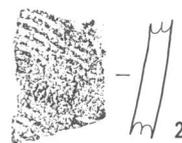
覆土 ロームブロックを中量に含んでおり、人為堆積と考えられる。

掘り方土層解説

- 1 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック少量, ローム粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 5 明褐色 ローム大ブロック少量
- 6 明褐色 ローム大ブロック中量

遺物 土師器片152点, 須恵器片18点が出土している。第457図1の須恵器蓋はP₅の覆土中から出土している。2の須恵器甕の体部は、P₈の覆土中から出土している。

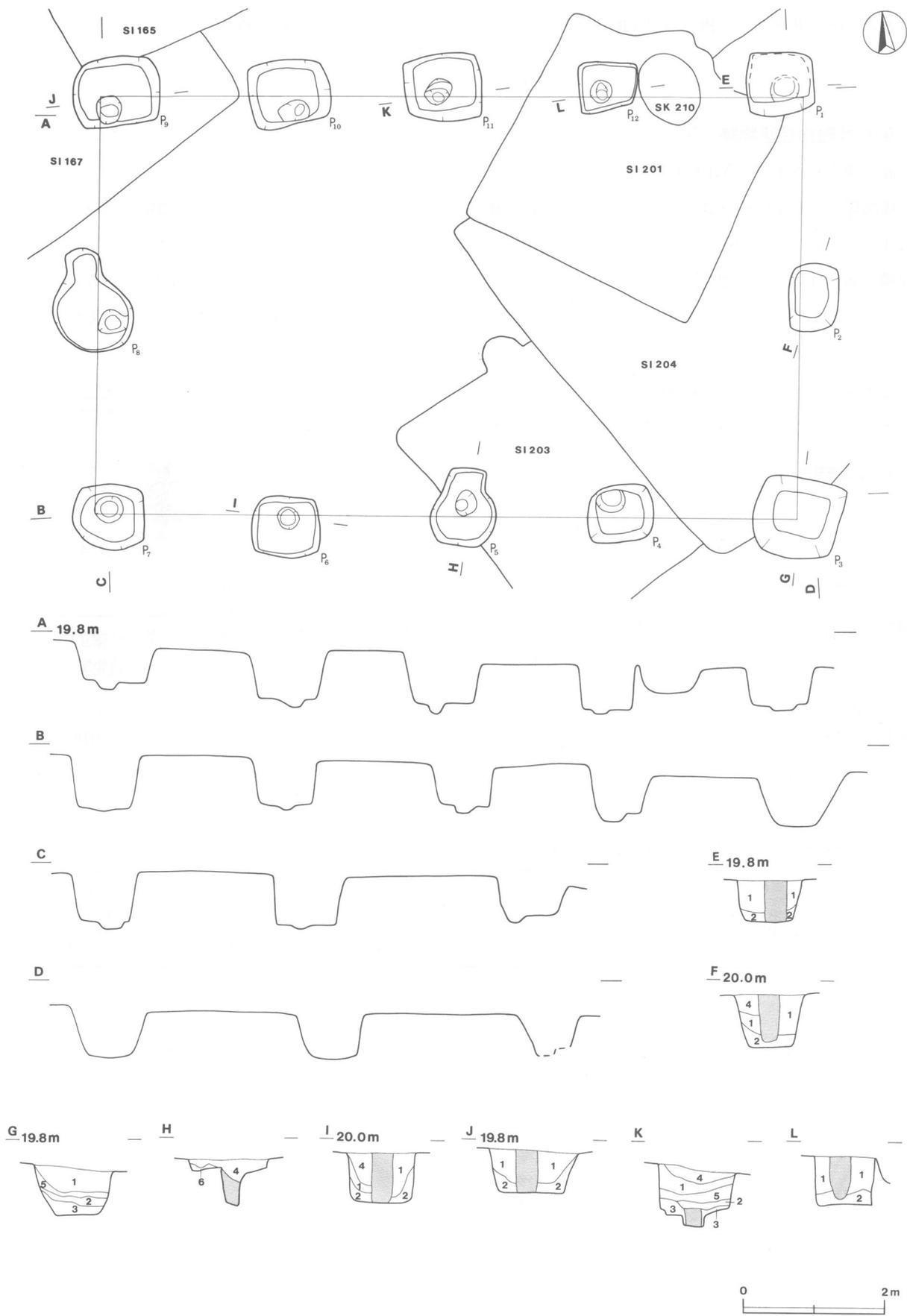
所見 本跡は、古墳時代前期から平安時代の10世紀中葉にかけての住居跡を切っていることから、10世紀後葉以降のものと考えられる。



第457図 第6号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第6号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第457図 1	蓋 須恵器	B(1.5) F[2.8] G 0.6	蓋のつまみ部・天井部片。つまみは扁平なボタン状を呈する。	天井部回転ヘラ削り。	砂粒・長石 灰色 良好	P511 20% P5の覆土中



第458图 第6号掘立柱建物跡実測図

(3) 土坑

調査6区で、土坑62基を検出した。その中でも、しっかりしたものや特徴的なものについて記載し、その他は一覧表に掲示した。

第129号土坑 (第459図)

位置 調査6区北部, L14i9区。

規模と平面形 長径0.72m, 短径0.65mの不整形円形である。

長径方向 N-7°-E

壁 深さは26~33cmで、外傾して立ち上がる。

底面 皿状である。

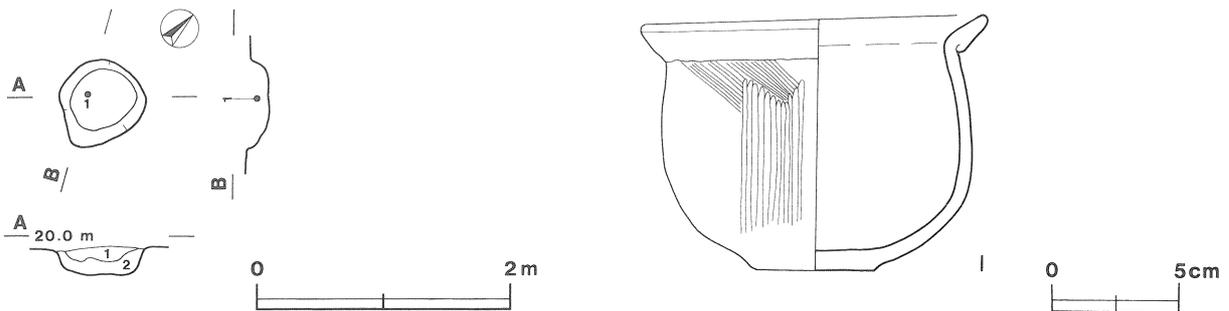
覆土 2層からなり、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 炭化粒子中量, 焼土粒子・ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量

遺物 土師器片2点が出土している。第459図1の土師器小形甕はほぼ完形で、覆土中層から逆位で出土している。

所見 本跡は、土器に刷毛目調整が施されていることなどから古墳時代前期と考えられる。



第459図 第129号土坑・出土遺物実測図

第129号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第459図 1	小形甕 土師器	A 13.5 B 10.2 C 4.6	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は折り返し口縁で、外反する。	口縁部内・外面ナデ。体部外面刷毛目調整後、ヘラ磨き。内部煤付着。	石英・長石・赤色粒子にぶい橙色普通	P533 100% 覆土中層

第137号土坑 (第460図)

位置 調査6区北西部, M14c3区。

重複関係 第179号住居跡を掘り込んでいることから、本跡が新しい。

規模と平面形 長径1.37m, 短径1.28mの円形である。

長径方向 N-83°-W

壁 深さは75cmで、外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

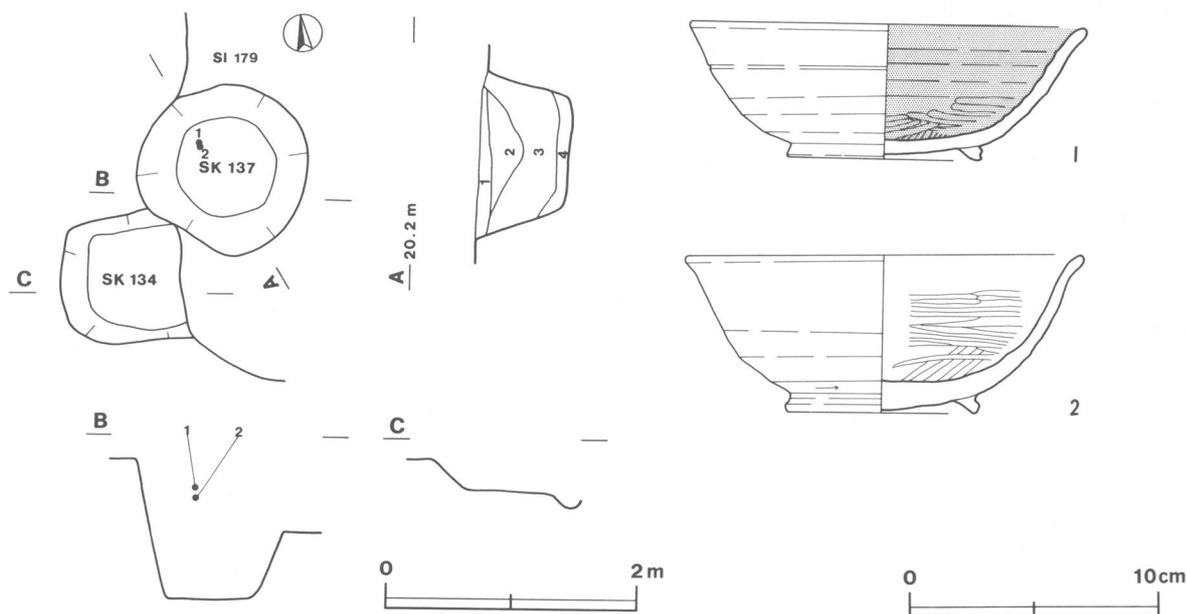
覆土 4層からなり、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒色 炭化粒子・ローム粒子・ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 黒色 炭化粒子多量, ローム粒子・ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量
- 3 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子・ローム中ブロック少量, 焼土粒子微量
- 4 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量

遺物 土師器片2点が出土している。第460図1の土師器高台付坏は、内面が黒色処理され、覆土上層から完形で出土している。2の土師器高台付碗は、覆土上層からほぼ完形で出土している。

所見 本跡は、出土遺物から平安時代の10世紀以降と考えられる。



第460図 第134・137号土坑・出土遺物実測図

第137号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第460図 1	高台付坏 土師器	A 15.6 B 5.5 D 7.6 E 0.6	体部は丸みをもって立ち上がり、口縁部に至る。高台は短く、ラップ状に開き、わずかに反る。	体部外面ロクロナデ。内面へラ磨き。内面黒色処理。高台貼り付け後、ナデ。	長石・雲母・赤色粒子 外面にぶい黄橙色 内面黒色 普通	P608 100% 覆土上層
2	高台付碗 土師器	A 15.6 B 6.5 D 7.4 E 0.8	口縁部一部欠損。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部はやや外反する。ハの字状に開く短い高台が付く。	内・外面ロクロナデ。体部下端回転へラ削り。体部内面へラ磨き。底部へラナデ後、高台貼り付け。	長石・雲母・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P609 95% 覆土上層

第144号土坑（第461図）

位置 調査6区中央部，M14io区。

重複関係 第205号住居跡が上部に構築されており，本跡が古い。

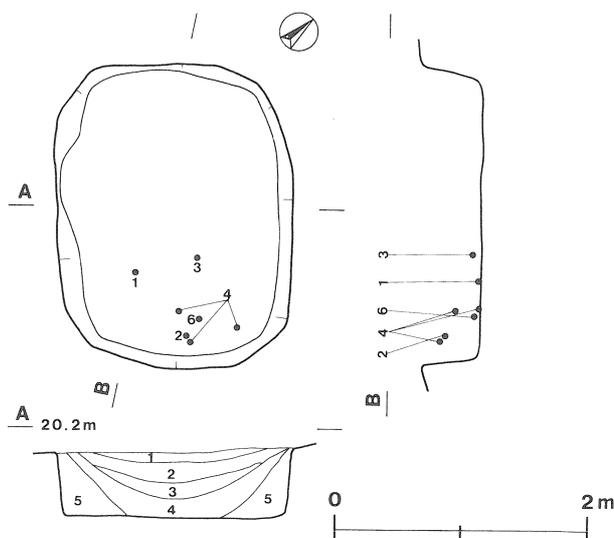
規模と平面形 長軸2.40m，短軸1.86mの長方形である。

長軸方向 N-51°-W

壁 深さは43~50cmで，外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 5層からなり，人為堆積と考えられる。



第461図 第144号土坑実測図

土層解説

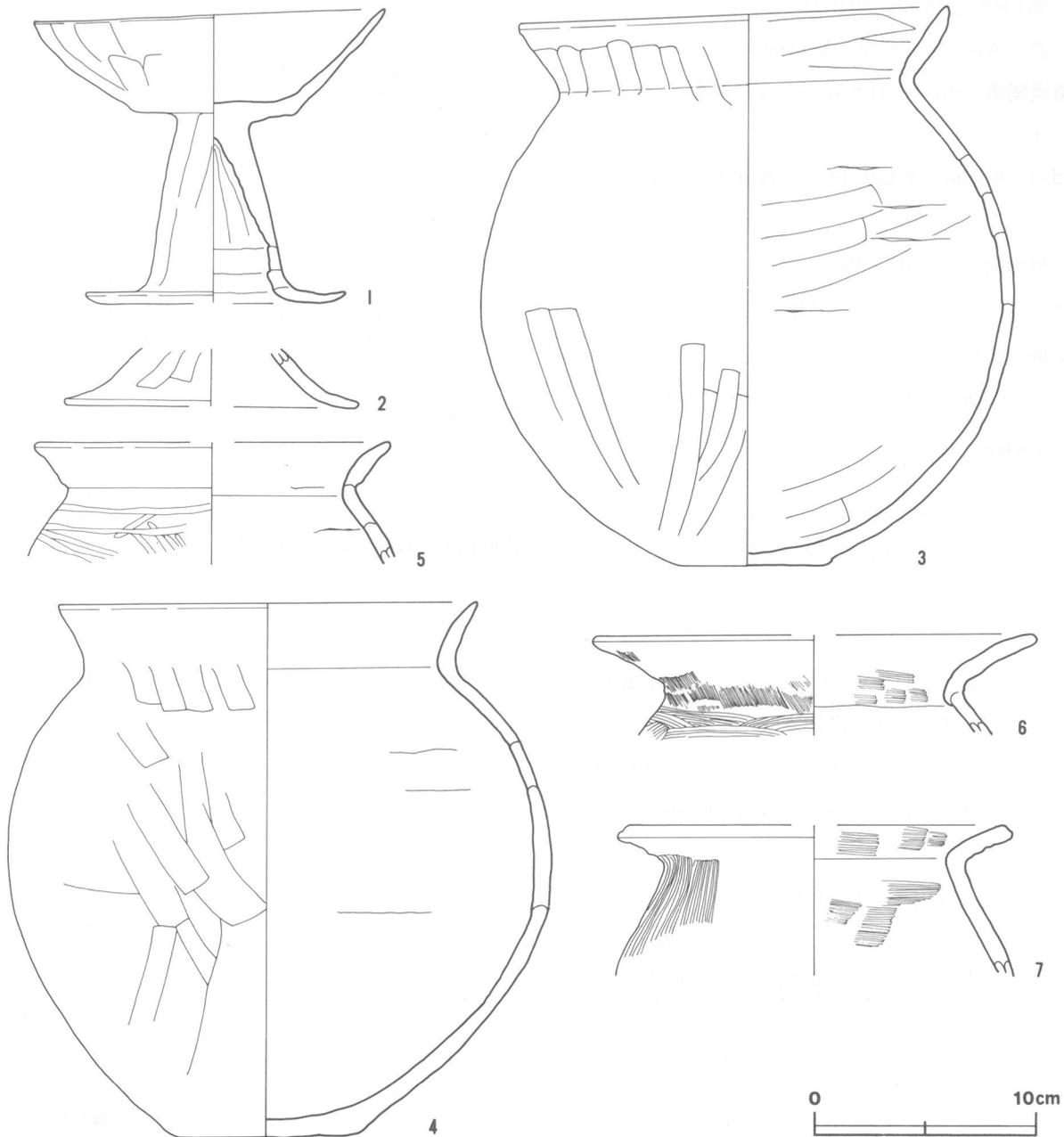
- 1 極暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
- 2 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子・ローム小ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量，炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量，炭化粒子・ローム中・小ブロック微量

遺物 土師器片118点が出土している。第462図1の土師器高坏は，床面から，2の土師器高坏は覆土中層から出土している。3の土師器甕は，覆土下層から出土している。4の土師器甕は，覆土中層から，5，7の土師器甕は，覆土中から出土している。6の土師器甕は，覆土下層から出土している。

所見 本跡は，出土遺物から古墳時代中期と考えられる。

第144号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第462図 1	高坏 土師器	A 15.7 B 13.3 D[11.7] E 8.6	脚部はエンタシス状の膨らみを持ち裾部はハの字状に強く開く。	坏部内面へラナデ。外面へラ削り。脚部外面へラ削り。裾部内面ナデ。外面へラ削り。	砂粒・赤色粒子 橙色 普通	P540 80% 床面
2	高坏 土師器	D[13.0] E(8.6)	裾部片。裾部は外に開く。	裾部外面へラ削り。	砂粒 明赤褐色 普通	P541 5% 覆土中層
3	甕 土師器	A 19.1 B 25.3 C 6.4	平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はくの字状に外反する。	口縁部内・外面へラナデ。外面へラ削り。輪積み痕。	砂粒・赤色粒子 浅黄橙色 普通	P542 80% 覆土下層
4	甕 土師器	A 18.6 B 24.0 C 7.4	体部・口縁部一部欠損。体部は内彎して立ち上がる。口縁部はくの字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面へラナデ。体部外面へラ削り。輪積み痕。	長石・赤色粒子 橙色 普通	P543 50% 覆土中層
5	甕 土師器	A[15.8] B(5.5)	体部から口縁部にかけての破片。口縁部はくの字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ磨き。	砂粒・赤色粒子 浅黄橙色 普通	P544 5% 覆土中
6	甕 土師器	A[19.6] B(4.5)	口縁部片。体部からくの字状に折れて口縁部で外反する。	口縁部内・外面刷毛目調整後，ナデ。体部外面刷毛目調整。	砂粒・赤色粒子 浅黄橙色 普通	P545 5% 覆土下層
7	甕 土師器	A[16.8] B(6.7)	体部から口縁部にかけての破片。体部からくの字状に折れて口縁部で外反する。	口縁部内面刷毛目調整。	砂粒・石英・長石・ 赤色粒子 にぶい赤褐色 普通	P546 5% 覆土中



第462図 第144号土坑出土遺物実測図

第145号土坑（第463図）

位置 調査6区中央部，M14e7区。

重複関係 第198号住居跡・第14号溝・第1号大形竪穴状遺構を掘り込んでいることから，本跡が新しい。

規模と平面形 長径[1.90]m，短径1.80mの楕円形である。

長径方向 [N-42°-W]

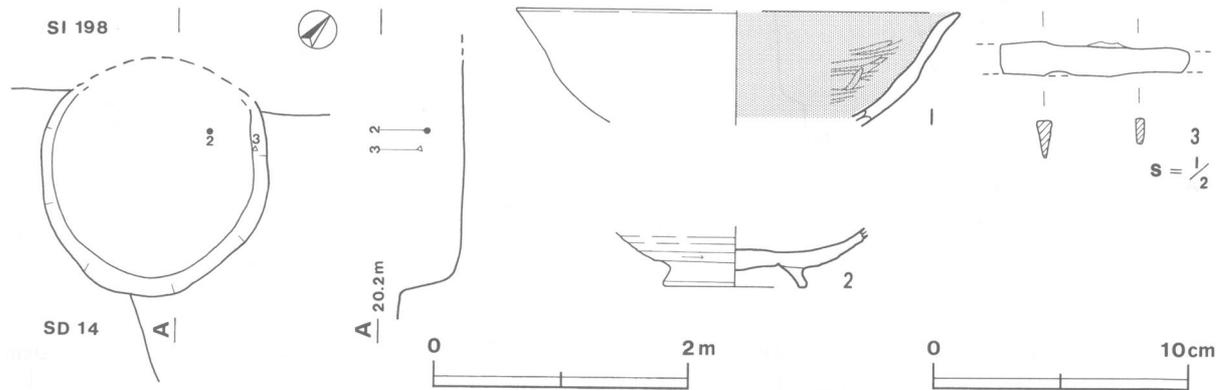
壁 深さは48cmで，外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

遺物 土師器片51点，須恵器片5点，鉄鏝1点が出土している。第463図1の土師器坏は，内面が黒色処理され，覆土中から出土している。2の土師器高台付坏は，覆土中層から出土している。3の鉄鏝は，覆土中層か

ら出土している。

所見 本跡は、出土遺物から平安時代と考えられる。



第463図 第145号土坑・出土遺物実測図

第145号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第463図 1	坏 土師器	A [17.4] B (4.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾し、口縁部に至る。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部内面へラ磨き。内面黒色処理。	砂粒 外面黄橙色 内面黒色 普通	P547 5% 覆土中
2	高台付坏 土師器	B (2.4) D 5.5 E 0.9	底部から体部にかけての破片。高台は、ハの字状に開く。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転へラ削り。底部回転へラ削り後、高台貼り付け。	砂粒・赤色粒子・雲母 橙色 普通	P548 40% 覆土中層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
3	鉄 鍬	(5.0)	0.9	0.4	(4.18)	覆土中層	M55

第208号土坑 (第464図)

位置 調査6区中央部, M14j6区。

規模と平面形 長軸1.94m, 短軸1.35mの不整長方形である。

長軸方向 N-90°-W

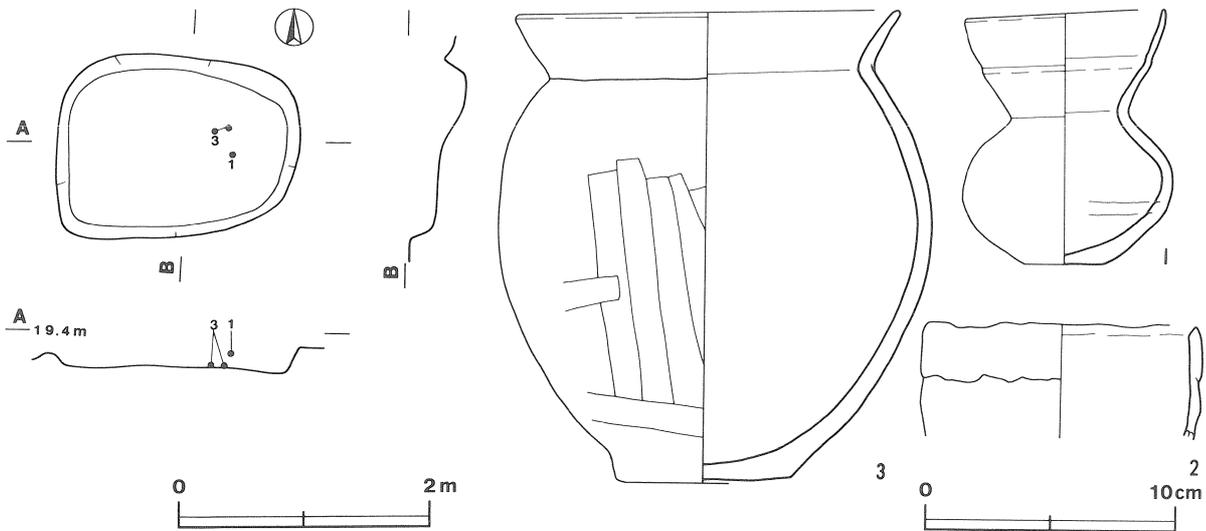
壁 深さは10~22cmで、外傾して立ち上がる。

底面 凹凸である。

遺物 土師器片7点, 須恵器片2点が出土している。第464図1の土師器埴は、覆土中層から出土している。

2の土師器甑は、覆土中から出土している。3の土師器甕は、覆土下層から出土している。

所見 本跡は、出土遺物から古墳時代前期と考えられる。



第464図 第208号土坑・出土遺物実測図

第208号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第464 1	埴 土師器	A 7.9 B 10.3	平底。体部は扁平気味であり、内彎して立ち上がり、口縁部は中位に稜を有し、やや内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。輪積み痕。底部外面ヘラ削り。	砂粒・長石 浅黄橙色 普通	P564 95% 覆土中層
2	甑 土師器	A 10.6 B (4.1)	体部から口縁部にかけての破片。体部は直線的に立ち上がる。口縁部は二重に折り返している。	口縁部外面ナデ。	砂粒・長石・小礫 にぶい橙色 普通	P565 20% 覆土中
3	甕 土師器	A 15.2 B 19.5 C 7.0	体部一部欠損。体部は内彎して立ち上がる。口縁部でくの字状に折れて外反して立ち上がる。口縁部は折り返している。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。	砂粒・長石・小礫 にぶい赤褐色 普通 二次焼成	P566 90% 覆土下層

第215号土坑 (第465図)

位置 調査6区中央部, L14j7区。

規模と平面形 長径1.36m, 短径0.88mの楕円形である。

長径方向 N-41°-W

壁 深さは10cmで、外傾して立ち上がる。

底面 凹凸である。

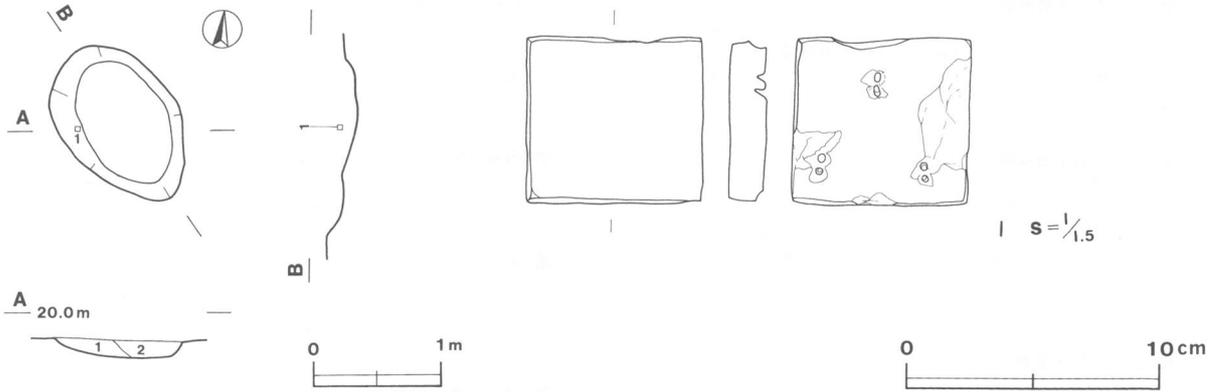
覆土 2層からなり、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量・炭化粒子微量

遺物 石製品1点が出土している。第465図1の石鏝(巡方)は、覆土上層から出土している。

所見 本跡は、出土遺物の石鏝が、平安時代初頭頃のものと考えられる。詳細な時期は不明である。



第465図 第215号土坑・出土遺物実測図

第215号土坑出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第465図 22	石鈔(巡方)	3.3	3.5	0.7	19.0	覆土上層	Q37 粘板岩 裏面には2か所1組のもぐり穴が、3か所穿けられている。

第130号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, ローム少ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量, 炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子多量
- 4 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
- 5 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 6 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
- 7 暗褐色 ローム粒子・ローム中ブロック中量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

第132号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

第133号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子少量, ローム中・小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック中量, ローム中・小ブロック微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・ローム小ブロック微量

第140号土坑土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム中・小ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第141号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量, ローム粒子・ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中・小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 極暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

第143号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・ローム中・小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム大・中ブロック少量, ローム粒子微量
- 3 黒褐色 炭化物・ローム中ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中・小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 5 極暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子微量

第146号土坑土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子極微量
- 2 褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
- 4 褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量

第147号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子極微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子・ローム中ブロック微量, 炭化物極微量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, ローム大・中ブロック微量
- 4 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土粒子微量, ローム小ブロック極微量
- 5 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量

第148号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子極微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量, 炭化粒子極微量
- 3 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量

第150号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量, 炭化粒子極微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック微量, 焼土粒子極微量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量
- 4 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量

第151号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量, 焼土粒子極微量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量

第152号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量
- 2 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, ローム大ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック少量

第153号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック多量, ローム中ブロック中量, ローム大ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量

第154号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・粘土小ブロック微量, 炭化粒子極微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量, 焼土粒子極微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量

第157号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック極微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック極微量

第158号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 炭化粒子微量, ローム小ブロック極微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量

第159号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量

第160号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第161号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子多量, ローム中・小ブロック中量
- 2 黒褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック微量

第162号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量, ローム大ブロック中量, ローム粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム大・中ブロック中量, ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量

第163号土坑土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム粒子少量, ローム中・小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム大ブロック微量

第164号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化物・ローム中ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中・小ブロック少量, 炭化粒子微量

第165号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子多量, ローム大ブロック少量

第166号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子極微量
- 2 褐色 ローム粒子多量
- 3 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量

第169号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子極微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, ローム大・中ブロック微量
- 4 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土粒子微量, ローム小ブロック極微量
- 5 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量

第170号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子極微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量, 炭化粒子極微量
- 3 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

第171号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量, 炭化粒子極微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック微量, 焼土粒子極微量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量
- 4 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量

第172号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量, 焼土粒子極微量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量

第173号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子微量

第174号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子微量

第175号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子少量

第176号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子多量, ローム中・小ブロック中量
- 2 黒褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック微量

第177号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子多量, ローム大ブロック中量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム大・中ブロック中量

第178号土坑土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム粒子少量, ローム中・小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム大ブロック微量

第179号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化物・ローム中ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中・小ブロック少量, 炭化粒子微量

第180号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子多量, ローム大ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム大・中・小ブロック・ローム粒子多量

第181号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子極微量
- 2 褐色 ローム粒子多量
- 3 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土粒子微量, ローム小ブロック極微量
- 5 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
- 6 暗褐色 ローム大・中・小ブロック・ローム粒子多量

第182号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子極微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子・ローム中ブロック・炭化物微量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, ローム大・中ブロック微量

第183号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子極微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量, 炭化粒子極微量
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量

第184号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量, 炭化粒子極微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック微量, 焼土粒子極微量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量
- 4 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

第209号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子極微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子・ローム中ブロック・炭化物微量

第210号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子極微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量, 炭化粒子極微量
- 3 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量

第212号土坑土層解説

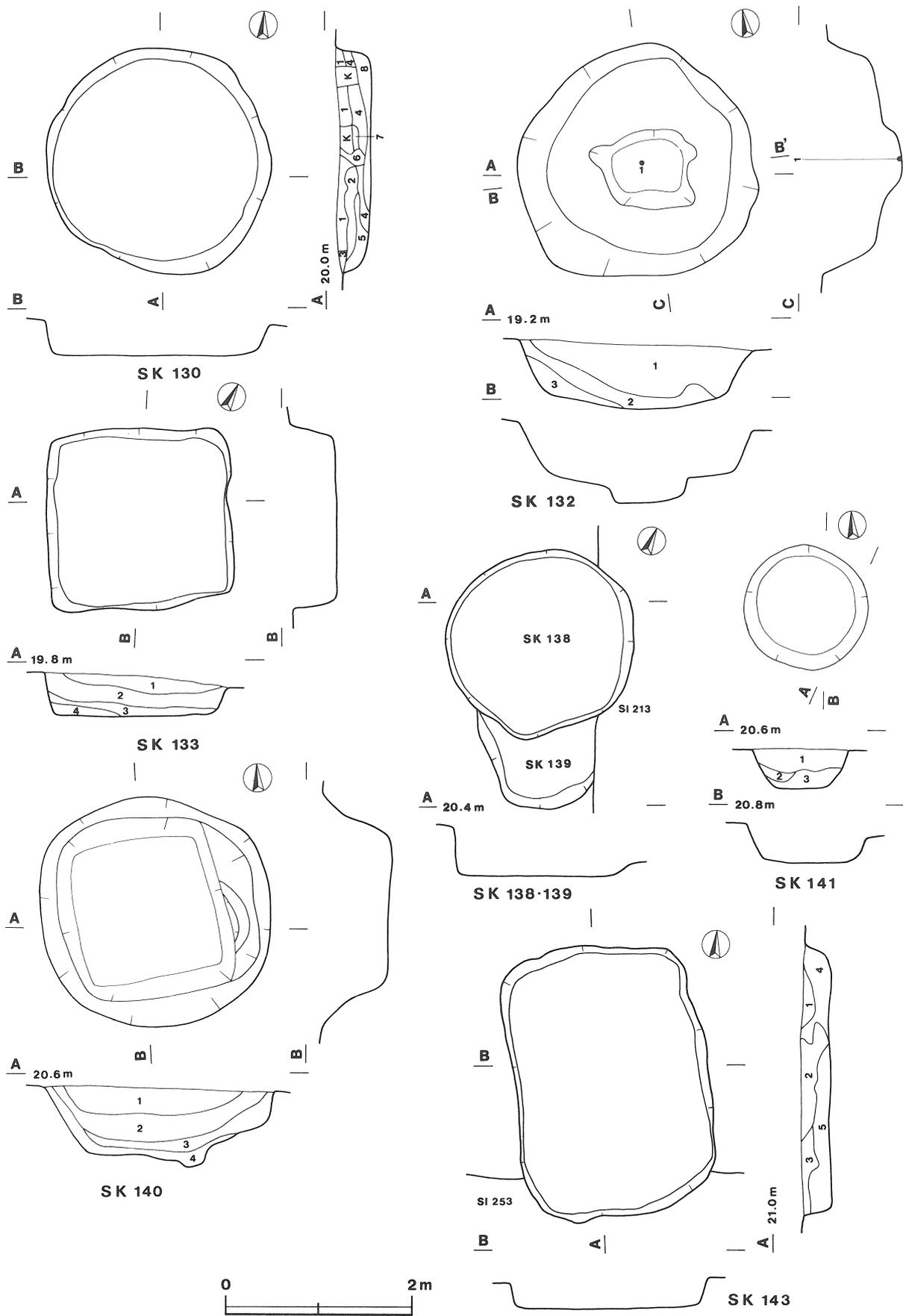
- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量, 炭化粒子極微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック微量, 焼土粒子極微量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量

第213号土坑土層解説

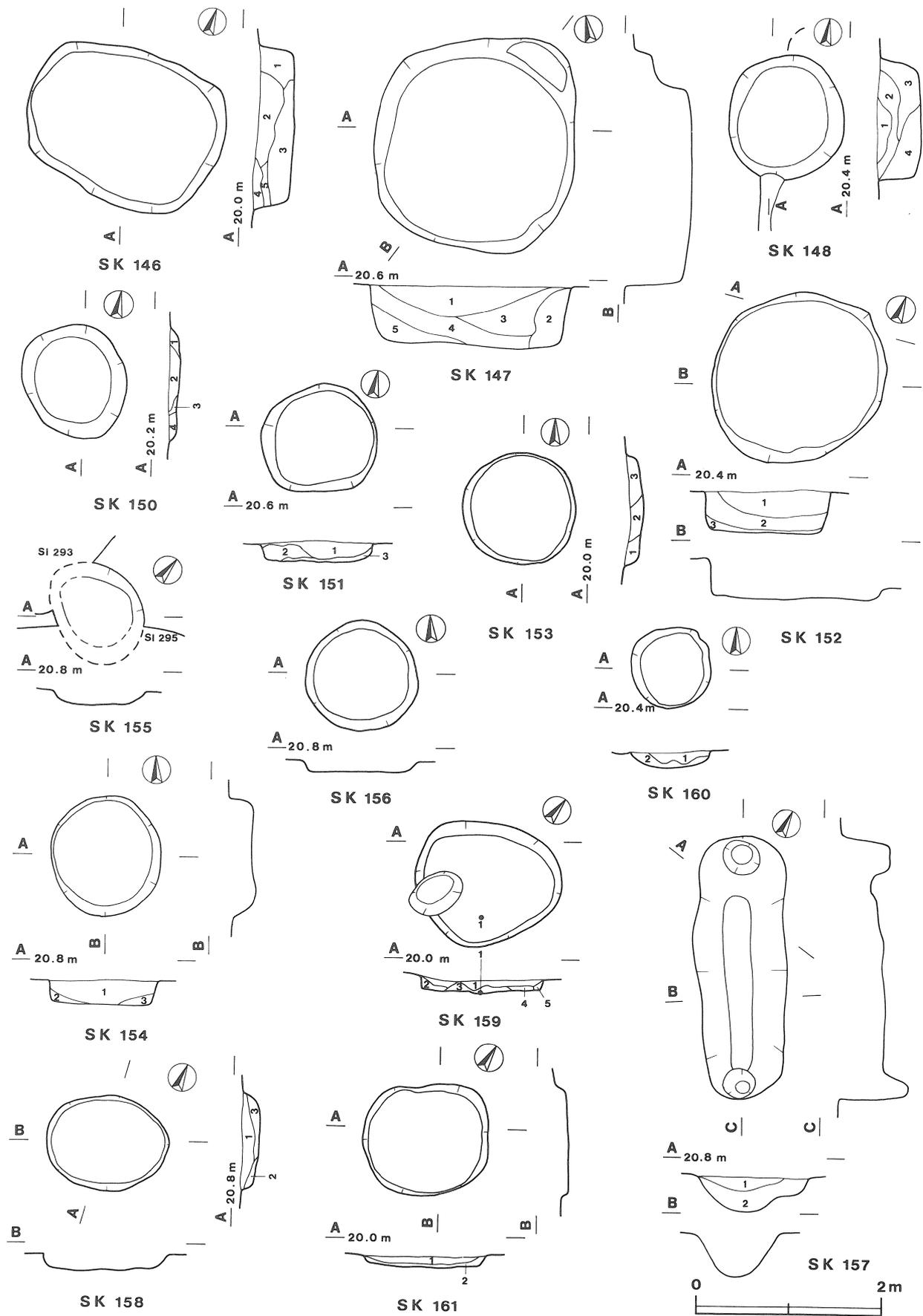
- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量, 焼土粒子極微量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量

第214号土坑土層解説

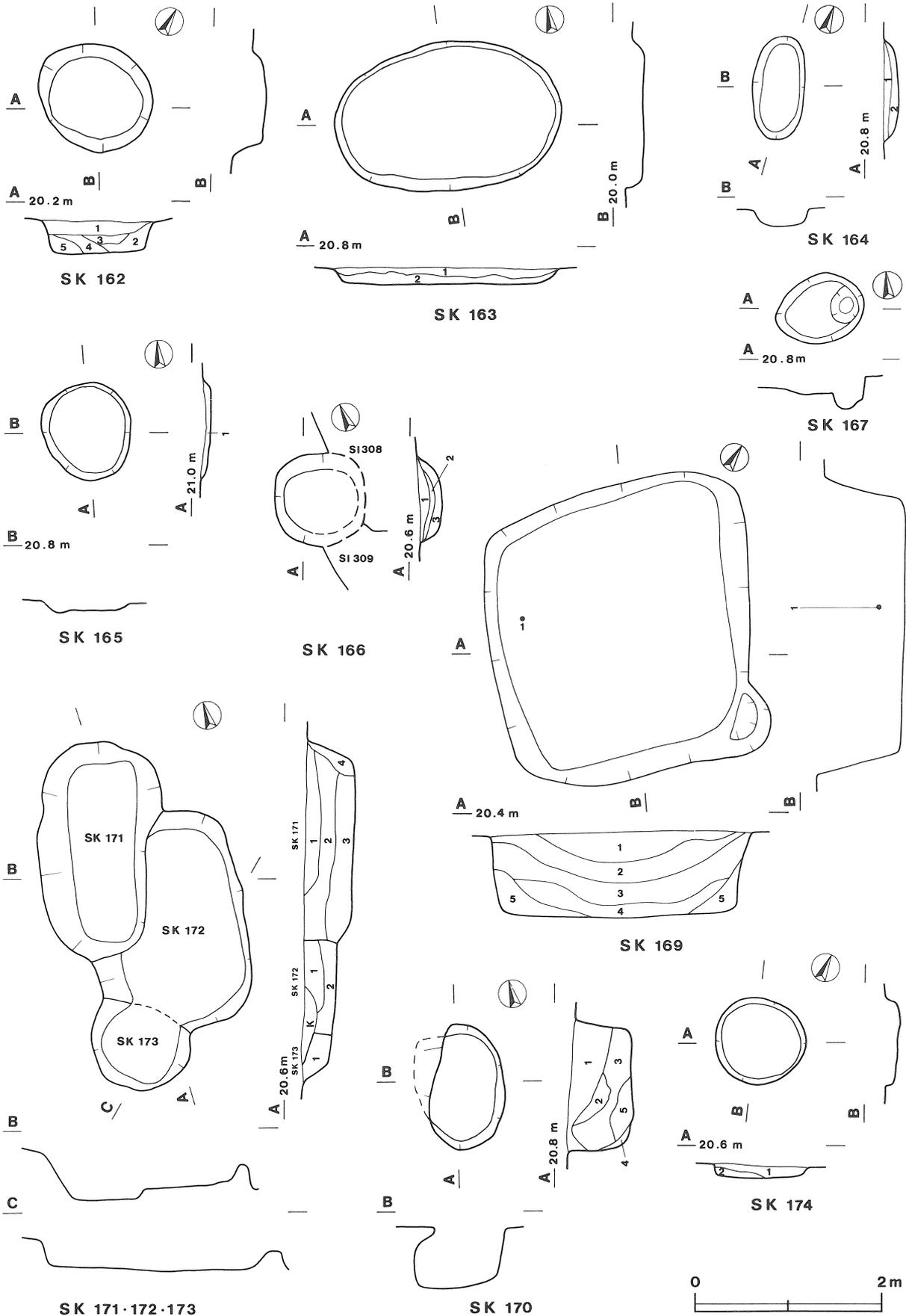
- 1 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土粒子微量, ローム小ブロック極微量



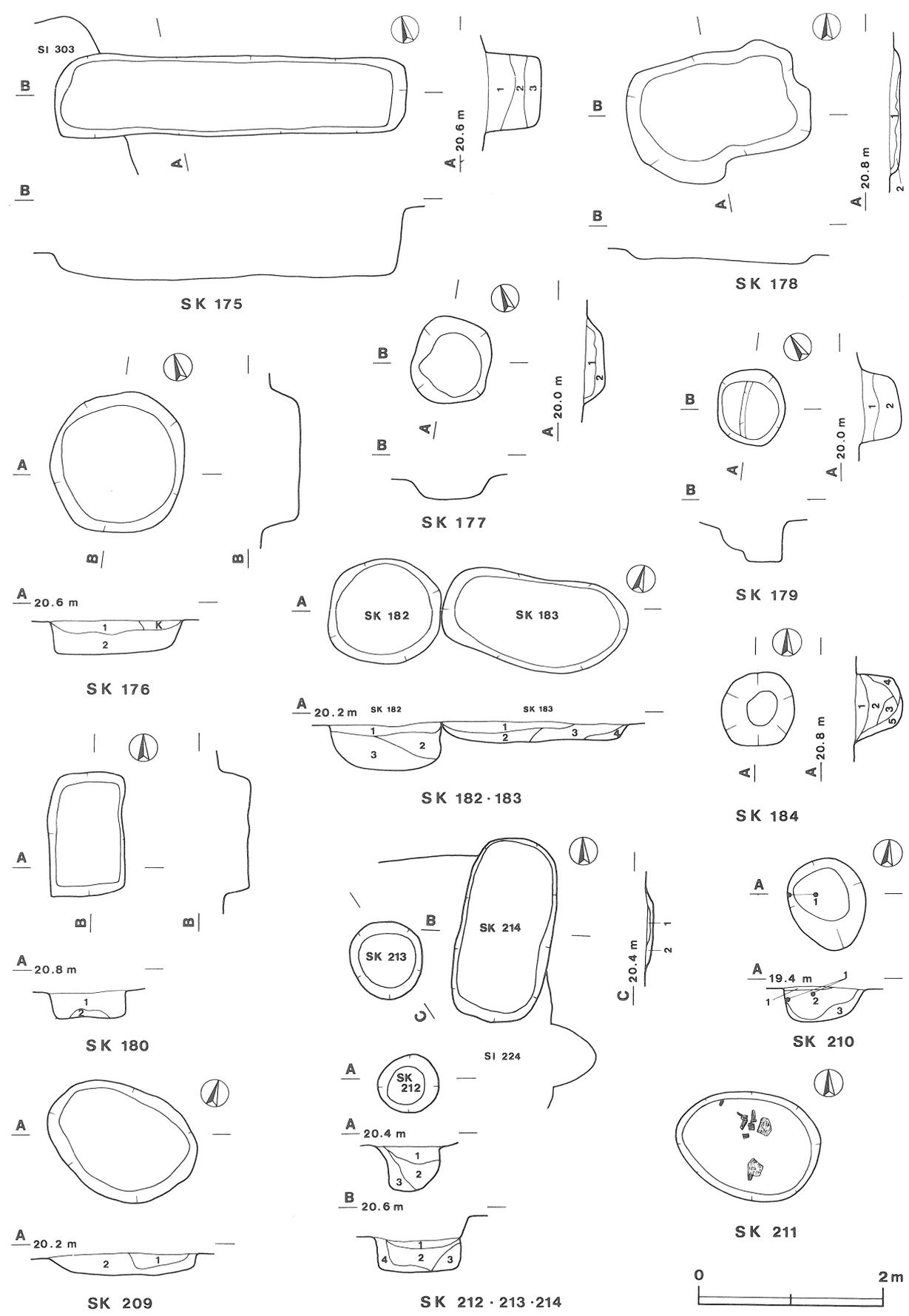
第466图 6区土坑实测图(1)



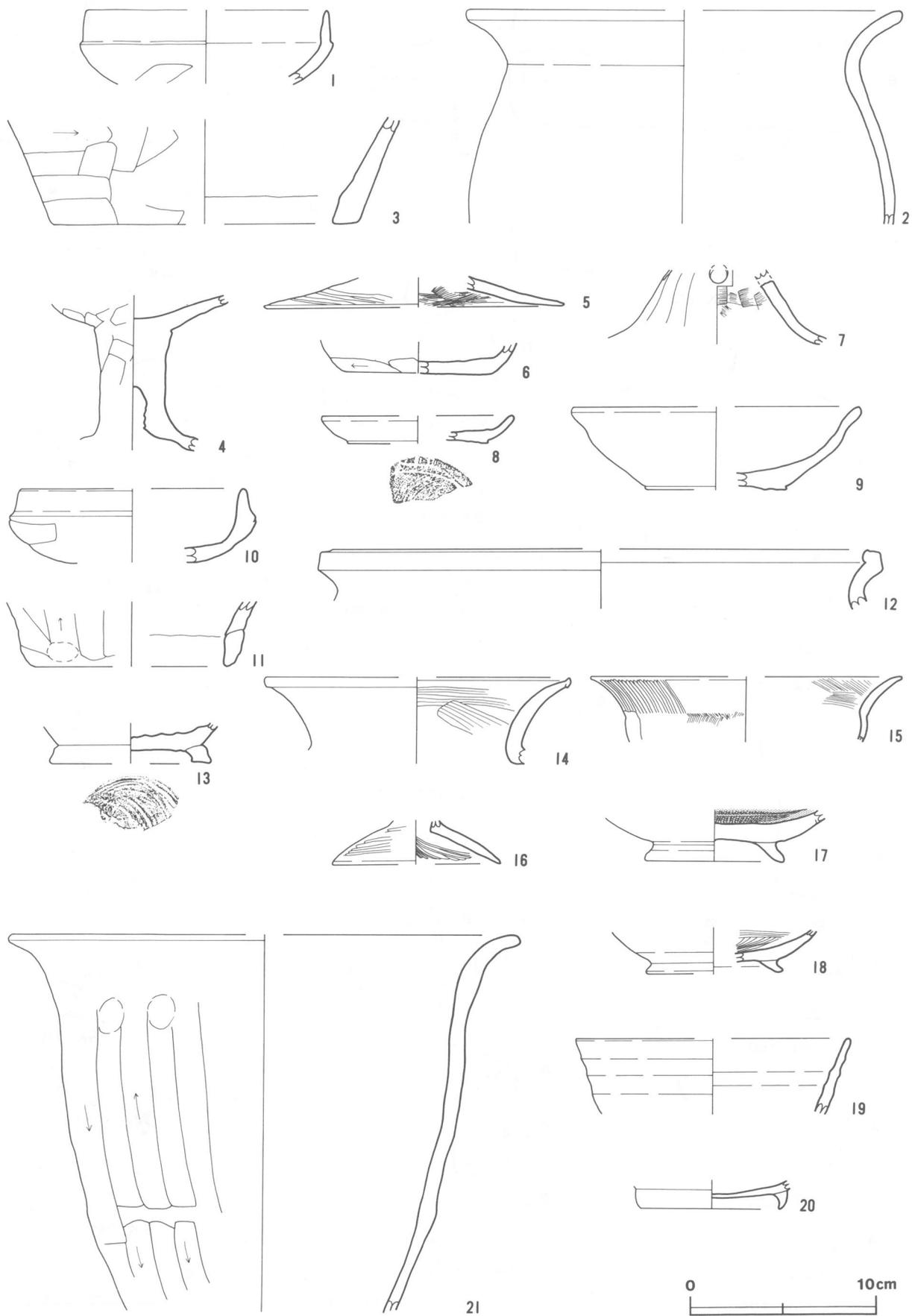
第467图 6区土坑实测图(2)



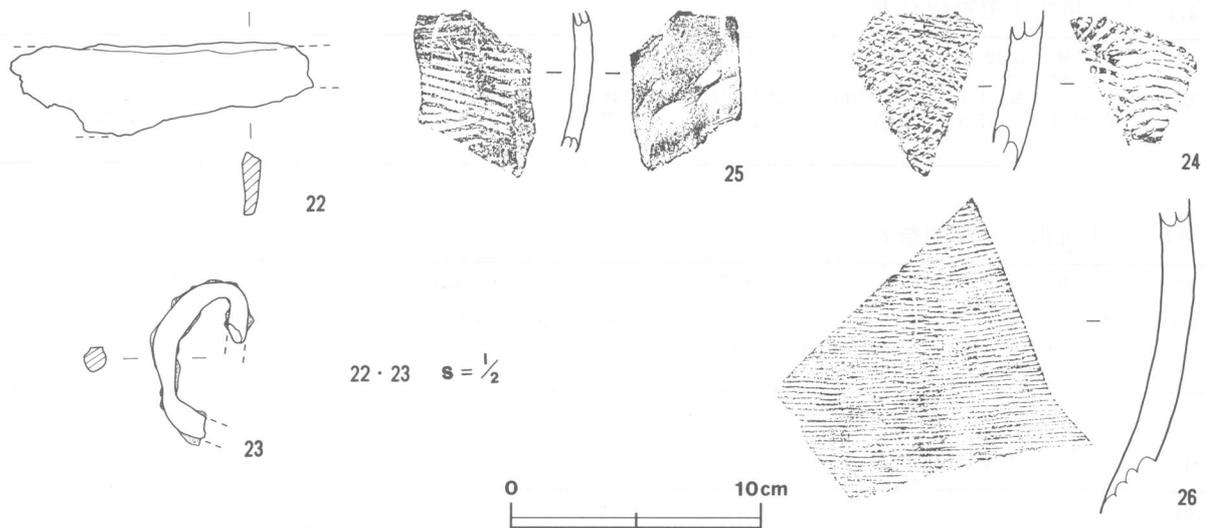
第468图 6区土坑实测图(3)



第469图 6区土坑实测图(4)



第470图 6区土坑出土遺物实测图(1)



第471図 6区土坑出土遺物実測図(2)

第131号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第470図 1	坏 土師器	A[12.8] B(4.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部と口縁部の境に段を有する。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。	石英・長石・雲母にぶい黄橙色 普通	P534 5% 覆土中

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第471図22	鎌	(8.0)	1.5	0.6	(20.0)	覆土中	M54

第132号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第470図 2	甕 土師器	A[23.0] B(10.1)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はくの字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。	石英・長石・雲母・赤色粒子 明赤褐色 普通	P535 5% 覆土下層

第134号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第470図 3	甌 須恵器	B(5.7) C[16.4]	底部から体部下半の破片。体部は直線的に立ち上がる。	体部下端部へラ削り。体部内面クロナデ。	石英・長石・雲母 灰色 普通	P611 5% 覆土中

26は須恵器の体部片で、外面に平行叩きが施されている。

第140号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第470図 4	高坏 土師器	B(8.4)	脚部片。脚部はやや内傾し、裾部は外に開く。坏部は外傾して立ち上がる。	脚部外面へラ削り後、ナデ。	砂粒・赤色粒子にぶい橙色 普通	P536 5% 覆土中
5	高坏 土師器	E(1.6) D[16.6]	脚部片。脚部はラッパ状に緩やかに開く。	脚部外面へラ磨き。内面刷毛目調整。	砂粒・長石 明赤褐色 普通	P537 5% 覆土中

第141号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第470図 6	坏 須恵器	B(1.7) C[7.8]	底部から体部にかけての破片。体部は直線的に立ち上がる。	体部下端手持ちヘラ削り。底部一方のヘラナデ。	砂粒・長石・雲母 黄灰色 普通	P539 5% 覆土中

第147号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第470図 7	器台 土師器	E(4.0)	脚部片。脚部はラッパ状に下方に開く。4か所に透かし孔をもつ。	脚部内面刷毛目調整。脚部外面ナデ。	砂粒・赤色粒子 橙色 普通	P549 5% 覆土中

第154号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第470図 8	小皿 土師器	A[10.2] B 1.5 C[7.6]	底部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部にいたる。	内・外面ロクロナデ。底部回転系切り。	砂粒・赤色粒子 明赤褐色 普通	P550 5% 覆土中

第156号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第470図 9	坏 土師器	A[15.3] B 4.5 C[7.6]	底部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部にいたる。	内・外面ロクロナデ。底部回転系切り後、無調整。	砂粒・赤色粒子 淡橙色 普通	P551 10% 覆土中

24は須恵器甕の体部片で、外面に格子目状の叩きが施され、内面に同心円状の当て具痕が残されている。

第159号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第470図 10	坏 土師器	A[11.8] B(4.0)	体部から口縁部にかけての破片。口縁部の境に稜をもち、口縁部は直立する。	体部内・外面横ナデ。	砂粒・赤色粒子 黒褐色 普通	P552 20% 覆土中
11	甕 土師器	B(3.5) C[10.2]	体部破片。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り。体部外面下端に指頭押圧。輪積み痕。	砂粒 にぶい褐色 普通	P553 5% 覆土中

第163号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第470図 12	甕 須恵器	A[28.6] B(3.2)	体部上位から口縁部の破片。体部は外方に開きながら立ち上がる。口縁端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母 灰色 普通	P554 5% 覆土中
13	長頸瓶 須恵器	B(2.2) D[8.4] E 1.0	高台部片。高台はハの字状に開く。	体部外面ロクロナデ。底部回転系切り後、高台貼り付け。高台に自然釉付着。	砂粒・赤色粒子 褐灰色 普通	P555 5% 覆土中

第167号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第470図 14	壺 土師器	A[16.2] B(4.7)	口縁部片。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部外面ナデ。口縁部内面刷毛目調整。	砂粒・長石・赤色粒子 橙色 普通	P556 5% 覆土中
15	甕 土師器	A[16.6] B(3.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部で外反する。	口縁部内面刷毛目調整。口縁部外面ヘラ磨き。体部外面刷毛目調整後、ヘラ削り。	砂粒 明赤褐色 普通	P557 5% 覆土中

第169号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第470図 16	器台 土師器	E(2.4) D[9.0]	脚部片。脚部はラッパ状に下方に開く。1か所に孔をもつ。	脚部内・外面へラ磨き。	砂粒・長石・赤色粒子 橙色 普通	P558 20% 覆土下層

第172号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第470図 17	高台付坏 土師器	B(2.8) D 7.6 E 1.1	高台部から体部にかけての破片。ハの字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部・体部内面へラ磨き。内面黒色処理。高台部貼り付け。	砂粒・長石 褐灰色 普通	P559 20% 覆土中
18	高台付坏 土師器	B(2.5) D[7.6] E 0.7	高台部から体部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。高台はハの字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。体部内面へラ磨き。高台部貼り付け。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P560 20% 覆土中

第174号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第470図 19	坏 須恵器	A[14.6] B(4.1)	体部から口縁部にかけての破片。体部は緩やかに直線的に開きながら立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・長石・雲母・赤色粒子 にぶい赤褐色 普通	P561 5% 覆土中

第178号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第470図 20	高台付坏 灰釉陶器	B(1.6) D 7.6 E 1.1	高台部片。高台は、内彎気味にふんばる。	底部内面ロクロナデ。高台部貼り付け。	砂粒・長石 黄灰色 普通	P563 10% 覆土中

25は須恵器甕の体部片で、外面に平行叩き、内面に当て具痕が見られる。

第182号土坑出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第471図23	不明鉄製品	(4.5)	0.7	0.6	(8.4)	覆土中	M56

第210号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第470図 21	甕 土師器	A[27.0] B(20.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は緩やかに内彎して立ち上がり、口縁部で外反する。	口縁部内・外面ナデ。体部外面へラ削り。体部外面に指頭押圧。	砂粒・石英・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P567 20% 覆土上層

表5 熊の山遺跡6区土坑一覧表

土坑番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な遺物	備考 新旧関係(古→新)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
129	L14i9	N-7°-E	不整円形	0.72 × 0.65	33	外傾	皿状	自然	土師器(甕)	
130	L14j7		円形	2.42 × 2.42	37	外傾	平坦	人為	土師器片40	
131	L15d3	N-0°	長方形	2.36 × 1.00	42	外傾	平坦	人為	土師器(坏)鎌	本跡→SI158
132	M15b7		円形	2.50 × 2.50	90	外傾	凹凸	自然	土師器(甕)	
133	L15h1	N-30°-W	方形	1.98 × 1.98	48	外傾	平坦	自然		SI166, 167→本跡
134	M14c3	N-0°	長方形	[0.95] × 1.04	24	外傾	平坦	自然	須恵器(甕)	本跡→SI179

土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	主 な 遺 物	備 考 新旧関係 (古→新)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
136	M14b6	N-0°	長方形	1.38 × (0.75)	26	緩斜	平坦	自然	土師器片26	SI197→本跡
137	M14c3		円形	1.37 × 1.28	110	外傾	平坦	人為	土師器 (高台付坏, 高台付碗)	SI179→本跡
138	M14i7		円形	2.00 × 1.98	53	外傾	平坦	自然		SI213, SK139→本跡
139	M14i7	N-0°	不整形	1.05 × (1.20)	32	外傾	平坦	不明		SI213, SK138→本跡
140	N14e7		円形	2.44 × 2.44	72	外傾	平坦	自然	土師器 (高坏)	
141	N14f4		円形	1.34 × 1.33	39	外傾	平坦	自然	須惠器 (坏)	
142	N14f6		円形	2.02 × 2.00	62	緩斜	平坦	自然		
143	N14g5	N-8° -E	隅丸長方形	2.95 × 2.05	20	外傾	平坦	人為		SI233→本跡
144	M14i0	N-51° -W	長方形	2.40 × 1.86	50	外傾	平坦	自然	土師器片118	本跡→SI205
145	M14e7	[N-42° -W]	楕円形	[1.90] × 1.80	48	緩斜	平坦	自然	土師器 (坏, 高台付坏) 鉄鏝	SI198, 大形1, SD14→本跡
146	M14e4	N-0°	隅丸長方形	2.16 × 1.68	22	外傾	平坦	人為	土師器片55 須惠器片4 鉄1	SI263, 267→本跡
147	N14c6	N-27° -E	隅丸方形	2.25 × 2.16	65	外傾	平坦	自然	土師器 (器台)	
148	M14i5		円形	1.35 × 1.28	69	垂直	平坦	人為	土師器片22 須惠器片4	SI271→本跡
149	M14j5		円形	0.86 × 0.80	30	緩斜	平坦	自然		
150	M14h5	N-31° -W	楕円形	1.26 × 1.04	10	緩斜	平坦	人為		SI277→本跡
151	M14i2	N-20° -W	楕円形	1.24 × 1.16	17	緩斜	平坦	自然	土師器片6	SI278→本跡
152	M14g2	N-33° -W	楕円形	1.92 × 1.78	40	垂直	平坦	自然	土師器片21 須惠器片4	SI283→本跡
153	M14c5		円形	1.23 × 1.21	14	緩斜	平坦	人為	土師器片15 須惠器片1	SI198→本跡
154	N14c3		円形	1.28 × 1.17	26	外傾	平坦	自然	土師器 (小皿)	
155	N14c2	N-0°	楕円形	[1.20] × 0.92	15	外傾	平坦	不明		SI293, 295→本跡
156	N14i5		円形	1.18 × 1.18	12	緩斜	平坦	人為	土師器 (坏)	
157	N14j3	N-29° -W	楕円形	2.83 × 0.94	48	緩斜	凹凸	自然	土師器片16 須惠器片2	
158	N13a9	N-110° -W	楕円形	1.32 × 1.03	15	外傾	平坦	自然		
159	M15f2	N-42° -E	楕円形	1.58 × 1.38	13	外傾	凹凸	人為	土師器 (坏, 甗)	SI259→本跡
160	M14e8		円形	0.88 × 0.87	32	緩斜	平坦	自然	土師器片19 須惠器片1	SI260→本跡
161	M14e5	N-33° -W	楕円形	1.36 × 1.20	10	外傾	平坦	自然	土師器片10	SI263, 267→本跡
162	M14f5	N-3° -E	楕円形	1.28 × 1.10	30	外傾	平坦	人為	土師器片9 須惠器片1	SI267→本跡
163	M14a2	N-88° -W	楕円形	2.42 × 1.60	19	外傾	平坦	自然	須惠器 (甗, 長頸瓶)	
164	M14a2	N-12° -E	楕円形	1.09 × 0.54	16	緩斜	平坦	自然	須惠器片1	
165	M14i4	N-0°	楕円形	1.03 × 0.96	33	緩斜	凹凸	自然		SI284
166	N13c8		円形	1.02 × 1.02	22	外傾	平坦	自然	土師器片23 須惠器片2	SI308, 309→本跡
167	N13e8	N-30° -W	楕円形	0.88 × 0.66	20	外傾	凹凸	不明	土師器 (壺, 甗)	SI310→本跡
169	M13g9	N-46° -W	方形	3.10 × 2.90	92	外傾	平坦	自然	土師器 (器台)	SI321, 322→本跡
170	N13f9	N-7° -E	長方形	1.36 × 0.78	67	外傾	平坦	人為	土師器片10 須惠器片6	
171	N14a7	N-15° -E	長方形	2.30 × 1.32	72	外傾	平坦	自然		
172	N14a7	N-11° -E	長方形	2.35 × 1.70	43	垂直	平坦	自然	土師器 (高台付坏)	
173	N14a7		円形	1.10 × 1.08	28	外傾	平坦	自然		
174	M14g2		円形	0.96 × 0.94	16	外傾	凹凸	自然	須惠器 (坏)	
175	N14b1	N-18° -E	長方形	3.80 × 0.86	72	垂直	平坦	自然	土師器片12 須惠器片8	SI303→本跡
176	M14j3		円形	1.51 × 1.45	40	外傾	平坦	人為		
177	L14h6		円形	0.94 × 0.94	24	緩斜	平坦	人為	土師器片1	
178	O13g9	N-75° -E	不整形	2.00 × 1.18	10	緩斜	平坦	人為	灰釉陶器 (高台付坏)	
179	L14h6		円形	0.81 × 0.74	43	外傾	平坦	人為	土師器片21	
180	N13f7	N-0°	長方形	1.37 × 0.81	33	垂直	平坦	人為		
181	O14h1	N-57° -E	楕円形	(2.75) × 2.36	188	外傾	凹凸	人為	土師器片4	大形3→本跡
182	M14e8		円形	1.21 × 1.14	52	外傾	平坦	自然	不明鉄製品	SK183→本跡

土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	主 な 遺 物	備 考 新旧関係 (古→新)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
183	M14e8	N-94° -W	楕円形	1.98 × 0.96	21	緩斜	平坦	自然	土師器片13 須恵器片3	SK182→本跡
184	N13h7		円形	0.78 × 0.78	62	外傾	凹凸	人為		SI258→本跡
208	M14j6	N-90° -W	不整長方形	1.94 × 1.35	20	外傾	凹凸	人為	土師器(埴, 甑, 甕)	
209	M14f8	N-67° -W	楕円形	1.62 × 1.18	14	外傾	平坦	人為	土師器片26 須恵器片8	
210	L15i5	N-0°	楕円形	1.01 × 0.86	36	外傾	平坦	不明	土師器(甑)	SI201,204→本跡
211	M14f7	N-70° -W	楕円形	1.51 × 1.14	30	緩斜	平坦	人為		
212	M14b5		円形	0.66 × 0.64	73	外傾	平坦	自然		SI224→本跡
213	M14b5		円形	0.85 × 0.79	30	緩斜	平坦	人為	土師器片3	SI224→本跡
214	M14b5	N-14° -E	隅丸長方形	2.02 × 1.00	58	外傾	平坦	自然		SI224→本跡
215	L14j7	N-41° -W	楕円形	1.36 × 0.88	10	緩斜	凹凸	人為	石製品(石鈔)	

(4) 大形堅穴状遺構

調査6区において、大形堅穴状遺構3基を検出した。大形堅穴状遺構(円形有段遺構)は、茨城県南部から千葉県北部、栃木県中央部にかけて検出される例が多く、これまで「井戸または井戸状遺構」として報告されてきた。当初、井戸として調査してきたが、ここでは「大形堅穴状遺構」という名称で扱うことにする。以下、その特徴と出土遺物について記載する。

第1号大形堅穴状遺構(第472図)

位置 調査6区中央部, M14e7区。

規模と形状 掘り方の上面は長径2.82m, 短径2.52mの楕円形である。断面形は漏斗状で、確認面から1.10mの深さの所に段をもつ。底面は平坦である。深さは確認面から1.35mであり、底面径は0.75~1.05mである。

覆土 8層からなり、自然堆積と考えられる。

土層解説

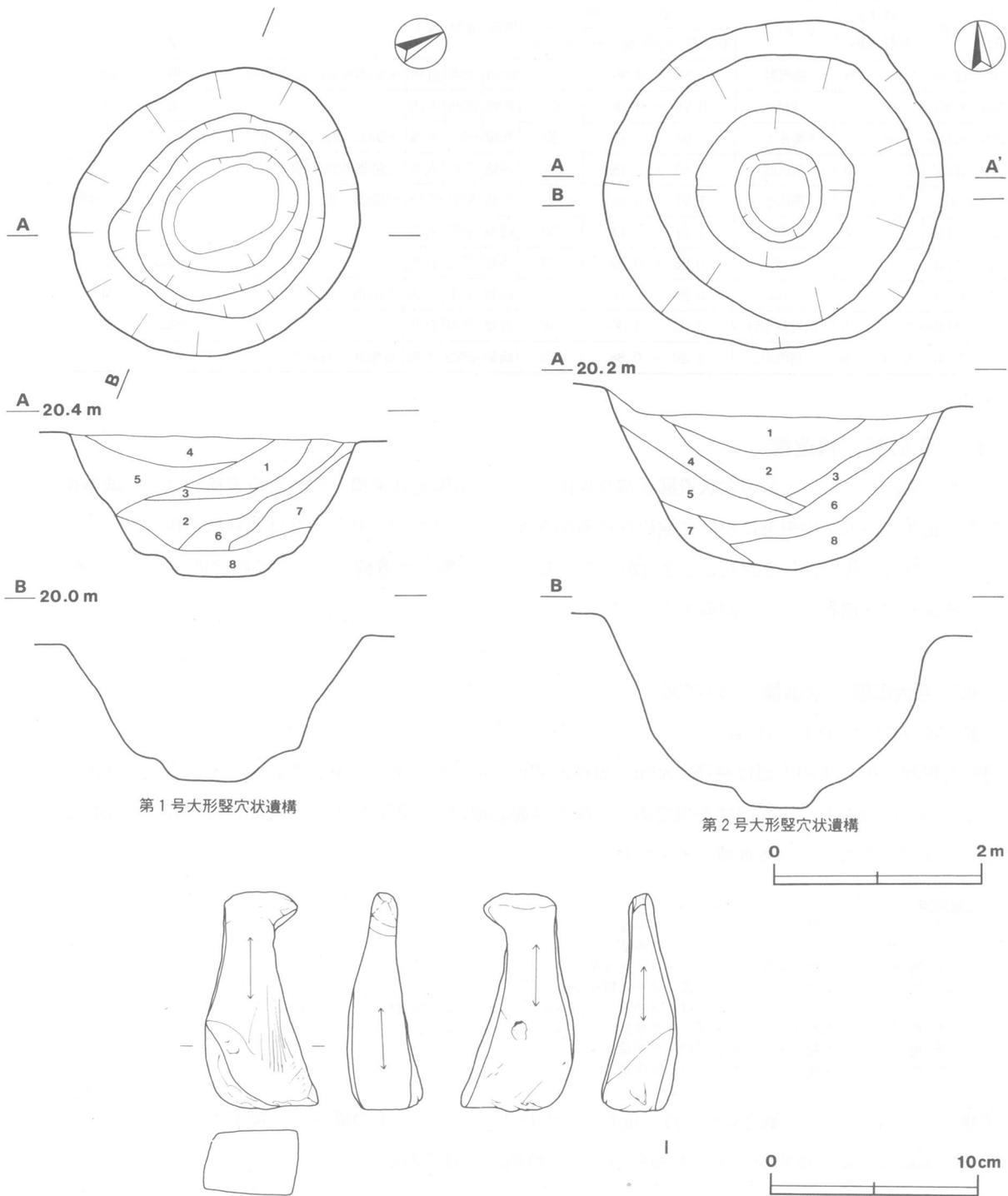
- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム中ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 4 黒褐色 ローム中・小ブロック中量, ローム粒子少量
- 5 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量, 焼土粒子・炭化物微量
- 6 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量, ローム中ブロック少量
- 7 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量
- 8 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量

遺物 土師器片189点, 須恵器片2点, 砥石1点が出土している。1の砥石は、覆土中から出土している。

所見 本跡は、出土遺物がいずれも細片のため、時期は不明である。

第1号大形堅穴状遺構出土遺物観察表

図版番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第472図1	砥 石	10.5	5.5	3.7	168	覆土中	Q36 凝灰岩



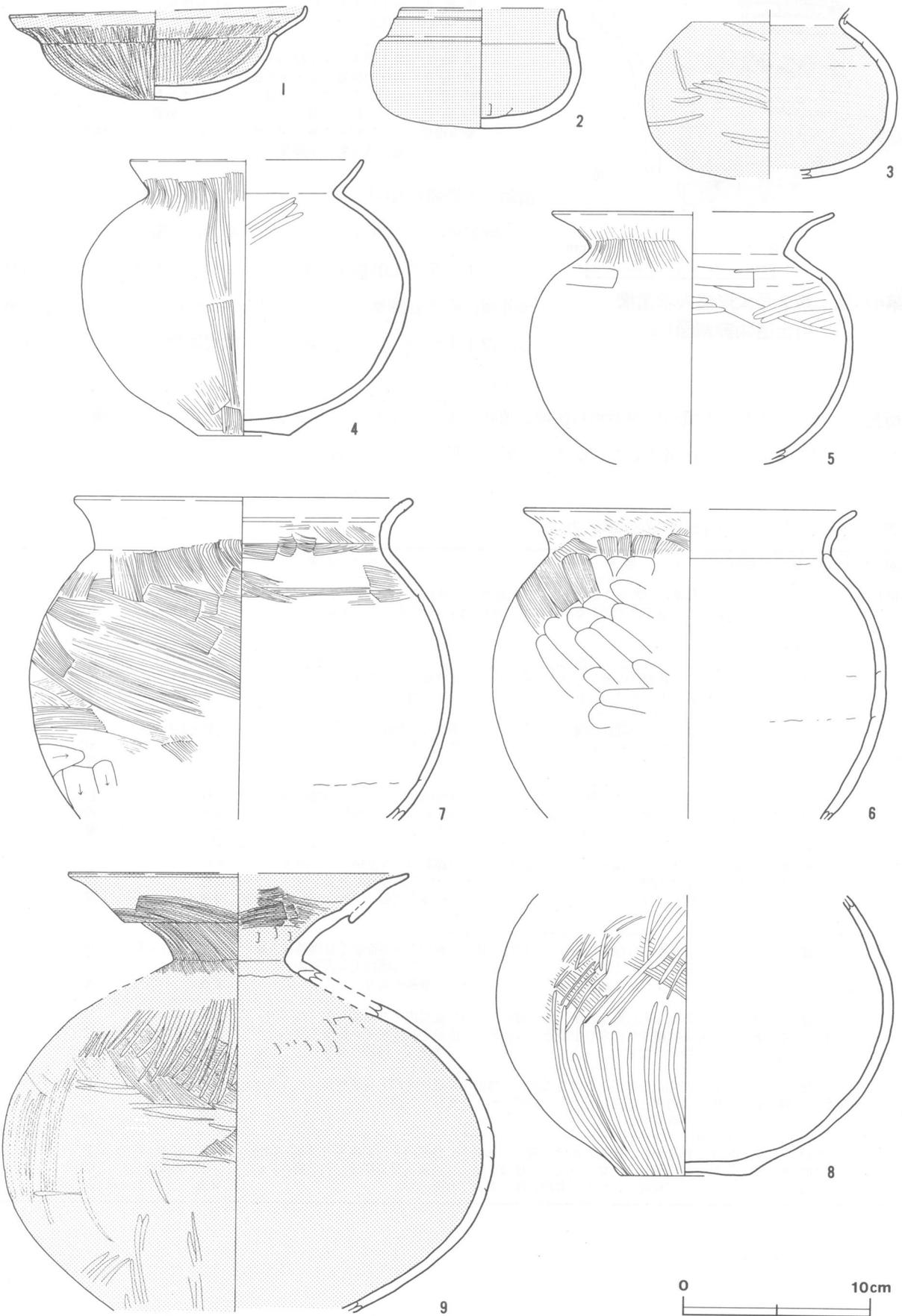
第472図 第1・2号大形竖穴状遺構・第1号大形竖穴状遺構出土遺物実測図

第2号大形竖穴状遺構 (第472図)

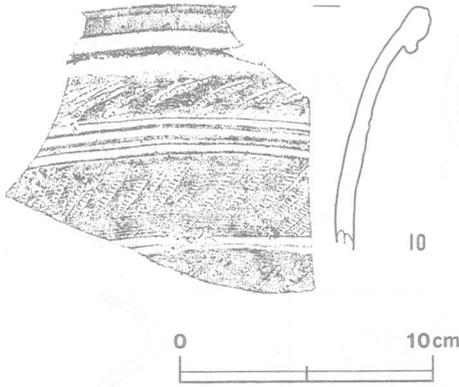
位置 調査6区中央部, M14f5区。

規模と形状 掘り方の上面は径3.20mの円形である。断面形は漏斗状で、確認面から115cmの深さの所に段をもつ。底面は平坦である。深さは確認面から1.95mであり、底面径は0.6~0.9mである。

覆土 8層からなり、人為堆積と考えられる。



第473图 第2号大形竖穴状遺構出土遺物実測図(1)



第474図 第2号大形竪穴状遺構
出土遺物実測図(2)

土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 炭化物・ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ローム中・小ブロック少量
- 4 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム中・小ブロック微量
- 5 暗褐色 炭化物微量, 焼土粒子極微量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
- 7 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 8 極暗褐色 ローム粒子中量, 炭化物・ローム小ブロック・粘土小ブロック微量, 焼土粒子極微量

遺物 土師器片110点, 須恵器片3点が出土している。第473図1の土師器坏, 3の埴は, 内・外面赤彩され, 覆土中から出土している。4と5の土師器小形甕, 6~9の土師器甕は, それぞれ体部外面に刷毛目調整がなされ, 覆土中から出土している。2の碗は, 覆土中から出土している。10の須恵器甕は, 覆土中から出土している。

所見 本跡は, 当初, 古墳時代前期から後期の遺物が多く出土していることから, 古墳時代の遺構と考えていたが, 遺構の特徴等から性格不明な点が多く, 正確な時期は不明である。

第2号大形竪穴状遺構出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第473図 1	坏 土師器	A 15.7 B 5.2 C 2.6	体部は内彎して立ち上がり, 口縁部との境に段を有する。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ磨き。内・外面赤彩。	砂粒・石英・雲母にぶい黄橙色 普通	P 512 60% 覆土中
2	碗 土師器	A [8.6] B 6.5	丸底。底部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部との境に段を有する。	体部内面から口縁部外面横ナデ。体部内面ヘラ当て痕。体部表面剝離。内・外面赤彩。	砂粒・雲母・赤色粒子にぶい橙色 普通	P 513 70% 覆土中
3	埴 土師器	B (9.2)	体部片。体部は内彎して立ち上がり中位に最大径を有する。	体部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き。内・外面赤彩。	砂粒・長石にぶい橙色 普通	P 514 50% 覆土中
4	小形甕 土師器	A [12.3] B 14.9 C 4.9	平底。体部は内彎して立ち上がり, く字状に外反し, 口縁部に至る。	口縁部内・外面刷毛目調整後横ナデ。体部外面刷毛目調整。体部内面ヘラ磨き。	砂粒・長石 橙色 普通	P 515 40% 覆土中
5	小形甕 土師器	A [15.0] B (13.6)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。内面ヘラナデ。体部外面刷毛目調整後, ヘラナデ。体部内面ヘラ磨き。輪積み痕有り。	砂粒・長石 橙色 普通	P 516 20% 覆土中
6	甕 土師器	A [17.6] B (16.6)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり, く字状に外反し, 口縁部に至る。	口縁部内・外面刷毛目調整後, 横ナデ。体部外面刷毛目調整後, ヘラナデ。輪積み痕有り。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P 518 50% 覆土中
7	甕 土師器	A 17.7 B (17.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は緩やかに立ち上がる。口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面刷毛目調整後, 体部下端ヘラ削り二次焼成。輪積み痕有り。	石英・長石・雲母にぶい黄橙色 普通	P 519 40% 覆土中
8	甕 土師器	B (15.2) C 6.9	底部から体部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり, 中位に最大径を有する。	体部外面刷毛目調整後, ヘラ磨き。底部ヘラ削り。	砂粒・長石にぶい黄橙色 普通	P 520 50% 覆土中
9	甕 土師器	A [18.0] B [23.7]	体部から口縁部にかけて破片。体部は内彎し, ソロバン玉状の球形を呈し口縁部にいたる。有段口縁である	口縁部内・外面刷毛目調整。体部外面刷毛目調整後, ヘラ磨き。内・外面赤彩。	砂粒・石英・長石にぶい黄橙色 普通	P 521 60% 覆土中

第3号大形竪穴状遺構（第475図）

位置 調査6区中央部，014h区。

規模と形状 掘り方の上面は長径2.62m，短径1.96mの楕円形である。断面形は漏斗状で，確認面から1.50mの深さの所に段をもつ。さらに，2.10mのところで細くなり底面に達する。底面は平坦で，深さは確認面から2.35mである。底面径は1.10～1.20m，掘り込み面の径は0.80mである。

覆土 14層からなり，小礫や砂を少量に含む層があり，一部人為堆積の可能性はあるが，その他は自然堆積と考えられる。

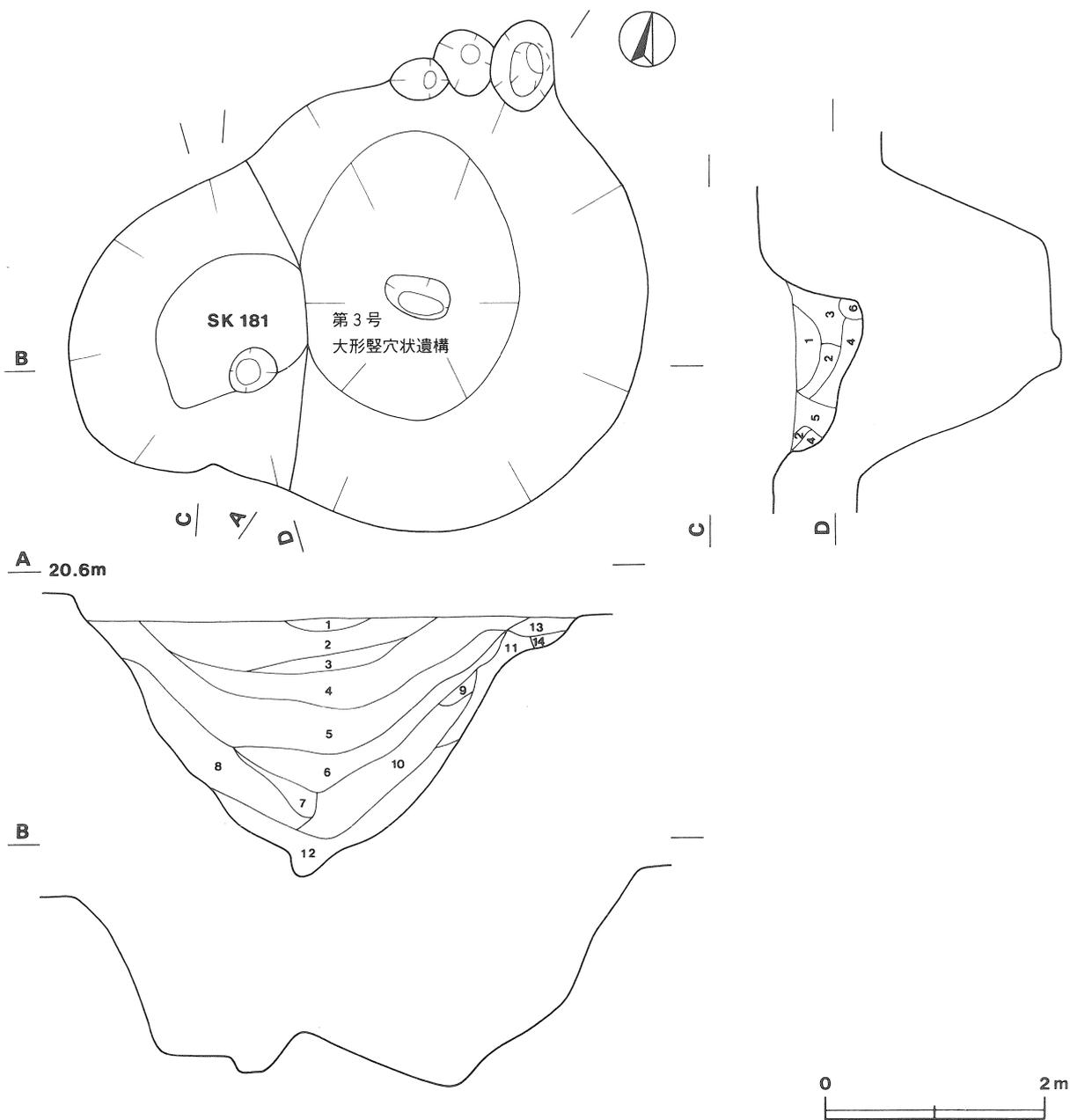
土層解説	
1 黒褐色	炭化粒子多量，ローム粒子少量
2 極暗褐色	ローム粒子少量，炭化物微量
3 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量
4 黒褐色	ローム中・小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5 極暗褐色	ローム小ブロック中量，砂少量，焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック微量
6 暗褐色	ローム中・小ブロック中量，炭化粒子微量
7 黒褐色	ローム粒子・ローム小ブロック・礫・砂少量
8 極暗褐色	焼土粒子多量，礫・砂少量，ローム粒子微量
9 黒褐色	ローム粒子少量
10 極暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・ローム小ブロック中量
11 褐色	ローム粒子微量
12 暗褐色	砂・粘土中量，ローム粒子少量
13 極暗褐色	ローム粒子少量，炭化物微量
14 暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

遺物 土師器片570点，須恵器片108点，礫3点が出土している。第476図1，2の土師器坏，3～5の高台付坏は，内面が黒色処理され，覆土中からそれぞれ出土している。6の土師器小皿，7の土師器甕，8の須恵器坏，9の須恵器甕，10の土玉は，覆土中からそれぞれ出土している。12の須恵器甕は，体部内面に同心円状の印きが施され，覆土中から出土している。

所見 本跡は，出土遺物から平安時代と考えられる。

第3号大形竪穴状遺構出土遺物観察表

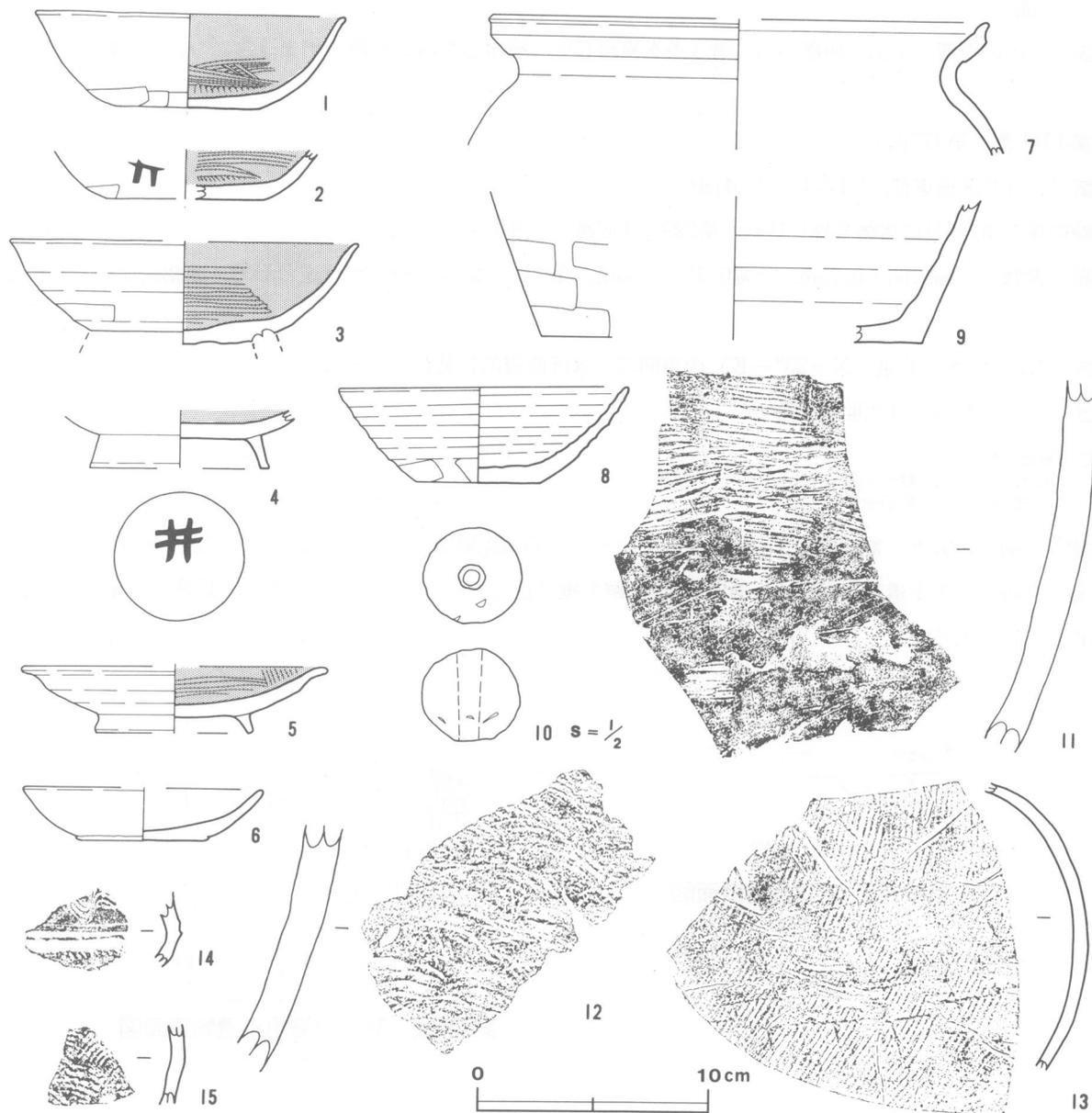
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第476図 1	坏 土師器	A 13.3 B 4.1 C 6.2	平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	底部内面から体部外面ロクロナデ。体部下端手持ちへら削り。底部・体部内面へら磨き。内面黒色処理。	砂粒・長石・雲母・赤色粒子 外面灰黄褐色・内面黒色普通	P522 60% 覆土中
2	坏 土師器	B(2.2) C[6.8]	底部から体部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ロクロナデ。底部一方のへらナデ。体部下端回転へら削り。底部・体部内面へら磨き。内面黒色処理。体部外面に墨書。	砂粒・長石 外面にぶい黄褐色 内面黒色普通	P523 20% 覆土中
3	高台付坏 土師器	A[15.0] B(4.5)	底部から口縁部にかけての破片。体部は緩やかに内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	体部外面ロクロナデ。底部・体部内面へら磨き。内面黒色処理。	長石・雲母・赤色粒子 外面にぶい褐色 内面黒色普通	P524 30% 覆土中
4	高台付坏 土師器	B(2.5) D[7.8] E 1.5	高台部から体部にかけての破片。高台はハの字状に開く。	体部外面ロクロナデ。底部・体部内面へら磨き。内面黒色処理。高台貼り付け。底部外面に墨書。	石英・長石・雲母・赤色粒子 外面にぶい橙色・内面黒色普通	P525 20% 覆土中
5	高台付坏 土師器	A[13.0] B 3.9 D[6.8] E 0.8	高台部から口縁部にかけての破片。体部と口縁部の境に緩やかな段を有し，口縁部で外反する。高台はハの字状に開く。	体部外面ロクロナデ。底部・体部内面へら磨き。内面黒色処理。	砂粒・石英・長石 外面にぶい橙色 内面黒色普通	P526 20% 覆土中
6	小皿 土師器	A[10.2] B 2.3 C[5.2]	底部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面ロクロナデ。底部回転系切り。	砂粒・赤色粒子にぶい橙色普通	P527 30% 覆土中
7	甕 土師器	A[21.6] B(5.7)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。	長石・雲母・石英 明赤褐色普通	P529 5% 覆土中



第475図 第3号大形竪穴状遺構・第181号土坑実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第476図 8	坏 須恵器	A 12.5 B 4.3 C 5.4	口縁部一部欠損。体部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。	底部内面から体部外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方方向のヘラナデ。	砂粒・石英・長石 黄灰色 普通	P530 95% 覆土中
9	甕 須恵器	B(6.3) C[16.6]	底部から体部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がる。	体部内面ロクロナデ。体部外面ヘラナデ。	石英・長石・雲母・ 赤色粒子 黄灰色 普通	P532 5% 覆土中

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
10	土玉	2.7	2.8	0.5~0.6	18.0	覆土中	D P27



第476図 第3号大形竪穴状遺構出土遺物実測図

表6 熊の山遺跡6区大形竪穴状遺構一覧表

大形竪穴状遺構番号	位置	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な遺物	備考
			長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
1	M14e _r	楕円形	2.82 × 2.52	135	急傾	平坦	自然	土師器片189 須恵器片2 砥石1	時期不明
2	M14f _s	円形	3.20 × 3.20	195	急傾	平坦	人為	土師器(坏, 碗, 甕, 埴)	時期不明
3	O14h ₁	楕円形	2.62 × 1.96	235	急傾	平坦	自然	土師器(坏, 高台付坏, 甕, 小皿) 須恵器(坏, 甕) 土玉	平安時代

(5) 溝

調査6区の南部，東部，西部から，溝3条を検出した。検出した溝の特徴や出土遺物について記載する。

第13号溝（第477図）

位置 調査6区南東部，N14a0区～N14j0区。

重複関係 第229号住居跡を掘り込み，第229号住居跡より新しい。

規模と形状 上幅0.56～0.75m，下幅0.35～0.45m，深さ23～25cm，断面形は逆台形で，確認長は(59.3)mである。

方向 N14a0区から北東（N-25°-E）の方向に，ほぼ直線的に延びている。

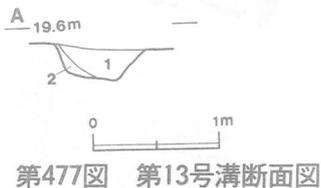
覆土 2層であり，自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量

遺物 土師器片31点，須恵器片3点が出土している。1の須恵器甕は，体部外面に平行叩きが施されている。

所見 本跡は，出土遺物が少なく，第229号住居跡を掘り込んでいることから，平安時代以降と考えられるが，性格は不明である。



第477図 第13号溝断面図



第478図 第13号溝出土遺物実測図

第14号溝（第479図）

位置 調査6区西部，M14c1区～M14f7区。

重複関係 第185・198・261・262・340号住居跡・第145号土抗を掘り込んでいるので，本跡が新しい。

規模と形状 上幅1.05～1.55m，下幅0.90～1.35m，深さ16～25cm，断面形は浅いU字状で，確認長は(48.0)mである。

方向 M14c7区から東西（N-110°-E）の方向に直線的に延びている。

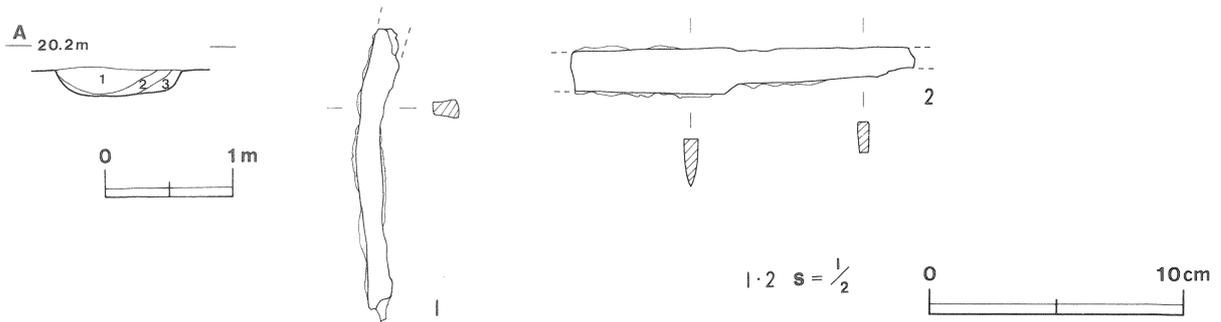
覆土 3層であり，自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子多量
- 3 褐色 ローム粒子多量

遺物 土師器片218点，須恵器片11点，礫3点が出土している。第479図1の不明鉄製品，2の刀子は，覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は，第198号住居跡を掘り込んでいることから古墳時代後期以降と考えられるが，性格は不明である。



第479図 第14号溝・出土遺物実測図

第14号溝出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第479図1	不明鉄製品	(7.8)	0.8	0.5	(11.0)	覆土中	M51
2	刀子	(9.0)	1.3	0.4	(13.0)	覆土中	M53

第15号溝 (第480図)

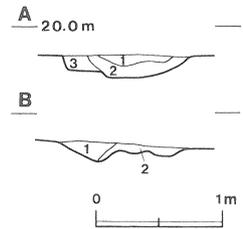
位置 調査6区東部, M15a₁区~M15f₁区。

重複関係 第184・340号住居跡を掘り込んでいるので, 本跡が新しい。

規模と形状 上幅1.00~1.95m, 下幅1.00~1.55m, 深さ10~23cm, 断面形は浅いU字状で, 確認長は(20.0)mである。

方向 M15a₁区から南北(N-9°-E)の方向に, ほぼ直線的に延びている。

覆土 3層であり, 自然堆積である。



第480図
第15号溝断面図

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック少量

遺物 遺構に伴う遺物は出土していない。

所見 本跡は, 第184号住居跡を掘り込んでいることから, 平安時代の10世紀以降と考えられるが, 性格は不明である。

表7 熊の山遺跡6区溝一覧表

溝番号	位置	方向	形状	規模 (m)				壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
				確認長	上幅	下幅	深さ(cm)					
13	N14区	北東~南西	直線状	(59.3)	0.56~0.75	0.35~0.45	23~25	緩斜	平坦	自然	土師器片31点 須恵器片3点	SI229→本跡
14	M14区	東~西	直線状	(48.0)	1.05~1.55	0.90~1.35	16~25	緩斜	皿状	自然	刀子	SI185, 198, 261, 262, 340, SK145→本跡
15	M15区	北~南	直線状	(20.0)	1.00~1.95	1.00~1.55	10~23	緩斜	皿状	自然		SI184, 340→本跡

(6) 不明遺構

調査6区の北東部斜面に黒褐色の堆積土が広がっていたことから、土層ベルトを設定した結果、不明遺構を1基検出した。検出した不明遺構の特徴について記載する。

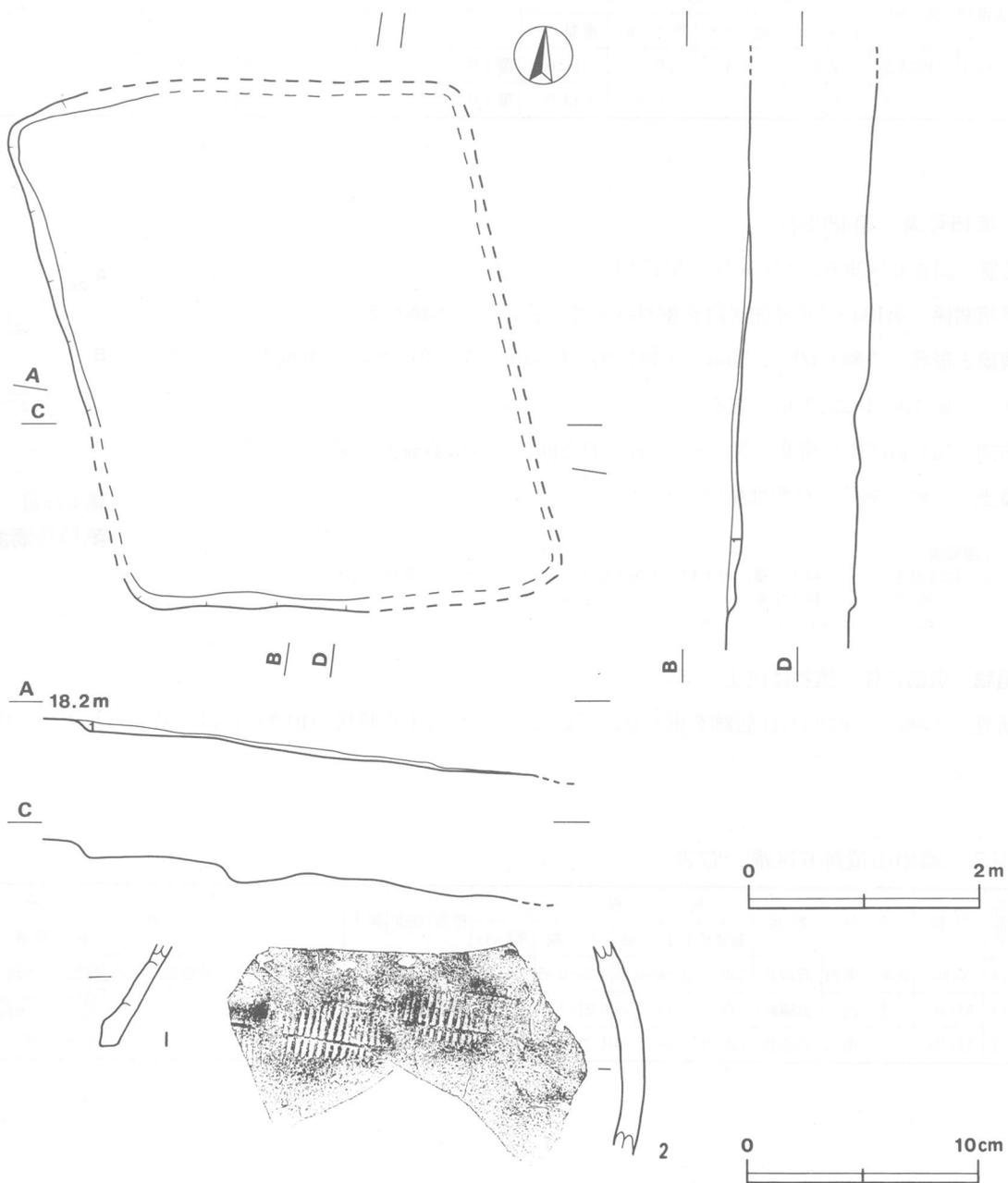
第3号不明遺構 (第481図)

位置 調査6区北東部, L15f9区。

規模と平面形 長軸[4.62]m, 短軸[3.76]mの長方形と推定される。

長軸方向 [N-12°-W]

壁 壁高は12cm前後であり、緩やかに立ちあがる。



第481図 第3号不明遺構・出土遺物実測図

底面 西側から東側にかけて傾斜している。

覆土 単一層で、人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒色 炭化粒子・ローム粒子中量、焼土粒子少量

遺物 土師器片87点、須恵器片9点が出土している。1の須恵器甕、2の陶器甕体部片は、覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡は、出土遺物が細片のため、時期は不明である。

第3号不明遺構出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第481図 1	甕 須恵器	B(4.4)	体部片。体部は直線的に外傾して開く。	体部外面へう削り。輪積み痕。	砂粒・雲母 褐灰色 普通	P568 5% 覆土中

(7) 遺構外出土遺物(第482~486図)

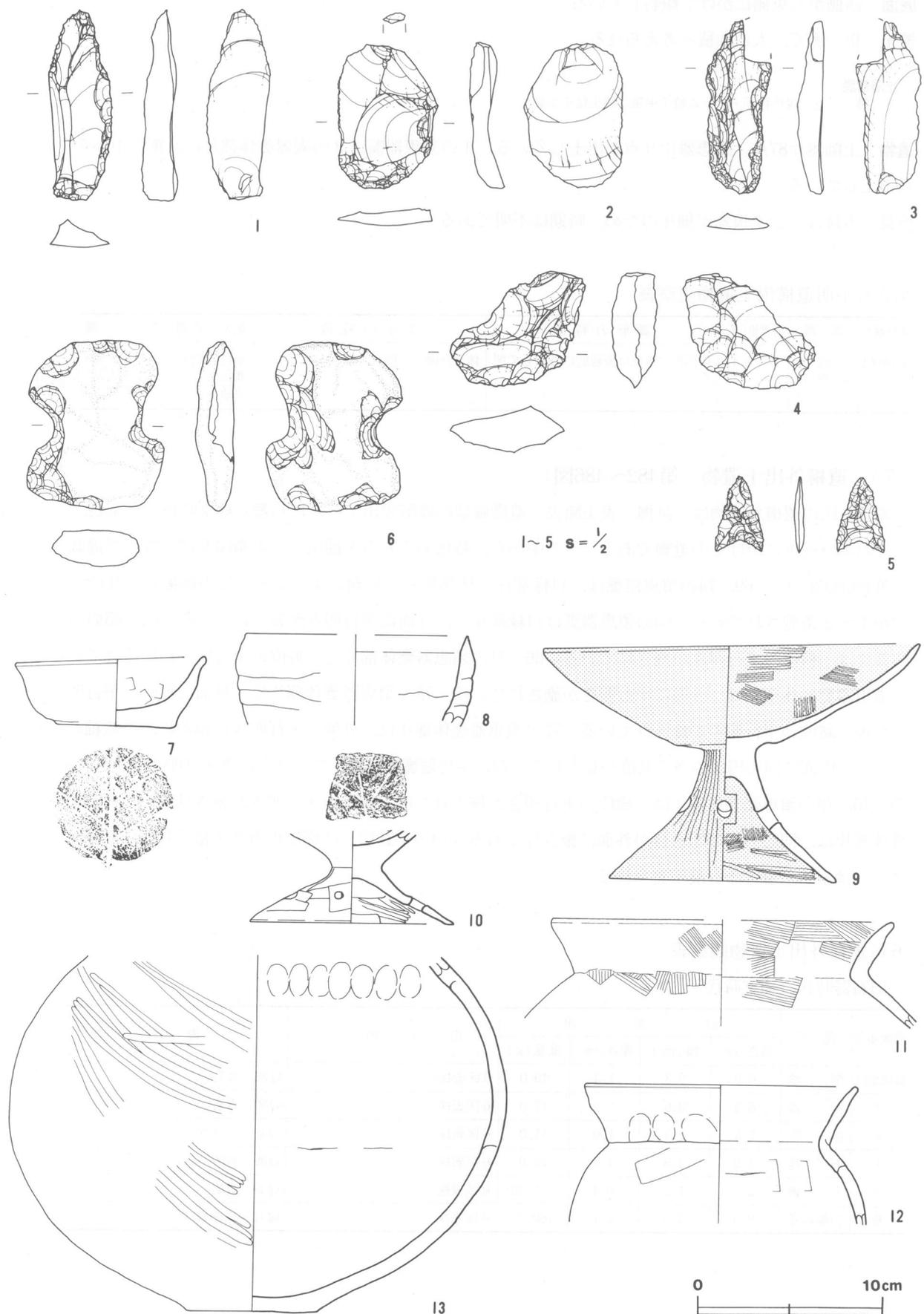
調査6区の遺構外出土遺物は、試掘、表土除去、遺構確認の段階で出土した旧石器、縄文時代から奈良、平安時代、および近世にかけての遺物である。その中から、特色あるものを抽出し、実測図及び一覧表で掲載した。

第486図62, 67, 69, 74の須恵器甕は、口縁部片、体部片で、外面に4~5本単位の櫛歯状工具による波状文が1~2条施されている。63の須恵器甕は口縁部片で、外面に平行叩きが施されている。64, 65の須恵器甕体部片は、横位の平行叩きが施されている。66, 71の須恵器甕体部片は、縦位の平行叩きが施されている。68の須恵器甕は体部片で、外面に平行叩きが施されている。70の須恵器甕体部片は、外面に縦位の平行叩きを施した後、斜位の平行叩きが施されている。72の須恵器甕体部片は、外面に平行叩きが施され、自然釉が付着している。内面に同心円状の当て具痕が見られる。73の須恵器甕は体部片で、外面に格子目叩きが施されている。75, 76, 78の須恵器甕体部片は、横位の平行叩きが施された後、縦位の平行叩きが施されている。77の須恵器甕体部片は、同心円状の叩き目が外面に施されている。79の平瓦は、凸面に正方形の格子目叩きが加えられ、凹面には糸切り痕と布目痕が見られる。

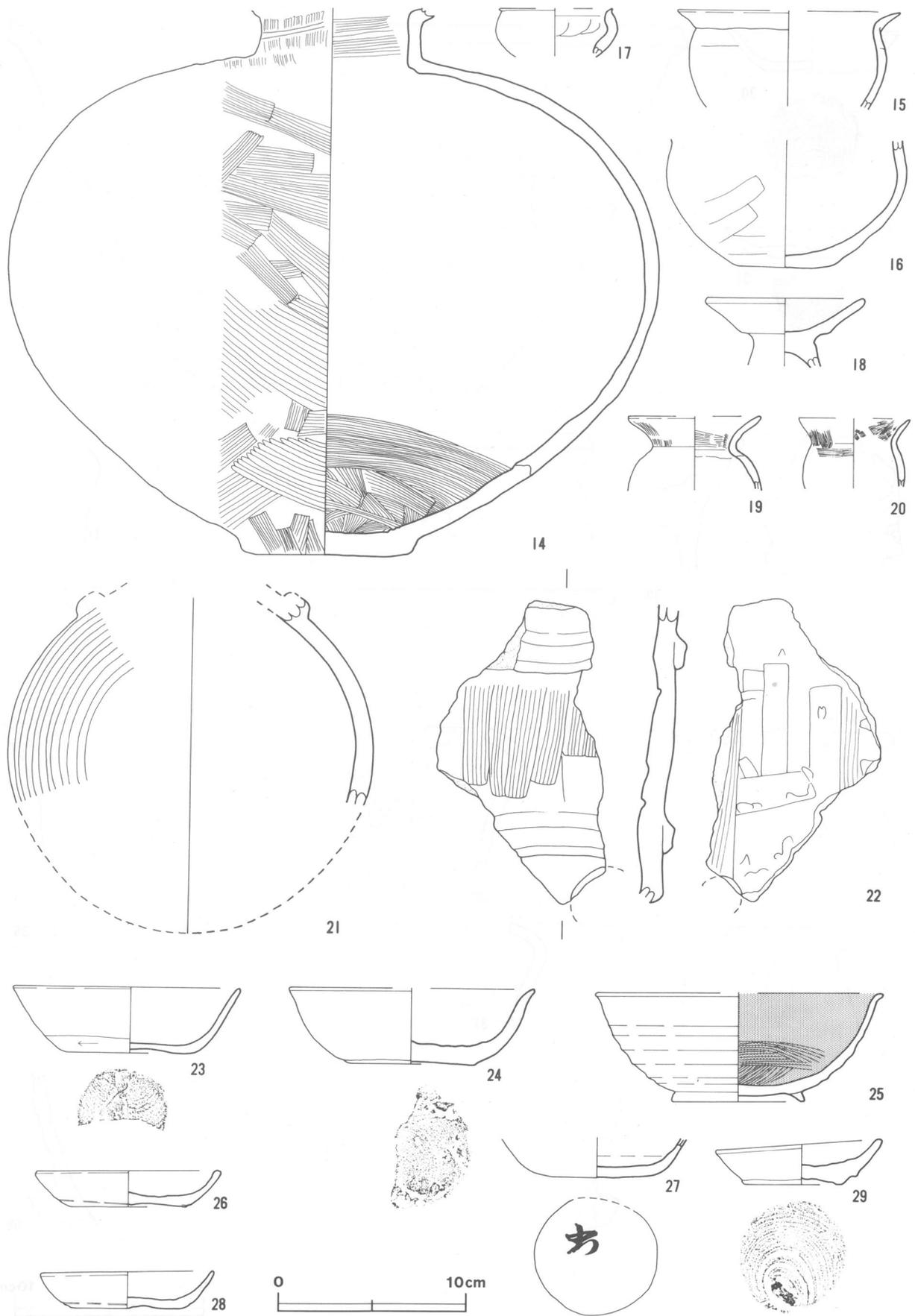
6区遺構外出土遺物観察表

(旧石器時代、縄文時代)

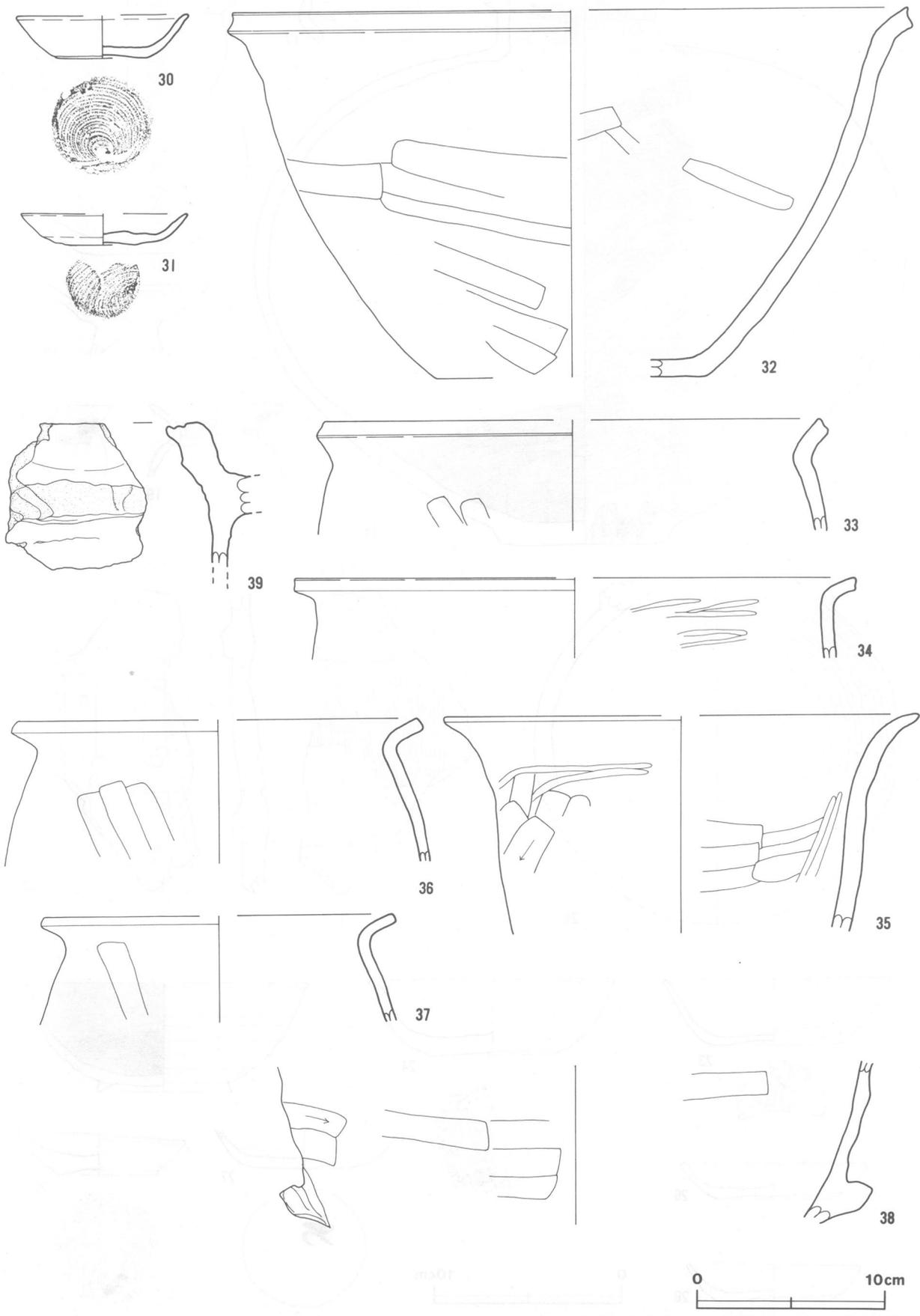
図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第482図1	削器	6.9	2.3	1.3	19.0	6区表採	Q38 頁岩
2	削器	5.2	3.6	1.1	17.0	6区表採	Q50 頁岩
3	削器	6.3	2.3	1.0	11.0	6区表採	Q40 メノウ
4	石匙	4.2	4.8	1.6	24.0	6区表採	Q39 頁岩
5	石鏃	2.7	1.7	0.4	1.32	6区表採	Q49 頁岩
6	打製石斧	9.2	7.3	2.1	160.0	6区表採	Q41 花崗岩



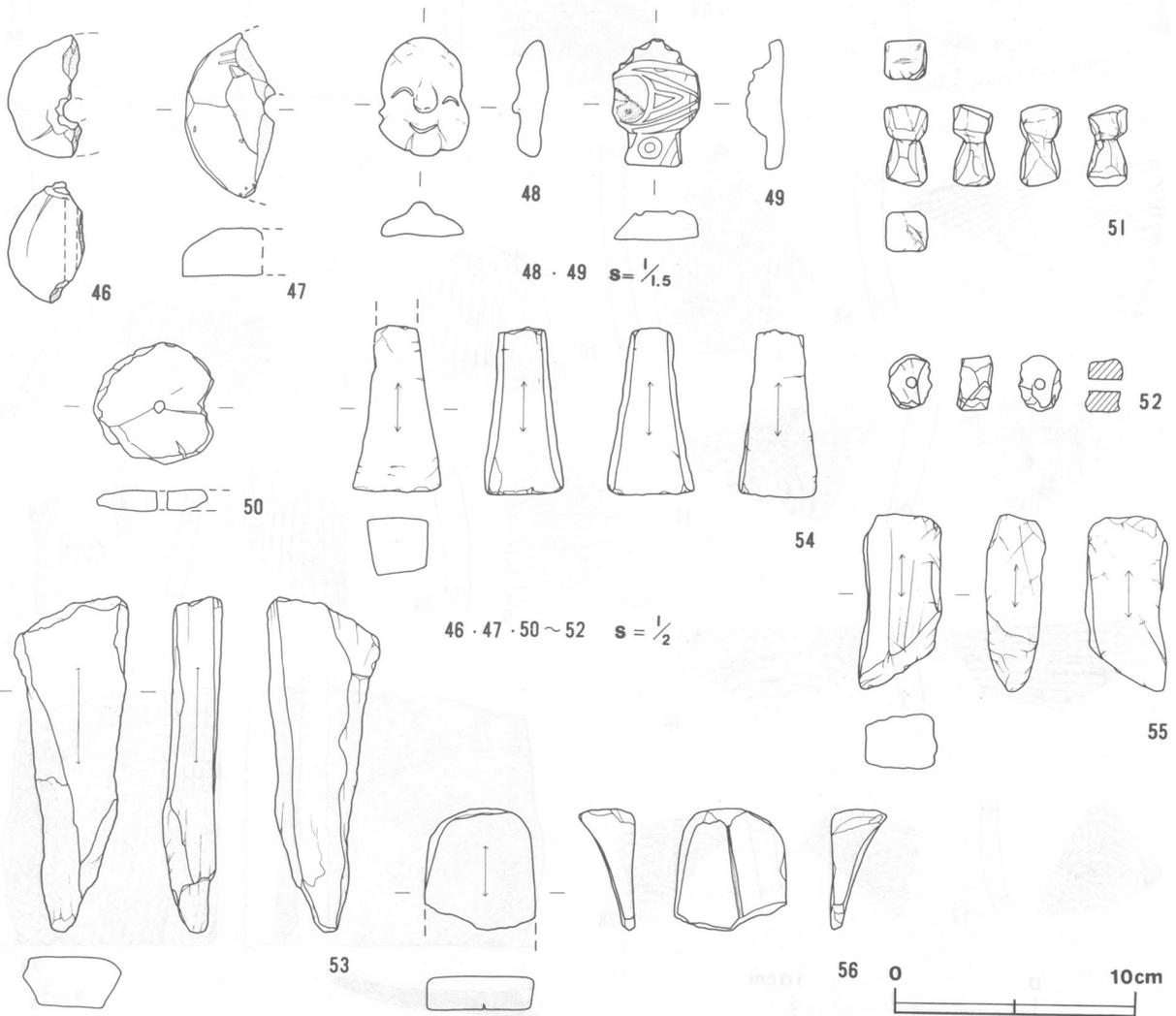
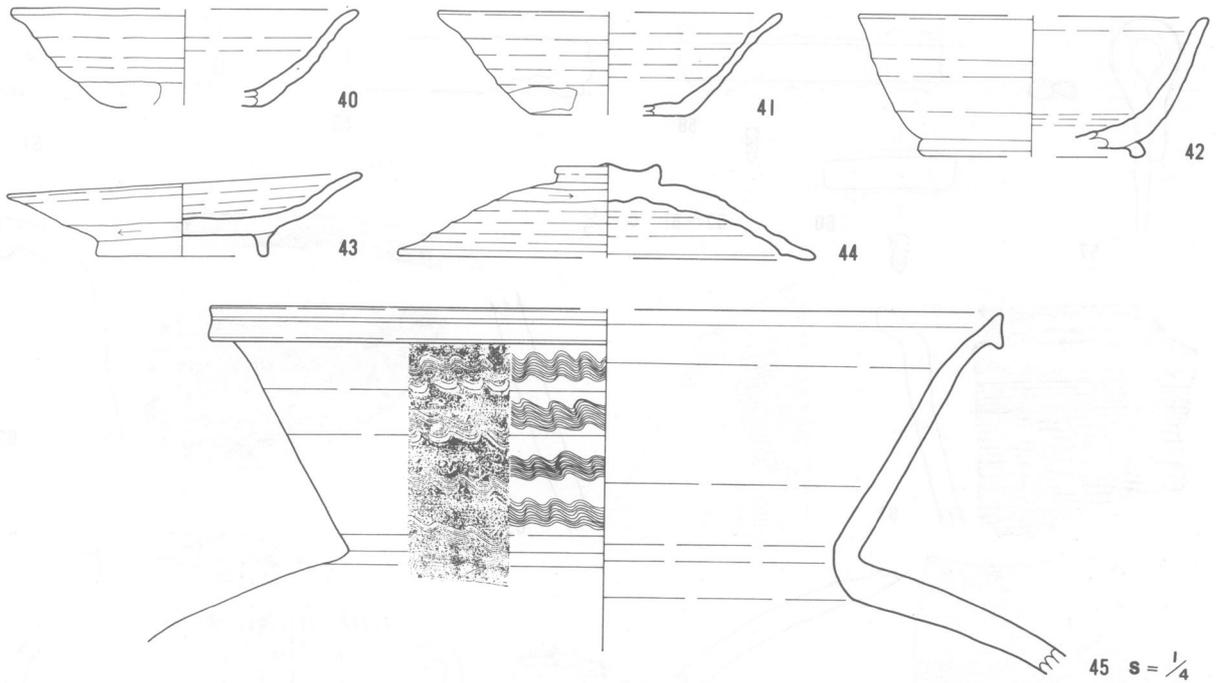
第482图 6区遺構外出土遺物実測図(1)



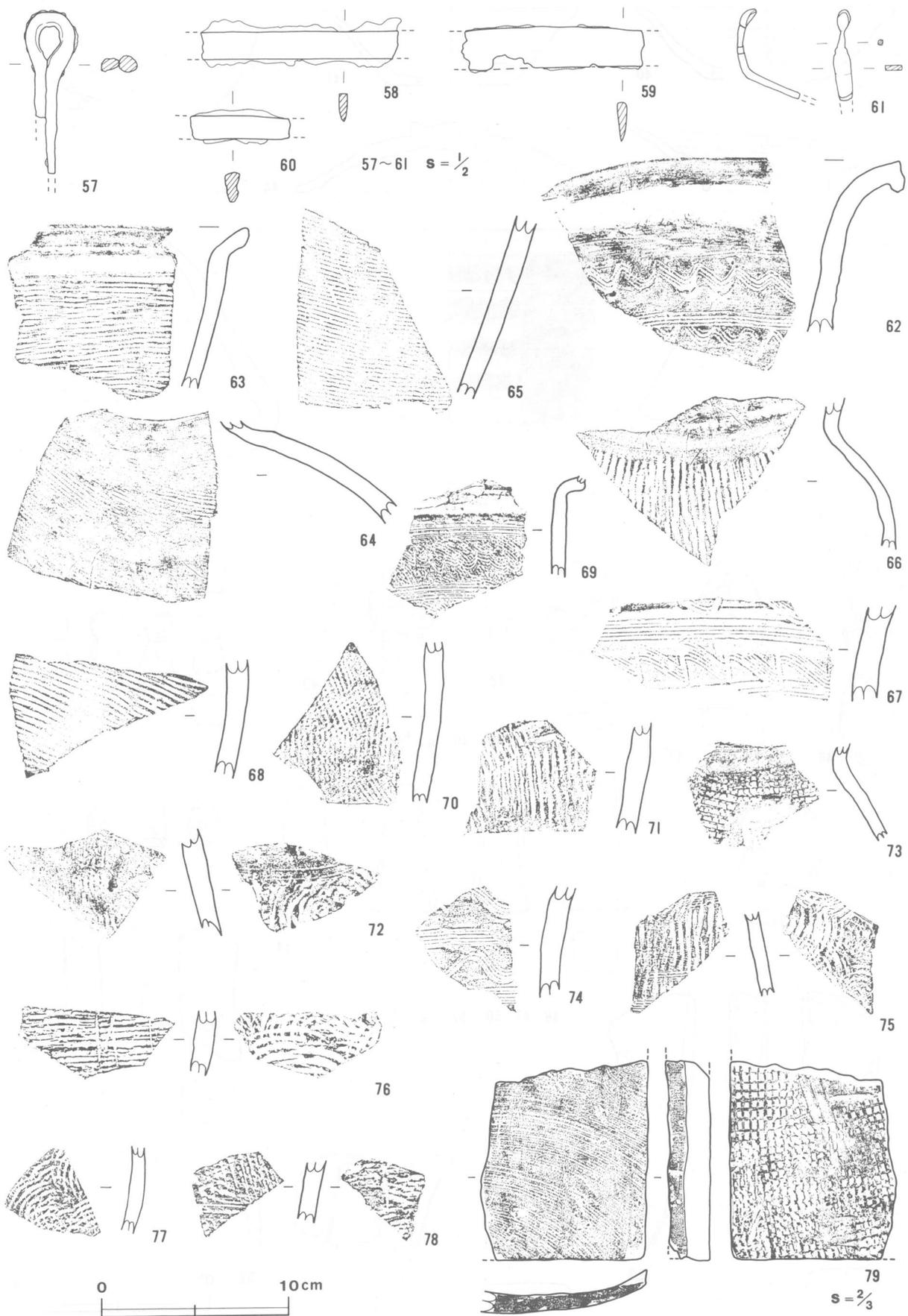
第483图 6区遺構外出土遺物実測图(2)



第484图 6区遺構外出土遺物実測図(3)



第485图 6区遺構外出土遺物実測図(4)



第486图 6区遺構外出土遺物実測图(5)

(古墳時代)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第482図 7	碗 土師器	A 10.0 B 3.9 C 6.4	体部は丸みをもって立ち上がり、口縁部に至る。器壁は厚い。	口縁部内面から体部外面横ナデ。底部外面に木葉痕。	砂粒・石英 褐色 普通	P576 100% 6区表採
8	碗 土師器	A[11.8] B(4.9)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。輪積み痕。	砂粒・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P577 20% 6区表採
9	高坏 土師器	A 20.2 B 13.0 D 12.2 E 7.1	口縁部・脚部一部欠損。坏部は緩やかに内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。脚部は、ラッパ状に外に開く。4か所に透かし孔を有する。	脚部外面へラ磨き。脚部内面刷毛目調整後、へラ磨き。坏部内面刷毛目調整。内・外面赤彩。	砂粒・長石・赤色粒子 にぶい橙色 普通 二次焼成	P569 70% 6区表採
10	高坏 土師器	B(5.0) D 11.0 E 3.0	裾部片。緩やかに広がりながら、裾部に至る。脚部中位に4か所の透かし孔を有する。	裾部外面へラ削り。裾部内面へラ削り後、へラ磨き。	砂粒・長石・小礫 にぶい黄色 普通	P570 70% 6区表採
11	壺 土師器	A[18.0] B(5.7)	体部から口縁部にかけての破片。頸部はくの字状に折れる。	口縁部内・外面刷毛目調整後、ナデ。体部内・外面刷毛目調整。	砂粒・長石・雲母 浅黄橙色 普通	P590 20% 6区表採
12	壺 土師器	A 14.4 B(7.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、くの字状に外反する。口縁部は折り返している。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラナデ。口縁部下方指頭押圧。体部内面へラ当て痕。輪積み痕。	砂粒・石英・長石・ 赤色粒子 橙色 普通	P588 20% 6区表採
13	壺 土師器	B(19.3) C 7.0	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面へラナデ後、へラ磨き。体部内面に指頭押圧。輪積み痕。	砂粒・赤色粒子 橙色 普通	P591 60% 6区表採
第483図 14	壺 土師器	B(29.6) C 9.7	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎し、中位に最大径を呈する球状で、頸部は直線的に立ち上がる。	体部外面刷毛目調整後、へラ磨き。頸部外面刷毛目調整、内面へラ磨き。底部木葉痕。	砂粒・長石 灰褐色 普通	P589 60% 6区表採
15	ミチア器 土師器	A[11.8] B(5.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎し、口縁部でくの字状に外反する。口縁部は折り返している。	口縁部内・外面横ナデ。輪積み痕。	砂粒 にぶい褐色 普通	P575 20% 6区表採
16	小形甕 土師器	B(6.9) C 5.0	底部から体部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がる。体部中位に最大径を呈する。	体部外面へラナデ。体部外面へラ削り。	砂粒・石英・赤色粒子 橙色 普通	P610 20% 6区表採
17	ミチア器 土師器	A[6.0] B(2.6)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部端部はつまみ上げられている。	体部内・外面ナデ。	砂粒・長石 褐色 普通	P572 20% 6区表採
18	ミチア器 土師器	A 8.4 B(3.8)	脚部から口縁部にかけての破片。坏部と脚部との境に段を有し、坏部は外反する。脚部はハの字状に開く。	坏部内・外面ナデ。	砂粒・石英 灰黄褐色 普通	P571 20% 6区表採
19	ミチア器 土師器	A[7.2] B(4.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、くの字状に外反し、口縁部に至る。	口縁部内・外面刷毛目調整後、横ナデ。輪積み痕。	砂粒 褐色 普通	P573 30% 6区表採
20	ミチア器 土師器	A[6.0] B(3.8)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎し、口縁部でくの字状に外反する。	口縁部内・外面、体部外面刷毛目調整。	砂粒・赤色粒子 にぶい褐色 普通	P574 30% 6区表採
21	提瓶 須恵器	B(11.0)	体部破片。体部は内彎して、最大径は中位にある。体部上位に楕円形の把手が付く。	体部内・外面クロナデ。体部外面自然釉。	砂粒・長石 灰色 良好	P605 30% 6区表採
22	円筒埴輪	B(16.2)	胴部破片。突帯は2条以上あり、断面形は台形をなしている。透かし孔が、1か所確認できる。	突帯間はタテハケ。突帯ナデ。	砂粒・石英・長石・ 雲母・赤色粒子 にぶい褐色 普通	P606 10% 6区表採

(奈良・平安～近世)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第483図 23	坏 土師器	A 12.0 B 3.6 C 6.8	底部から体部にかけての破片。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	体部下端回転ヘラ削り。底部回転系切り。	砂粒・赤色粒子・雲母にぶい 橙色 普通	P578 50% 6区表採
24	坏 土師器	A[13.0] B 4.1 C[6.8]	底部から体部にかけての破片。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は外反する。	内・外面ロクロナデ。底部回転系切り。	砂粒・長石・赤色粒子 浅黄橙色 普通	P579 40% 6区表採
25	高台付碗 土師器	A[15.0] B 5.9 D 7.2 E 0.6	高台部から体部にかけての破片。体部は丸みをもって立ち上がる。高台はハの字状に開く。	体部内面ヘラ磨き。内面黒色処理。底部ヘラ切り後、高台貼り付け。	砂粒・長石・雲母 外面にぶい赤褐色 内面黒色 普通	P580 60% 6区表採
26	小皿 土師器	A 9.6 B 2.0 C 6.4	平底。体部はわずかに内彎気味に立ち上がり、口縁部にいたる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後、無調整。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P581 100% 6区表採
27	小皿 土師器	B(2.2) C 6.6	底部から体部にかけての破片。体部はわずかに内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部不定方向のヘラ削り。底部外面に墨書。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P582 60% 6区表採
28	小皿 土師器	A 9.0 B 2.1 C 6.0	底部から口縁部にかけての破片。体部はわずかに内彎気味に立ち上がる。体部外面下端に沈線をもつ。	内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後、無調整。	砂粒・長石・雲母 にぶい黄褐色 普通	P583 60% 6区表採
29	小皿 土師器	A 8.8 B 2.3 C 6.0	底部から口縁部にかけての破片。体部はわずかに内彎気味に立ち上がる。	内・外面ロクロナデ。底部回転系切り後、無調整。	砂粒・長石・雲母・ 赤色粒子にぶい橙 色 普通	P584 70% 6区表採
第484図 30	小皿 土師器	A[9.0] B 2.3 C 5.0	底部から口縁部にかけての破片。体部はわずかに内彎気味に立ち上がる。口縁端部はやや外反する。	内・外面ロクロナデ。底部回転系切り後、無調整。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P585 50% 6区表採
31	小皿 土師器	A[8.8] B 1.7 C 3.8	底部から口縁部にかけての破片。体部はわずかに内彎気味に立ち上がる。	内・外面ロクロナデ。底部回転系切り後、無調整。	砂粒・長石・雲母・ 赤色粒子 橙色 普通	P586 40% 6区表採
32	甕 土師器	A[36.0] B 19.8 C[14.4]	底部から口縁部の破片。体部は緩やかに内彎して立ち上がる。口縁部は短くくの字状に折れ、端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。	砂粒・石英・長石・ 小礫 橙色 普通	P592 30% 6区表採
33	甕 土師器	A[26.4] B(6.0)	体部から口縁部の破片。体部は緩やかに内彎して立ち上がる。口縁部はくの字状に折れ、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。	砂粒・石英・長石・ 雲母 橙色 普通	P596 5% 6区表採
34	甕 土師器	A[29.8] B(4.3)	体部から口縁部の破片。体部は直線的に立ち上がり、口縁部でくの字状に折れる。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。	砂粒・長石 浅黄褐色 普通	P598 5% 6区表採
35	甕 土師器	A[25.2] B(11.7)	体部から口縁部の破片。体部は緩やかに内彎して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ削り後、ヘラ磨き。	砂粒・長石・小礫 にぶい橙色 普通	P594 10% 6区表採
36	甕 土師器	A[21.2] B(7.7)	体部は緩やかに内彎しながら立ち上がり、口縁部で外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。	石英・長石・雲母・ 赤色粒子 橙色 普通	P595 5% 6区表採
37	甕 土師器	A[18.6] B(5.7)	体部は緩やかに内彎しながら立ち上がり、口縁部はくの字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。	砂粒・長石 明赤褐色 普通	P597 5% 6区表採
38	甌 須恵器	B(8.6)	体部片。体部は内彎して立ち上がる。最大径は体部上位にある。体部上位に小形の把手が付く。	体部外面ヘラナデ。体部内面ヘラ削り。	砂粒・石英・長石・ 雲母 褐灰色 普通	P593 10% 6区表採
39	羽釜 土師器	B(7.8)	口縁部から体部上位の破片。体部上位に鏝が付く。	体部外面ヘラナデ。	砂粒・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P599 5% 6区表採
第485図 40	坏 須恵器	A[13.6] B 3.9 C[6.2]	体部から口縁部にかけての破片。体部はやや内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁端部は丸くおさまる。	内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。	石英・長石・雲母 にぶい橙色 普通 二次焼成	P600 30% 6区表採

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第485図 41	坏須恵器	A [13.6] B 4.2 C [6.4]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に立ち上がり、口縁部でやや外反する。	内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへら削り。	砂粒・石英・長石・雲母 灰色 普通	P601 40% 6区表採
42	高台付坏須恵器	A [13.8] B 5.7 D [8.6] E 0.6	高台部から口縁部にかけての破片。底部と体部との境は稜をなして折れる。高台はわずかに外に開き、ふんばる。	内・外面ロクロナデ。高台貼り付け。	砂粒・長石 灰色 普通	P602 40% 6区表採
43	高台付坏須恵器	A 14.2 B 3.4 D 6.8 E 1.1	底部から口縁部にかけての破片。体部はやや内彎して立ち上がり、口縁部に至る。高台はほぼ接地面に垂直である。	内・外面ロクロナデ。体部下端回転へら削り。底部回転へら切り後、高台貼り付け。	砂粒・石英・長石 灰色 普通	P603 80% 6区表採
44	蓋須恵器	A [16.6] B 3.8 F 4.2 G 0.8	口縁部一部欠損。頂部は平坦で、口縁部内面に短いかえりがつく。つまみは扁平なボタン状である。	天井部外面回転へら削り。内面ロクロナデ。	砂粒・石英・長石・雲母 灰白色 普通	P604 70% 6区表採
45	甕須恵器	A [41.5] B (19.4)	体部から口縁部にかけての破片。頸部から口縁部にかけてくの字状に外反し、口縁部に至る。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部外面には4～8本単位の櫛歯状工具による波状文が施されている。体部外面に自然釉。体部内面ナデ。	小石 灰色 普通	P531 30% 6区表採

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
46	土玉	(3.3)	(2.0)	[0.8]	(13.0)	6区表採	D P28

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
47	紡錘車	(4.1)	1.3	[0.8]	(13.0)	6区表採	D P29 砂岩

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
48	泥面子	2.4	1.8	0.8	2.14	6区表採	D P30
49	泥面子	2.6	1.8	0.8	2.22	6区表採	D P31
50	紡錘車	3.6	3.2	0.6	11.0	6区表採 孔径0.3cm	Q42 滑石
51	不明石製品	2.2	1.1	1.1	4.4	6区表採	Q43 滑石
52	不明石製品	1.5	1.2	1.0	2.34	6区表採 孔径0.3cm	Q44 凝灰岩
53	砥石	13.9	4.7	2.4	166.0	6区表採	Q45 凝灰岩
54	砥石	(6.9)	3.6	3.3	(85.0)	6区表採	Q46 凝灰岩
55	砥石	7.3	3.4	2.6	62.0	6区表採	Q47 凝灰岩
56	砥石	(5.0)	4.7	2.2	(47.0)	6区表採	Q48 凝灰岩
第486図57	壺金	(5.9)	(0.7)	0.6	(8.8)	6区表採	M57
58	刀子	(7.1)	1.0	0.3	(13.0)	6区表採	M58
59	刀子	(6.5)	1.1	0.4	(10.0)	6区表採	M59
60	刀子	(3.5)	1.3	0.5	(3.74)	6区表採	M60
61	かんざし	(3.2)	0.6	0.2	(2.9)	6区表採	M64

3 8区の遺構と遺物

(1) 竪穴住居跡

① 古墳時代

第506号住居跡 (第487図)

位置 調査8区西部, N8a4区。

重複関係 第510号住居跡の上部に構築されているので, 本跡が新しい。

規模と平面形 長軸5.16m, 短軸[4.94]mの方形と考えられる。

主軸方向 N-43°-W

壁 壁高は15~25cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 北西コーナー付近の壁下から南コーナー付近の壁下にかけて確認され, 上幅16~28cm, 下幅3~8cm, 深さ3~7cmで, 断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で, 中央部が踏み固められている。

竈 北西壁中央部に砂質粘土で構築されている。規模は長さ107cm, 袖幅130cm, 壁外への掘り込みは44cmである。右袖は黄褐色の粘土で構築されており, 左袖は黄褐色の粘土のまわりに, さらにローム混じりの砂質粘土を貼り付けて構築している。袖の内壁は火熱を受けて赤変している。火床部は床面を楕円形状に浅く掘りくぼめている。煙道はほぼ垂直に立ち上がる。

竈土層解説

- 1 にぶい赤褐色 焼土小ブロック・粘土中ブロック少量, ローム小ブロック微量
- 2 淡赤橙色 粘土大ブロック多量, 焼土中ブロック中量
- 3 橙色 焼土中ブロック・粘土小ブロック中量
- 4 明赤褐色 焼土中・小ブロック多量
- 5 明黄褐色 焼土小ブロック微量
- 6 にぶい赤褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック・粘土小ブロック少量
- 7 にぶい赤褐色 焼土中ブロック・粘土粒子中量
- 8 にぶい黄橙色 粘土中ブロック少量, 焼土粒子微量
- 9 暗赤褐色 焼土小ブロック多量, 炭化物微量
- 10 明褐色 焼土小ブロック・炭化物・粘土小ブロック少量
- 11 明褐色 ローム中ブロック多量, 粘土小ブロック少量
- 12 黄褐色 粘土粒子多量

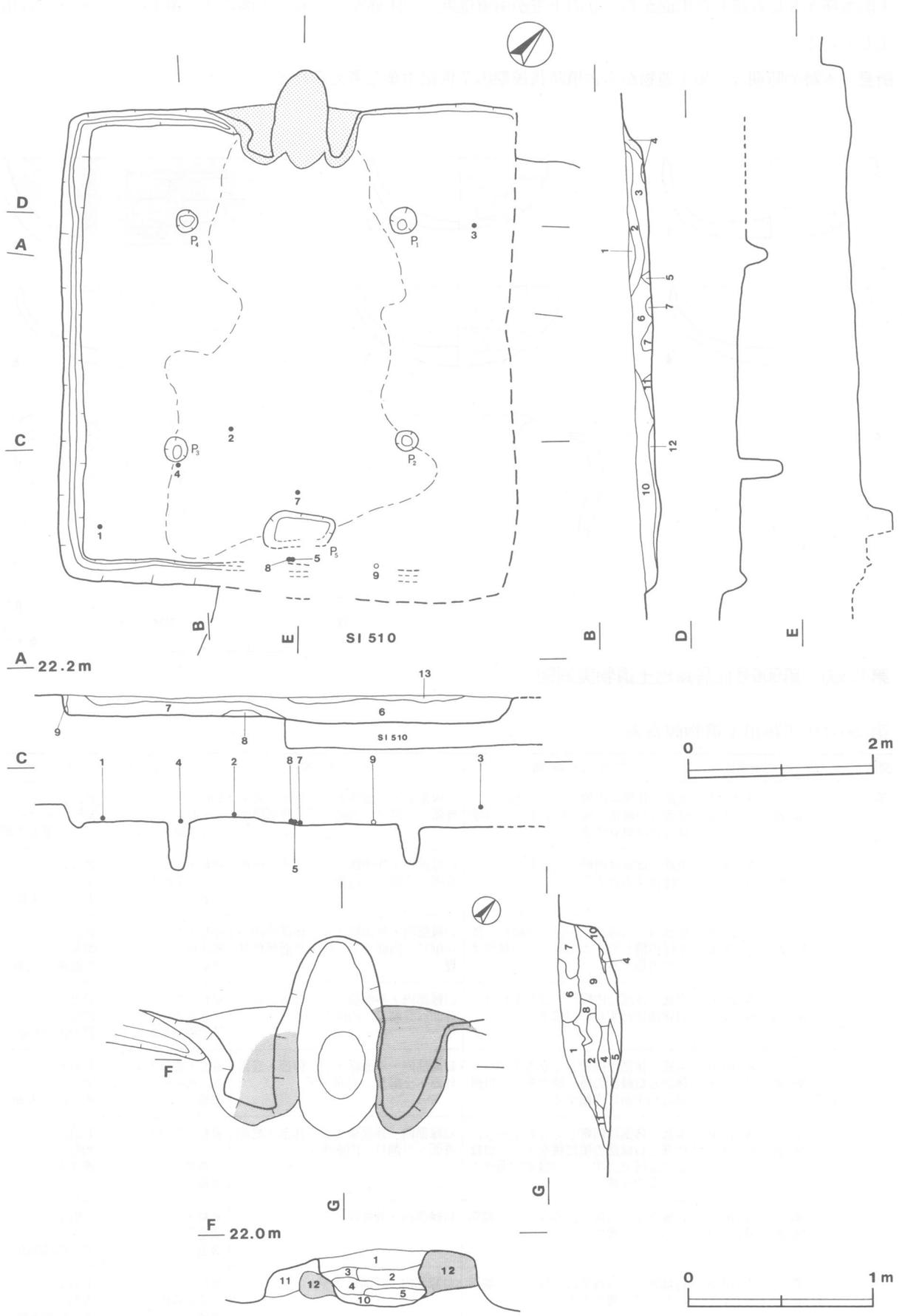
ピット 5か所(P₁~P₅)。P₁は, 径28cmの円形で, 深さ26cmである。P₂は, 径23cmほどの円形で, 深さ43cmである。P₃は, 径26cmほどの円形で, 深さ55cmである。P₄は, 径23cmほどの円形で, 深さ50cmである。いずれも支柱穴と考えられる。P₅は, 長径73cm, 短径36cmの楕円形で, 深さ33cmである。出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 13層からなり, 自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量, 砂少量, 焼土粒子微量, 炭化物極微量
- 3 極暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・砂少量
- 4 暗赤褐色 砂多量, 焼土粒子中量, 炭化粒子少量
- 5 褐色 ローム大ブロック多量, 炭化物極微量
- 6 黒褐色 ローム粒子・砂中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 7 黒褐色 ローム中ブロック中量, 炭化粒子・ローム粒子少量
- 8 暗褐色 ローム粒子・砂少量
- 9 褐色 ローム粒子多量
- 10 極暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 11 黒褐色 ローム粒子中量, 砂少量, 炭化粒子微量, 焼土粒子極微量
- 12 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量, ローム小ブロック極微量
- 13 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量

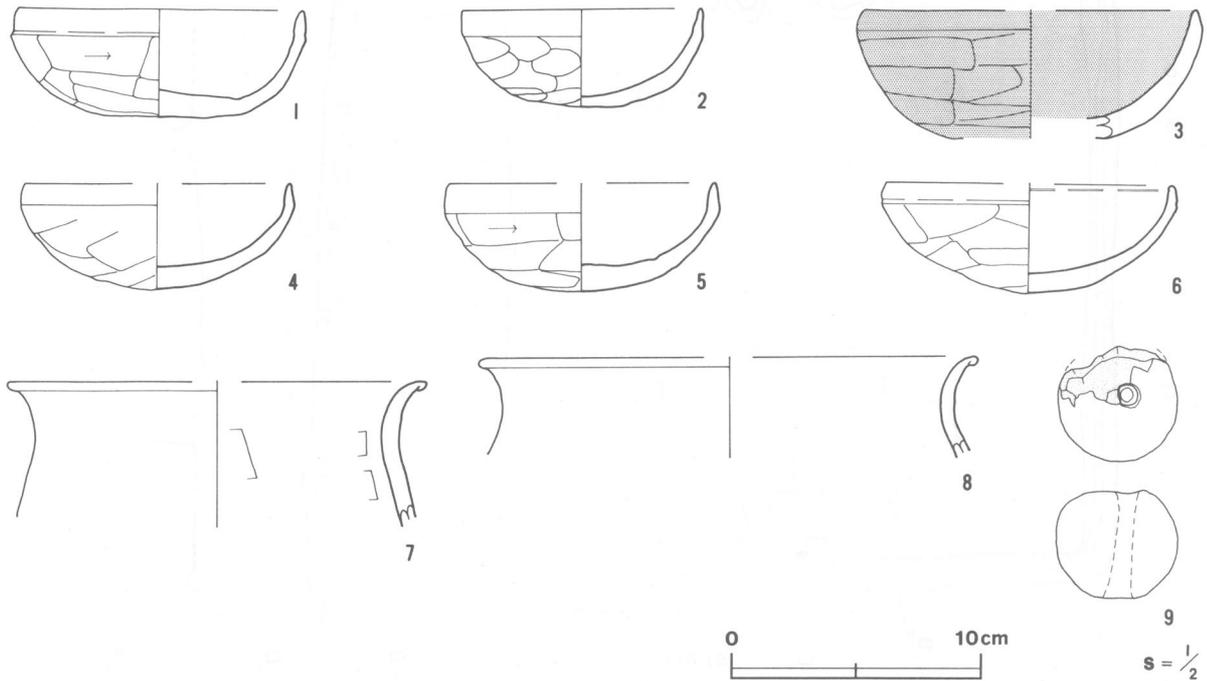
遺物 土師器片618点, 須恵器片16点, 土製品1点, 鉄製品1点が出土している。1の土師器坏が南コーナー付近の覆土下層から, 2の土師器坏が中央寄りの床面から, 3の土師器坏が北側覆土上層から, 7の土師器甕がP₅北側の床面から, 8の土師器甕がP₅南側の床面から, 4の土師器坏がP₃南側の床面から正位で, 5の



第487图 第506号住居跡実測図

土師器坏が8に近接した床面から、9の土玉が南東壁近くの床面から、6の土師器坏が覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から古墳時代後期の7世紀中葉と考えられる。



第488図 第506号住居跡出土遺物実測図

第506号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第488図 1	坏 土師器	A 11.1 B 4.4	丸底。体部は内彎して立ち上がり、体部と口縁部の境に稜をもつ。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へラ削り。内面ナデ。底部肥厚。	砂粒・雲母・スコリア・石英 にぶいオレンジ色 普通	P2144 95% 南コーナ一付近覆土下層
2	坏 土師器	A 9.6 B 3.9	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へラ削り。内面ナデ。	砂粒・スコリア にぶい黄橙色 普通	P2145 70% 中央寄り床面
3	坏 土師器	A[13.4] B(5.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はやや内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 褐灰色 普通	P2151 20% 北側覆土上層
4	坏 土師器	A[10.6] B 4.3	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へラ削り。内面ナデ。	砂粒・雲母・スコリア・石英 灰黄色 普通	P2148 70% P3南側床面
5	坏 土師器	A[10.6] B 4.4	丸底。体部は内彎して立ち上がり、体部と口縁部の境に稜をもつ。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へラ削り。内面ナデ。	砂粒・雲母・スコリア 褐灰色 普通	P2149 50% 8の近く床面
6	坏 土師器	A[11.6] B 4.5	丸底。体部は内彎して立ち上がり、体部と口縁部の境に稜をもつ。口縁部はほぼ直立する。口縁部内面直下に一条の沈線をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へラ削り。内面ナデ。	砂粒・雲母・スコリア 灰黄褐色 普通	P2150 40% 覆土中
7	甕 土師器	A[16.8] B(5.9)	口縁部片。口縁部は外反する。端部のつくりが雑である。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・スコリア 黄橙色 普通	P2146 5% P5北側床面
8	甕 土師器	A[19.8] B(4.1)	口縁部片。口縁部は外反する。端部のつくりが雑である。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	P2147 5% P5南側床面

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第488図9	土玉	2.9	3.3	0.6	27	南東壁近く床面	D P2010 70%

第508号住居跡 (第489図)

位置 調査8区西部, M8i3区。

重複関係 第504号住居跡に掘り込まれているので, 本跡が古い。

規模と平面形 本跡の北側が調査区域外に延びており, 第504号住居跡と重複しているため, 東西(2.20)m以上であること以外は不明である。

壁 壁高は8cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 南壁下で確認され, 上幅28~30cm, 下幅5~11cm, 深さ12cmで, 断面形はU字形である。

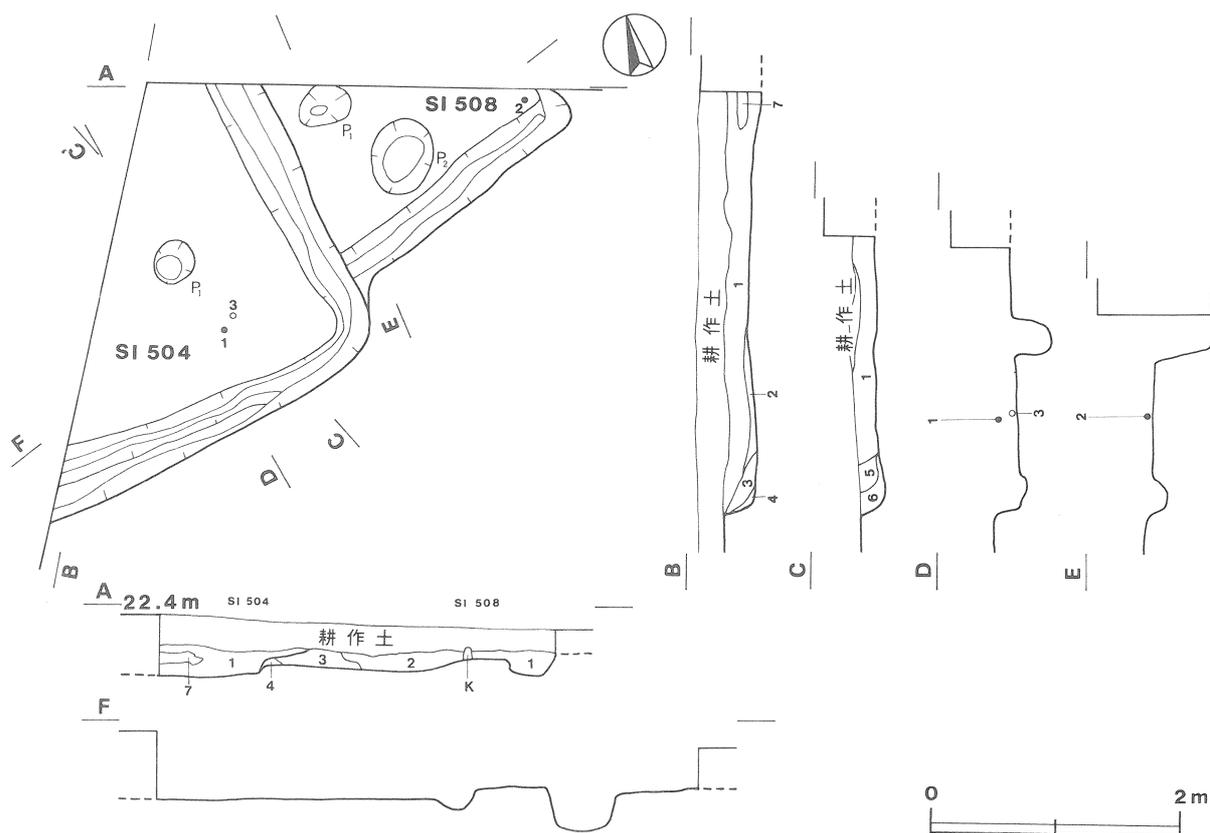
床 全体的に平坦である。

ピット 2か所(P₁, P₂)。P₁は, 北側が調査区域外になるため大きさは不明で, 深さ47cmである。P₂は, 長径61cm, 短径50cmの楕円形で, 深さ30cmである。いずれも性格は不明である。

覆土 4層からなり, 自然堆積である。

土層解説

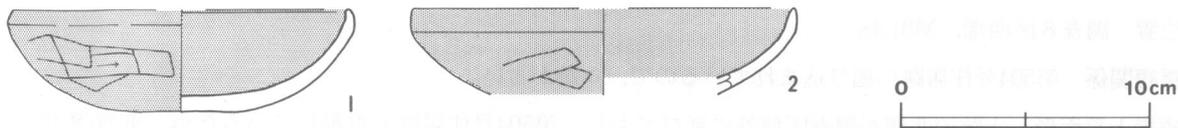
- | | | | |
|--------|-----------------|-------|-----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 極暗褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子少量 | 4 褐色 | ローム粒子少量 |



第489図 第504・508号住居跡実測図

遺物 土師器片35点、須恵器片2点、土製品1点が出土している。1の土師器坏が覆土中から、2の土師器坏が東コーナー付近の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から古墳時代後期の7世紀前葉と考えられる。



第490図 第508号住居跡出土遺物実測図

第508号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第490図 1	坏 土師器	A[13.4] B 4.1	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面ヘラ削り。内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・スコリア・石英 黒褐色 普通	P2154 40% 覆土中
2	坏 土師器	A[14.3] B(3.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、体部と口縁部の境に弱い稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・スコリア 黒褐色 普通	P2155 10% 東コーナー 一付近覆土中層

第509号住居跡 (第491図)

位置 調査8区西部, M8j4区。

規模と平面形 北側のほとんどが調査区域外に延びており、南東(1.80)m、北東(1.45)mである。平面形は不明である。

壁 壁高は26cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 南コーナー付近の壁下で確認され、上幅22~40cm、下幅7~11cm、深さ7~15cmで、断面形はU字形である。

床 全体的に平坦である。

覆土 4層からなり、自然堆積である。

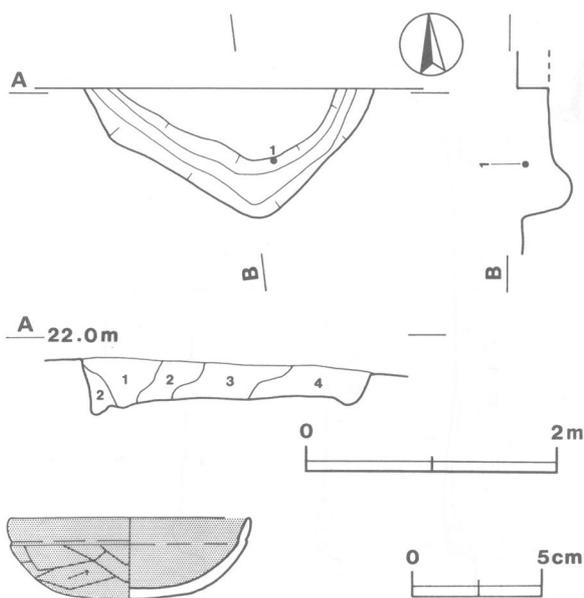
土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物 土師器片14点が出土している。1の土師器坏が、南コーナーの壁際の覆土上層から出土している。

第491図 第509号住居跡・出土遺物実測図

所見 本跡の時期は、出土遺物から古墳時代後期の7世紀後半と考えられる。



第509号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第491図 1	坏 土師器	A 9.5 B 3.3	丸底。体部は内彎して立ち上がり、体部と口縁部の境に稜をもつ。口縁部は内彎気味に直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・スコリア 灰褐色 普通	P2156 95% 南コーナ 一壁際覆土上層

第510号住居跡（第492・493図）

位置 調査8区西部，N8a5区。

重複関係 第515号住居跡を掘り込み，上位に第503・506・507・513号住居跡が構築されているので，第515号住居跡より新しく，第503・506・507・513号住居跡より古い。

規模と平面形 長軸8.35m，短軸8.32mの方形である。

主軸方向 N-28°-W

壁 壁高は15～52cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 北西壁下から南東壁下にかけて確認され，上幅12～45cm，下幅4～22cm，深さ4～16cmで，断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で，中央部が踏み固められている。さらに床面をはがした結果，ほぼ前面にわたって深さ4～18cmほど掘り込んでいることを確認した。

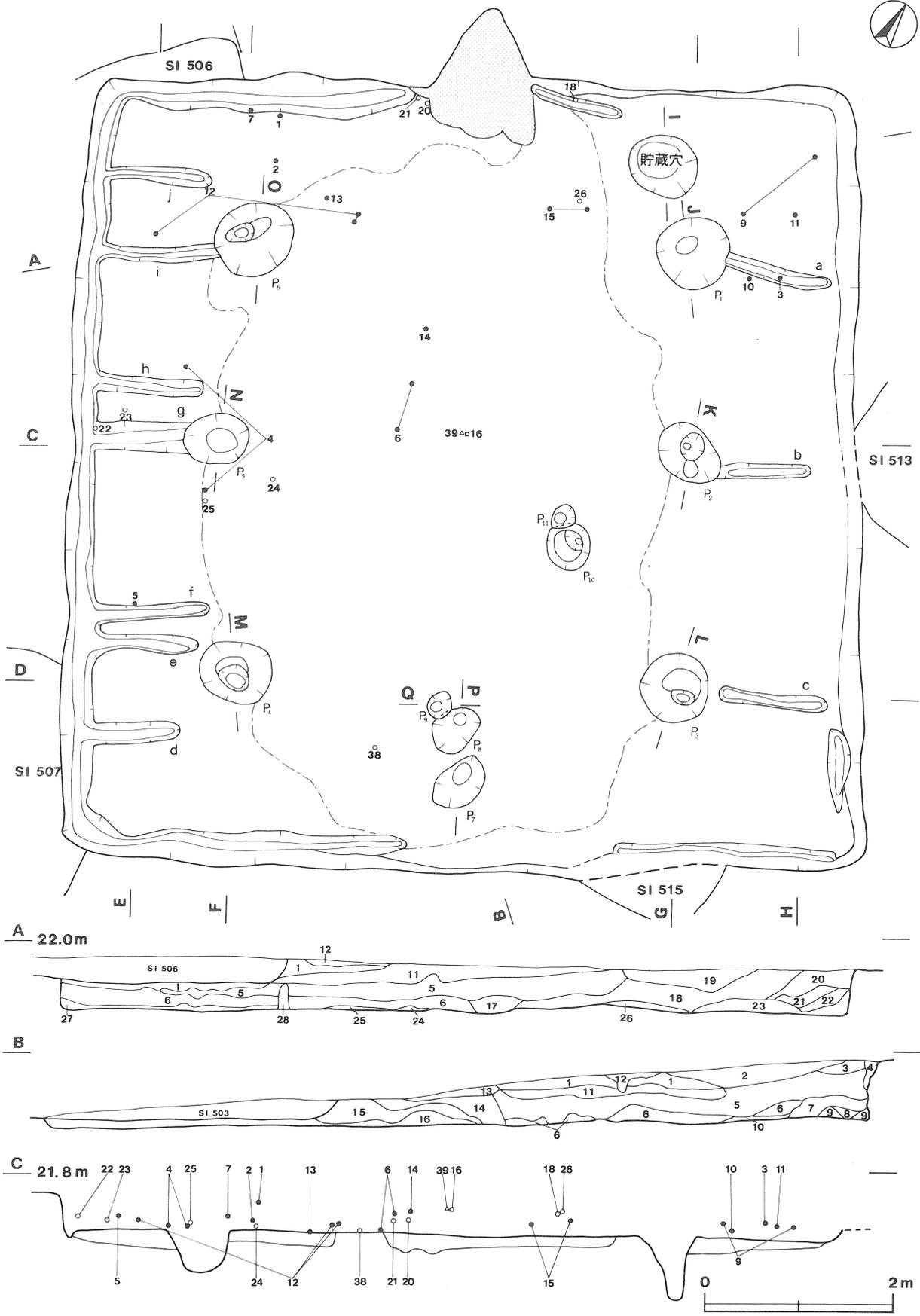
間仕切溝 10条(a～j)。北東壁から3条(a～c)，南西壁から7条(d～j)，それぞれ中央に向かって延びている。上幅13～23cm，下幅3～10cm，深さ6～20cmで，断面形はU字形である。間仕切溝aとP₁，bとP₂，gとP₅，iとP₆はそれぞれ連結している。

竈 北西壁中央部に砂質粘土で構築している。規模は長さ143cm，袖幅115cm，壁外への掘り込みは75cmである。袖部は，床面を掘り込んで構築している。左袖は右袖に比べ短く，一部が崩れ落ちたと考えられる。天井部は，厚さ22cmほどで砂質粘土で構築している。火床部は，火熱を受けて赤変している。煙道部は，ほぼ垂直に立ち上がる。煙出し口は残存状態が良く，長径33cm，短径28cmの楕円形で，赤変硬化している。

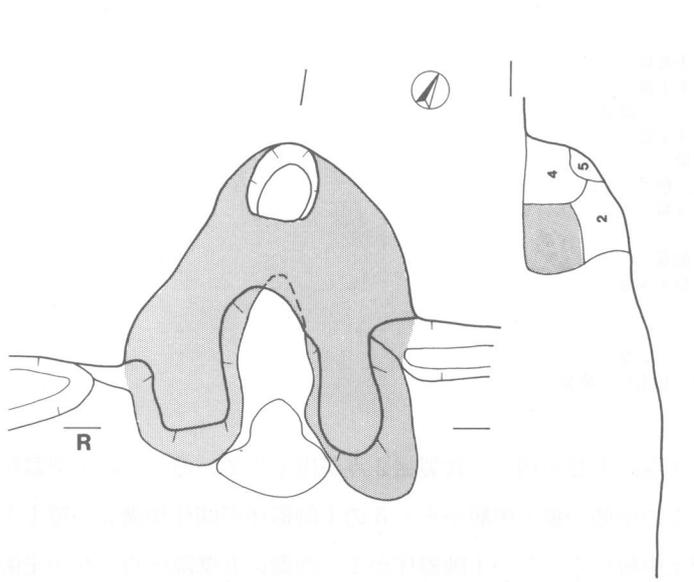
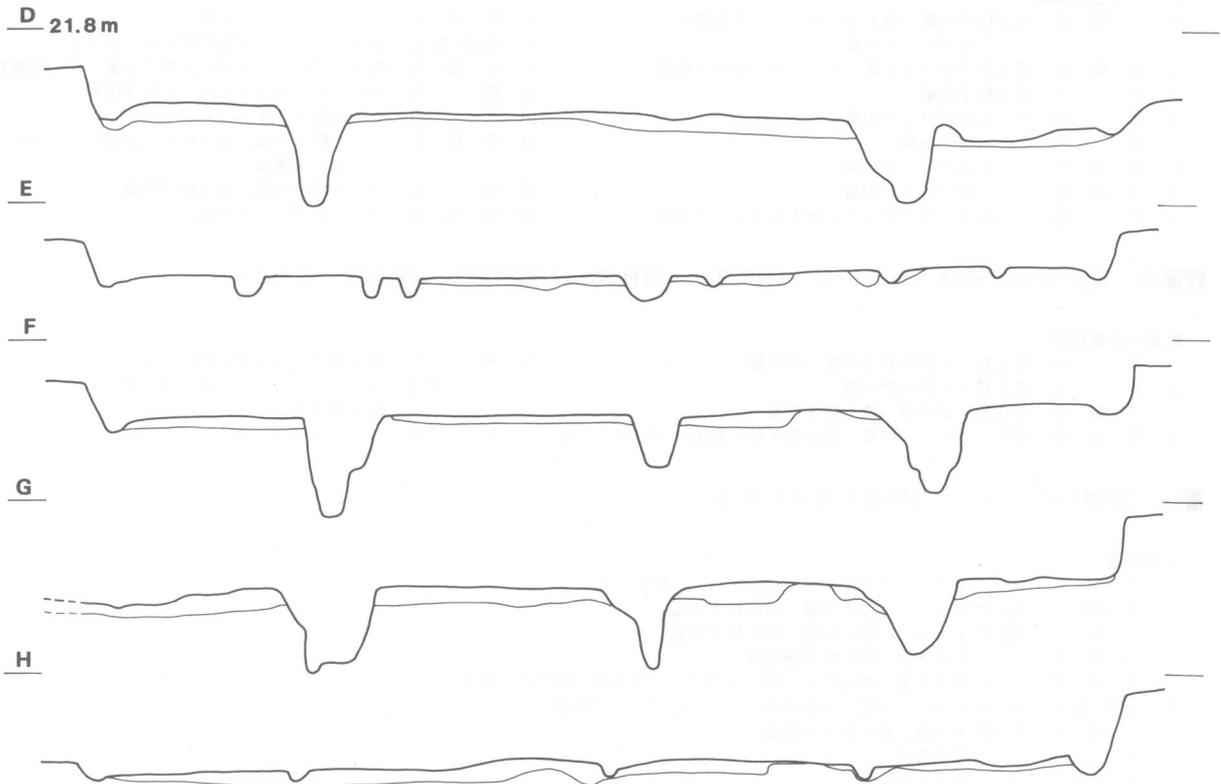
竈土層解説

- 1 にぶい黄褐色 焼土小ブロック・粘土大ブロック中量，炭化物少量
- 2 にぶい赤褐色 焼土中ブロック中量，砂少量
- 3 にぶい赤褐色 焼土小ブロック多量，粘土中ブロック少量
- 4 にぶい赤褐色 焼土中ブロック・炭化物中量，粘土小ブロック少量
- 5 明赤褐色 粘土粒子多量
- 6 にぶい黄褐色 粘土大ブロック・砂中量，焼土小ブロック少量
- 7 にぶい黄褐色 粘土大ブロック中量
- 8 にぶい橙色 粘土粒子多量

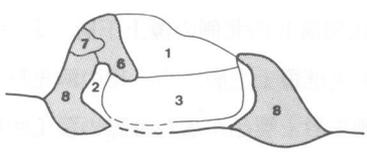
ピット 11か所(P₁～P₁₁)。P₁は，径77cmほどの円形で，深さ58cmである。P₂は，長径73cm，短径53cmの楕円形で，深さ68cmである。P₃は，径73cmほどの円形で，深さ69cmである。P₄は，長径75cm，短径62cmの楕円形で，深さ82cmである。P₅は，長径68cm，短径54cmの楕円形で，深さ43cmである。P₆は，長径85cm，短径73cmの楕円形で，深さ70cmである。いずれも支柱穴と考えられる。P₇は，長径65cm，短径43cmの楕円形で，深さ43cmである。P₈は，長径56cm，短径42cmの楕円形で，深さ46cmである。P₇，P₈の新旧関係は不明であるが，位置から出入り口施設に伴うピットと考えられ，作り替えられたものと思われる。P₉は，長径30cm，短径25cmの楕円形で，深さ48cmである。P₁₀は，径48cmほどの円形で，深さ28cmである。P₁₁は，長径30cm，短径25cmの楕円形で，深さ38cmである。性格は，いずれも不明である。



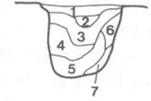
第492図 第510号住居跡実測図(1)



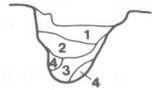
R 21.8m



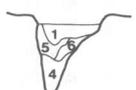
I 21.4m



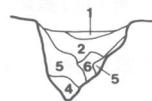
J



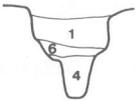
K



L



M



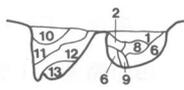
N



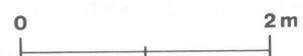
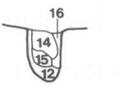
O



P



Q



第493图 第510号住居跡実測图(2)

P₁～P₉土層解説

1 灰 褐色	焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量	9 黒 褐色	ローム小ブロック少量
2 暗 褐色	焼土小ブロック少量, ローム小ブロック微量	10 極暗褐色	焼土中ブロック・炭化物中量, 砂少量
3 褐色	焼土粒子微量	11 暗 褐色	焼土小ブロック・ローム粒子少量, 炭化物微量
4 褐色	ローム中ブロック中量	12 褐色	ローム中ブロック・ローム粒子少量
5 褐色	ローム粒子少量	13 褐色	ローム粒子少量
6 暗 褐色	ローム小ブロック少量	14 暗 褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
7 明 褐色	ローム中ブロック中量	15 褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子微量
8 褐色	ローム中・小ブロック・焼土小ブロック少量	16 明 褐色	ローム大ブロック中量

貯蔵穴 竈の東側で確認されている。長径73cm, 短径63cmの楕円形で, 深さ57cmである。

貯蔵穴土層解説

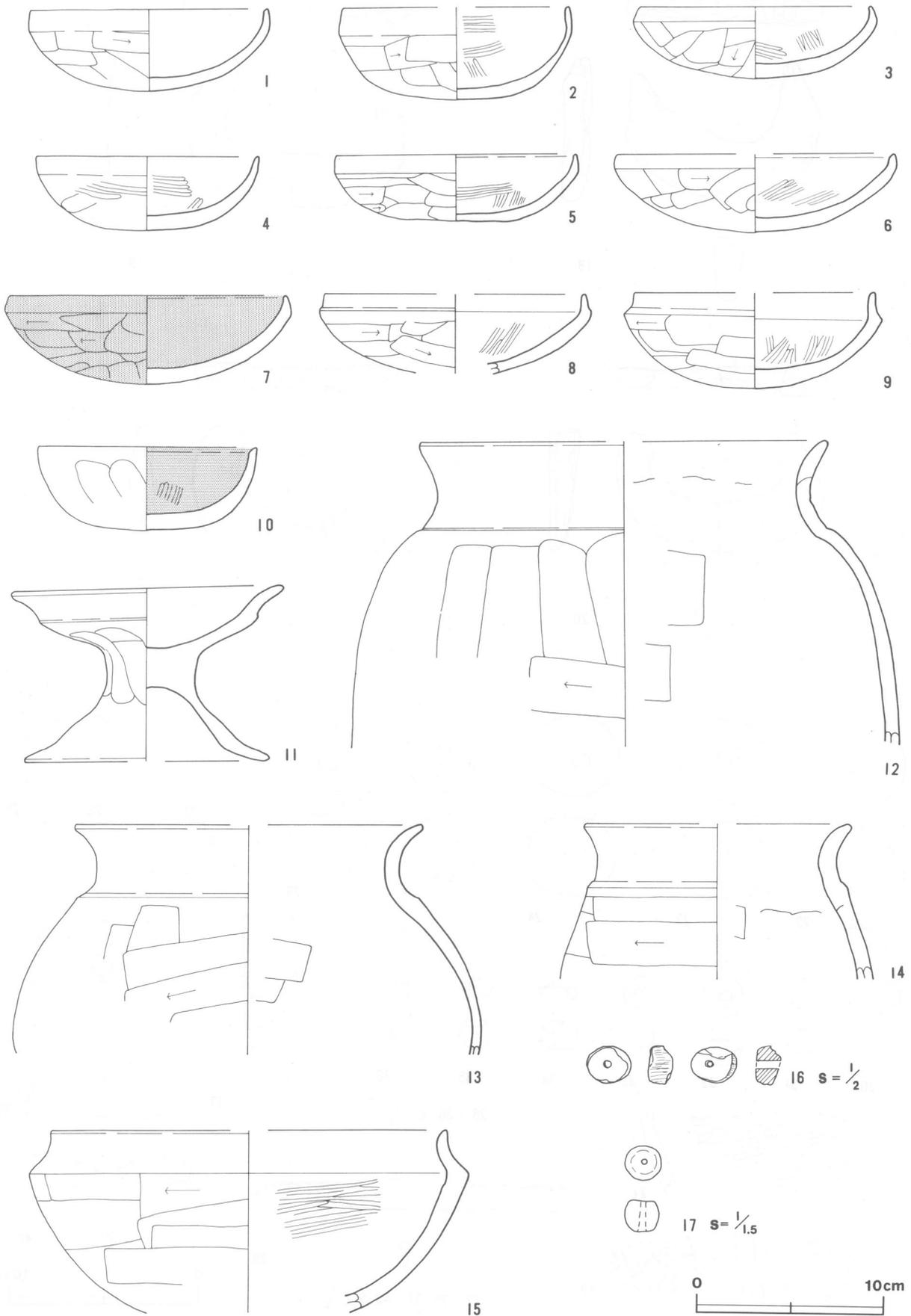
1 褐色	焼土粒子・炭化粒子中量, 砂少量	5 褐色	焼土粒子・砂・粘土粒子少量
2 褐色	焼土粒子・炭化物少量	6 にぶい褐色	ローム大ブロック中量, 焼土粒子・粘土粒子少量
3 灰 褐色	炭化物・砂中量, 焼土粒子少量	7 褐色	ローム中ブロック中量
4 暗 褐色	焼土小ブロック中量, 炭化物・砂・粘土小ブロック少量		

覆土 28層からなり, 人為堆積と考えられる。

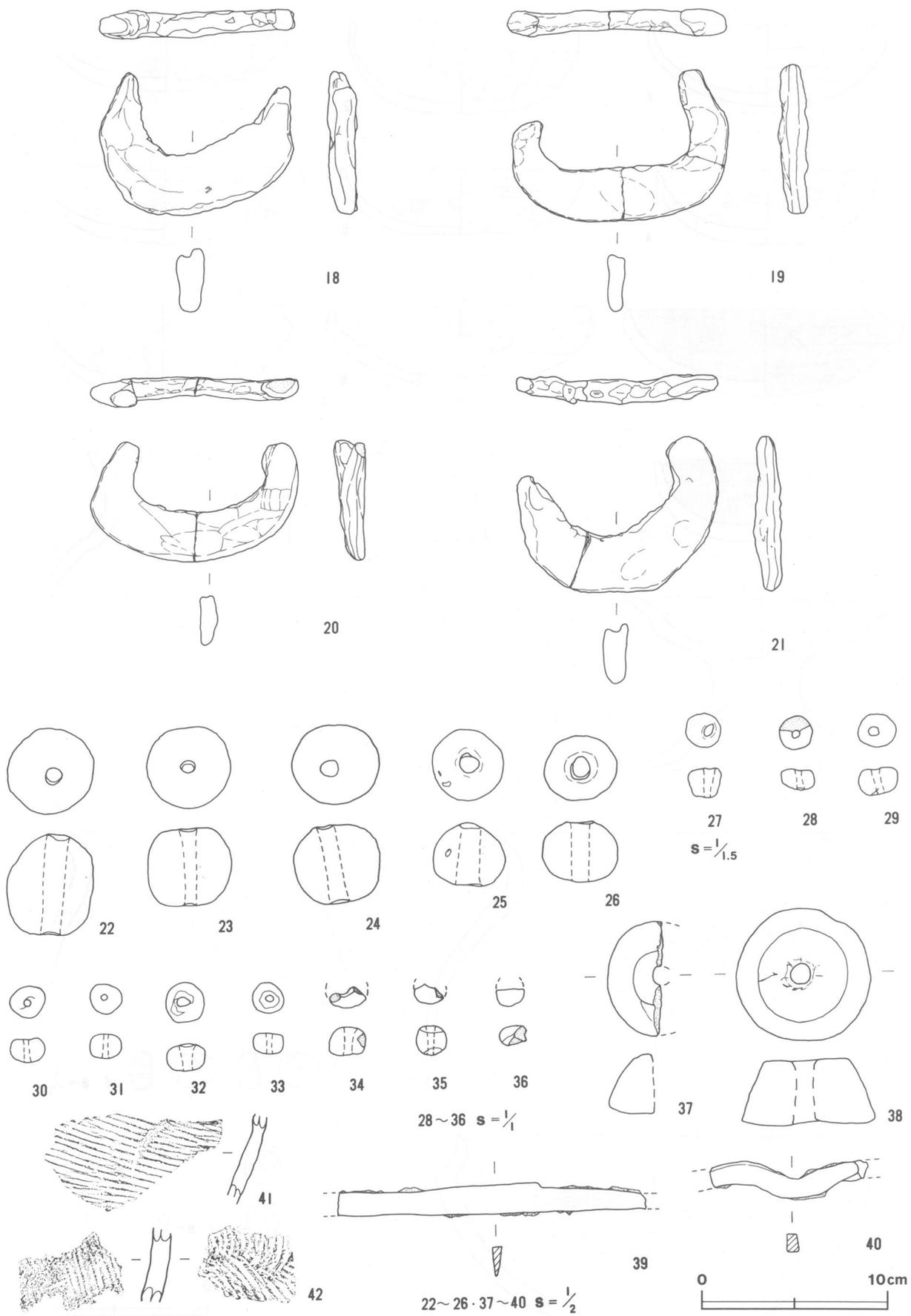
土層解説

1 黒 褐色	ローム中ブロック中量, 炭化粒子・ローム粒子少量
2 極暗褐色	焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
3 黒 褐色	焼土粒子・ローム粒子中量, 炭化粒子微量
4 暗 褐色	ローム粒子多量, 焼土粒子極微量
5 黒 褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・ローム中ブロック少量, 炭化粒子微量
6 極暗褐色	焼土粒子・ローム粒子・砂少量, ローム小ブロック微量
7 黒 褐色	焼土粒子少量, 炭化物・砂微量
8 黒 褐色	ローム粒子微量
9 極暗褐色	ローム粒子・砂少量
10 暗 褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子少量
11 黒 褐色	焼土粒子多量, 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
12 黒 褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化物微量
13 黒 褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量
14 極暗褐色	炭化粒子・ローム粒子・砂少量, 焼土粒子微量
15 極暗褐色	焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
16 黒 褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・ローム小ブロック微量
17 暗 褐色	粘土粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子少量
18 黒 褐色	焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子・砂少量
19 暗 褐色	ローム小ブロック中量, ローム粒子・粘土粒子少量
20 極暗褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量
21 黒 褐色	焼土粒子・ローム粒子・砂少量
22 黒 褐色	ローム粒子・砂少量, ローム小ブロック微量
23 暗 褐色	砂中量, 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量
24 にぶい橙色	粘土粒子少量
25 黒 褐色	焼土粒子・ローム粒子少量, 砂微量
26 褐色	焼土粒子・粘土粒子中量, ローム中ブロック少量
27 黒 褐色	ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, 粘土粒子微量
28 暗 褐色	ローム粒子多量, 焼土粒子微量

遺物 土師器片2725点, 須恵器片38点, 石製品3点, 土製品19点, 鉄製品2点が出土している。1の土師器坏が北西壁近くの覆土上層から, 2の土師器坏が1の南側の覆土中層から, 3の土師器坏が間仕切溝aの覆土上層から, 5の土師器坏が間仕切溝fの北側の覆土中層から, 7の土師器坏が1の西側の北壁際から, 9の土師器坏が北側の覆土上層から, 10の土師器坏が間仕切溝aの南側の覆土下層から, 11の土師器高坏が北東側の覆土上層から, 13の土師器甕がP₆の東側の床面から, 14の土師器甕が中央部覆土上層から, 15の土師器鉢が竈の南側の覆土中層からそれぞれ出土している。4の土師器坏は, 間仕切溝hの北側の覆土下層, P₅の南側の覆土下層から出土した破片と接合している。16の白玉, 39の刀子が中央部覆土上層から, 18の鋤先形土製品が北西壁際の覆土上層から, 19の鋤先形土製品が竈内から, 20, 21の鋤先形土製品が竈左袖際の覆土中層から, 22の土玉が南西壁際から, 23の土玉が22の北東側の覆土中層から, 24の土玉がP₅の東側の覆土下層から, 25の土玉がP₅の南側の覆土中層から, 26の土玉が15の北側の覆土上層から, 38の土製紡錘車がP₇の西側の床面から, 8の土師器坏, 27の小玉, 37の土製紡錘車が覆土中からそれぞれ出土している。また, 床面をはがし



第494图 第510号住居跡出土遺物実測図(1)



第495图 第510号住居跡出土遺物実測図(2)

て調査した結果、28～36の土製小玉が南西側から出土している。41は須恵器甕の体部片で、外面に横位の平行叩きが施されている。42は須恵器甕の体部片で、外面に縦位の平行叩きが、内面に当て具痕が見られる。

所見 本跡からは、鋤先形土製品が出土している。県内では、尾島遺跡の祭祀場から出土しているが、住居跡からの出土は県内初である。時期は、出土遺物から古墳時代後期の7世紀前葉と考えられる。

第510号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第494図 1	坏 土師器	A 12.6 B 4.4	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へら削り。内面ナデ。内・外面磨滅。	砂粒・雲母・スコリアにぶい黄褐色普通	P2157 60% 北西壁近く覆土上層
2	坏 土師器	A[12.0] B 5.0	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はほぼ直立する。	口縁部外面横ナデ。体部・底部外面へら削り。内面へら磨き。	砂粒・雲母・スコリアにぶい褐色普通	P2158 70% 1の南側覆土中層
3	坏 土師器	A 12.4 B 3.9	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へら削り。内面へら磨き。	砂粒・雲母・スコリアにぶい褐色普通	P2159 95% 間仕切溝aの覆土上層
4	坏 土師器	A 11.8 B 4.0	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へら削り後、へら磨き。内面へら磨き。	砂粒・雲母・スコリアにぶい褐色普通	P2160 60% 間仕切溝hの覆土下層
5	坏 土師器	A 12.8 B 3.7	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へら削り。内面へら磨き。内面磨滅。	砂粒・雲母・スコリアにぶい黄褐色普通	P2161 70% 間仕切溝fの覆土中層
6	坏 土師器	A[14.8] B 4.2	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へら削り。内面へら磨き。内面磨滅。	砂粒・雲母・スコリアにぶい褐色普通	P2162 30% 中央床面覆土中層
7	坏 土師器	A 14.6 B 4.7	丸底。体部は内彎して立ち上がり、体部と口縁部の境に弱い稜をもつ。口縁部は短くやや内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へら削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・スコリアにぶい褐色普通	P2163 100% 1の西側北壁際
8	坏 土師器	A[14.0] B(4.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、体部と口縁部の境に段を有し、口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面へら磨き。内面磨滅。	砂粒・雲母・スコリアにぶい橙色普通	P2164 30% 覆土中
9	坏 土師器	A[12.9] B 5.2	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、体部と口縁部の境に段を有し、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へら削り。内面へら磨き。外面磨滅。	砂粒・雲母・スコリアにぶい赤褐色普通	P2165 80% 北側覆土上層
10	坏 土師器	A 11.5 B 4.4	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へら削り。内面へら磨き。内面黒色処理。内・外面磨滅。	砂粒・雲母・スコリア内面黒褐色・外面灰黄褐色普通	P2166 95% 間仕切溝aの覆土下層
11	高坏 土師器	A 14.3 B 9.4 D[13.0] E 5.6	脚部は円柱状で、裾部はハの字状に開く。坏体部は内彎して立ち上がり、体部と口縁部の境に稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。坏体部外面へら削り。脚部外面へら削り。	砂粒・雲母灰褐色普通	P2167 60% 北東側覆土上層
12	甕 土師器	A[21.6] B(16.4)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、体部と口縁部の境に稜をもつ。口縁部はやや外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面へらナデ。	砂粒・雲母にぶい橙色普通	P2168 20% P6西側・東側覆土中層
13	甕 土師器	A[18.4] B(12.4)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、体部と口縁部の境に弱い稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面へらナデ。	砂粒・雲母・スコリアにぶい褐色普通	P2169 20% P6東側床面
14	甕 土師器	A[14.0] B(8.4)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、体部と口縁部の境に部分的に弱い稜をもつ。口縁部は短く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面へらナデ。	砂粒・雲母・スコリア・石英にぶい橙色普通 二次焼成	P2170 15% 中央覆土上層
15	鉢 土師器	A[21.0] B(9.9)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、体部と口縁部の境に段を有し、口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面へら磨き。	砂粒・雲母・スコリアにぶい黄褐色普通	P2171 35% 竈南側覆土中層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考	
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第494図16	白玉	0.8	0.9	0.3	2.16	中央覆土上層	Q2006 滑石片岩	80%

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考	
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
17	石製丸玉	0.8	1.0	0.2	0.86	覆土中	Q2013 頁岩	100%

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第495図18	鐮形社製品	7.8	10.5	1.6	84	北西壁際覆土上層	D P 2011	100%
19	鐮形社製品	8.1	11.9	1.8	58	竈内	D P 2012	100%
20	鐮形社製品	6.5	11.2	1.6	49	竈左袖際覆土中層	D P 2013	100%
21	鐮形社製品	8.4	10.9	1.5	66	竈左袖際覆土中層	D P 2014	100%

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考	
		長さ(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
22	土玉	3.5	3.1	0.6	33	南西壁際	D P 2015	100%
23	土玉	2.8	3.0	0.5	26	22の北東側覆土中層	D P 2016	100%
24	土玉	2.9	3.1	0.7	24	P ₅ 東側覆土下層	D P 2017	100%
25	土玉	2.4	2.6	0.7	14	P ₅ 南側覆土中層	D P 2018	100%
26	土玉	2.2	2.7	0.7	12	15の北側覆土上層	D P 2019	100%
27	小玉	0.7	0.9	0.4	0.68	覆土中	D P 2020	100%
28	小玉	0.4	0.6	0.15	0.12	床下	D P 2023	100%
29	小玉	0.5	0.7	0.2	0.19	床下	D P 2024	100%
30	小玉	0.45	0.6	0.1	0.15	床下	D P 2025	100%
31	小玉	0.4	0.55	0.1	0.15	床下	D P 2026	100%
32	小玉	0.5	0.7	0.25	0.23	床下	D P 2027	100%
33	小玉	0.4	0.55	0.15	0.12	床下	D P 2028	100%
34	小玉	0.5	(0.35)~(0.6)	[0.2]	(0.1)	床下	D P 2029	40%
35	小玉	0.5	(0.5)	[0.15]	(0.08)	床下	D P 2030	40%
36	小玉	0.35	(0.3)~(0.5)	—	(0.03)	床下	D P 2031	20%

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考	
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
37	土製紡錘車	4.1	2.4	[0.7]	(16)	覆土中	D P 2021	50%
38	土製紡錘車	4.8	2.3	0.7	55	P ₇ 西側床面	D P 2036	95%

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
39	刀子	(11.0)	1.1	0.3	(13)	中央覆土上層	M2009	
40	不明鉄製品	(5.6)	1.3	0.4	(7)	覆土中	M2010	

第515号住居跡 (第496図)

位置 調査8区西部, N8b5区。

重複関係 上位に第503号住居跡が構築され, 第510号住居跡に掘り込まれているので, 両住居跡より古い。

規模と平面形 重複により規模や平面形は明確ではないが, 長軸[3.55]m, 短軸[3.40]mの方形と推定される。

長軸方向 [N-0°]

壁 南東コーナー付近で確認され, 壁高は12cmで, 外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦である。

ピット 3か所(P₁~P₃)。P₁は, 径30cmほどの円形で, 深さ48cmである。P₂は, 長径58cm, 短径45cmの楕円形で, 深さ40cmである。いずれも性格は, 不明である。P₃は, 長径40cm, 短径25cmの楕円形で, 深さ37cmである。出入り口施設に伴うピットの可能性がある。

覆土 2層からなり, 人為堆積と推測される。

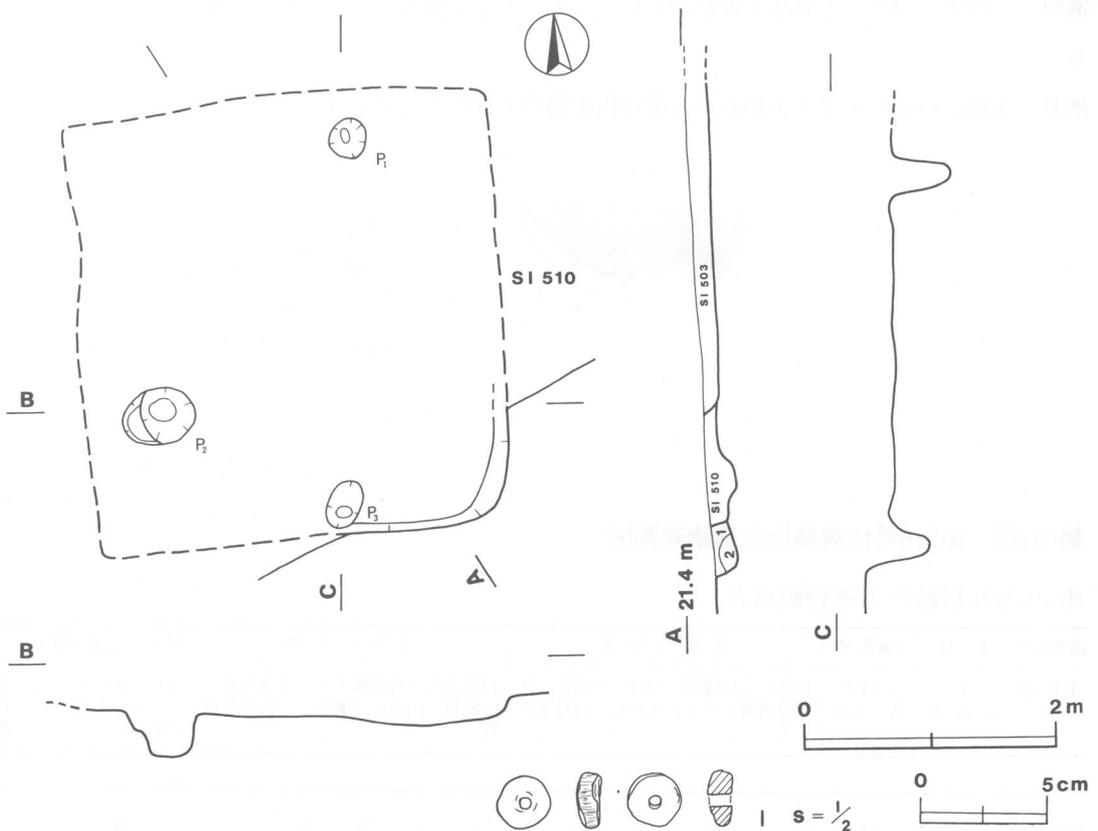
土層解説

1 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量

2 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・ローム小ブロック微量

遺物 土師器片12点, 須恵器片1点, 石製品1点が出土している。1の白玉が覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は, 遺物が少なく時期判断は難しいが, 第510号住居跡より古いことから7世紀前葉以前と考えられる。



第496図 第515号住居跡・出土遺物実測図

第515号住居跡出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考	
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第496図1	白玉	1.6	1.6	0.3	1.66	覆土中	Q2007 滑石片岩	100%

第516号住居跡 (第498図)

位置 調査8区西部, N8c2区。

重複関係 第502号住居跡に掘り込まれており, 本跡が古い。

規模と平面形 重複により, 長軸4.05m, 短軸(1.05)mである。平面形は不明である。

長軸方向 [N-2°-W]

壁 壁高は1~22cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 南東コーナー壁下から南西コーナー壁下にかけて確認され, 上幅は12~22cm, 下幅3~8cm, 深さ3~10cmで, 断面形はU字形である。

床 全体的に平坦である。

覆土 2層からなり, 人為堆積と推測される。

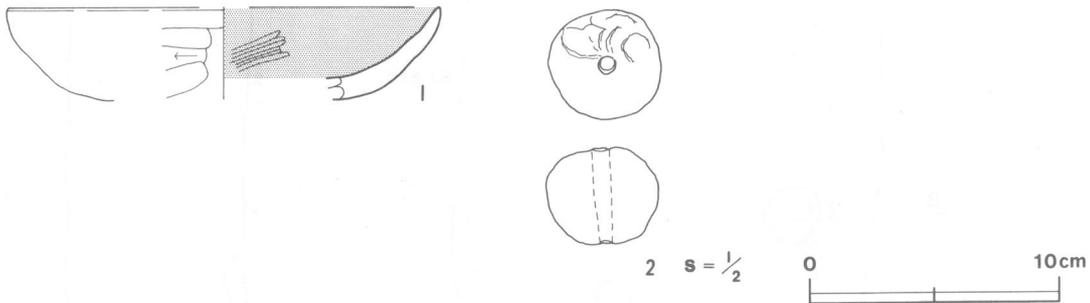
土層解説

1 褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子微量

2 褐色 ローム粒子多量

遺物 土師器片40点, 土製品1点が出土している。1の土師器坏, 2の土玉が覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から古墳時代後期の7世紀と考えられる。

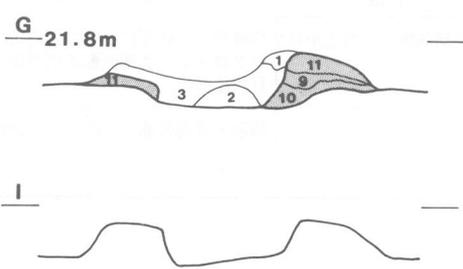
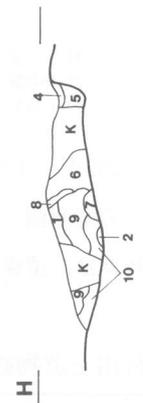
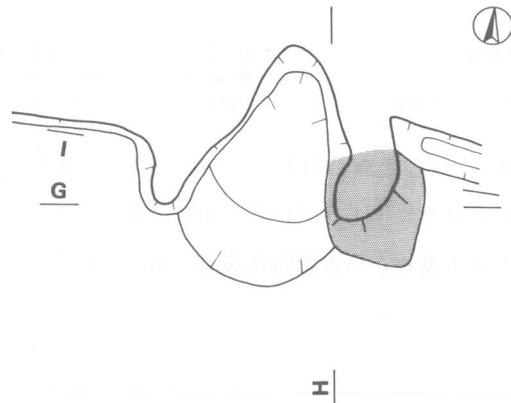
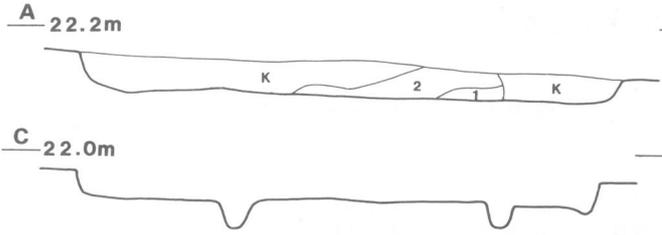
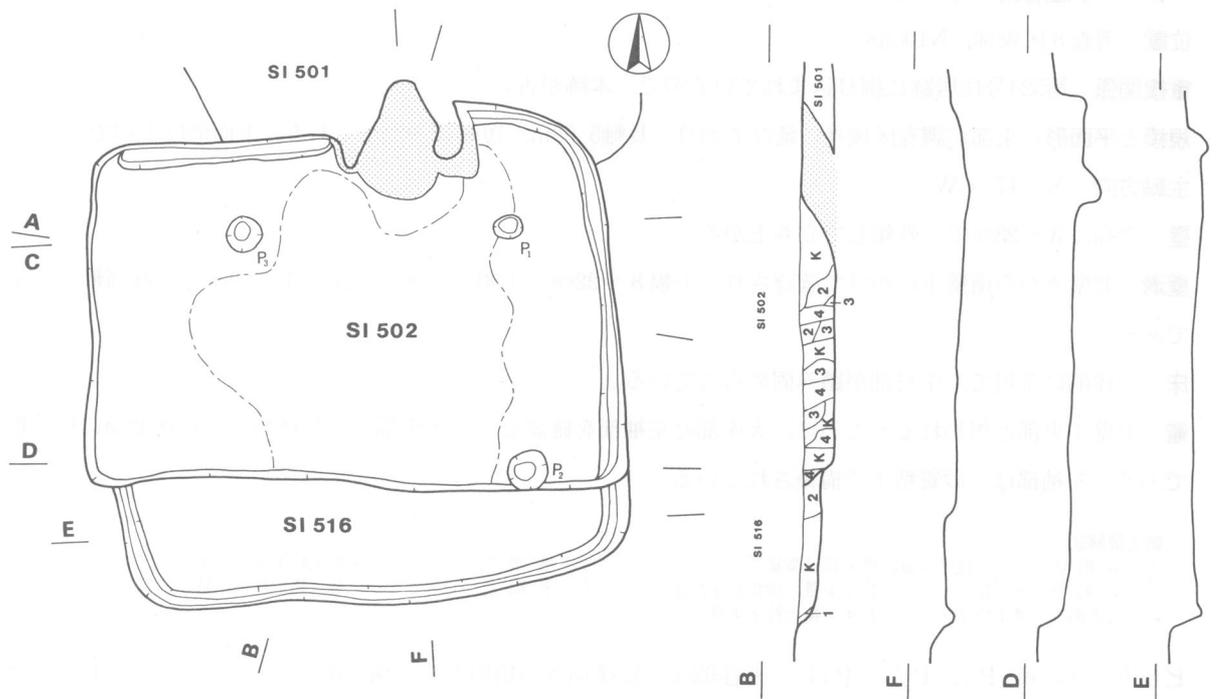


第497図 第516号住居跡出土遺物実測図

第516号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第497図1	坏土師器	A[17.3] B(3.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面へラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母・スコリア 外面灰褐色 内面黒色 普通	P2129 10% 覆土中

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考	
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
2	土玉	2.6	2.9	0.4	20	覆土中	D P2007	90%



第498图 第502・516号住居跡実測図

第526号住居跡（第499図）

位置 調査8区東部，N10e4区。

重複関係 第524号住居跡に掘り込まれているので，本跡が古い。

規模と平面形 東部が調査区域外に延びており，長軸5.68m，短軸(2.95)mである。平面形は不明である。

主軸方向 N-17°-W

壁 壁高は3～23cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 北壁下から南壁下にかけて確認され，上幅8～22cm，下幅3～8cm，深さ4～12cmで，断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で，中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部と思われるところに，火床部と左袖部を確認した。火床部は，長径42cm，短径32cmの楕円形状である。左袖部は，砂質粘土で構築されている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------|-------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量，焼土小ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子・ローム粒子少量，炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量 | | |

ピット 2か所(P₁，P₂)。P₁は，長径92cm，短径75cmの楕円形で，深さ63cmである。P₂は，長径72cm，短径54cmの楕円形で，深さ53cmである。位置から支柱穴と考えられる。

P₁土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------|-------|------------------------|
| 1 極暗褐色 | 焼土粒子・ローム粒子少量，炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子中量，炭化粒子・粘土小ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量 | | |

P₂土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 褐色 | ローム粒子多量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子少量，炭化物・ローム小ブロック微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子・砂微量 |

覆土 6層からなり，自然堆積と思われる。

土層解説

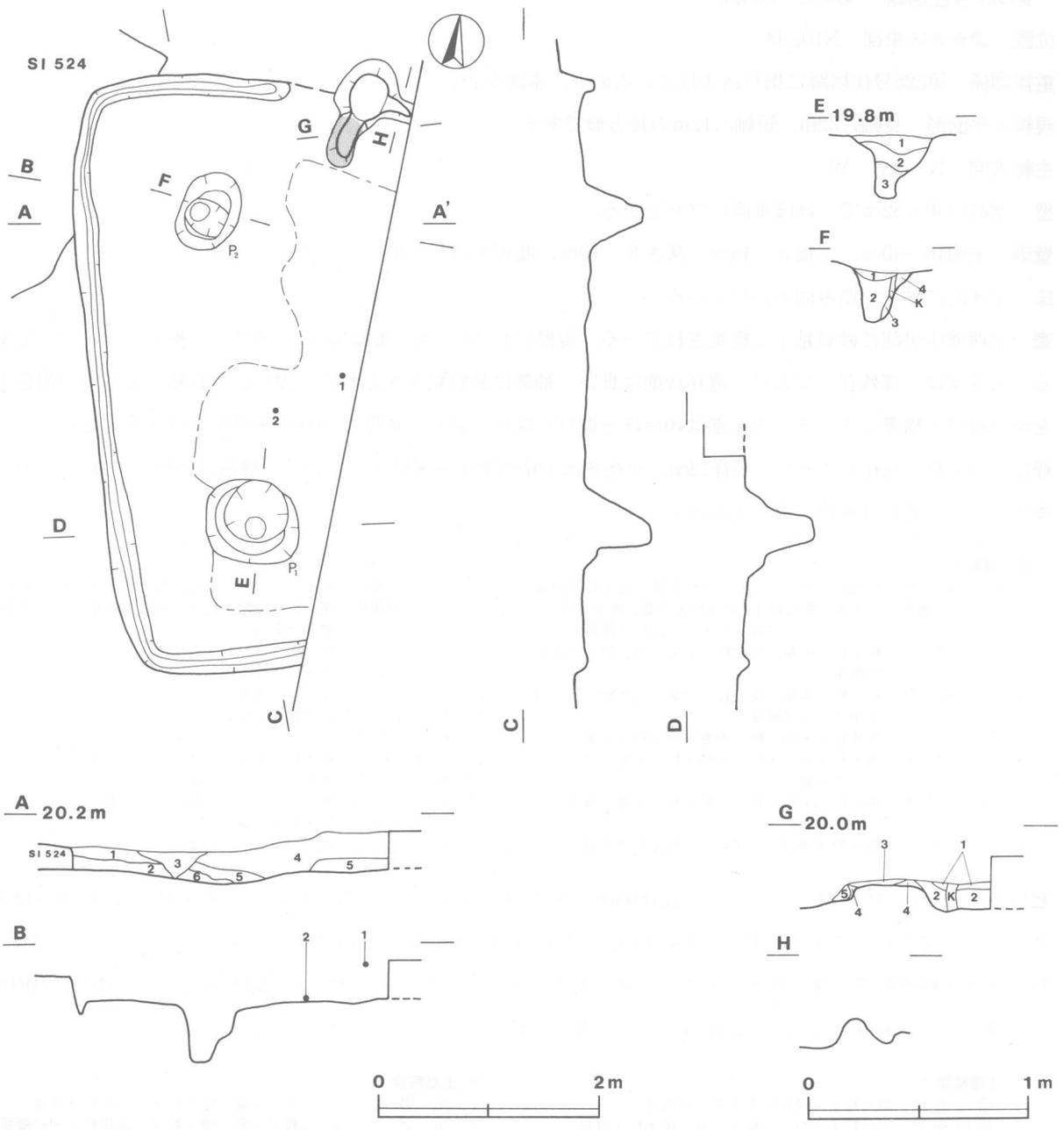
- | | | | |
|-------|--------------------|--------|--------------------------|
| 1 灰褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量 | 5 黒褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子多量，ローム大ブロック微量 | 6 極暗褐色 | ローム粒子多量，焼土粒子微量 |

遺物 土師器片252点，須恵器片22点，鉄滓1点が出土している。1の土師器小皿が中央部覆土上層から，2の土師器甕が1の南西側の床面からそれぞれ出土している。1は，混入と考えられる。

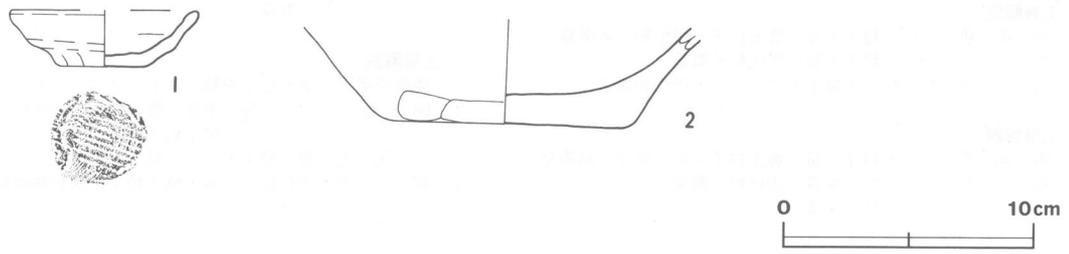
所見 本跡の時期は，遺構の形態と出土遺物から古墳時代後期と考えられる。

第526号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第500図 1	小皿 土師器	A [7.4] B 2.3 C 3.6	平底。体部は外傾気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部にかけての内・外面 ロクロナデ。底部回転糸切り後，板 目状圧痕。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通 口縁部に煤付着	P2225 70% 中央部覆土上層
2	甕 土師器	B (4.2) C 9.6	底部片。平底。	体部・底部外面ヘラ削り。内面磨滅。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P2226 15% 1の南西側床面



第499图 第526号住居跡実測图



第500图 第526号住居跡出土遺物実測图

第527号住居跡（第502・503図）

位置 調査8区東部，N10c2区。

重複関係 第525号住居跡に掘り込まれているので，本跡が古い。

規模と平面形 長軸7.32m，短軸5.12mの長方形である。

主軸方向 N-28°-W

壁 壁高は40～52cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 上幅16～40cm，下幅5～16cm，深さ8～10cm，断面形はU字形で，全周している。

床 全体的に平坦で踏み固められている。

竈 北西壁中央部に砂質粘土で構築されている。規模は長さ153cm，袖幅156cm，壁外への掘り込みは40cmである。天井部は一部残存しており，遺存状態は良い。袖部は砂質粘土を芯材に，周りに砂質粘土混じりの褐色土を貼り付けて構築している。火床部は10cmほど掘りくぼめており，奥壁はかなり火熱を受け赤変している。

煙出し口も良く残存しており，長径12cm，短径8cmの楕円形で赤変硬化している。煙道は外傾して立ち上がり，煙出し口付近ではほぼ垂直に立ち上がる。

竈土層解説

1 暗褐色	炭化粒子・ローム粒子・砂少量，焼土粒子微量	9 にぶい赤褐色	粘土小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2 にぶい赤褐色	砂中量，焼土粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量	10 にぶい赤褐色	焼土粒子・粘土粒子中量，焼土小ブロック少量，炭化物微量
3 にぶい赤褐色	粘土粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子・炭化物微量	11 褐色	焼土小ブロック・砂中量
4 赤褐色	粘土粒子多量，焼土粒子中量，炭化物少量，焼土中ブロック微量	12 明赤褐色	焼土粒子多量
5 暗赤褐色	炭化粒子・粘土粒子中量，焼土粒子少量	13 明黄褐色	粘土粒子多量
6 にぶい赤褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量，焼土小ブロック少量	14 褐色	粘土粒子中量
7 暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子中量，焼土大ブロック微量	15 暗赤褐色	ローム小ブロック中量
8 暗赤褐色	焼土粒子多量，炭化粒子・粘土粒子少量	16 明黄褐色	粘土粒子中量，焼土中ブロック少量
		17 褐色	焼土中ブロック中量
		18 褐色	焼土小ブロック・焼土粒子少量
		19 にぶい赤褐色	焼土粒子少量
		20 赤褐色	焼土小ブロック中量

ピット 5か所(P₁～P₅)。P₁は，長径98cm，短径73cmの楕円形で，深さ68cmである。P₂は，径76cmほどの円形で，深さ71cmである。P₃は，長径64cm，短径46cmの楕円形で，深さ62cmである。P₄は，長径73cm，短径66cmの楕円形で，深さ66cmである。いずれも支柱穴と考えられる。P₅は，長径73cm，短径54cmの楕円形で，深さ64cmである。出入り口に伴うピットと考えられる。

P₁土層解説

1 暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子少量，砂微量
2 極暗褐色	炭化粒子・ローム粒子少量，焼土粒子微量
3 褐色	ローム粒子中量，砂少量，炭化粒子微量
4 褐色	ローム粒子中量，粘土粒子少量，焼土粒子微量

P₂土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物・砂微量
2 褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量
3 褐色	粘土粒子・焼土大ブロック・炭化物微量

P₃土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・砂微量
2 褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量
3 褐色	ローム粒子中量

P₄土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・砂微量
3 灰褐色	ローム粒子中量，砂少量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
4 褐色	炭化粒子・ローム粒子・砂少量，ローム小ブロック微量

P₅土層解説

1 極暗赤褐色	焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
2 暗赤褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・粘土粒子微量
3 暗褐色	焼土粒子・ローム粒子・砂微量
4 褐色	炭化粒子・砂・焼土粒子・炭化物微量

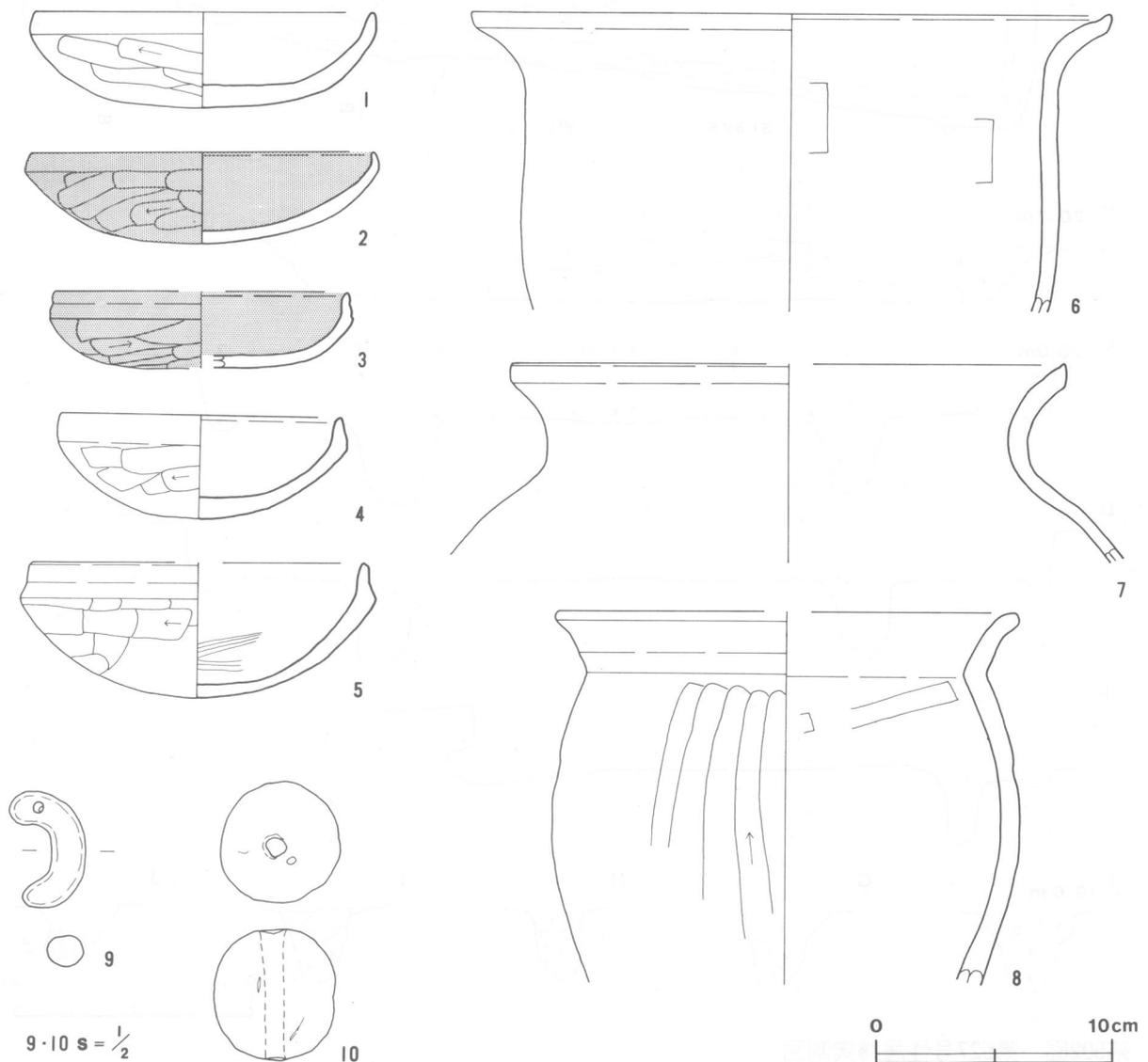
覆土 15層からなり、自然堆積と考えられる。

土層解説

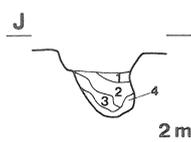
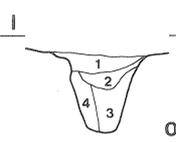
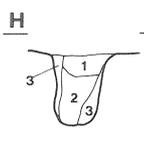
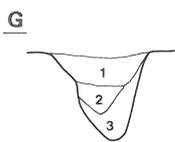
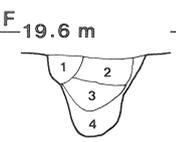
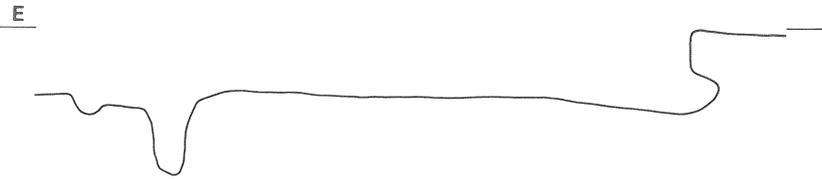
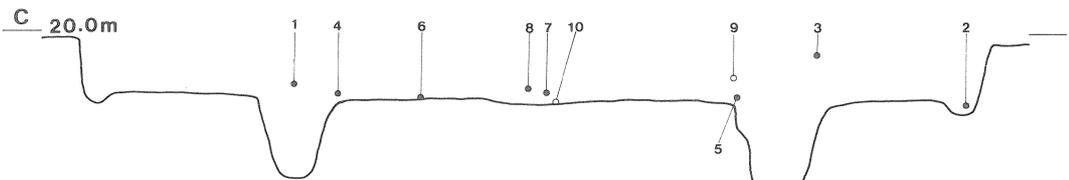
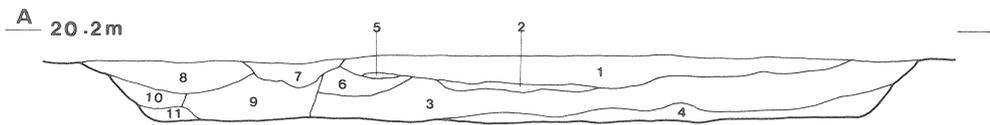
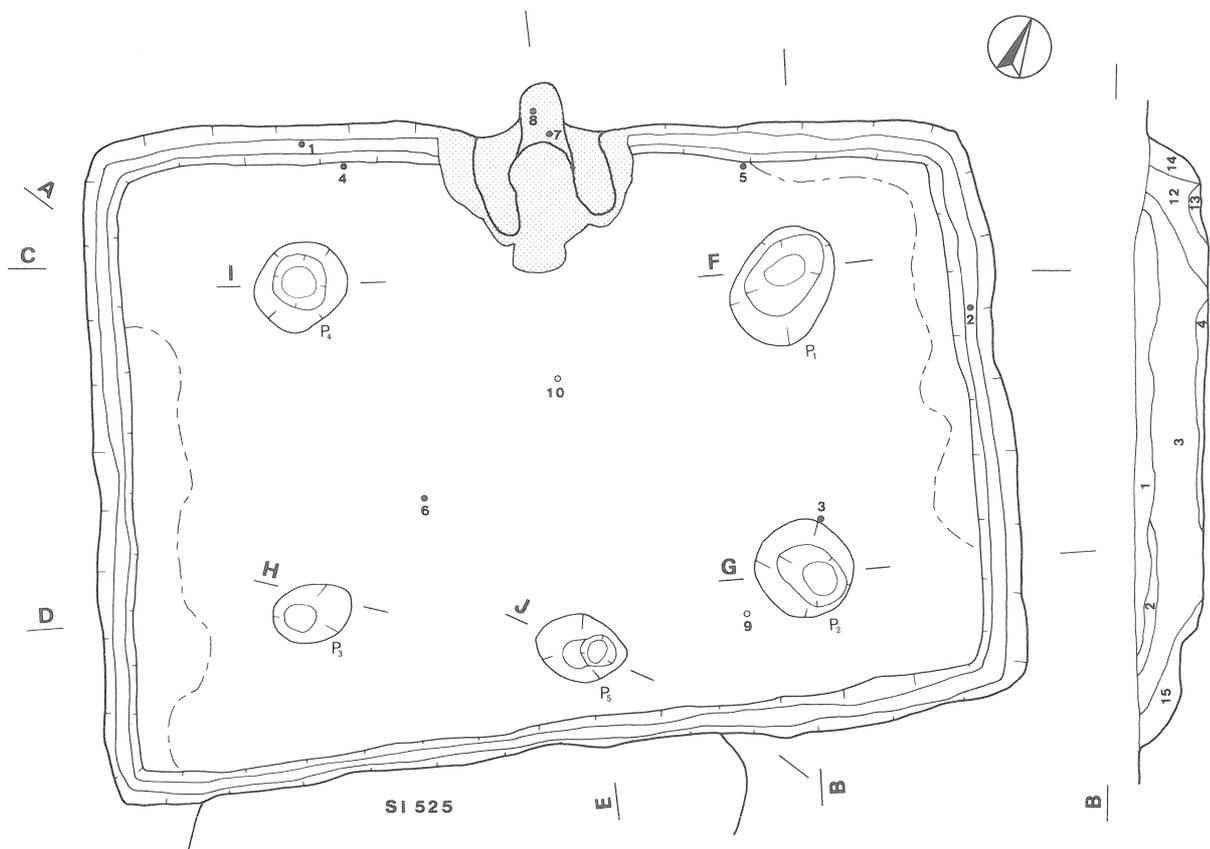
- | | | | |
|--------|--------------------------------------|--------|------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化物微量 | 8 暗褐色 | 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量, 炭化物微量 | 9 極暗褐色 | 焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 4 褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量 | 11 黒褐色 | 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 5 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子極微量 | 12 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | 焼土小ブロック・炭化物微量 | 13 暗褐色 | ローム粒子・砂少量, 炭化粒子微量 |
| 7 極暗褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子中量, 炭化物微量 | 14 黒褐色 | ローム粒子・砂少量, 焼土粒子微量 |
| | | 15 黒褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化物微量 |

遺物 土師器片366点, 須恵器片13点, 土製品2点, 炭化物が出土している。1の土師器坏が竈西側の北西壁際から, 2の土師器坏が北東壁際から, 3の土師器坏がP₂の北側の覆土上層から, 4の土師器坏が1の北西側の覆土下層から, 5の土師器坏が竈東側の北西壁付近の覆土下層から, 6の土師器甕が中央やや南西寄りの床面から, 7, 8の土師器甕が竈内から, 9の土製勾玉がP₂の南西側の覆土中層から, 10の球状土錘が中央の床面からそれぞれ出土している。

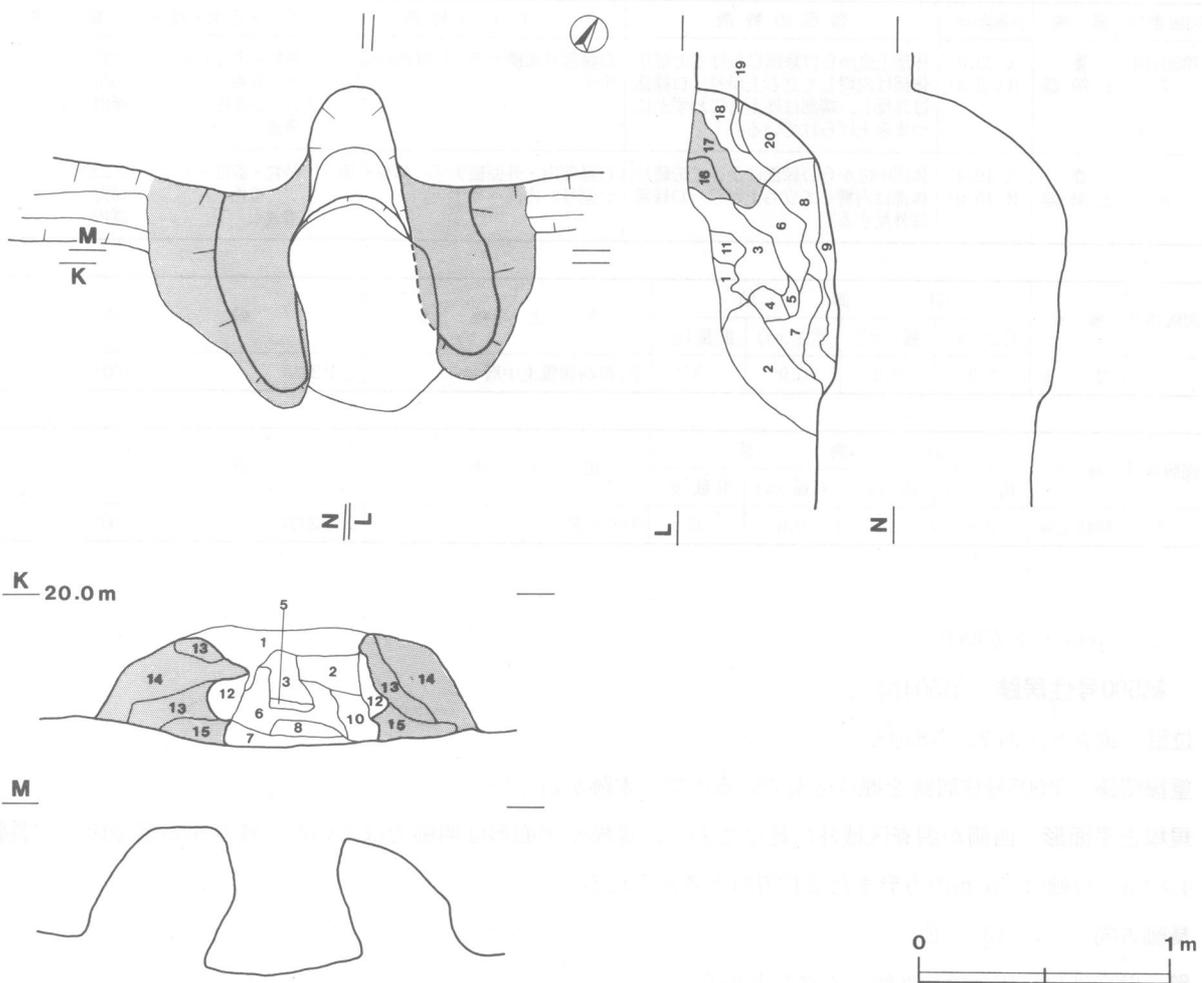
所見 本跡の時期は, 出土遺物から古墳時代後期の7世紀前葉と考えられる。



第501図 第527号住居跡出土遺物実測図



第502図 第527号住居跡実測図



第503図 第527号住居跡竈実測図

第527号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第501図 1	坏 土師器	A 14.4 B 4.1	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内彎気味に直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へら削り。内面ナデ。	砂粒・雲母・スコリアにぶい褐色普通	P2227 80% 竈西側北西壁際
2	坏 土師器	A 14.5 B 3.9	丸底。体部は内彎して立ち上がり、体部と口縁部の境に弱い稜をもつ。口縁部はやや内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へら削り。内面ナデ。内・外面黒色処理。磨滅。	砂粒・雲母・スコリア黒褐色普通	P2228 75% 北東壁際
3	坏 土師器	A[12.4] B 3.3	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、体部と口縁部の境に弱い稜をもつ。口縁部はほぼ直立する。	口縁部外面は、工具を使用した横ナデと思われ、沈線のような工具痕を残す。口縁部内面横ナデ。体部・底部外面へら削り。内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・スコリア黒褐色普通	P2229 30% P2北側覆土上層
4	坏 土師器	A 11.8 B 4.4	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はやや内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へら削り。内面ナデ。内面磨滅。	砂粒・雲母 灰黄褐色普通	P2230 50% 1の 北西側覆土下層
5	坏 土師器	A[14.0] B 5.8	丸底。体部は内彎して立ち上がり、体部と口縁部の境に段を有し、口縁部はわずかに内傾する。	口縁部外面は、工具を使用した横ナデと思われ、沈線のような工具痕を残す。口縁部内面横ナデ。体部・底部外面へら削り。内面へら磨き。	砂粒・雲母・スコリアにぶい褐色普通	P2231 45% 竈東側北西壁 付近覆土下層
6	甕 土師器	A 37.2 B (12.8)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反し、端部は外上方に短くつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面へらナデ。	砂粒・雲母・石英にぶい橙色普通	P2232 25% 中央床面

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第501図 7	甕 土師器	A[23.3] B(8.5)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反し、端部は外上方にわずかにつまみ上げられている。	口縁部外面横ナデ。口縁部内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・スコリア・石英にぶい橙色普通	P2233 10% 竈内
8	甕 土師器	A[19.4] B(15.9)	体部中位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・スコリア 橙色普通	P2234 15% 竈内

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
9	勾玉	3.3	2.2	0.9	5	P ₂ 南西側覆土中層	D P2033 100%

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
10	球状土錘	3.8	3.5	0.6	45	中央床面	D P2034 100%

② 奈良・平安時代

第500号住居跡 (第504図)

位置 調査8区西部，N8a2区。

重複関係 第505号住居跡を掘り込んでいるので，本跡が新しい。

規模と平面形 西側が調査区域外に延びており，規模や平面形は明確ではないが，残存する壁や床から長軸4.84m，短軸(1.75)mの方形または長方形と考えられる。

長軸方向 [N-13°-E]

壁 壁高は14~16cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 北コーナーから南壁下に確認され，上幅10~34cm，下幅4~12cm，深さ4~7cmで，断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で，踏み固められている。

ピット 4か所(P₁~P₄)。P₁は，長径42cm，短径35cmの楕円形で，深さ17cmである。P₂は，長径35cm，短径30cmの楕円形で，深さ13cmである。P₃は，径25cmほどの円形で，深さ16cmである。P₄は，長径42cm，短径35cmの楕円形で，深さ34cmである。P₄は，位置から支柱穴と考えられる。P₁~P₃は，性格が不明である。

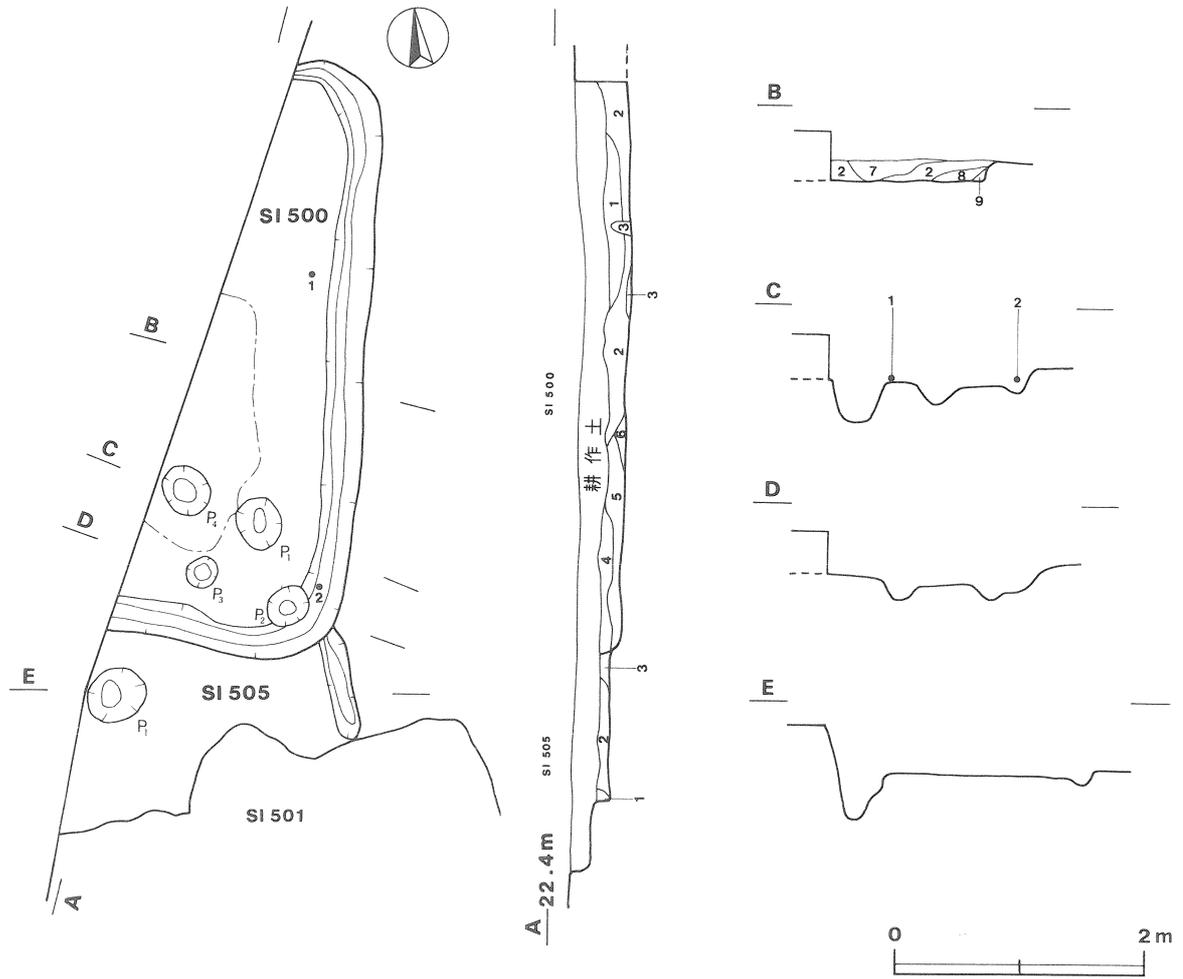
覆土 9層からなり，人為堆積と考えられる。

土層解説

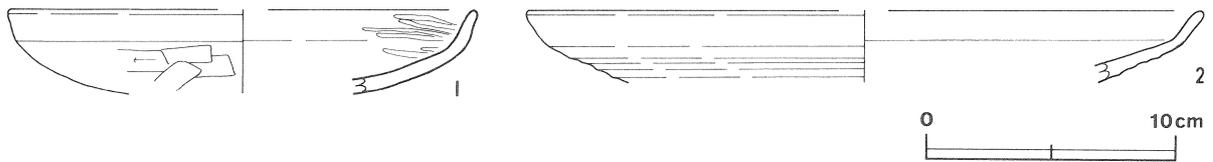
- 1 黒褐色 焼土粒子中量，ローム粒子・砂少量，炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 焼土粒子中量，焼土小ブロック・砂少量，炭化粒子微量，炭化物極微量
- 3 極暗褐色 焼土粒子中量，ローム粒子・粘土粒子少量
- 4 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量
- 5 極暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量，ローム中ブロック極微量
- 6 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子微量
- 7 極暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量，焼土小ブロック微量
- 8 黒褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量，焼土小ブロック極微量
- 9 黒褐色 ローム粒子中量，炭化粒子微量

遺物 土師器片183点，須恵器片1点，陶器片1点が出土している。1の土師器坏が東側覆土下層から，2の須恵器盤が南東壁際覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から奈良時代の8世紀中葉と考えられる。



第504図 第500・505号住居跡実測図



第505図 第500号住居跡出土遺物実測図

第500号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第505図 1	坏 土師器	A[18.6] B(3.4)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はやや外傾する。	口縁部外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面へラ磨き。	砂粒・雲母・スコリア 赤色 普通	P2125 20% 東側覆土下層
2	盤 須恵器	A[27.0] B(2.9)	体部から口縁部にかけての破片。体部は緩やかに立ち上がり、口縁部は直線的に外傾する。	口縁部から体部にかけての内・外面 ロクロナデ。	砂粒・雲母・スコリア 褐灰色 普通	P2126 10% 南東壁際覆土中層

第501号住居跡（第506図）

位置 調査8区西部，N8b₂区。

重複関係 第505号住居跡を掘り込み，第502号住居跡，第5号井戸に掘り込まれているので，第505号住居跡より新しく，第502号住居跡，第5号井戸より古い。

規模と平面形 一辺が3.40mの方形である。

主軸方向 N-12°-W

壁 壁高は9～14cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 北東コーナーで確認され，上幅15～20cm，下幅5～7cm，深さ4cmで，断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で踏み固められている。

竈 北壁に付設されている。規模は長さ100cm，袖幅145cm，壁外への掘り込みは45cmである。袖部は，砂質粘土で構築している。火床部は厚さが7cmほどあり，長期間使用したものと考えられる。煙道は外傾して立ち上がる。火床部には，土製支脚が確認されている。

竈土層解説

- 1 淡赤橙色 焼土小ブロック・粘土大ブロック少量
- 2 赤褐色 焼土大ブロック中量，焼土小ブロック・粘土中ブロック少量
- 3 暗褐色 焼土小ブロック少量，炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム中ブロック多量，焼土粒子微量
- 5 暗褐色 焼土小ブロック少量，炭化粒子・ローム粒子微量
- 6 にぶい赤褐色 焼土小ブロック中量，粘土小ブロック少量，炭化物微量
- 7 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック少量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック・砂少量
- 9 褐色 ローム中ブロック少量，焼土粒子微量
- 10 暗褐色 ローム小ブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
- 11 黒褐色 ローム小ブロック少量，焼土粒子・ローム粒子微量
- 12 にぶい赤褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 13 赤褐色 焼土小ブロック中量，焼土粒子少量

覆土 8層からなり，自然堆積である。

土層解説

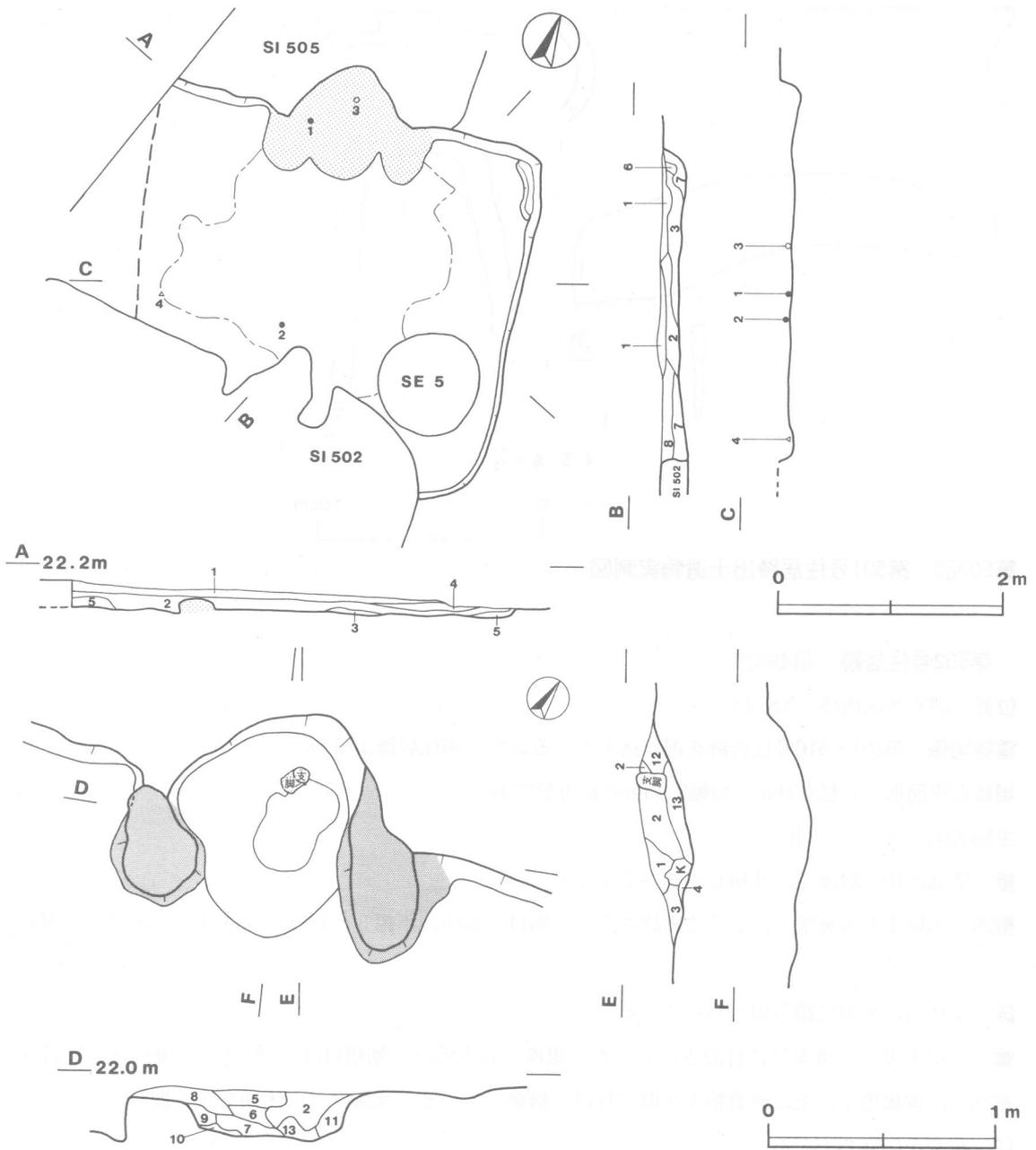
- | | |
|----------------------------|------------------------|
| 1 暗褐色 焼土小ブロック微量 | 5 褐色 ローム中ブロック中量 |
| 2 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量 | 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量 |
| 3 褐色 焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 褐色 ローム中ブロック中量 |
| 4 暗褐色 ローム中ブロック中量，焼土粒子微量 | 8 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子少量 |

遺物 土師器片218点，須恵器片58点，土製品1点，鉄製品3点，炭化材が出土している。1の土師器甕，3の土製支脚が竈内から，2の須恵器蓋が南側覆土下層から，4の鉄鎌が西側覆土下層から，5の鉄製カンヌキが覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から奈良時代の8世紀後葉と考えられる。

第501号住居跡出土遺物観察表

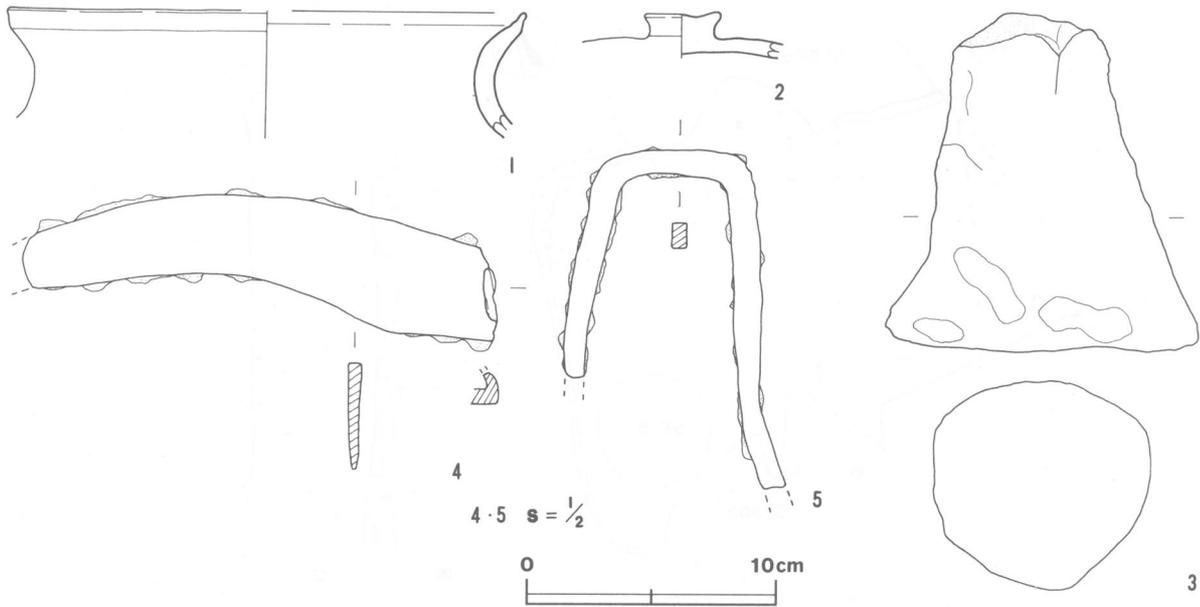
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第507図 1	甕 土師器	A[20.6] B(5.1)	口縁部片。口縁部は外反し，端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P2127 5% 竈内
2	蓋 須恵器	B(1.9) F 3.0 G 1.0	天井部片。天井部は平坦である。ポタン状のつまみがつく。	天井部外面回転ヘラ削り。内面ロクロナデ。	砂粒・雲母・石英 にぶい橙色 普通	P2128 10% 南側覆土下層



第506図 第501号住居跡実測図

図版番号	種別	計測値			出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	重量(g)		
第507図3	支脚	(13.6)	8.5~12.6	(1170)	竈内	D P 2006

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
4	鎌	(12.7)	3.4	0.2	(40)	西側覆土下層	M2005
5	カンヌキ	(9.1)	0.8	0.4	(22)	覆土中	M2006



第507図 第501号住居跡出土遺物実測図

第502号住居跡 (第498図)

位置 調査8区西部, N8c2区。

重複関係 第501・516号住居跡を掘り込んでいるので, 両住居跡より新しい。

規模と平面形 長軸4.18m, 短軸3.13mの長方形である。

主軸方向 N-9°-E

壁 壁高は10~24cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 北壁下から東壁下にかけて確認され, 上幅11~23cm, 下幅3~10cm, 深さ3~6cmで, 断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で踏み固められている。

竈 北壁中央やや東寄りに付設されている。規模は長さ95cm, 袖幅115cm, 壁外への掘り込みは17cmである。袖部は, 黄褐色土の上に砂質粘土を貼り付けて構築している。火床部は, 床面を浅く掘りくぼめている。煙道は, 緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- | | |
|---------------------------------|---------------------------------|
| 1 にぶい黄橙色 焼土小ブロック中量, 砂少量 | 7 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・砂微量 |
| 2 黄褐色 ローム小ブロック中量 | 8 赤褐色 焼土中ブロック中量 |
| 3 明赤褐色 焼土中ブロック多量, 砂微量 | 9 にぶい黄橙色 砂多量, 焼土粒子少量 |
| 4 暗褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・砂少量 | 10 暗褐色 ローム小ブロック少量 |
| 5 褐色 ローム粒子・砂少量, 焼土粒子・ローム小ブロック微量 | 11 にぶい褐色 ローム小ブロック・砂少量 |
| 6 黒褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量 | |

ピット 3か所(P₁~P₃)。P₁は, 長径22cm, 短径19cmの楕円形で, 深さ21cmである。P₂は, 径31cmほどの円形で, 深さ18cmである。P₃は, 径27cmほどの円形で, 深さ24cmである。いずれも支柱穴と考えられる。

覆土 4層からなり, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|------------------------------|--------------------------------|
| 1 暗褐色 ローム中ブロック少量 | 3 灰褐色 ローム中ブロック中量, 炭化粒子・ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化物微量 | 4 褐色 ローム中ブロック中量, 炭化粒子微量 |

遺物 土師器片272点が出土している。いずれも細片で, 覆土中からの出土である。

所見 本跡は遺物が細片のため時期判断は難しいが、第501・516号住居跡よりも新しいことから、奈良時代の8世紀後葉以降と考えられる。

第503号住居跡（第508図）

位置 調査8区西部，N8a5区。

重複関係 第510・515号住居跡の上部に構築されているので，両住居跡より新しい。

規模と平面形 重複により規模や平面形は明確ではないが，長軸[4.05]m，短軸[3.80]mの方形と考えられる。

主軸方向 N-29°-E

壁 壁高は20cmで，外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦であるが，南西壁近くの中央に8cmほどの馬の背状に盛り上がりが見られる。

竈 北東壁中央寄りに付設されている。規模は長さ110cm，袖幅120cmである。天井部は崩落している。袖部は砂質粘土で構築している。火床部は10cmほど掘りくぼめられており，火熱を受けて赤変している。

竈土層解説

1 赤褐色	焼土中ブロック多量	11 暗赤褐色	焼土小ブロック中量，炭化物・粘土小ブロック少量
2 明赤褐色	粘土小ブロック中量，焼土小ブロック少量	12 暗赤褐色	炭化物中量，焼土中ブロック少量
3 にぶい黄褐色	粘土大ブロック中量，焼土小ブロック少量	13 暗褐色	ローム小ブロック少量
4 明黄褐色	焼土小ブロック中量	14 明赤褐色	焼土小ブロック・粘土小ブロック中量
5 橙褐色	焼土大ブロック中量	15 暗赤褐色	焼土大ブロック多量
6 明黄褐色	焼土粒子中量，焼土小ブロック・粘土小ブロック少量	16 にぶい赤褐色	砂少量
7 にぶい赤褐色	焼土小ブロック微量	17 灰褐色	粘土粒子多量，焼土粒子少量，焼土小ブロック微量
8 にぶい赤褐色	炭化物中量，焼土粒子・粘土小ブロック少量	18 黒褐色	焼土粒子微量
9 にぶい赤褐色	焼土粒子少量		
10 暗赤褐色	焼土粒子多量		

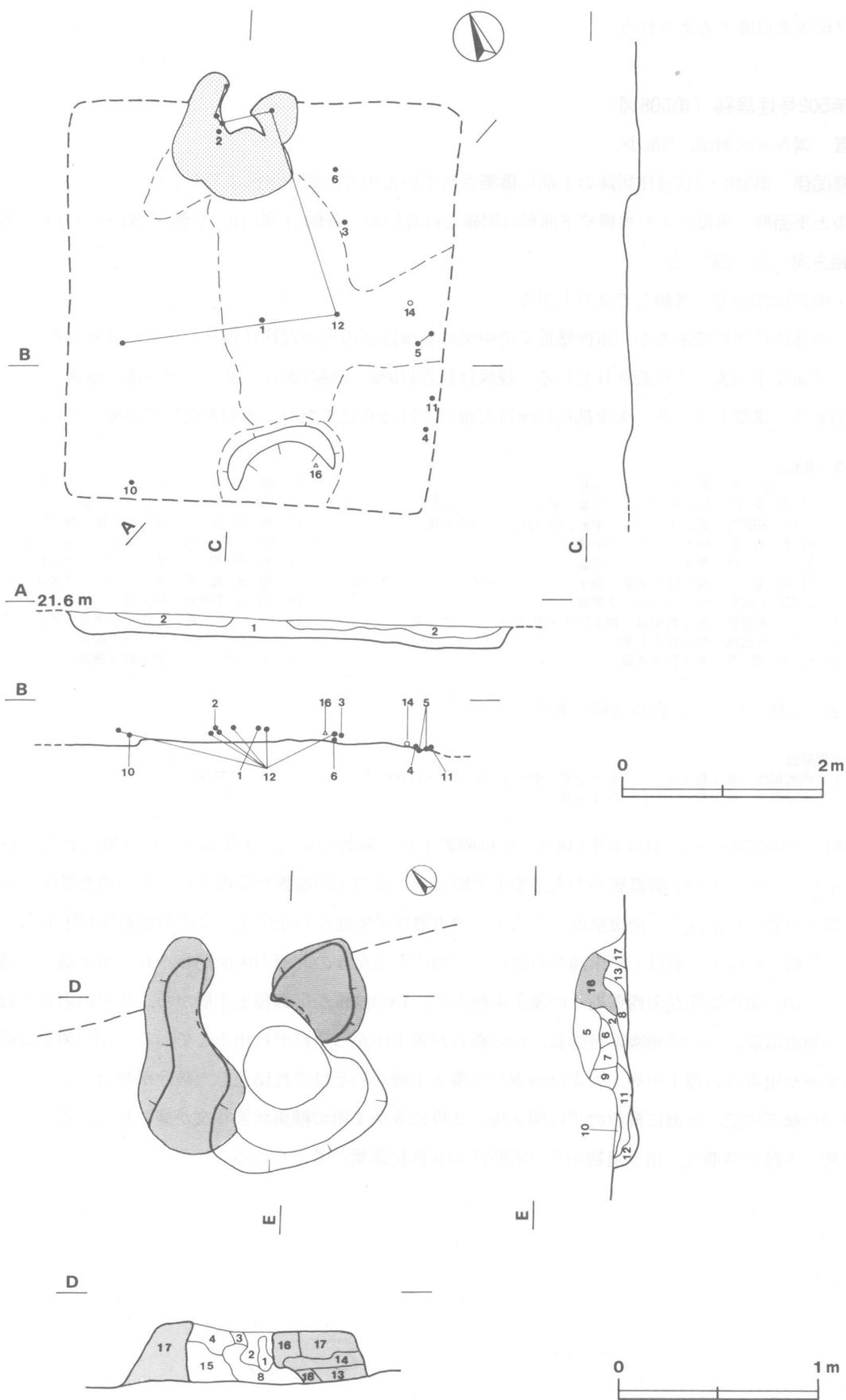
覆土 2層からなり，自然堆積である。

土層解説

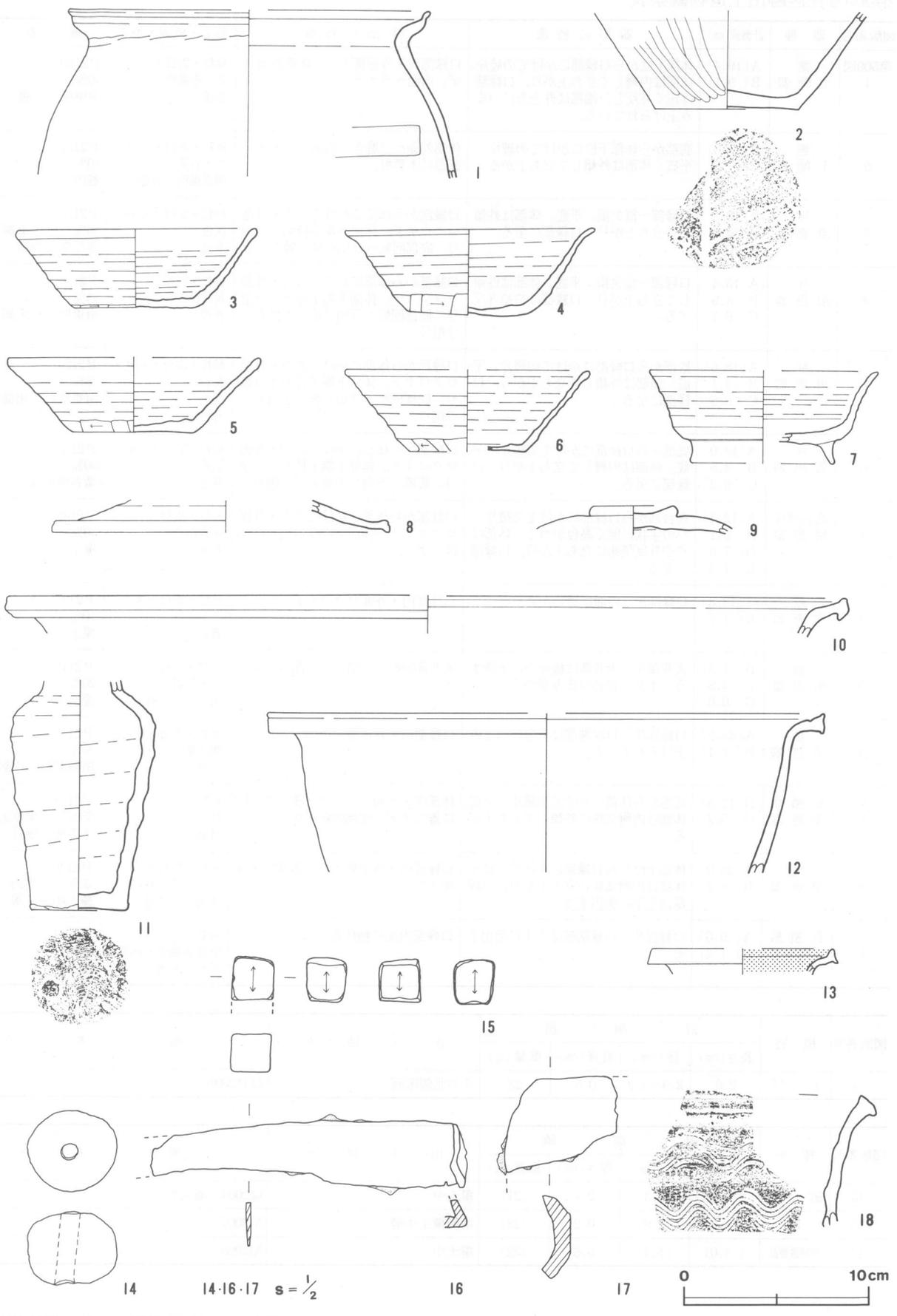
- 1 極暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 極暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量

遺物 土師器片62点，須恵器片148点，灰釉陶器1点，陶器片6点，土製品1点，鉄製品2点，石製品1点が出土している。1の土師器甕が中央部覆土上層から，2の土師器甕が竈内から，3の須恵器坏が中央東側寄りの覆土中層から逆位で，南東壁近くから4の須恵器坏が床面から正位で，5の須恵器坏が床面から，11の須恵器長頸瓶いわゆる「壺G」が床面から斜位で，14の土玉が5の北側の床面から，6の須恵器坏が竈右側の床面から，10の須恵器甕が南西壁近くの覆土中層から，16の鉄鎌が南側覆土中層から，7の須恵器高台付坏，8，9の須恵器蓋，13の灰釉陶器長頸瓶，15の砥石が覆土中からそれぞれ出土している。12の須恵器甕は，竈内，中央やや東寄りの覆土中層，および西寄りの覆土上層からそれぞれ出土した破片が接合している。18は須恵器甕の口縁部片で，外面に縦位の平行叩き後，2段に5条1組の櫛歯状波状文が施されている。

所見 本跡の時期は，出土遺物から平安時代の9世紀前葉と考えられる。



第508図 第503号住居跡実測図



第509图 第503号住居跡出土遺物実測図

第503号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第509図 1	甕 土師器	A[19.4] B(9.1)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く外反し、端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・スコリア 赤褐色 普通	P2130 10% 中央覆土上層
2	甕 土師器	B(5.4) C 7.8	底部から体部下位にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面ヘラ磨き。内面ヘラナデ。底部に木葉痕。	砂粒・雲母・スコリア・石英 明赤褐色 普通	P2131 10% 竈内
3	坏 須恵器	A 12.8 B 4.3 C 6.4	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけての内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、雑なナデ。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	P2132 90% 中央東側 寄り覆土中層
4	坏 須恵器	A 13.4 B 4.9 C 6.4	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はやや外反する。	口縁部から体部にかけての内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母 黄灰色 普通	P2133 85% 南東壁近く床面
5	坏 須恵器	A[13.6] B 4.1 C 6.6	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけての内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母・石英・長石 灰色 普通	P2134 45% 南東壁近く床面
6	坏 須恵器	A[13.0] B 4.5 C[6.2]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけての内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向の手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	P2135 30% 竈右側床面
7	高台付坏 須恵器	A[12.4] B 5.1 D[7.8] E 1.3	高台部から口縁部にかけての破片。ハの字状に開く高台がつく。体部はやや外反気味に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけての内・外面ロクロナデ。体部下端高台貼り付け後、ナデ。	砂粒・雲母 灰黄褐色 普通	P2136 30% 覆土中
8	蓋 須恵器	A[19.3] B(1.7)	口縁部片。内面に短いかえりがつく。	口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・スコリア 灰色 普通	P2137 10% 覆土中
9	蓋 須恵器	B(1.5) F 4.8 G 0.6	天井部片。天井部は緩やかに下降する。ボタン状のつまみがつく。	天井部回転ヘラ削り。内面ロクロナデ。	砂粒・雲母・スコリア・長石 黄灰色 普通	P2172 20% 覆土中
10	甕 須恵器	A[45.2] B(2.1)	口縁部片。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・長石 褐灰色 普通	P2138 5% 南西壁覆土中層
11	長頸瓶 須恵器	B(12.5) C 5.2	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ後、部分的に雑なナデ。底部回転系切り。	砂粒 灰白色 普通	P2139 65% 南東壁近く 床面 壺G
12	甕 須恵器	A[30.0] B(8.7)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は上下に突出する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・雲母・スコリア・石英・長石 赤褐色 普通	P2140 5% 竈内 覆土中・上層
13	長頸瓶 灰釉陶器	A[9.6] B(1.4)	口縁部片。口縁端部は上下に突出する。	口縁部内面に釉付着。	砂粒 外面赤褐色・内面黄褐色 普通	P2141 5% 覆土中

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
14	土玉	2.6	2.9~3.2	0.5	23	5の北側床面	D P2008

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
15	砥石	(2.4)	2.3	2.1	(21)	覆土中	Q2004 凝灰岩
16	鎌	(11.3)	(2.9)	0.2	(28)	南側覆土中層	M2007
17	不明鉄製品	(4.0)	(3.5)	0.6	(32)	覆土中	M2008

第504号住居跡（第489図）

位置 調査8区西部，M8j3区。

重複関係 第508号住居跡を掘り込んでいるので，本跡が新しい。

規模と平面形 本跡の大部分が調査区域外に延びており，東西(3.05)m，南北(2.35)mである。平面形は不明である。

壁 壁高は18cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 東壁下から南壁下にかけて確認され，上幅25～50cm，下幅4～19cm，深さ7cmで，断面形はU字形である。

床 全体的に平坦である。

ピット 1か所(P₁)。P₁は，長径36cm，短径30cmの楕円形で，深さ31cmである。位置から支柱穴と考えられる。

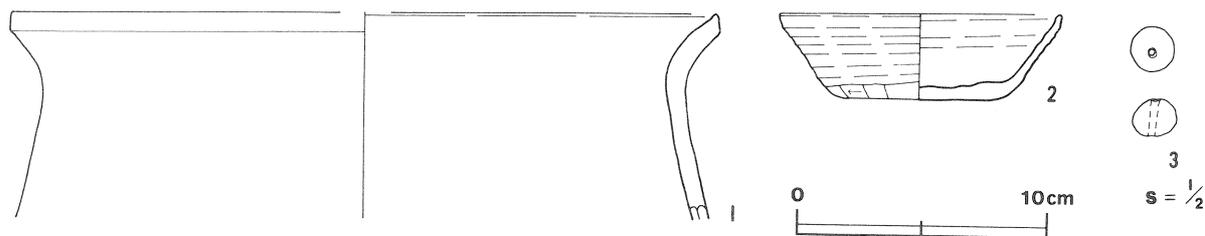
覆土 7層からなり，自然堆積である。

土層解説

- 1 極暗褐色 焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック少量，焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・ローム小ブロック微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 極暗褐色 焼土粒子中量，ローム粒子少量

遺物 土師器片217点，須恵器片6点，土製品1点が出土している。1の土師器甕が南側覆土上層から，3の小玉が1の北東側の覆土下層から，2の須恵器坏が覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から奈良時代の8世紀中葉と考えられる。



第510図 第504号住居跡出土遺物実測図

第504号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第510図 1	甕 土師器	A[28.2] B(8.3)	口縁部片。口縁部は外反し，端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・スコリア・石英にぶい橙色 普通	P2142 5% 南側覆土上層
2	坏 須恵器	A 11.3 B 3.5 C 6.9	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は短く直線的に立ち上がる。二次底面をもつ。	口縁部から体部にかけての内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへら削り。底部回転へら切り後，手持ちへら削り。	砂粒・雲母 灰黄色 普通	P2143 70% 覆土中

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
3	小玉	1.0	1.2	0.2	1.44	1の北東側覆土下層	D P 2009 100%

第507号住居跡（第512図）

位置 調査8区西部，N8c4区。

重複関係 第510号住居跡の上部に構築されているので，本跡が新しい。

規模と平面形 重複により規模や平面形は明確ではないが，長軸2.93m，短軸2.86mの方形と考えられる。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は10~22cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 西壁下から南壁下の一部で確認され，上幅13~20cm，下幅3~5cm，深さ4~7cmで，断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で踏み固められている。

竈 北壁中央部に砂質粘土で構築されている。規模は長さ[83]cm，袖幅120cmである。天井部は崩落している。袖部は黄褐色の粘土で構築されている。火床部は床面をほぼ円形に浅く掘りくぼめており，火熱を受けて赤変している。煙道は外傾して立ち上がる。

竈土層解説

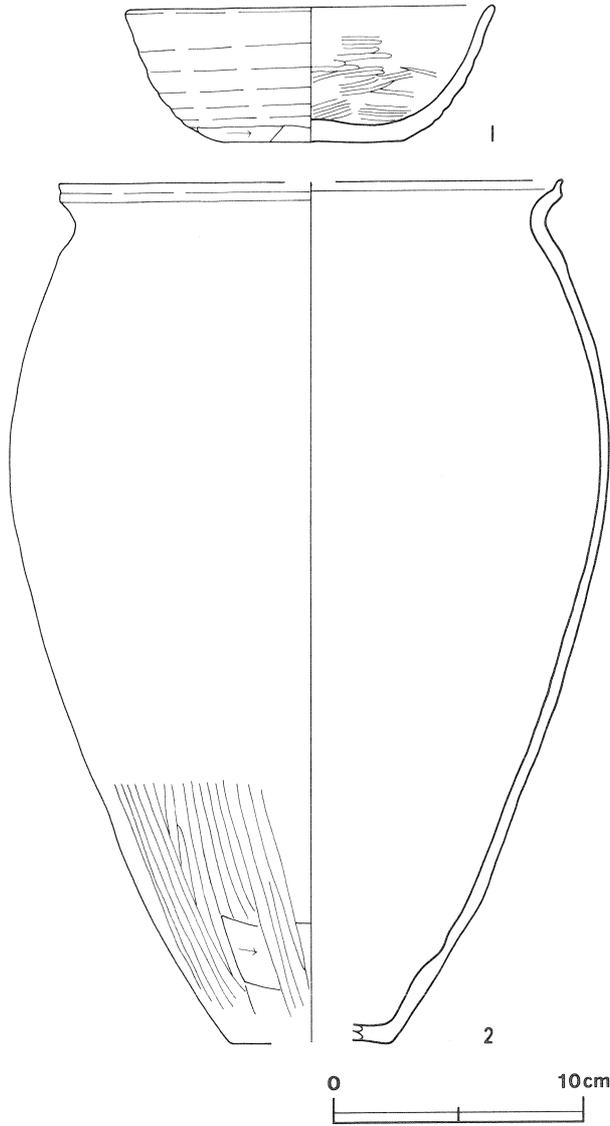
- 1 明赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物少量
- 2 明赤褐色 炭化材中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物少量
- 3 にぶい赤褐色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量
- 4 明赤褐色 焼土中ブロック・焼土粒子多量
- 5 明赤褐色 焼土中ブロック・ローム大ブロック中量，炭化物少量
- 6 にぶい赤褐色 焼土粒子中量，ローム小ブロック少量
- 7 明赤褐色 焼土大ブロック・炭化材多量
- 8 赤褐色 焼土大ブロック多量
- 9 黄褐色 ローム小ブロック中量，焼土中ブロック少量
- 10 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム小ブロック微量
- 11 黄褐色 粘土小ブロック中量

覆土 4層からなり，人為堆積と推測される。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量，焼土粒子・ローム小ブロック少量，炭化物極微量
- 2 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量，炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量

第511図 第507号住居跡出土遺物実測図

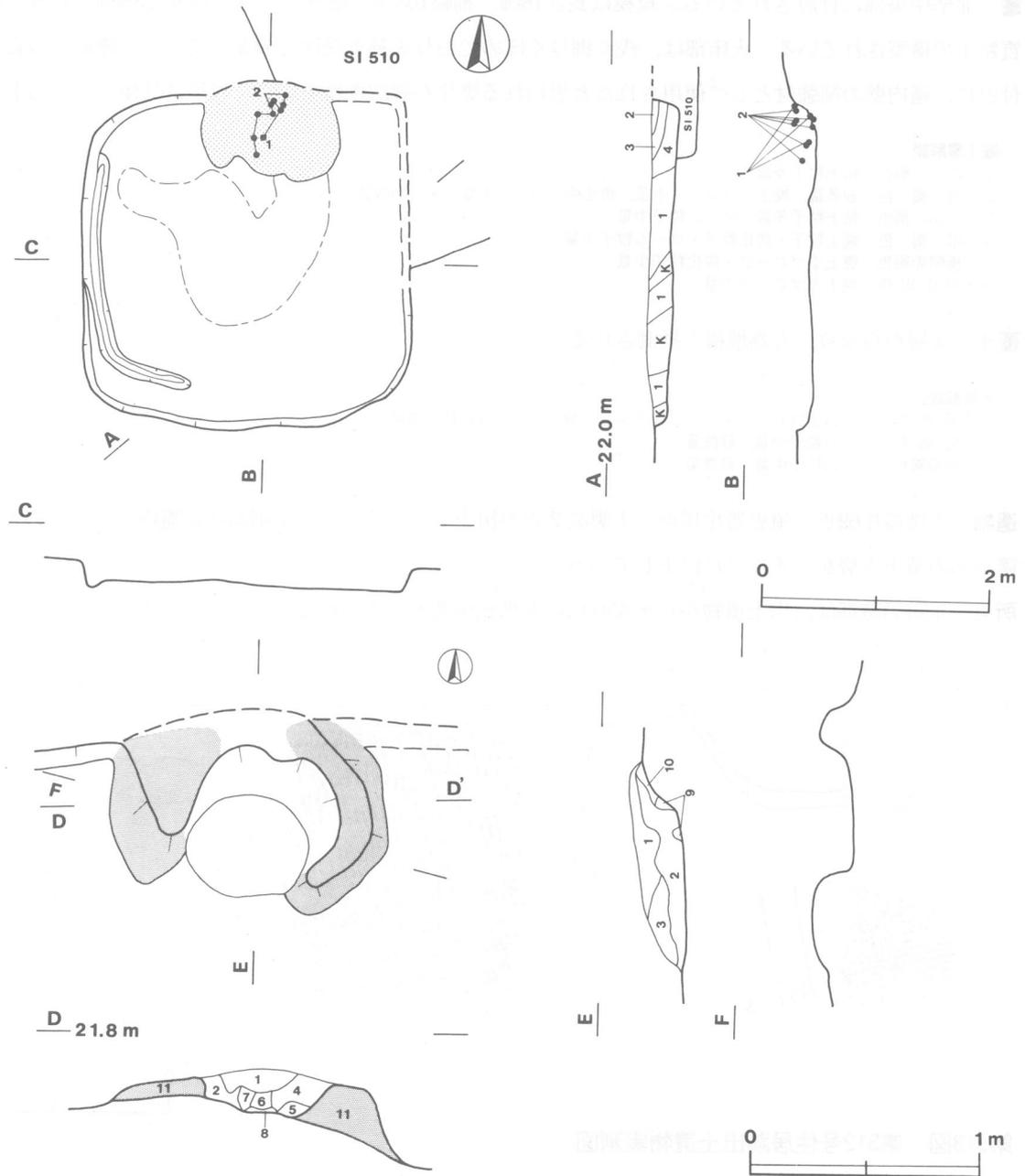


第507号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第511図 1	坏 土師器	A 14.7 B 5.5 C 7.3	平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部にかけての外面ロクロナデ。体部下端手持ちへら削り。内面へら磨き。底部回転へら切り後，手持ちへら削り。	砂粒・雲母・石英 橙色 普通	P2152 60% 竈内
2	甕 土師器	A [20.2] B 34.7 C [6.4]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は短く外反する。口縁端部は，上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面の中位から下位にかけてへら削り後，へら磨き。内面へらナデ。	砂粒・雲母・スコリア・石英 褐灰色 普通	P2153 40% 竈内

遺物 土師器片185点、須恵器片23点、陶器片1点、炭化物が出土している。1の土師器坏、2の土師器甕はともに竈内から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から平安時代の9世紀後葉と考えられる。



第512図 第507号住居跡実測図

第512号住居跡 (第514図)

位置 調査8区西部, N8c6区。

規模と平面形 長軸3.18m, 短軸3.10mの方形である。

主軸方向 N-10°-W

壁 壁高は6~22cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 北壁下から南東コーナー壁下にかけて確認され、上幅15～32cm、下幅3～9cm、深さ3～8cmで、断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は長さ78cm、袖幅105cm、壁外への掘り込みは38cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は、浅く掘りくぼめており火熱を受けて赤変している。煙道部の立ち上がり付近に、竈内壁の補強材として使用されたとと思われる甕片が確認されている。煙道は外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- 1 にぶい褐色 粘土粒子多量
- 2 暗褐色 砂多量、焼土小ブロック中量、焼土中ブロック少量、炭化物微量
- 3 にぶい褐色 粘土粒子多量、ローム粒子中量
- 4 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
- 5 極暗赤褐色 焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 6 明赤褐色 焼土大ブロック中量

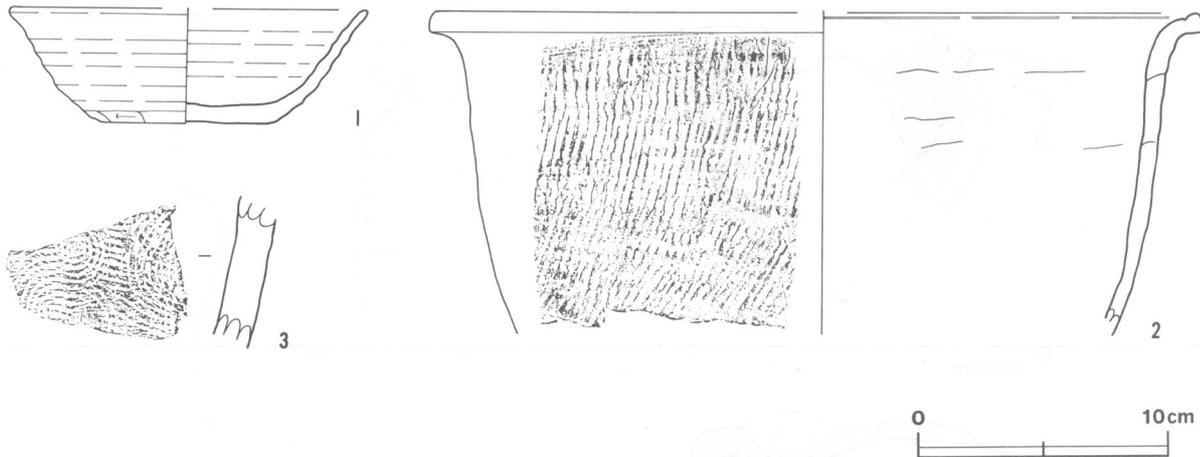
覆土 3層からなり、人為堆積と推測される。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、砂微量
- 3 極暗褐色 ローム粒子中量、砂微量

遺物 土師器片69点、須恵器片16点、土製品2点が出土している。1の土師器坏が竈内から、2の須恵器甕が竈前面の覆土下層からそれぞれ出土している。

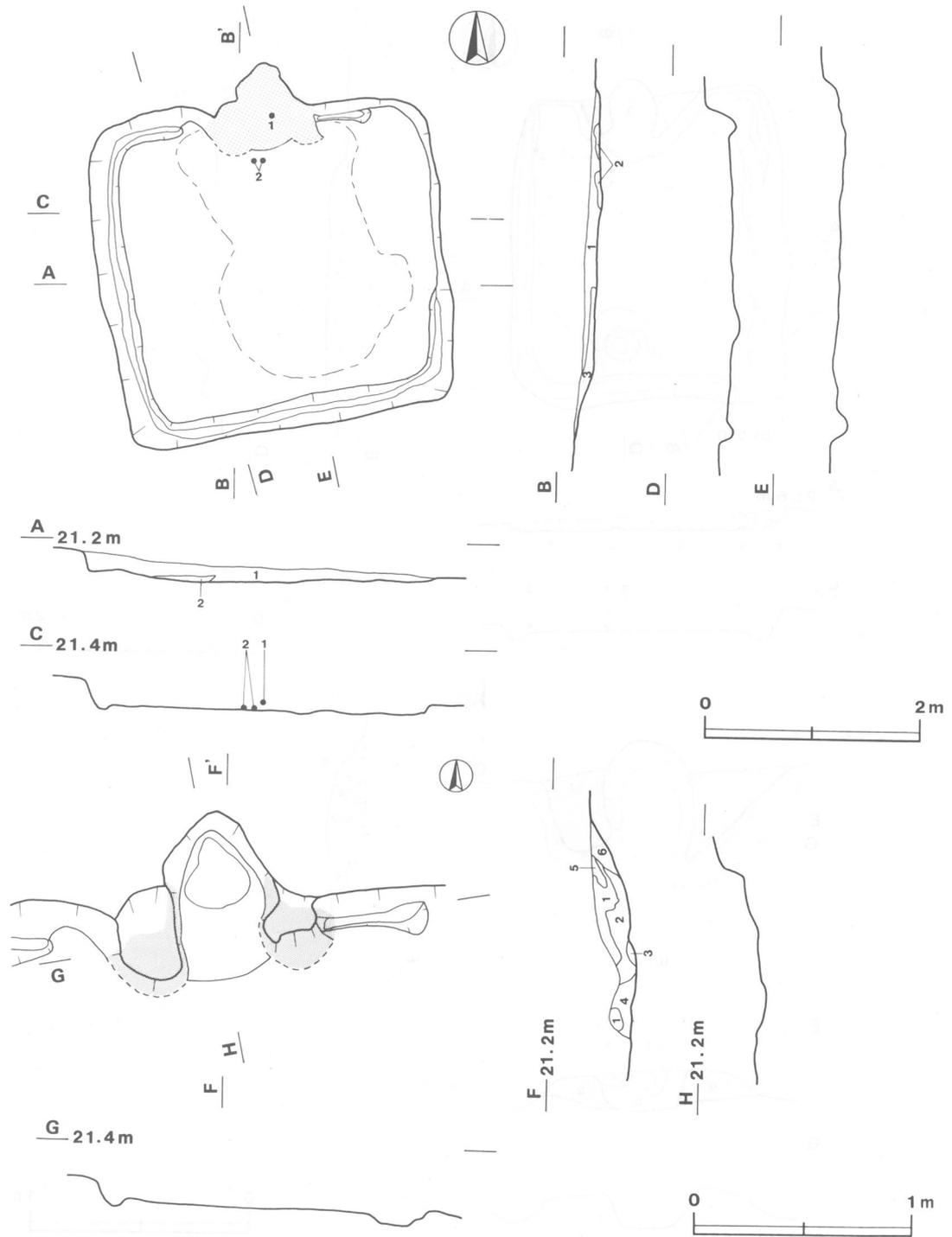
所見 本跡の時期は、出土遺物から平安時代の9世紀中葉と考えられる。



第513図 第512号住居跡出土遺物実測図

第512号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第513図 1	坏 土師器	A[14.2] B 4.7 C 7.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母・スコリア にぶい黄橙色 普通	P2173 50% 竈内
2	甕 須恵器	A[30.8] B(13.0)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く外反する。口縁部内面直下に一条の沈線をもつ。	口縁部内・外面ナデ。体部外面縦位の平行叩き。内面ナデ。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P2174 25% 竈前面覆土下層



第514図 第512号住居跡実測図

第513号住居跡 (第515図)

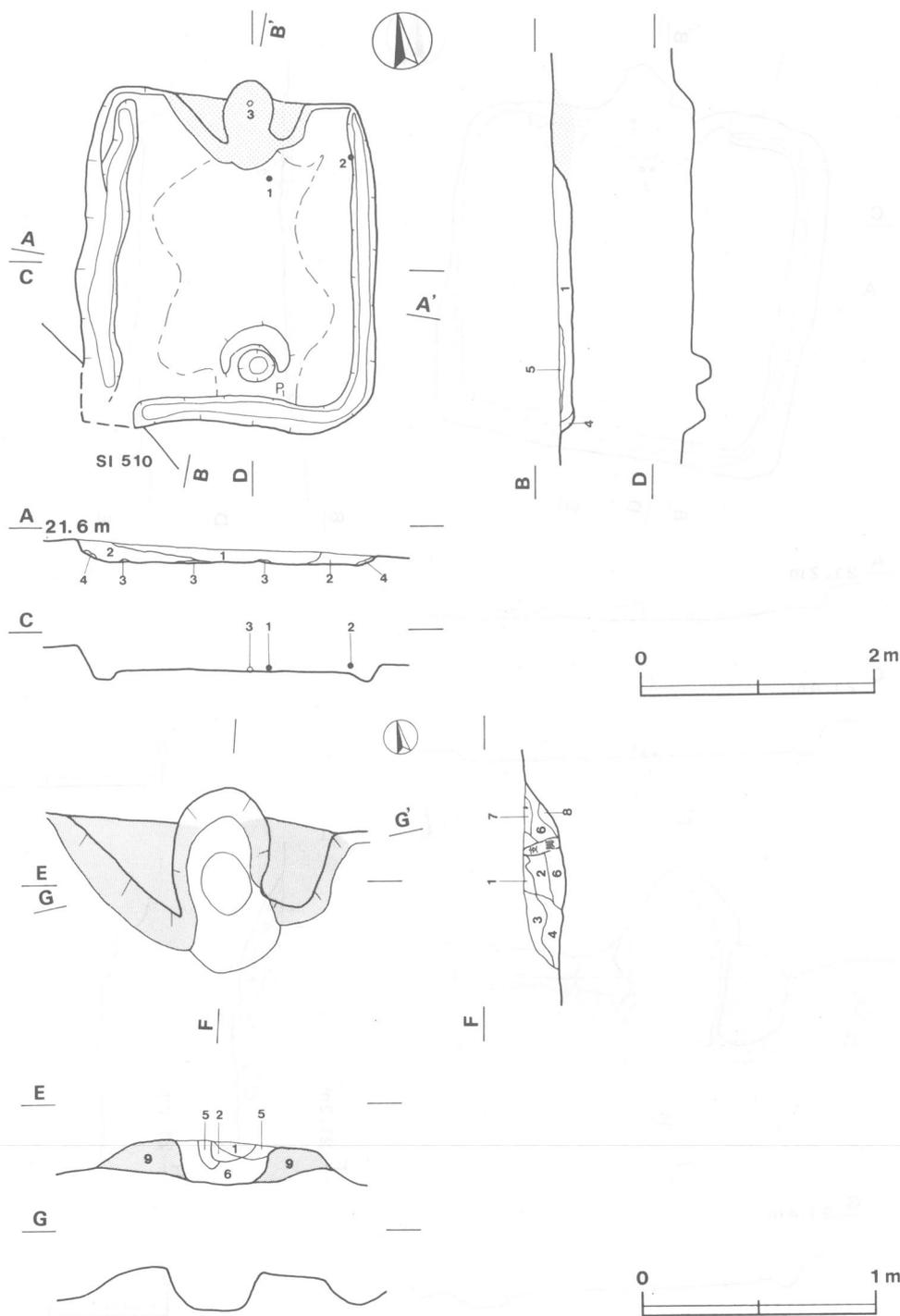
位置 調査8区西部, M8j₆区。

重複関係 第510号住居跡の上部に構築されているので, 本跡が新しい。

規模と平面形 長軸2.78m, 短軸2.55mの方形である。

主軸方向 N-10°-E

壁 壁高は11~20cmで, 外傾して立ち上がる。

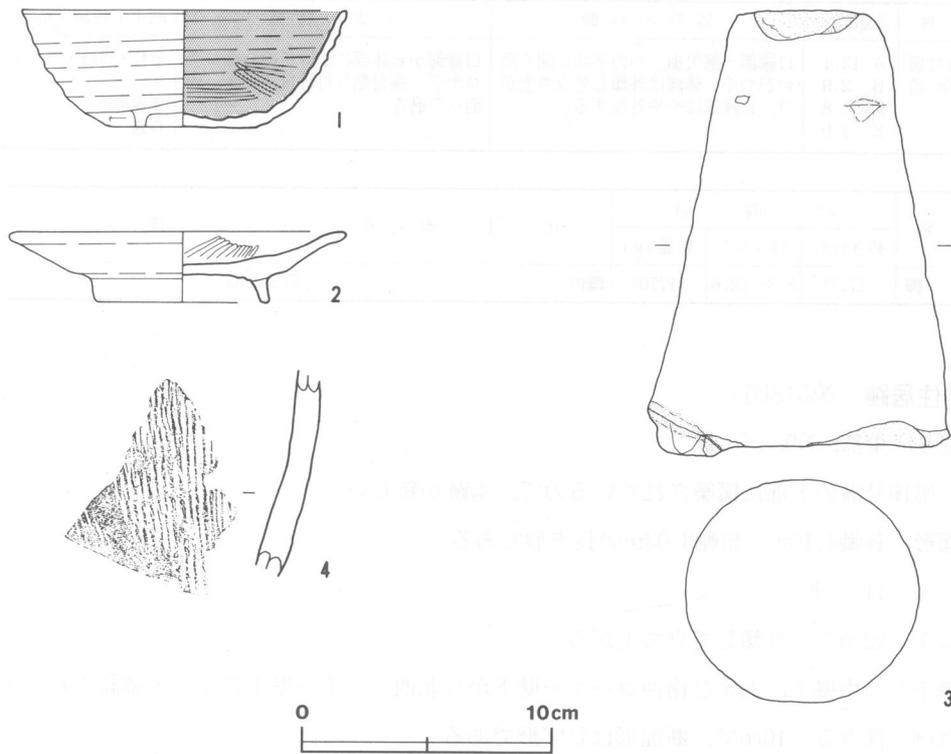


第515図 第513号住居跡実測図

壁溝 東壁下から南壁下、および西壁下で確認され、上幅16~36cm、下幅7~20cm、深さ5~7cmで、断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で、中央部が踏み固められている。P₁の周りに、馬の背状に盛り上がりが見られる。

竈 北壁中央部に砂質粘土で構築している。規模は長さ80cm、袖幅110cm、壁外への掘り込みは15cmである。内壁は、火熱を受けて赤変している。天井部は崩落している。火床部は楕円形状に浅く掘りくぼめており、火熱を受けて赤変している。煙道は外傾して立ち上がる。



第516図 第513号住居跡出土遺物実測図

竈土層解説

- | | | | |
|----------|----------------------|----------|------------------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量 | 6 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 焼土中ブロック中量, 粘土中ブロック少量 |
| 2 褐色 | 砂多量, 焼土粒子中量 | 7 にぶい黄橙色 | 粘土小ブロック中量, 焼土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | 焼土粒子少量, 炭化粒子・ローム粒子微量 | 8 赤褐色 | 焼土小ブロック中量, 炭化材少量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 焼土小ブロック・砂少量 | 9 橙色 | 粘土大ブロック多量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 |
| 5 にぶい黄橙色 | 粘土大ブロック多量 | | |

ピット 1か所(P₁)。P₁は、長径32cm, 短径28cmの楕円形で、深さ16cmである。出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 5層からなり、自然堆積である。

土層解説

- | | |
|--------|-------------------------------------|
| 1 極暗褐色 | 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土粒子・ローム小ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム中ブロック・砂微量, 焼土粒子極微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量, 粘土粒子微量 |
| 4 褐色 | ローム粒子多量 |
| 5 極暗褐色 | 焼土粒子少量, 炭化粒子・ローム粒子微量 |

遺物 土師器片172点, 須恵器片9点, 土製品1点が出土している。1の土師器坏が竈前面の覆土下層から、2の土師器高台付皿が東壁近くの覆土上層から、3の土製支脚が竈内からそれぞれ出土している。4は須恵器甕の体部片で、外面に縦位の平行叩きが施されている。

所見 本跡の時期は、出土遺物から平安時代の9世紀後葉と考えられる。

第513号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第516図 1	坏 土師器	A 12.9 B 4.8 C 5.8	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけての内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへら削り。底部一方向の手持ちへら削り。内面へら磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母・スコリア 外面橙色・内面黒色 普通	P2175 90% 竈前面覆土下層

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第516図 2	高台付皿 土師器	A 13.1 B 2.9 D 6.8 E 1.0	口縁部一部欠損。ハの字状に開く高台がつく。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はやや外反する。	口縁部から体部にかけての外表面ロクロナデ。高台貼り付け後、ナデ。内面ヘラ磨き。	砂粒・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P 2176 90% 東壁近く 覆土上層

図版番号	種別	計測値			出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	重量(g)		
3	支脚	(17.7)	8.8~12.6	(1770)	竈内	D P 2032

第517号住居跡（第518図）

位置 調査8区東部，N9c6区。

重複関係 第16号溝の上部に構築されているので，本跡が新しい。

規模と平面形 長軸4.10m，短軸3.03mの長方形である。

主軸方向 N-11°-E

壁 壁高は1~22cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 東壁下から南壁下，および南西コーナー壁下から北西コーナー壁下にかけて確認され，上幅10~21cm，下幅3~9cm，深さ5~10cmで，断面形はU字形である。

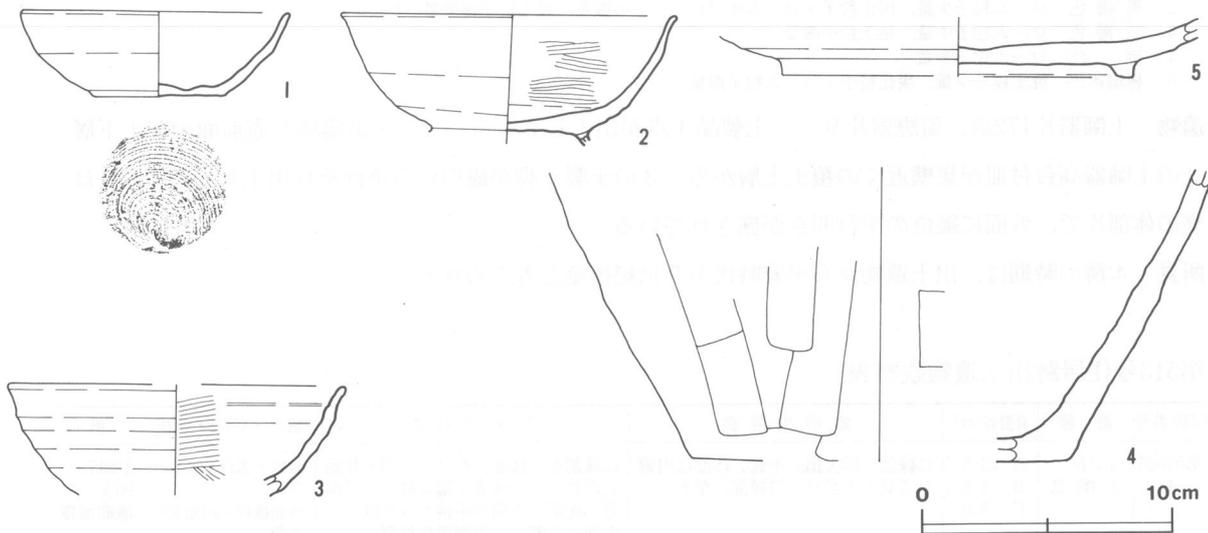
床 全体的に平坦で，中央部から東寄りにかけて踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は長さ120cm，袖幅80cm，壁外への掘り込みは71cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。天井部は崩落している。内壁は，火熱を受けて赤変している。左壁には，袖の補強材に使用したと思われる雲母片岩が確認されている。煙道は外傾して立ち上がる。

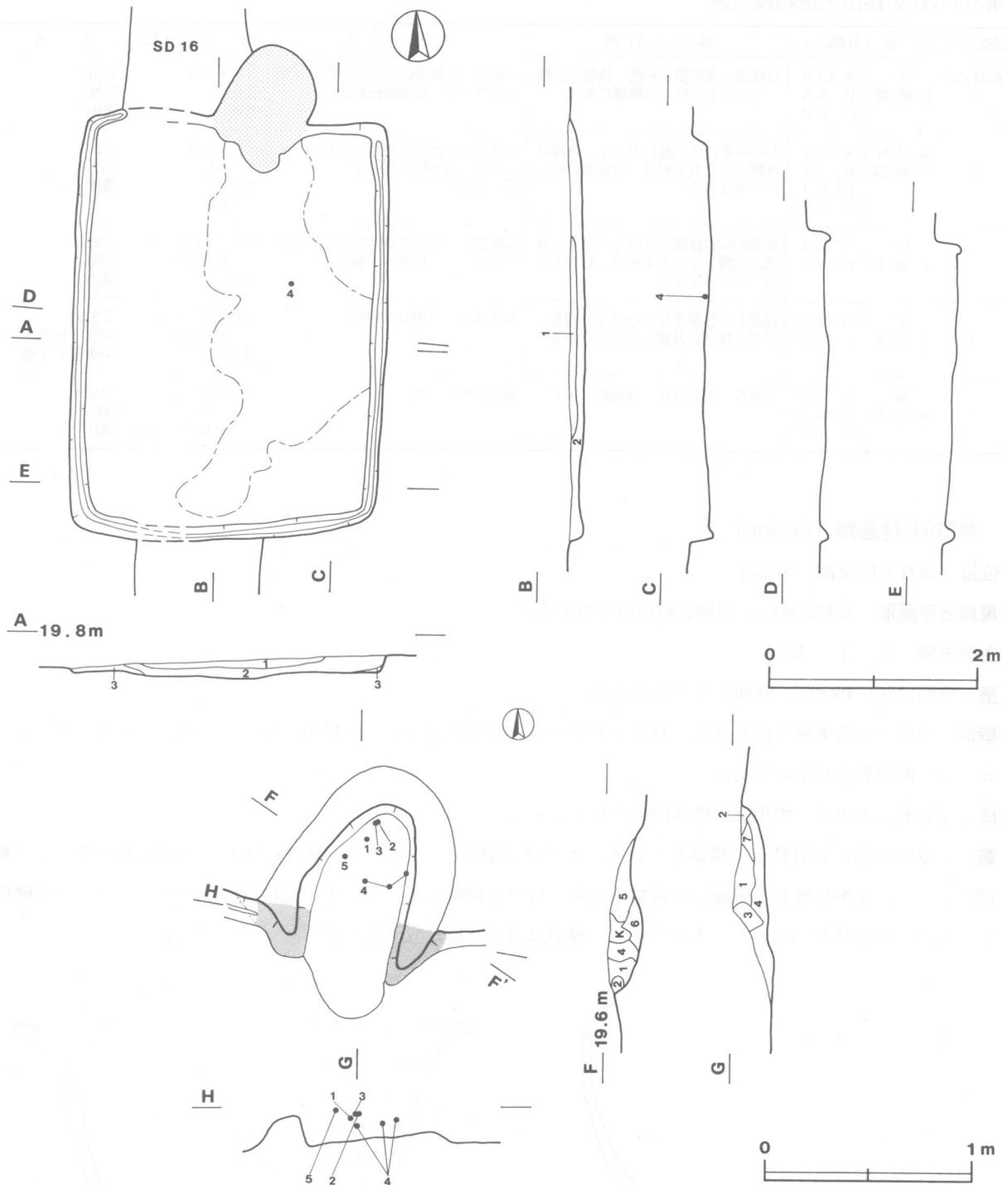
竈土層解説

- | | |
|----------------------|--|
| 1 極暗赤褐色 焼土大ブロック中量 | 5 暗赤褐色 焼土粒子多量，焼土中ブロック・粘土粒子少量 |
| 2 赤褐色 焼土粒子中量 | 6 明赤褐色 焼土粒子多量，炭化粒子中量 |
| 3 赤褐色 焼土粒子・粘土粒子少量 | 7 極暗赤褐色 焼土中ブロック・焼土小ブロック中量，焼土粒子少量，炭化物・砂微量 |
| 4 暗赤褐色 焼土粒子多量，炭化粒子少量 | |

覆土 3層からなり，自然堆積である。



第517図 第517号住居跡出土遺物実測図



第518図 第517号住居跡実測図

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック極微量

遺物 土師器片152点, 須恵器片30点, 礫3点が出土している。1の土師器坏, 2の土師器高台付坏, 3の土師器坏, 5の須恵器盤がそれぞれ竈内から出土している。1～3は, 逆位で出土している。4は, 竈内から出土した破片と中央覆土下層から出土した破片が接合している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から平安時代の10世紀前葉と考えられる。

第517号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第517図 1	坏 土師器	A 10.6 B 3.5 C 5.2	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけての内・外面 ロクロナデ。底部回転系切り。	砂粒・雲母 橙色 普通	P2177 75% 竈内
2	高台付坏 土師器	A 13.4 B (5.3) D [6.4] E (0.5)	ハの字状に開く高台がつく。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短くやや外反する。	口縁部から体部にかけての外 面ロクロナデ。高台貼り付け後、 ナデ。内面ヘラ磨き。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通 二次焼成	P2178 75% 竈内
3	坏 土師器	A [13.4] B (4.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短くやや外反する。	口縁部から体部にかけての内・外面 ロクロナデ。内面ヘラ磨き。	砂粒・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P2179 15% 竈内
4	甕 土師器	B (11.9) C [15.0]	底部から体部下位にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P2180 10% 竈内・ 中央覆土下層
5	盤 須恵器	B (2.4) D [14.0] E 0.7	底部片。高台は短く直線的に開く。	底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・スコリア・石英 にぶい黄褐色 普通	P2181 20% 竈内

第519号住居跡（第520図）

位置 調査8区東部，N8d9区。

規模と平面形 長軸2.90m，短軸2.87mの方形である。

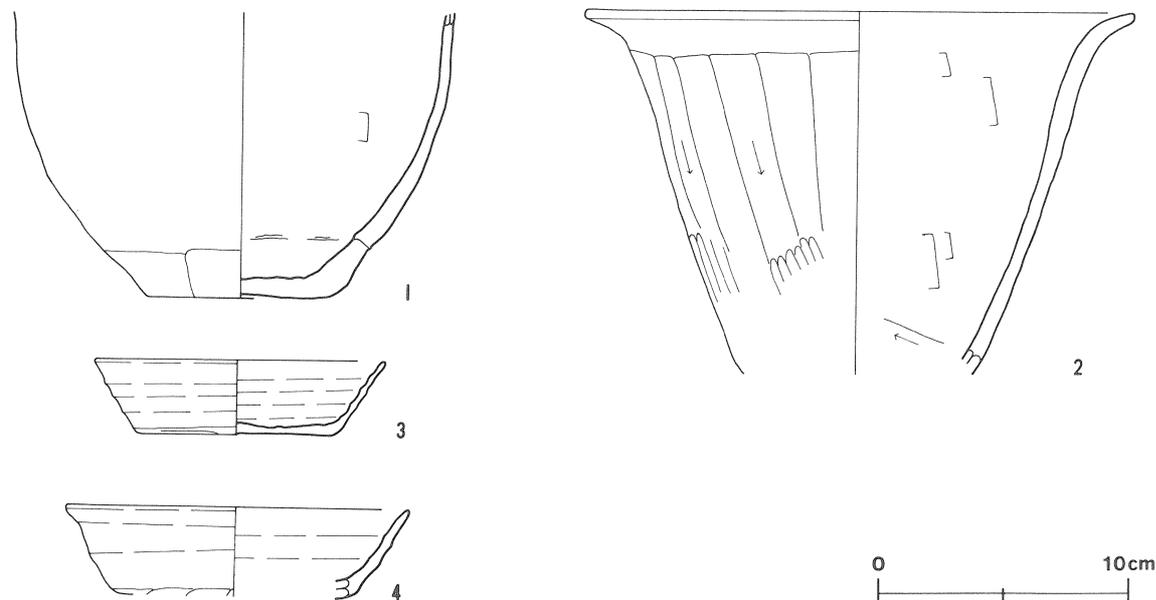
主軸方向 N-4°-W

壁 壁高は36~48cmで、外傾して立ち上がる。

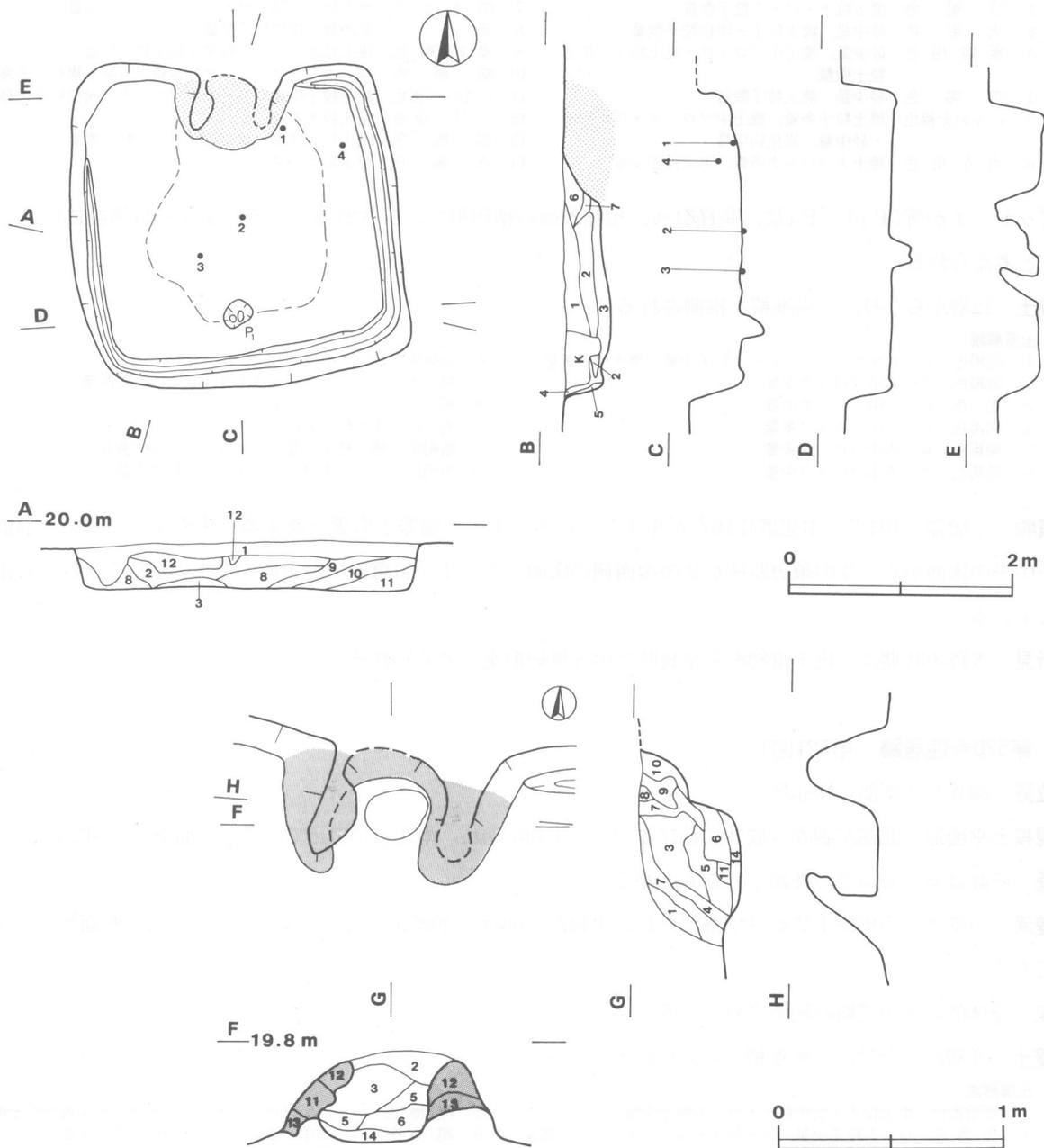
壁溝 西壁下から東壁下にかけて、および北壁下の一部で確認され、上幅16~34cm，下幅3~9cm，深さ3~5cmで、断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に砂質粘土で構築している。天井部は崩落している。規模は長さ60cm，袖幅102cmである。袖部は、ロームを削り残して壁面に砂質粘土を貼り付けて構築している。火床面は厚さ5cmほどあり、赤変硬化しており、かなり使い込んだと考えられる。煙道はほぼ垂直に立ち上がる。



第519図 第519号住居跡出土遺物実測図



第520図 第519号住居跡実測図

第519号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第519図 1	小形甕 土師器	B(11.6) C 7.6	底部から体部中位にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部・底部外面へラ削り。内面へラナデ。内面に輪積み痕。	砂粒・雲母・スコリア・石英にぶい褐色 普通	P2182 40% 竈東側床面
2	甕 土師器	A 22.0 B(14.7)	体部下位から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、へラ磨き。内面へラナデ。	砂粒・雲母・スコリア・石英にぶい黄褐色 普通	P2183 40% 中央床面
3	坏 須恵器	A 11.5 B 3.0 C 7.8	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけての内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへラ削り。底部手持ちへラ削り。	砂粒・雲母・石英 灰色 普通	P2184 85% 2の南西側床面
4	坏 須恵器	A 13.6 B 3.7 C[9.0]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はやや外反する。	口縁部から体部にかけての内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへラ削り。底部手持ちへラ削り。	砂粒・雲母 灰黄褐色 普通	P2185 60% 東側覆土中層

竈土層解説

- | | | | |
|----------|---------------------------------|-----------|---------------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土粒子・ローム粒子微量 | 7 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・砂少量 |
| 2 灰褐色 | 砂中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 褐色 | 砂多量, 炭化粒子微量 |
| 3 極暗褐色 | 砂少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 極暗褐色 | 焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | 砂少量, 焼土粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 5 にぶい赤褐色 | 焼土粒子多量, 焼土中ブロック・炭化粒子・砂中量, 炭化物少量 | 11 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子・砂少量 |
| 6 明赤褐色 | 焼土大ブロック多量, 焼土粒子少量 | 12 にぶい橙色 | 粘土粒子多量 |
| | | 13 暗褐色 | 粘土粒子多量, 炭化物・ローム粒子微量 |
| | | 14 赤褐色 | 焼土粒子中量 |

ピット 1か所(P₁)。P₁は、長径31cm、短径22cmの楕円形で、深さ21cmである。出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 12層からなり、人為堆積と推測される。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------|--------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム中ブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック少量 | 8 褐色 | ローム中ブロック中量, ローム粒子微量 |
| 3 褐色 | ローム中ブロック中量 | 9 褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 明褐色 | ローム小ブロック多量 | 10 褐色 | 焼土粒子・ローム小ブロック少量 |
| 5 明褐色 | ローム中ブロック多量 | 11 暗褐色 | 焼土粒子少量, ローム小ブロック微量 |
| 6 暗褐色 | ローム小ブロック中量 | 12 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子少量 |

遺物 土師器片104点、須恵器片19点が出土している。1の土師器小形甕が竈東側の床面から、2の土師器甕が中央の床面から、3の須恵器坏が2の南西側の床面から、4の須恵器坏が東側の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から奈良時代の8世紀前葉と考えられる。

第520号住居跡(第521図)

位置 調査8区東部, N9b9区。

規模と平面形 北部が調査区域外に延びており、東西3.34m、南北(1.30)mである。平面形は不明である。

壁 壁高は43~49cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 西壁下から東壁下にかけて確認され、上幅21~63cm、下幅3~12cm、深さ6~7cmで、断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で踏み固められている。

覆土 8層からなり、自然堆積と考えられる。

土層解説

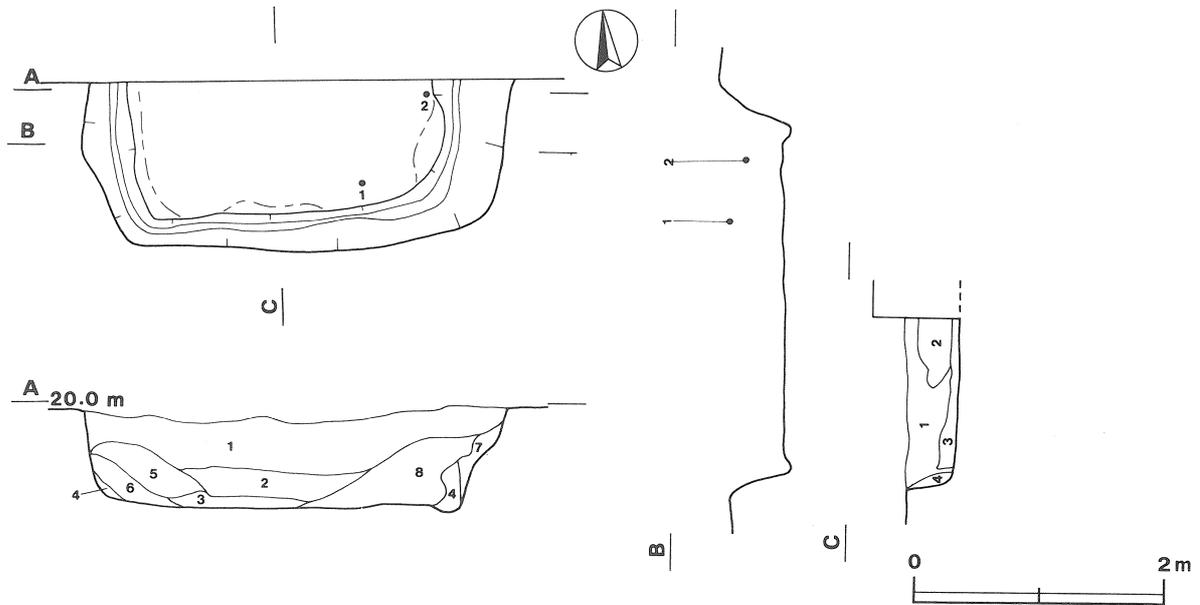
- | | | | |
|--------|------------------------------|-------|--------------------------|
| 1 極暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量 | 5 暗褐色 | ローム大ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・ローム中ブロック微量 | 6 暗褐色 | ローム中・小ブロック・ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子極微量 | 7 褐色 | 焼土粒子微量 |
| 4 褐色 | ローム粒子多量 | 8 暗褐色 | 焼土小ブロック・炭化物中量 |

遺物 土師器片74点、須恵器片28点が出土している。1の土師器甕が南側の覆土上層から、2の須恵器坏が東壁近くの覆土中層からそれぞれ出土している。

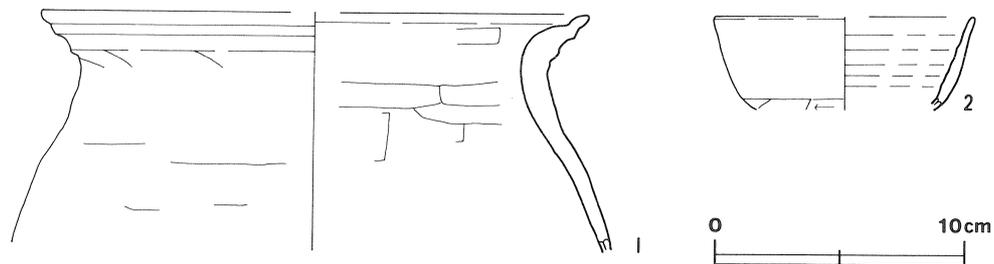
所見 本跡の時期は、出土遺物から奈良時代の8世紀前葉と考えられる。

第520号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第522図 1	甕 土師器	A[21.8] B(9.6)	体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は外反し、端部は外上方つまみ上げられている。	口縁部外面横ナデ。口縁部内面工具による横ナデ。体部外面ヘラ削り後、ナデ。内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・スコリア・石英 にぶい褐色 普通	P2186 15% 南側覆土上層
2	坏 須恵器	A[10.4] B(3.8)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけての内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母 灰色 普通	P2188 20% 東壁近く覆土中層



第521図 第520号住居跡実測図



第522図 第520号住居跡出土遺物実測図

第521号住居跡 (第523・524図)

位置 調査8区東部, N9e0区。

重複関係 上位に第522号住居跡が構築されており, 第523号住居跡を掘り込んでいるので, 第522号住居跡より古く, 第523号住居跡より新しい。

規模と平面形 長軸4.05m, 短軸3.96mの方形である。

主軸方向 N-1°-E

壁 壁高は42~54cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 東壁下から西壁下にかけて, および北壁下の一部で確認され, 上幅12~33cm, 下幅3~12cm, 深さ8~12cmで, 断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で, 踏み固められている。

竈 北壁中央部に砂質粘土で構築している。規模は長さ125cm, 袖幅127cm, 壁外への掘り込みは65cmである。内壁や火床面は赤変硬化しており, かなり使い込んだと思われる。煙道の立ち上がり部は, 壁面に砂質粘土を貼り付けて構築している。煙道は外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|------------------------|----------|--------------------|
| 1 暗赤褐色 | 砂少量, ローム粒子微量 | 6 赤褐色 | 粘土大ブロック多量 |
| 2 極暗赤褐色 | 焼土中ブロック中量, 焼土粒子・粘土粒子少量 | 7 褐色 | 粘土粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 炭化物少量 | 8 にぶい黄褐色 | 粘土粒子多量 |
| 4 暗褐色 | 焼土粒子少量 | 9 褐色 | 焼土中ブロック中量, 粘土粒子中量 |
| 5 褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 褐色 | 粘土粒子中量, ローム中ブロック少量 |

ピット 6か所(P₁～P₆)。P₁は、長径28cm, 短径24cmの楕円形で、深さ40cmである。P₂は、長径29cm, 短径24cmの楕円形で、深さ44cmである。P₃は、長径53cm, 短径33cmの楕円形で、深さ61cmである。P₄は、径27cmほどの円形で、深さ52cmである。いずれも支柱穴と考えられる。P₅は、径18cmほどの円形で、深さ16cmである。出入口施設に伴うピットと考えられる。P₆は、長径90cm, 短径67cmの不整楕円形で深さ20cmである。性格は不明である。

P₁土層解説

- 1 褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム小ブロック中量
- 4 明褐色 ローム中ブロック中量

P₃土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量

P₄土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

P₅土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子微量

P₆土層解説

- 1 褐色 焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 にぶい赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・砂少量, ローム粒子微量
- 3 にぶい赤褐色 砂少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化物微量

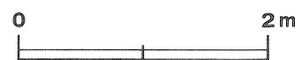
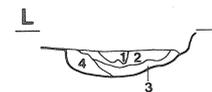
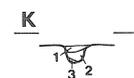
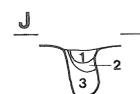
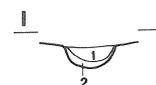
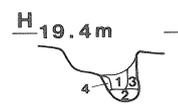
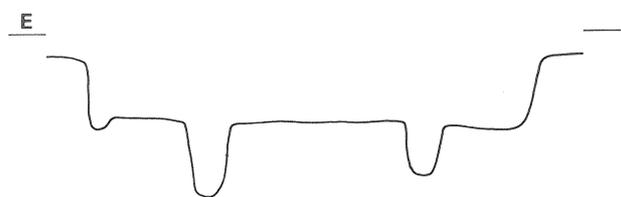
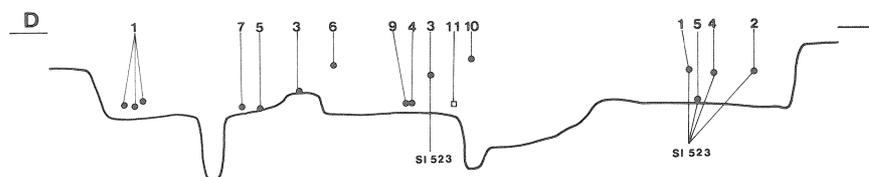
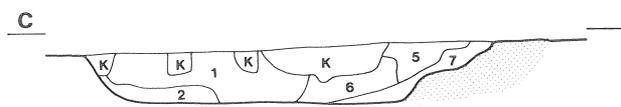
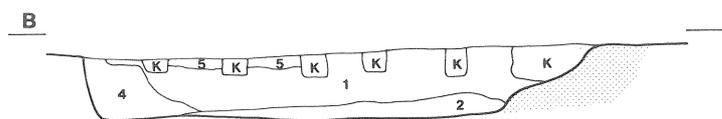
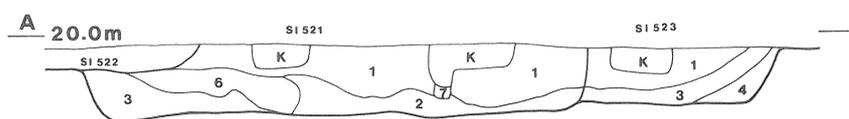
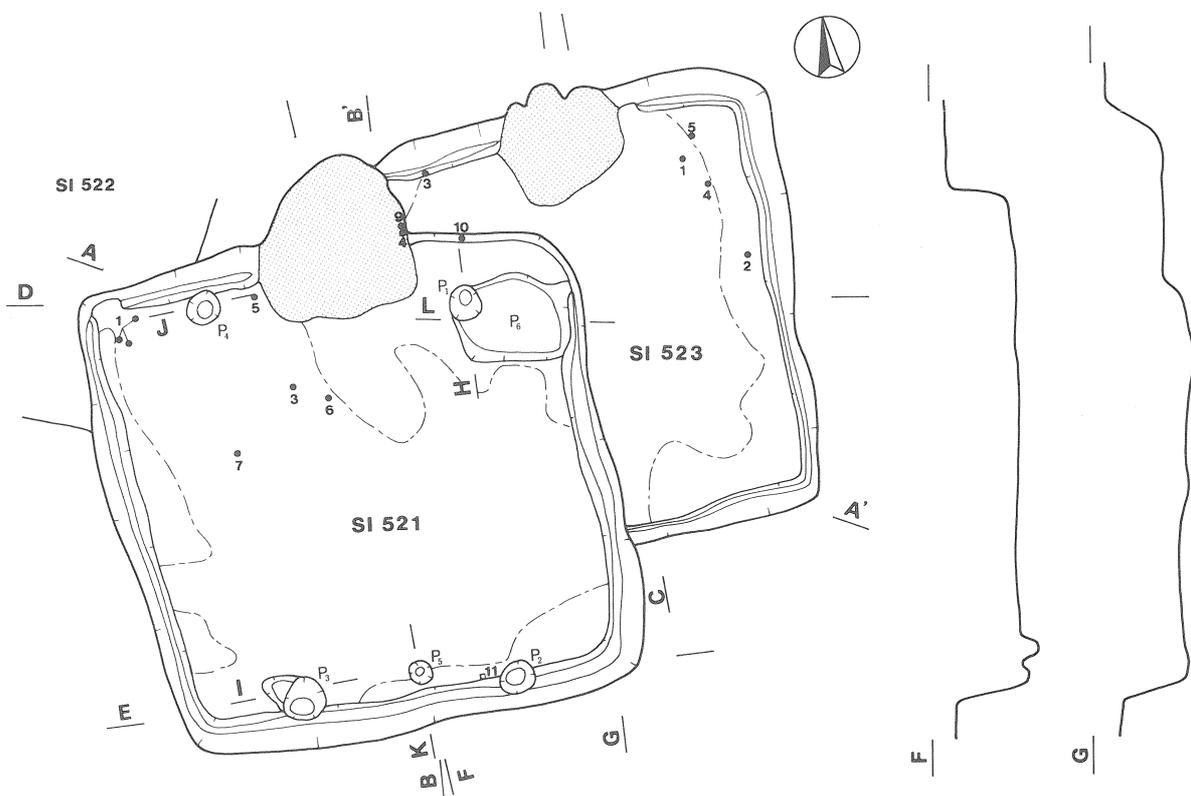
覆土 7層からなり、人為堆積と推測される。

土層解説

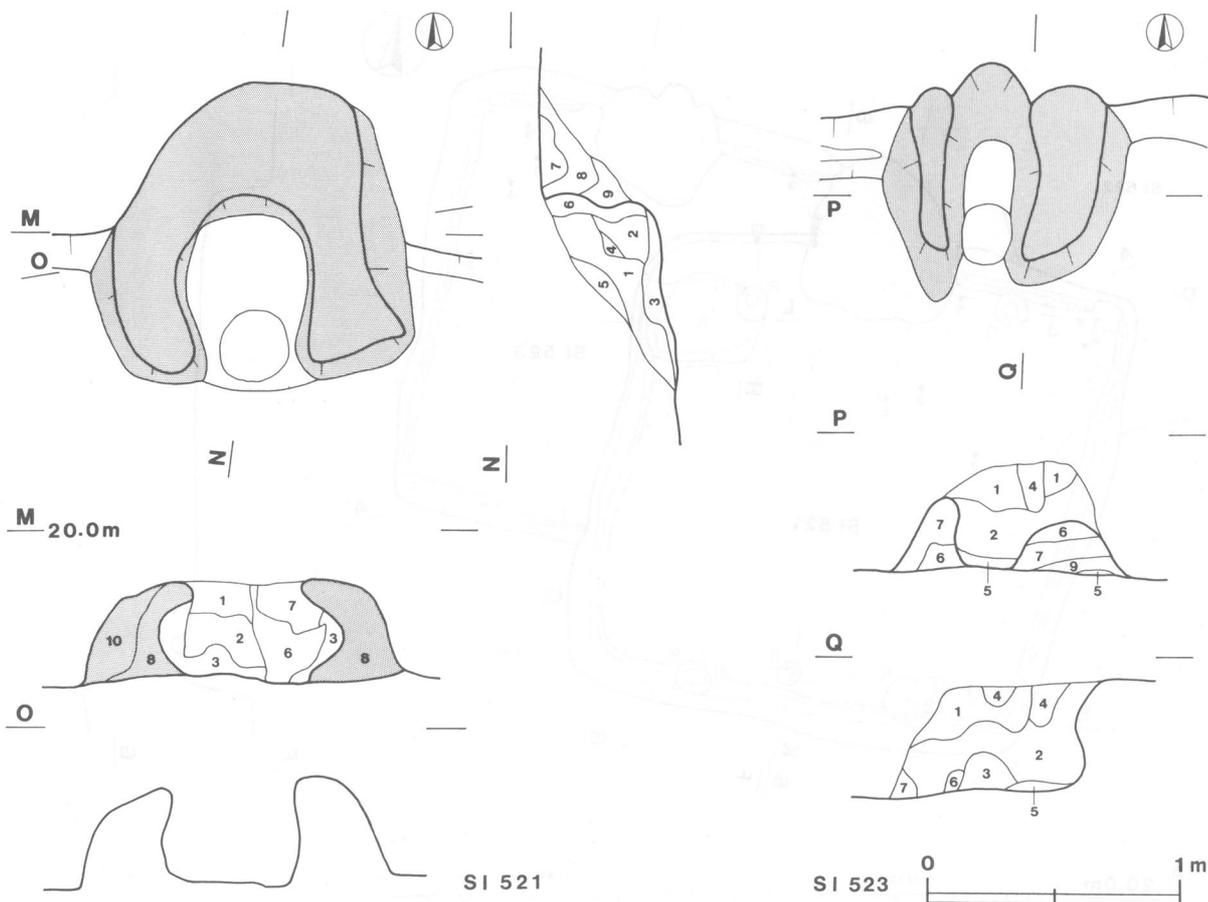
- 1 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・粘土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック・ローム中・小ブロック少量
- 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック微量
- 5 褐色 ローム小ブロック中量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・ローム中・小ブロック・粘土中ブロック少量, 炭化粒子微量
- 7 暗褐色 ローム中ブロック多量

遺物 土師器片441点, 須恵器片91点が出土している。1の土師器甕が北西コーナー付近の覆土中層から, 3の土師器甕が中央部覆土中層から, 4の須恵器坏, 9の須恵器蓋が竈右袖際から, 5の須恵器坏が竈左袖付近の床面から正位で, 6の須恵器坏が3の南側の覆土上層から, 7の須恵器坏が中央やや西側寄りの覆土下層から, 10の須恵器甕が北壁際から, 11の石製紡錘車が南壁際から, 2の土師器甕, 8の須恵器高台付坏が覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から奈良時代の8世紀中葉と考えられる。



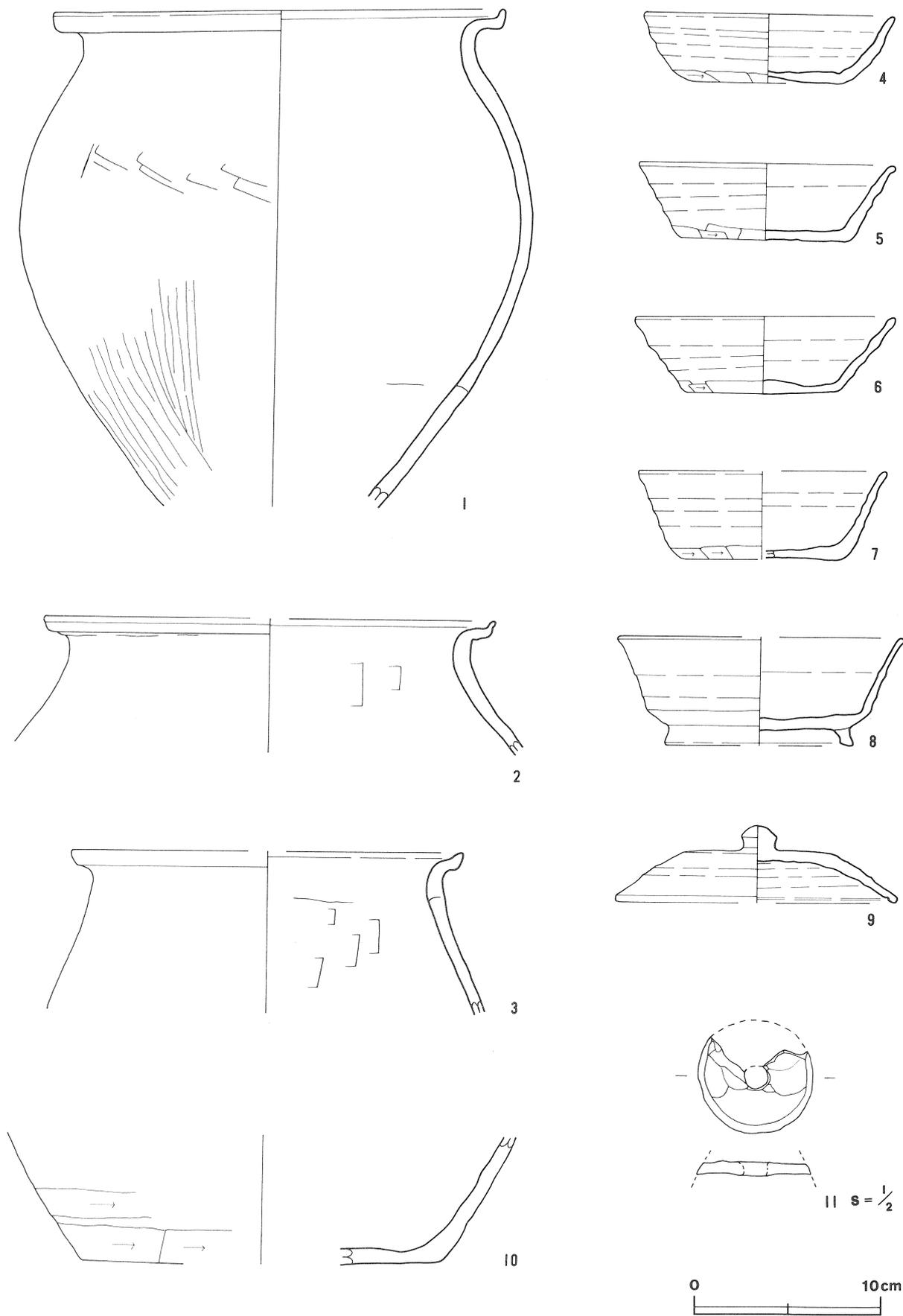
第523图 第521・523号住居跡実测图



第524図 第521・523号住居跡竈実測図

第521号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第525図 1	甕 土師器	A 24.1 B (27.3)	体部下位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、最大径を中位にもつ。口縁部は強く外反し、端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位へら削り後、ナデ。中位から下位にかけてへら磨き。内面ナデ。内面に輪積み痕。	砂粒・雲母・スコリア・石英 橙色 普通	P2189 35% 北西コーナー付近覆土中層
2	甕 土師器	A [24.0] B (7.3)	体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は強く外反し、端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・スコリア・石英 にぶい黄橙色 普通	P2190 10% 覆土中
3	甕 土師器	A [21.0] B (8.8)	体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は強く外反し、端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面へらナデ。内面に輪積み痕。	砂粒・雲母・スコリア・石英 にぶい橙色 普通	P2191 10% 中央覆土中層
4	坏 須恵器	A 13.3 B 3.7 C 8.2	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけての内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへら削り。底部回転へら切り後、一方向の手持ちへら削り。	砂粒・雲母・スコリア・石英・長石 黄灰色 普通	P2192 95% 竈右袖際
5	坏 須恵器	A 13.7 B 4.2 C 9.0	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけての内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへら削り。底部回転へら切り後、一方向の手持ちへら削り。	砂粒・雲母・石英 灰色 普通	P2193 65% 竈左袖付近床面
6	坏 須恵器	A 13.9 B 4.3 C 8.4	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけての内・外面ロクロナデ。体部下端、底部手持ちへら削り。	砂粒・雲母・石英・礫 灰色 普通	P2194 50% 3の南側覆土上層
7	坏 須恵器	A [13.2] B 4.8 C [8.4]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけての内・外面ロクロナデ。体部下端、底部手持ちへら削り。	砂粒・雲母・石英 灰白色 普通	P2195 25% 中央やや西寄り覆土下層



第525図 第521号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第525図 8	高台付坏 須恵器	A[15.2] B 5.9 D[10.2] E 1.1	ハの字状に開く高台がつく。体部は外反気味に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけての内・外面ロクロナデ。体部下端、底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 灰黄色 普通	P 2196 20% 覆土中
9	蓋 須恵器	A[15.0] B 4.2 F 1.9 G 1.2	中央部に突出したつまみがつく。天井部は緩やかに下降する。口縁部内面に一条の沈線をもつ。	天井部回転ヘラ削り。内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・石英 灰色 普通	P 2197 55% 竈右袖際
10	甕 須恵器	B(7.0) C[19.2]	底部から体部下位にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部・底部ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・雲母・石英 内面にぶい黄色 外面オリープ黒色 普通	P 2198 5% 北壁際

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
11	紡錘車	[4.1]	(0.5)	0.8	(9)	南壁際	Q2008 粘板岩

第522号住居跡（第526図）

位置 調査8区東部，N9d0区。

重複関係 第521号住居跡の上部に構築されており，本跡が新しい。

規模と平面形 長軸3.53m，短軸2.90mの長方形である。

主軸方向 N-111°-E

壁 壁高は9～15cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 北西壁下から南東壁下，南西壁下の一部で確認され，上幅13～36cm，下幅3～11cm，深さ4～5cmで，断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で，中央部が踏み固められている。

竈 南東壁中央から南東コーナー寄りに付設されている。規模は長さ82cm，袖幅81cm，壁外への掘り込みは46cmである。袖部は褐色土に砂質粘土を貼り付けて構築している。火床面は中央から右内壁寄りにあり，火熱を受けて赤変している。煙道はほぼ垂直に立ち上がる。

竈土層解説

1 褐色	焼土粒子・粘土粒子少量	9 灰褐色	粘土粒子多量
2 にぶい橙色	粘土小ブロック中量，焼土小ブロック少量	10 灰褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子中量
3 赤褐色	粘土粒子中量，焼土中ブロック少量	11 黒褐色	粘土粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量
4 赤褐色	焼土中ブロック・粘土中ブロック中量	12 にぶい赤褐色	焼土粒子多量，炭化物微量
5 褐色	粘土粒子少量	13 黒褐色	焼土粒子・粘土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
6 褐色	焼土小ブロック・炭化物・粘土小ブロック少量	14 灰褐色	粘土粒子多量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
7 にぶい赤褐色	焼土粒子中量，砂少量，焼土小ブロック・炭化物微量	15 黒褐色	焼土小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
8 褐色	粘土小ブロック少量		

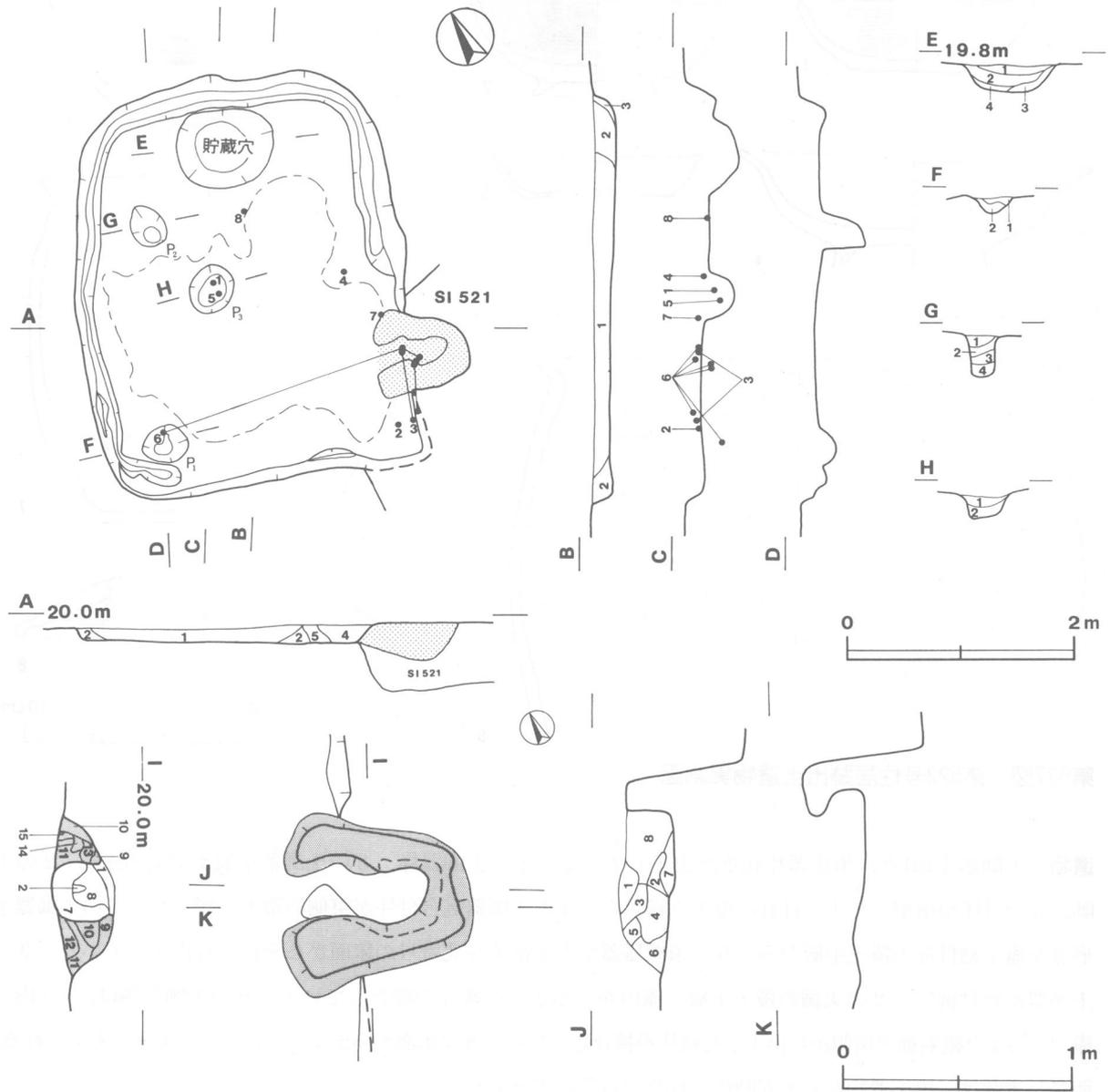
ピット 3か所(P₁～P₃)。P₁は，長径40cm，短径32cmの楕円形で，深さ17cmである。P₂は，長径38cm，短径29cmの楕円形で，深さ41cmである。P₃は，長径44cm，短径36cmの楕円形で，深さ26cmである。P₂は，主柱穴と考えられるが，P₁，P₃は，性格は不明である。

P₁土層解説

1 極暗褐色	炭化粒子・ローム粒子少量
2 暗褐色	ローム粒子中量，炭化粒子微量

P₂土層解説

1 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物中量，粘土粒子微量	3 褐色	ローム粒子多量
2 にぶい褐色	砂多量，焼土粒子・炭化粒子中量，焼土小ブロック微量	4 暗褐色	ローム粒子中量



第526図 第522号住居跡実測図

P₃土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化物・粘土粒子少量, ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック・ローム大ブロック・粘土粒子微量

貯蔵穴 北東壁際中央部に確認されている。長径85cm, 短径68cmの楕円形で, 深さ26cmである。

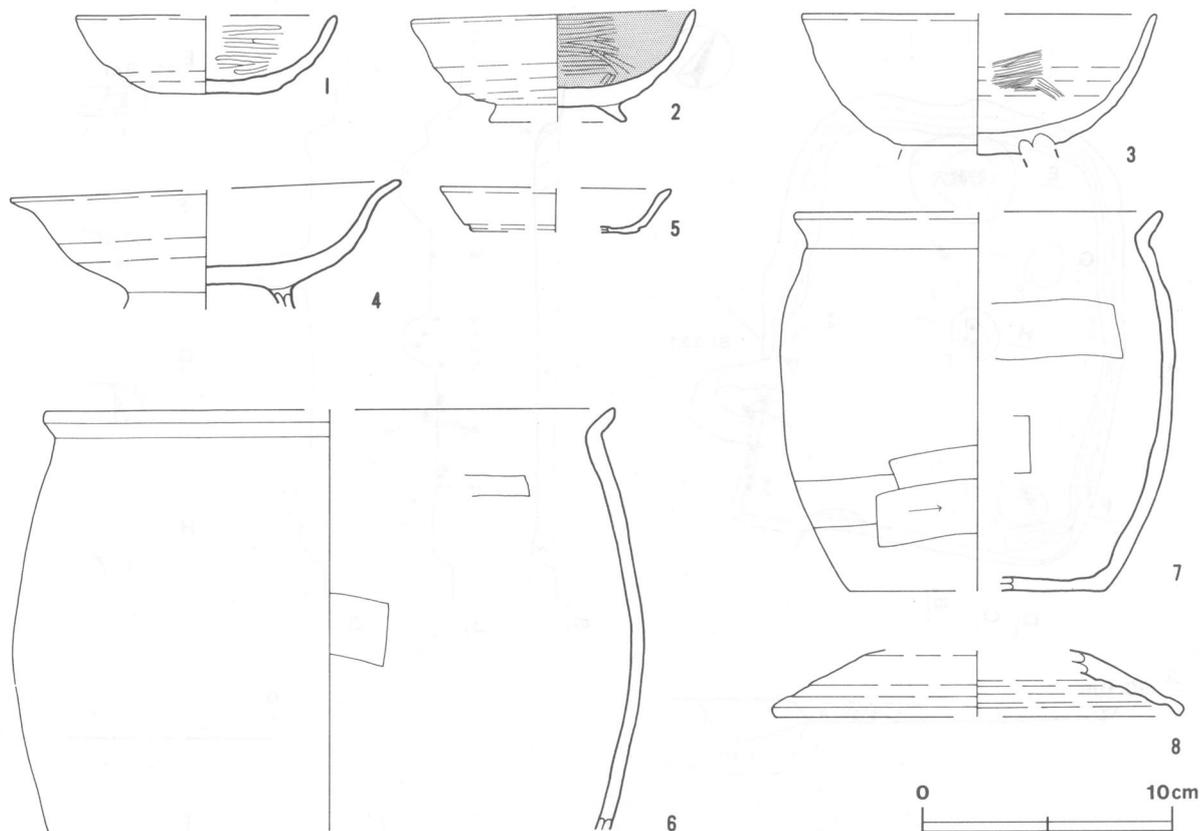
貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック微量
- 3 褐色 ローム中ブロック中量
- 4 褐色 ローム中ブロック少量

覆土 5層からなり, 自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・砂少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量
- 4 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子・砂少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・砂少量, 焼土粒子微量



第527図 第522号住居跡出土遺物実測図

遺物 土師器片181点、須恵器片46点が出土している。1の土師器坏、5の土師器小皿がP₃内から、2の土師器高台付坏が南東コーナー付近の覆土下層から、4の土師器高台付坏が東側の覆土下層から、7の土師器小形甕が竈左袖付近の覆土中層から、8の須恵器蓋が中央部やや北寄りの床面からそれぞれ出土している。3の土師器高台付碗は、2の東側の覆土下層と竈内から出土した破片が接合している。6の土師器甕は、P₁内、竈内、および竈右袖の南側から出土した破片が接合している。8は床面から出土しているが、混入と考えられる。

所見 本跡は、出土遺物から平安時代の10世紀以降と考えられる。

第522号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第527図 1	坏 土師器	A[10.4] B 3.2 C 4.4	底部から口縁部にかけての破片。丸底気味の平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて内・外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。外面磨滅。	砂粒・雲母にぶい橙色 普通	P2199 45% P ₃ 内
2	高台付坏 土師器	A 11.1 B 4.3 D[5.4] E 0.7	ハの字状に開く高台がつく。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて内・外面ロクロナデ。高台貼り付け後、ナデ。内面ヘラ磨き・黒色処理。	砂粒・雲母・スコリア 外面にぶい橙色 内面黒色 普通	P2200 90% 南東コーナー 付近覆土下層
3	高台付碗 土師器	A[14.2] B(5.7)	高台部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて内・外面ロクロナデ。体部下端は、高台貼り付け後、ナデあり。内面ヘラ磨き。外面磨滅。	砂粒・雲母 暗赤褐色 普通	P2201 50% 2の東側覆土下層・竈内
4	高台付坏 土師器	A[15.6] B(5.0) E(0.7)	高台部から口縁部にかけての破片。ハの字状に開く高台がつく。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部から体部にかけて内・外面ロクロナデ。高台貼り付け後、ナデ。	砂粒・雲母・スコリア にぶい赤褐色 普通	P2202 30% 東側覆土下層

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第527図 5	小 皿 土 師 器	A[9.2] B 1.8 C[6.6]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P2203 25% P3内
6	甕 土 師 器	A[22.8] B(17.0)	体部中位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・石英 にぶい褐色 普通	P2204 25% P1内・ 竈内・竈右袖南側
7	小形甕 土 師 器	A[14.6] B 15.4 C[10.2]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・スコリア・石英 にぶい赤褐色 普通	P2205 40% 竈左袖 付近覆土中層
8	蓋 須 恵 器	A[16.2] B(2.7)	天井部から口縁部にかけての破片。口縁部内面に短いかえりがつく。	内・外面口クロナデ。	砂粒・雲母・石英 灰色 普通	P2206 15% 中央北寄り床面

第523号住居跡（第523・524図）

位置 調査8区東部，N10e1区。

重複関係 第521号住居跡に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形 重複により規模や平面形は明確ではないが，長軸3.68m，短軸(3.20)mの長方形または方形と考えられる。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は47～49cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 北壁下から南壁下にかけて確認された。上幅10～31cm，下幅2～7cm，深さ2～4cmで，断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で，踏み固められている。

竈 北壁中央に砂質粘土で構築している。規模は長さ98cm，袖幅97cm，壁外への掘り込みは16cmである。左袖は中心部に砂質粘土を置き，周りに褐色土を貼り付けて構築している。右袖は中心部に砂質粘土を置き，褐色土を貼り付け，さらにその上に砂質粘土を貼り付けて構築している。袖の内壁は，火熱を受けて赤変している。火床面は床面と同じレベルで，楕円形状に火熱を受けて赤変している。煙道は外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|-----------------------------|-------|--------------------------|
| 1 褐色 | 粘土粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量 | 7 明褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子微量 |
| 2 褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 | 8 黒褐色 | 炭化物・炭化粒子中量，焼土粒子・粘土粒子少量 |
| 3 極暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子少量，炭化物微量 | 9 暗褐色 | 炭化粒子中量，焼土粒子・粘土粒子少量，炭化物微量 |
| 4 灰褐色 | 焼土粒子・砂微量 | | |
| 5 褐色 | 焼土粒子少量，炭化粒子微量 | | |
| 6 明褐色 | 粘土粒子多量 | | |

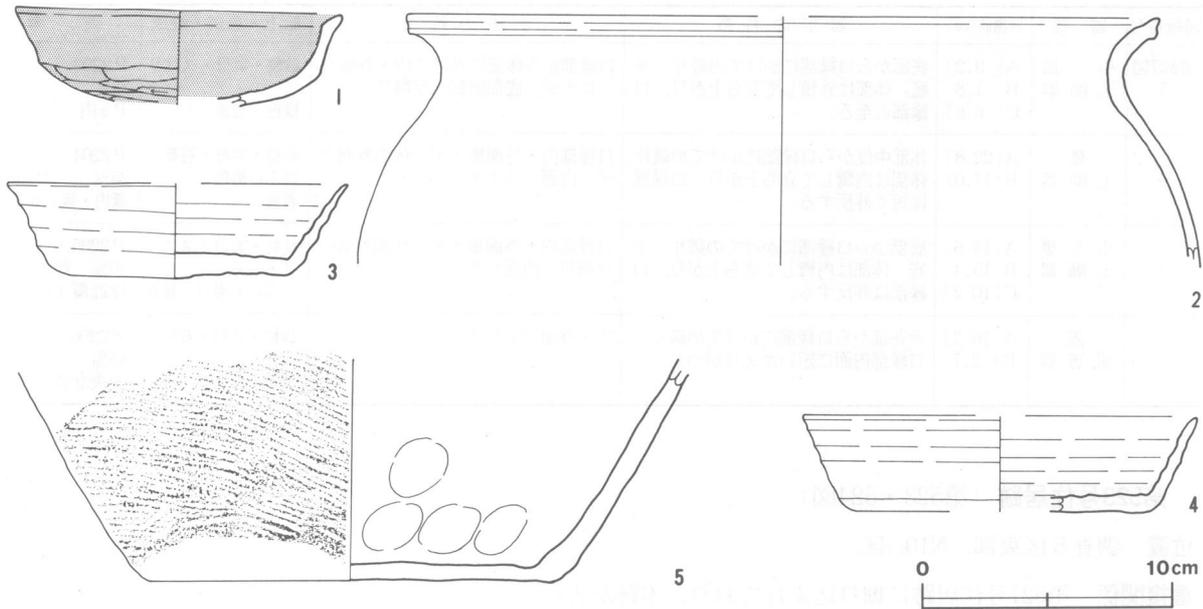
覆土 7層からなり，人為堆積と推測される。

土層解説

- 1 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量，ローム中・小ブロック少量，焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック少量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック中量，焼土小ブロック・粘土中ブロック少量
- 6 暗褐色 炭化物・粘土大ブロック中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 7 暗褐色 粘土粒子中量，焼土小ブロック・炭化物少量

遺物 土師器片144点，須恵器片24点，灰釉陶器片1点，土製品1点，鉄滓1点が出土している。1の土師器坏が北東側の覆土中層から，2の土師器甕が東側の覆土中層から，3の須恵器坏が北壁際から，4の須恵器坏が1の南東側の覆土中層から，5の須恵器甕が1の北側の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から奈良時代の8世紀前葉と考えられる。



第528図 第523号住居跡出土遺物実測図

第523号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第528図 1	坏 土師器	A 13.0 B (3.8)	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はやや外反気味に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・スコリア 黒色 普通	P 2207 60% 北東側覆土中層
2	甕 土師器	A [30.0] B (10.1)	体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は外反し、端部は外上方つまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・石英 明赤褐色 普通	P 2208 5% 東側覆土中層
3	坏 須恵器	A [13.6] B 3.3 C 8.8	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて内・外面口クロナデ。底部回転へラ切り。	砂粒・雲母・長石 黄灰色 普通	P 2209 70% 北壁際
4	坏 須恵器	A [15.8] B 3.9 C [11.6]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて内・外面口クロナデ。底部回転へラ切り後、手持ちへラ削り。	砂粒・雲母・石英 灰色 普通	P 2210 20% 1の南東側覆土中層
5	甕 須恵器	B (9.0) C [16.2]	底部から体部下位にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面斜位の平行叩き。内面ナデ。内面当て具痕、指頭押圧。	砂粒・雲母・スコリア・長石 褐色 普通	P 2211 20% 1の北側覆土下層

第524号住居跡（第529図）

位置 調査8区東部、N10d3区。

重複関係 第526号住居跡を掘り込み、第525号住居跡の上部に構築されているので、それぞれの住居跡より新しい。

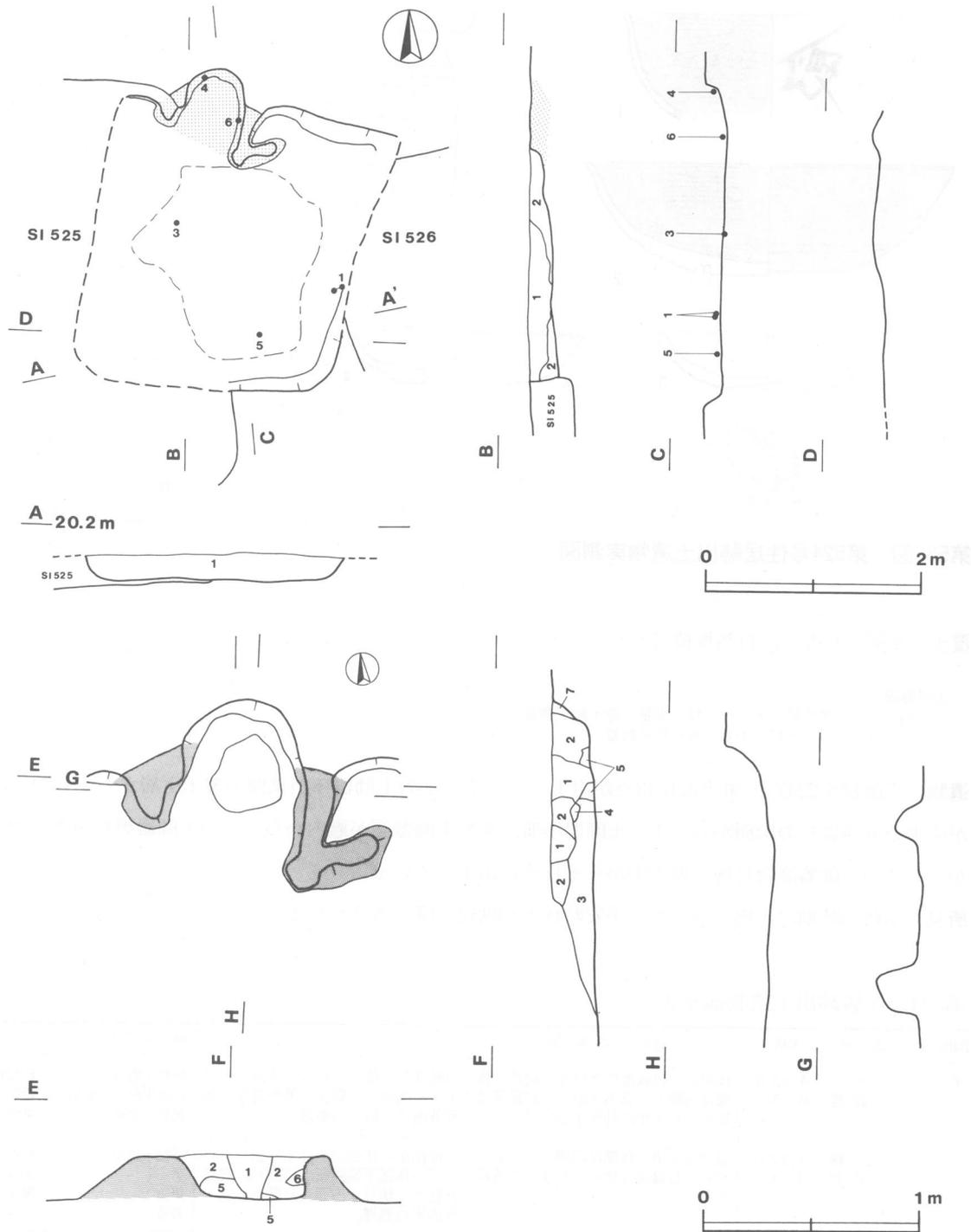
規模と平面形 重複により規模や平面形は明確ではないが、残存する壁や床から、長軸[2.84]m、短軸[2.43]mの長方形と考えられる。

主軸方向 N-15°-E

壁 壁高は16cmで、外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央やや西寄りに付設されている。規模は長さ95cm、袖幅125cm、壁外への掘り込みは32cmである。袖部は、壁面に砂質粘土を貼り付けて構築している。内袖は、火熱を受け赤変している。火床部は、床面と同

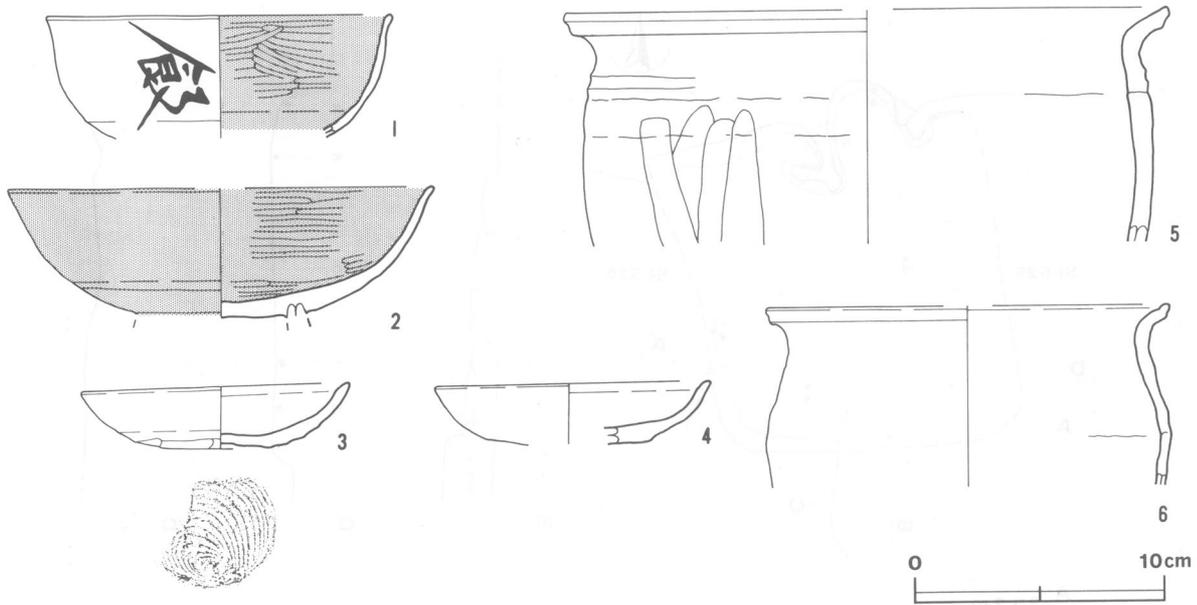


第529図 第524号住居跡実測図

じ高さで、楕円形状に赤変している。煙道は外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック・粘土粒子中量, 焼土粒子少量, 焼土小ブロック微量
- 3 極暗褐色 粘土粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量, 炭化物微量
- 4 極暗赤褐色 焼土小ブロック中量, 焼土粒子少量
- 5 にぶい赤褐色 焼土小ブロック中量, 炭化粒子・ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 6 極暗赤褐色 粘土粒子中量, 焼土粒子少量
- 7 暗赤褐色 焼土粒子多量, 炭化物・炭化粒子少量



第530図 第524号住居跡出土遺物実測図

覆土 2層からなり、自然堆積である。

土層解説

- 1 褐色 炭化粒子・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

遺物 土師器片224点、須恵器片43点が出土している。1の土師器坏が東側の覆土下層から、3の土師器小皿が中央やや西寄りの床面から、4の土師器小皿、6の土師器甕が竈内から、5の土師器甕が南寄りの覆土下層から、2の土師器高台付碗が覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から平安時代の10世紀以降と考えられる。

第524号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第530図 1	坏 土師器	A 13.8 B (5.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く、わずかに外反する。	口縁部から体部にかけて外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き・黒色処理。体部外面に「飯」の墨書。	砂粒・雲母 内面黒色 外面明赤褐色 普通	P 2212 40% 東側覆土下層
2	高台付碗 土師器	A [17.0] B (5.2)	高台部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く、わずかに外反する。	口縁部から体部にかけて外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り。内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・スコリア 黒色 普通	P 2213 30% 覆土中
3	小皿 土師器	A 10.7 B 2.8 C 4.9	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転系切り。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通 口縁部に煤付着	P 2214 90% 中央西寄り床面
4	小皿 土師器	A 11.0 B 2.6 C [6.4]	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・スコリア にぶい赤褐色 普通	P 2215 50% 竈内
5	甕 土師器	A [24.0] B (9.5)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。内・外面に輪積み痕。	砂粒・雲母・スコリア・石英 橙色 普通	P 2216 15% 南寄り覆土下層
6	甕 土師器	A [16.0] B (7.3)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、短く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面ナデ。内面に輪積み痕。	砂粒・雲母・スコリア・石英 にぶい褐色 普通	P 2217 15% 竈内

第525号住居跡（第532図）

位置 調査8区東部，N10d2区。

重複関係 上位に第524号住居跡が構築されており，第527号住居跡を掘り込んでいるので，第524号住居跡より古く，第527号住居跡より新しい。

規模と平面形 長軸4.20m，短軸4.12mの方形である。

主軸方向 N-4°-W

壁 壁高は35～44cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 上幅12～30cm，下幅2～9cm，深さ3～8cm，断面形はU字形で全周している。

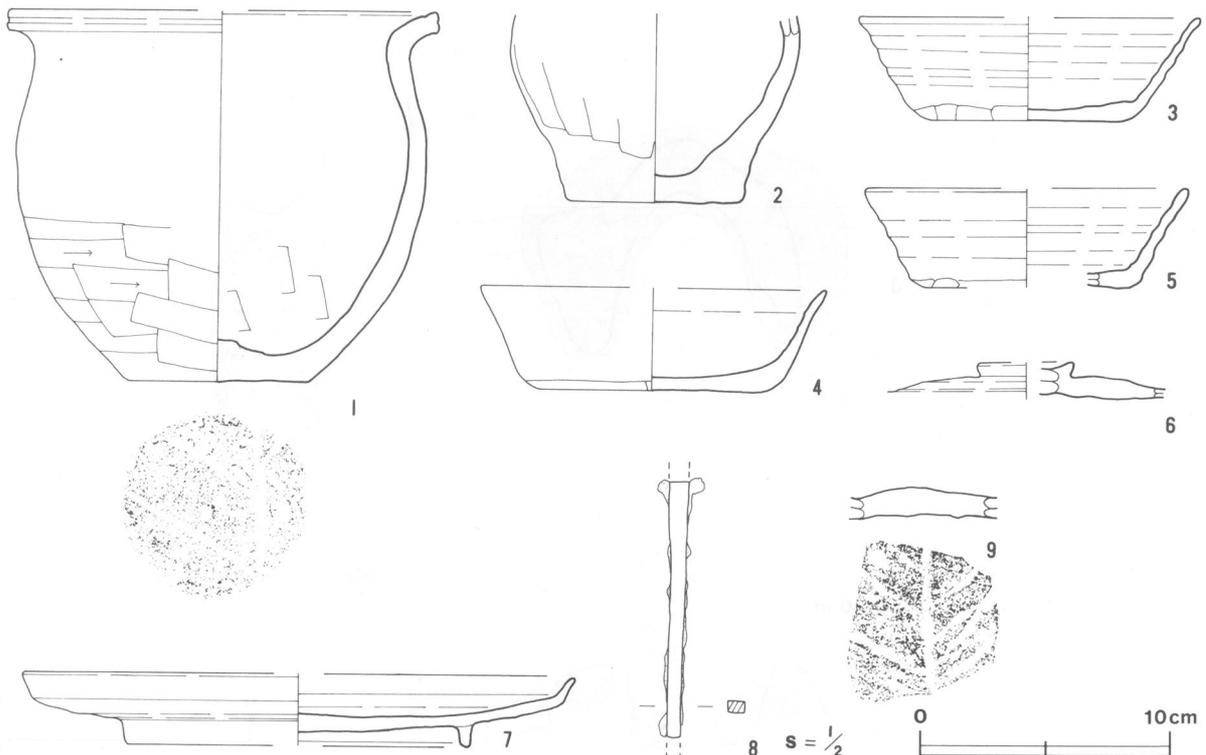
床 全体的に平坦で，中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に砂質粘土で構築している。規模は長さ111cm，袖幅127cm，壁外への掘り込みは31cmである。袖部は壁面に砂質粘土を貼り付けて構築している。袖の内壁は火熱を受けて赤変している。火床面は楕円形状に厚さ8～13cmほどあり，かなり使い込んだと考えられる。煙道はほぼ垂直に立ち上がる。

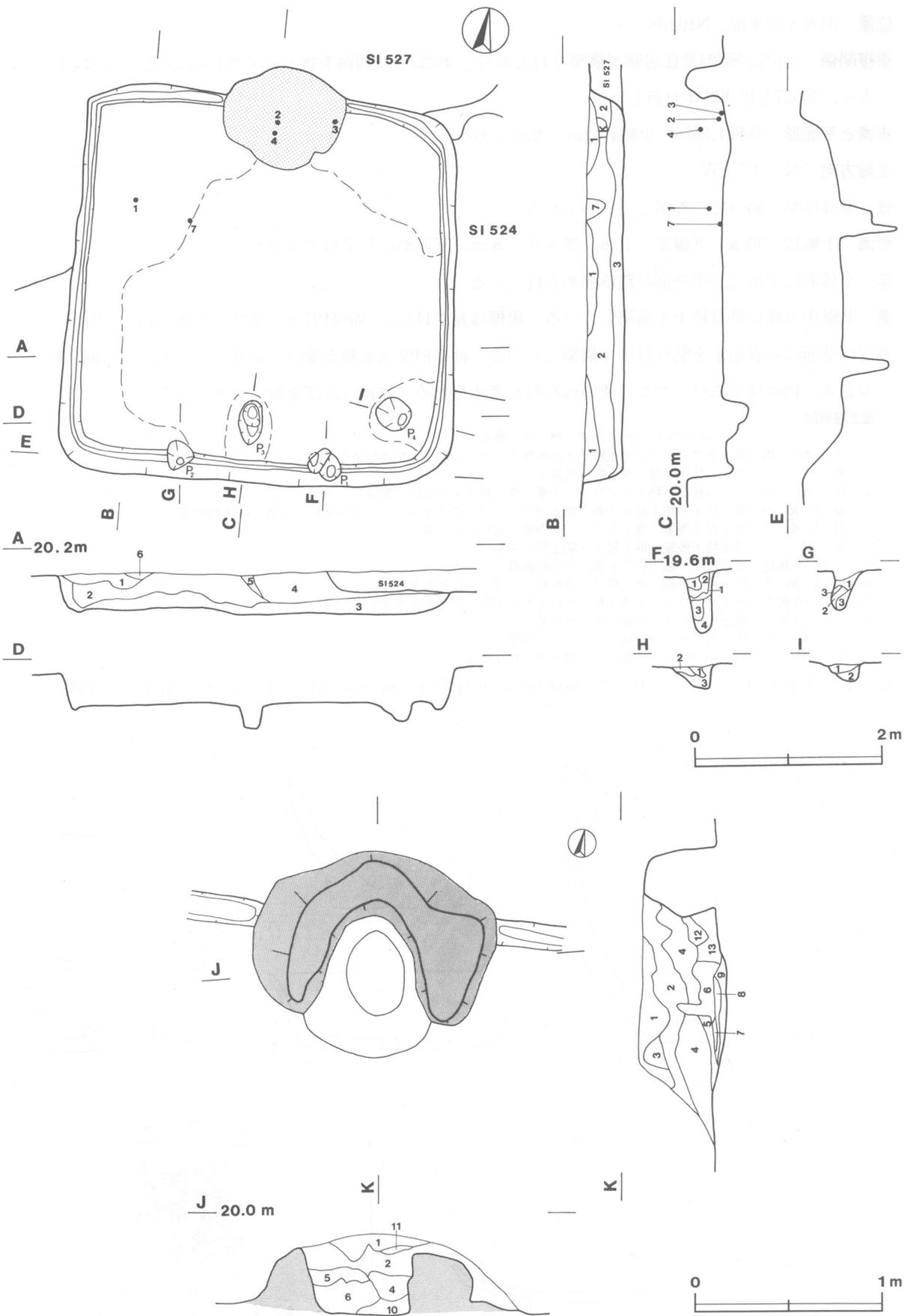
竈土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量
- 2 灰褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量，ローム小ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子中量，焼土粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子・粘土小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗赤褐色 焼土粒子・粘土粒子中量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量，炭化物微量
- 6 明赤褐色 焼土粒子多量，焼土大ブロック中量，炭化粒子少量
- 7 赤黒色 炭化粒子多量，焼土粒子・粘土粒子中量
- 8 にぶい赤褐色 焼土粒子・粘土粒子中量，炭化物微量
- 9 暗赤褐色 粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量，炭化物微量
- 10 にぶい赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子中量，炭化物・炭化粒子少量
- 11 にぶい赤褐色 焼土小ブロック中量，炭化物少量
- 12 赤褐色 焼土大ブロック・粘土大ブロック多量
- 13 赤褐色 焼土中ブロック多量，炭化物・炭化粒子中量

ピット 4か所(P₁～P₄)。P₁は，長径35cm，短径24cmの楕円形，深さ59cmで，作り替えの可能性がある。



第531図 第525号住居跡出土遺物実測図



第532图 第525号住居跡实测图

P₂は、長径30cm、短径25cmの楕円形で、深さ51cmである。いずれも壁柱穴と考えられる。P₃は、長径47cm、短径25cmの楕円形で、深さ26cmである。出入り口施設に伴うピットと考えられる。P₄は、長径37cm、短径33cmの楕円形で、深さ20cmである。性格は不明である。

P₁土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量
- 2 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量、砂微量
- 4 褐色 ローム粒子多量

P₃土層解説

- 1 褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム小ブロック少量
- 3 明褐色 ローム小ブロック少量

P₂土層解説

- 1 暗褐色 灰・ローム粒子少量、砂微量、ローム大ブロック極微量
- 2 褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量、粘土粒子少量

P₄土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 にぶい褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量

覆土 7層からなり、人為堆積と推測される。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・砂少量、焼土小ブロック微量
- 3 灰褐色 焼土粒子・ローム粒子・砂少量、ローム小ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子中量
- 6 極暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 7 暗褐色 焼土粒子少量、ローム粒子微量

遺物 土師器片238点、須恵器片57点、鉄製品1点、炭化材が出土している。1の土師器甕が西側覆土中層から、7の須恵器盤が中央やや西側寄りの覆土下層から、2の土師器小形甕、3、4の須恵器坏が竈内から、5の須恵器坏、6の須恵器蓋、8の不明鉄製品が覆土中からそれぞれ出土している。9は土師器甕の底部片で、外面に木葉痕が残る。

所見 本跡の時期は、出土遺物から奈良時代の8世紀後葉と考えられる。

第525号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第531図 1	甕 土師器	A[17.0] B 15.0 C 7.2	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は強く外反し、端部はわずかに上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面の中位から下位にかけてヘラ削り。内面ヘラナデ。底部木葉痕。	砂粒・雲母・スコリア・石英・長石 赤褐色 普通	P2218 65% 西側覆土中層
2	小形甕 土師器	B(7.6) C 7.0	底部から体部下位にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部・底部ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・雲母・スコリア・石英・長石 赤色 普通	P2219 10% 竈内
3	坏 須恵器	A[13.7] B 4.2 C 8.0	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部にかけて内・外面口クロナデ。体部下端、底部手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母・石英・長石 褐灰色 普通	P2220 60% 竈内
4	坏 須恵器	A[13.7] B 4.2 C 9.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	口縁部から体部にかけて内・外面口クロナデ。体部下端、底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰黄色 普通	P2221 40% 竈内
5	坏 須恵器	A[12.8] B 4.0 C[8.2]	底部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて内・外面口クロナデ。体部下端、底部手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 黄灰色 普通	P2222 30% 覆土中
6	蓋 須恵器	B(1.5) F[3.6] G 0.5	天井部片。天井部は緩やかに降下する。	天井部回転ヘラ削り。内面口クロナデ。	砂粒・雲母 黄灰色 普通	P2223 5% 覆土中
7	盤 須恵器	A[21.8] B 2.9 D[13.8] E 1.0	高台部から口縁部にかけての破片。ほぼ直線的な高台がつく。体部は外傾して大きく開き、口縁部で屈曲し、外上方に立ち上がる。	口縁部から体部にかけて内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 灰黄色 普通	P2224 35% 中央やや 西側寄り覆土下層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第531図8	不明鉄製品	(6.9)	0.5	0.3	(6)	覆土中	M2011

③ 時期不明

第505号住居跡（第504図）

位置 調査8区西部，N8b₂区。

重複関係 第500・501号住居跡に掘り込まれているので，両住居跡より古い。

規模と平面形 西側が調査区域外に延びており，第500・501号住居跡と重複しているため，東西軸長は2.10mまで，南北軸長は1.65mまで測れる。平面形は不明である。

壁 壁高は8cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 東壁下で確認され，上幅17～20cm，下幅3～10cm，深さ5cmで，断面形はU字形である。

床 全体的に平坦である。

ピット 1か所(P₁)。P₁は，長径47cm，短径41cmの楕円形で，深さ40cmである。性格は不明である。

覆土 3層からなり，人為堆積と推測される。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

遺物 遺物は，出土しなかった。

所見 本跡は，出土遺物はなく時期判断は難しいが，第500・501号住居跡に掘り込まれていることから，奈良時代以前の住居跡と考えられる。

第511号住居跡（第533図）

位置 調査8区東部，N10f₂区。

規模と平面形 南部が調査区域外に延びており，東西方向3.70m，南北方向(1.45)mである。平面形は不明である。

壁 壁高は8～17cmで，外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦である。西側のP₂上に長さ93cm，中央からP₁にかけて長さ125cm，幅12cm，厚さ5cmほどの焼土がそれぞれ確認されている。いずれも東西方向で，床面から10cmほど上部にある。

ピット 3か所(P₁～P₃)。P₃は，長径61cm，短径53cmの楕円形で，深さ17cmである。P₁，P₂は，南部が調査区域外になるため大きさは不明で，深さはP₂が28cm，P₃が38cmである。性格はそれぞれ不明である。P₃の土層は，焼土粒子，炭化物，砂を含み，P₁の土層は，ローム粒子，粘土粒子を含み，P₂の土層は，ローム小ブロック，ローム粒子を含んでいる層である。

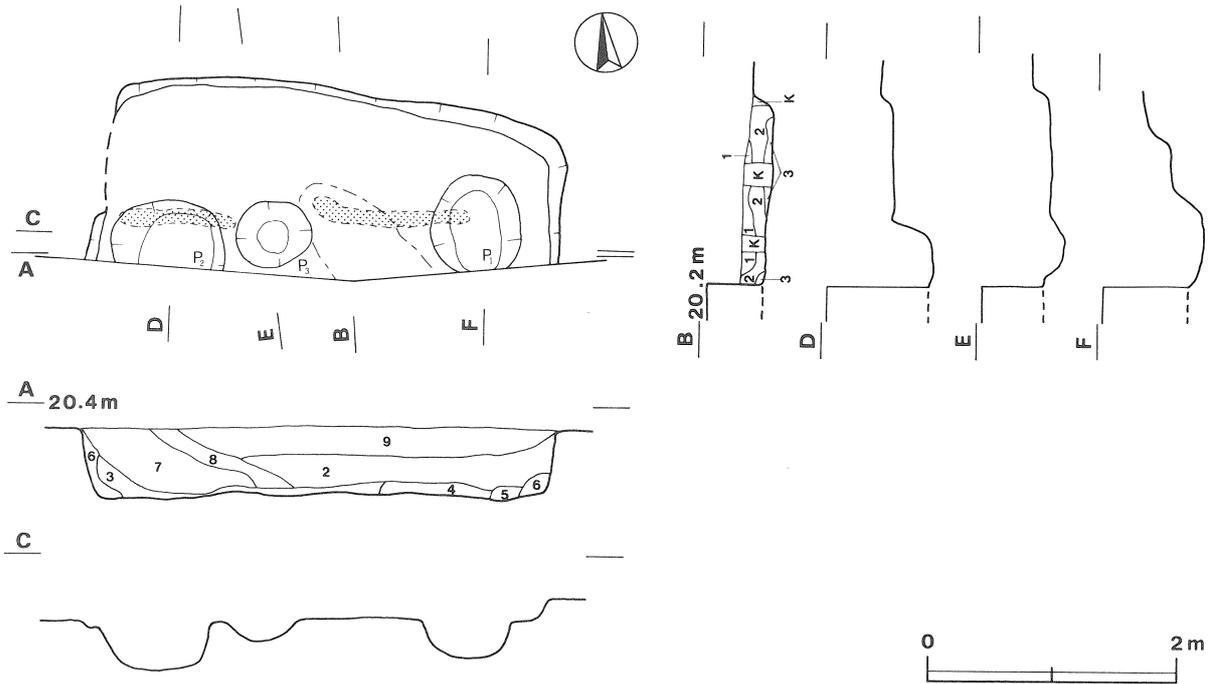
覆土 9層からなり，人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|--------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量，炭化粒子少量 | 6 明褐色 | ローム大ブロック中量 |
| 2 褐色 | 焼土粒子・ローム小ブロック・粘土小ブロック少量 | 7 暗褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量 |
| 3 明褐色 | ローム大ブロック中量 | 8 極暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 褐色 | 焼土中ブロック・炭化物中量，ローム粒子少量 | 9 黒褐色 | 炭化粒子・ローム粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム中ブロック中量 | | |

遺物 土師器片266点、須恵器片15点、陶器片1点、鉄製品1点、炭化物が出土している。

所見 本跡は、焼土が確認されていることから、焼失家屋と考えられる。時期は、出土遺物がいずれも細片のため不明である。



第533図 第511号住居跡実測図

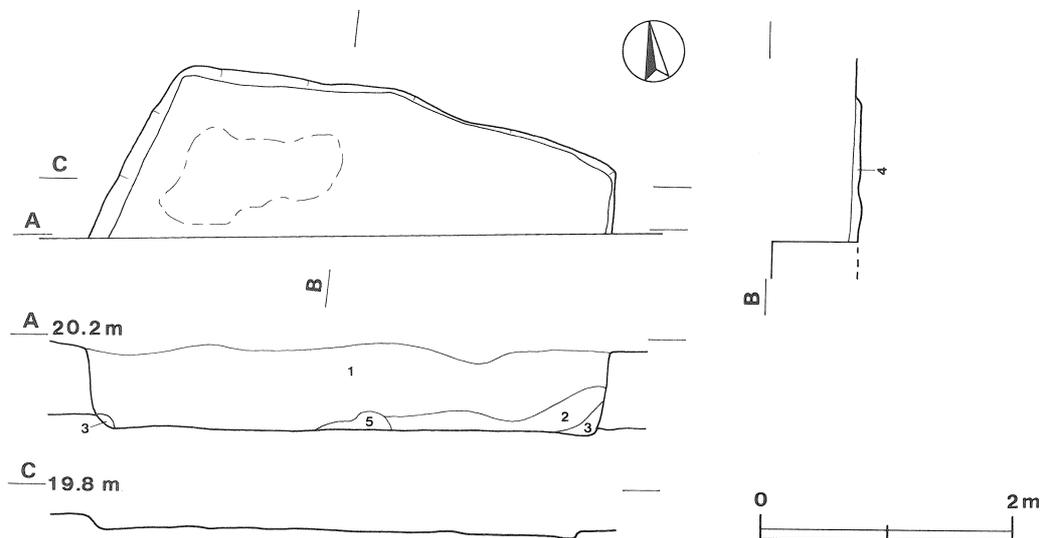
第514号住居跡（第534図）

位置 調査8区中央部，N9e4区。

規模と平面形 南部が調査区域外に延びており，東西3.75m，南北(1.50)mである。平面形は不明である。

壁 壁高は6～11cmで，外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦で，北西側の一部がよく踏み固められている。



第534図 第514号住居跡実測図

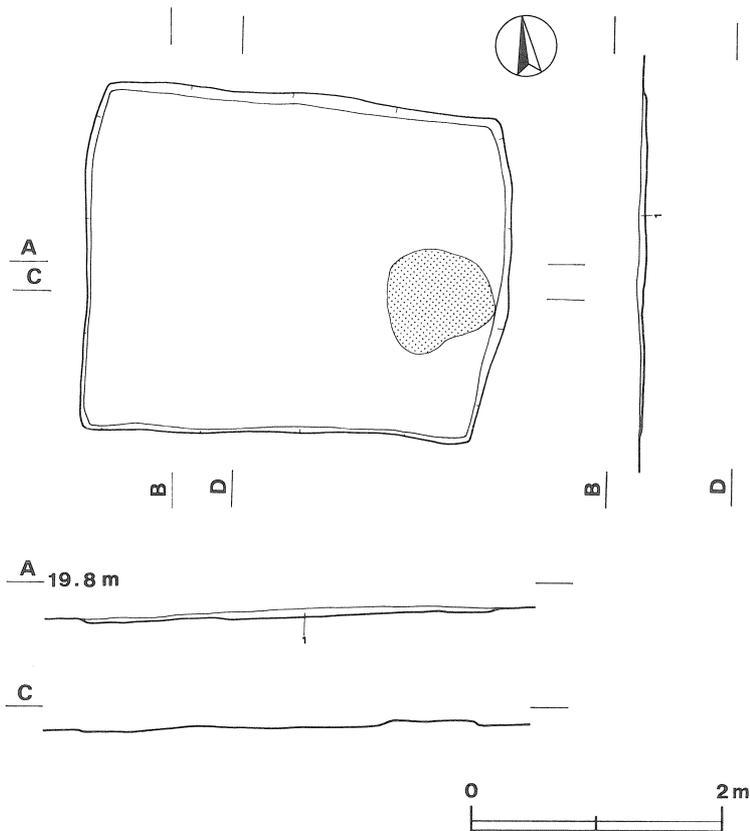
覆土 5層からなり、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒色 炭化粒子・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量、炭化物・ローム中ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量、粘土粒子微量

遺物 遺物は、出土しなかった。

所見 本跡の時期は、遺物がないため不明ある。



第535図 第518号住居跡実測図

第518号住居跡（第535図）

位置 調査8区東部，N9c8区。

重複関係 第4号掘立柱建物跡に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.20m，短軸2.68mの長方形である。

主軸方向 N-100°-E

壁 壁高は2～4cmで，外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦である。

竈 東壁中央部に楕円形状に焼土が確認されており，ここに竈があったと考えられるが，削平により残存していない。

覆土 単一層で，自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量

遺物 遺物は，出土しなかった。

所見 本跡の時期は，出土遺物がないため不明である。

第530号住居跡（第536図）

位置 調査8区東部，N10f4区。

規模と平面形 東部と南部が調査区域外に延びており，南北(3.20)m，東西(1.77)mである。平面形は不明である。

壁 壁高は14cmで，外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦である。

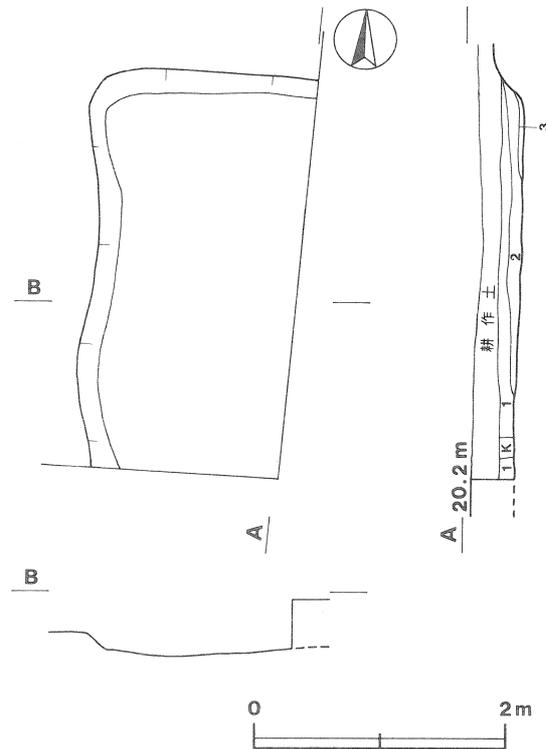
覆土 3層からなり，自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量，炭化物・ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム中ブロック多量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量

遺物 土師器片12点, 須恵器片 3点が出土しているのみである。

所見 本跡の時期は, 出土遺物が少なく不明である。



第536図 第530号住居跡実測図

表8 熊の山遺跡8区住居跡一覧表

住居跡 番号	位置	主軸方向 (長軸方向)	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内 部 施 設					覆土	出 土 遺 物	備 考 新旧関係(古→新)	
							壁溝	主柱穴	出入口 ピット	炉・竈	貯蔵穴				不明 ピット
500	N8a ₂	N-13°-E	[長方形]	4.84 × (1.75)	14~16	平坦	一部	1	-	-	-	3	人為	土師器(坏)須恵器(盤)	SI505→本跡
501	N8b ₂	N-12°-W	方形	3.40 × 3.40	9~14	平坦	一部	-	-	竈	-	-	自然	土師器(甕)須恵器(蓋)支脚, 鎌, カン 又キ	SI505→本跡→SI502, SE5
502	N9c ₂	N-9°-E	長方形	4.18 × 3.13	10~24	平坦	一部	3	-	竈	-	-	人為		SI501, 516→本跡
503	N8a ₅	N-29°-E	[方形]	[4.05]×[3.80]	20	平坦	-	-	-	竈	-	-	自然	土師器(甕)須恵器(坏, 高台付坏, 蓋, 甕, 長頸瓶, 甕)灰釉陶器, 土玉, 磁石, 鎌, 不明鉄製品	SI510, 515→本跡
504	M8j ₃	-	-	(3.05)×(2.35)	18	平坦	一部	1	-	-	-	-	自然	土師器(甕)須恵器(坏)小玉	SI508→本跡
505	N8b ₂	-	-	(2.10)×(1.65)	8	平坦	一部	-	-	-	-	1	人為		本跡→SI500, 501
506	N8a ₄	N-43°-W	方形	5.16 × 4.94	15~25	平坦	一部	4	1	竈	-	-	自然	土師器(坏, 甕)土玉	SI510→本跡
507	N8c ₄	N-0°	方形	2.93 × 2.86	10~22	平坦	一部	-	-	竈	-	-	人為	土師器(坏, 甕)	SI510→本跡
508	M8i ₃	-	-	-	8	平坦	一部	-	-	-	-	2	自然	土師器(坏)	本跡→SI504
509	M8j ₄	-	-	(1.80)×(1.45)	26	平坦	一部	-	-	-	-	-	自然	土師器(坏)	
510	N8a ₅	N-28°-W	方形	8.35 × 8.32	15~52	平坦	一部	6	2	竈	1	3	人為	土師器(坏, 高坏, 甕, 鉢)白玉, 縄先形 土製品, 土玉, 小玉, 石製丸玉, 紡錘車, 刀子, 不明鉄製品	SI515→本跡→SI503, 506, 507, 513
511	N10f ₂	-	-	3.70 × (1.45)	8~17	平坦	-	-	-	-	-	3	人為		
512	N8c ₆	N-10°-W	方形	3.18 × 3.10	6~22	平坦	一部	-	-	竈	-	-	人為	土師器(坏)須恵器(甕)	
513	M8j ₆	N-10°-E	方形	2.78 × 2.55	11~20	平坦	一部	-	1	竈	-	-	自然	土師器(坏, 高台付皿)支脚	SI510→本跡
514	N9e ₄	-	-	3.75 × (1.50)	6~11	平坦	-	-	-	-	-	-	自然		
515	N8b ₅	[N-0°]	[方形]	[3.55]×[3.40]	12	平坦	-	-	1	-	-	2	人為	白玉	本跡→SI503, 510
516	N8c ₂	[N-2°-W]	-	4.05 × (1.05)	1~22	平坦	一部	-	-	-	-	-	人為	土師器(坏)土玉	本跡→SI502
517	N9c ₆	N-11°-E	長方形	4.10 × 3.03	1~22	平坦	一部	-	-	竈	-	-	自然	土師器(坏, 甕)須恵器(高台付坏, 盤)	SD16→本跡

住居跡 番号	位置	主軸方向 (長軸方向)	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内 部 施 設						覆土	出 土 遺 物	備 考 新旧関係(古→新)
							壁溝	主柱穴	出入口 ピット	炉・竈	貯蔵穴	不明 ピット			
518	N9c ₈	N-100°-E	長方形	3.20 × 2.68	2~4	平坦	-	-	-	東竈	-	-	自然		本跡→SB4
519	N8d ₉	N-4°-W	方 形	2.90 × 2.87	36~48	平坦	一部	-	1	竈	-	-	人為	土師器(甕, 甌)須恵器(坏)	
520	N9b ₉	-	-	3.34 × (1.30)	43~49	平坦	一部	-	-	-	-	-	自然	土師器(甕)須恵器(坏)	
521	N9e ₀	N-1°-E	方 形	4.05 × 3.96	42~54	平坦	一部	4	1	竈	-	1	人為	土師器(甕)須恵器(坏, 高台付坏, 蓋, 甕)紡錘車	SI523→本跡→SI522
522	N9d ₀	N-111°-E	長方形	3.53 × 2.90	9~15	平坦	一部	1	-	東竈	1	2	自然	土師器(坏, 高台付坏, 高台付甕, 小皿, 甕)須恵器(蓋)	SI521→本跡
523	N10e ₁	N-0°	[長方形]	3.68 × (3.20)	47~49	平坦	一部	-	-	竈	-	-	人為	土師器(坏, 甕)須恵器(坏, 甕)	本跡→SI521
524	N10d ₃	N-15°-E	[長方形]	[2.84]×[2.43]	16	平坦	-	-	-	竈	-	-	自然	土師器(坏, 高台付甕, 小皿, 甕)	SI525, 526→本跡
525	N10d ₂	N-4°-W	方 形	4.20 × 4.12	35~44	平坦	一部	2	1	竈	-	1	人為	土師器(甕)須恵器(坏, 蓋, 甕)不明鉄製品	SI527→本跡→SI524
526	N10e ₄	N-17°-W	-	5.68 × (2.95)	3~23	平坦	一部	2	-	竈	-	-	自然	土師器(小皿, 甕)	本跡→SI524
527	N10c ₂	N-28°-W	長方形	7.32 × 5.12	40~52	平坦	全周	4	1	竈	-	-	自然	土師器(坏, 甕)土製勾玉, 球状土錘	本跡→SI525
530	N10f ₄	-	-	(3.20)×(1.77)	14	平坦	-	-	-	-	-	-	自然		

(2) 掘立柱建物跡

調査8区の東部から、掘立柱建物跡1棟を検出した。以下、検出した建物跡の特徴や出土遺物について記載する。

第4号掘立柱建物跡 (第537図)

位置 調査8区東部, N9d7区。

重複関係 第518号住居跡を掘り込んでいるので、本跡が新しい。

規模 東西2間, 南北2間の建物跡で、東西3.95m, 南北3.85mである。柱間寸法は桁行1.9~2.0m, 梁行1.8~2.0mである。柱穴の掘り方は、平面形が長径65~135cm, 短径60~105cmの楕円形で、深さ32~70cmである。柱痕は、確認されていない。

桁行方向 N-87°-Eの東西棟である。

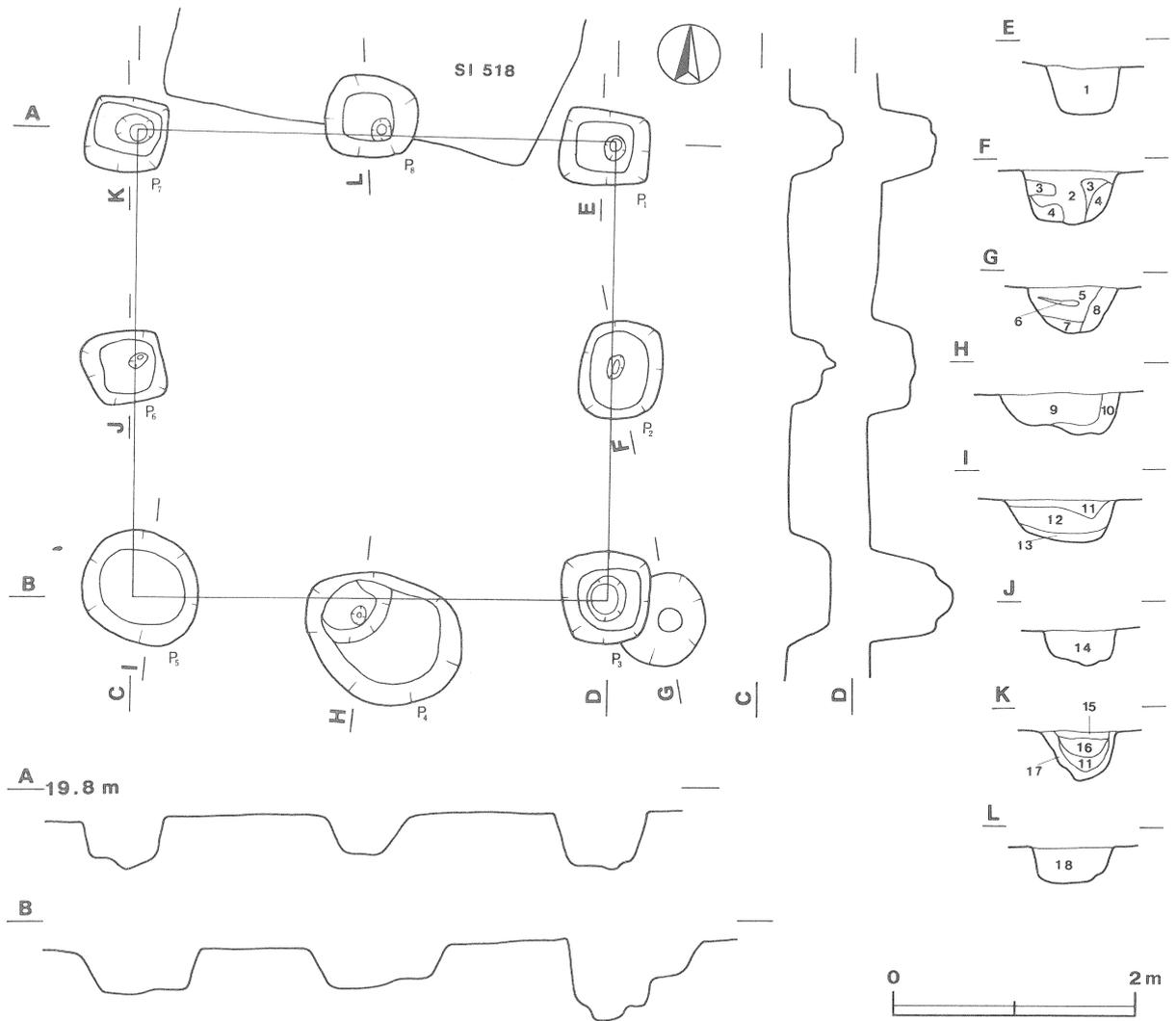
覆土 ブロック状の堆積をしており、人為堆積と考えられる。

掘り方土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム中ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子・粘土粒子微量, 焼土粒子極微量
- 2 黒 褐 色 炭化粒子・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化物微量
- 3 暗 褐 色 ローム中ブロック中量, ローム粒子少量
- 4 褐 色 ローム大ブロック多量, ローム粒子中量
- 5 黒 褐 色 炭化物・ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 6 黒 褐 色 焼土粒子・炭化粒子少量
- 7 黒 褐 色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, 炭化物微量
- 8 暗 褐 色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子・炭化物微量
- 9 黒 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 10 黒 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 11 黒 褐 色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 12 褐 色 ローム中ブロック・ローム粒子中量
- 13 暗 褐 色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 14 黒 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 15 黒 褐 色 焼土粒子少量
- 16 黒 褐 色 焼土粒子中量
- 17 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 18 黒 褐 色 ローム粒子中量, 焼土粒子・ローム小ブロック微量

遺物 P₅, P₆, P₈から極少量の土師器片が出土している。

所見 本跡は、出土遺物が少なくしかも細片である。第518号住居跡を掘り込んでいるが、第518号住居跡が時期不明のため、本跡の時期も不明である。



第537図 第4号掘立柱建物跡実測図

(3) 土坑

調査8区で、土坑9基を検出した。その中でも、遺物が比較的多いものについて記載し、その他は一覧表に掲示した。

第314号土坑（第538図）

位置 調査8区東部，N9e9区。

規模と平面形 長径0.87m，短径0.74mの楕円形である。

長径方向 N-0°

壁 深さは22cmで，外傾して立ち上がる。

床 平坦である。

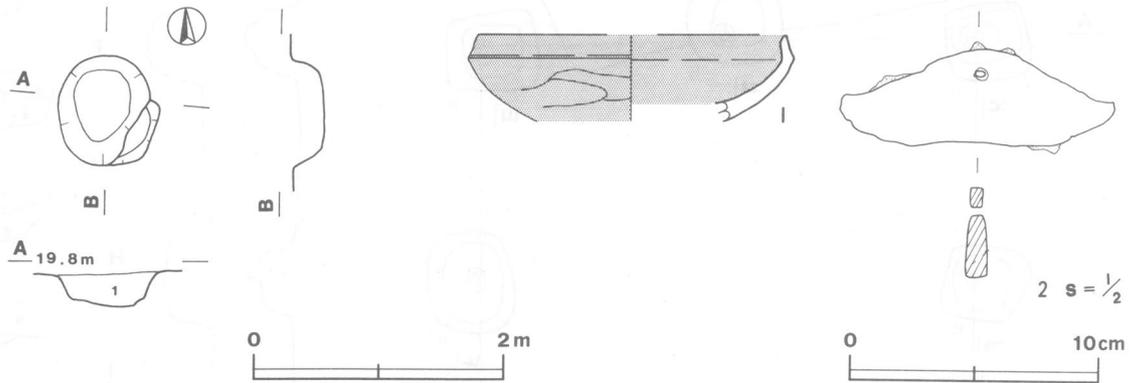
覆土 単一層で，人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化物微量

遺物 土師器片20点，須恵器片2点，鉄製品1点が出土している。1の土師器坏，2の火打ち金が覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡は、遺物が流れ込みと考えられ、時期は不明である。



第538図 第314号土坑・出土遺物実測図

第314号土坑出土遺物観察表

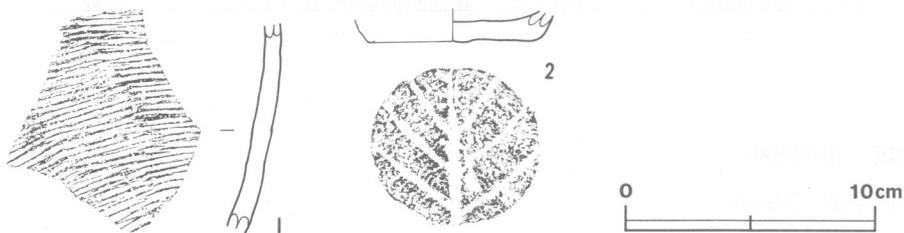
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第538図 1	坏 土師器	A[12.2] B(3.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、体部と口縁部の境に稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・スコリア 黒色 普通	P2252 15% 覆土中

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
2	火打ち金	(7.3)	2.6	0.6	0.6	(28)	覆土中	M2012

第300号土坑出土遺物観察表（第539図）

1は須恵器甕の体部片で、外面に横位の平行叩きが施されている。

2は土師器甕の底部片で、外面に木葉痕が残る。



第539図 第300号土坑出土遺物実測図

第300号土坑土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土大・小ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子少量
- 3 極暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量, ローム粒子微量

第302号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化物・ローム粒子少量, 焼土粒子・ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 炭化物・ローム粒子微量, ローム中ブロック極微量

第304号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化物中量, ローム粒子少量, ローム大ブロック極微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量

第306号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化物・ローム粒子少量, ローム小ブロック微量

第313号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化物・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

第315号土坑土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム大ブロック・ローム粒子少量, 炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化物・ローム中ブロック微量

第316号土坑土層解説

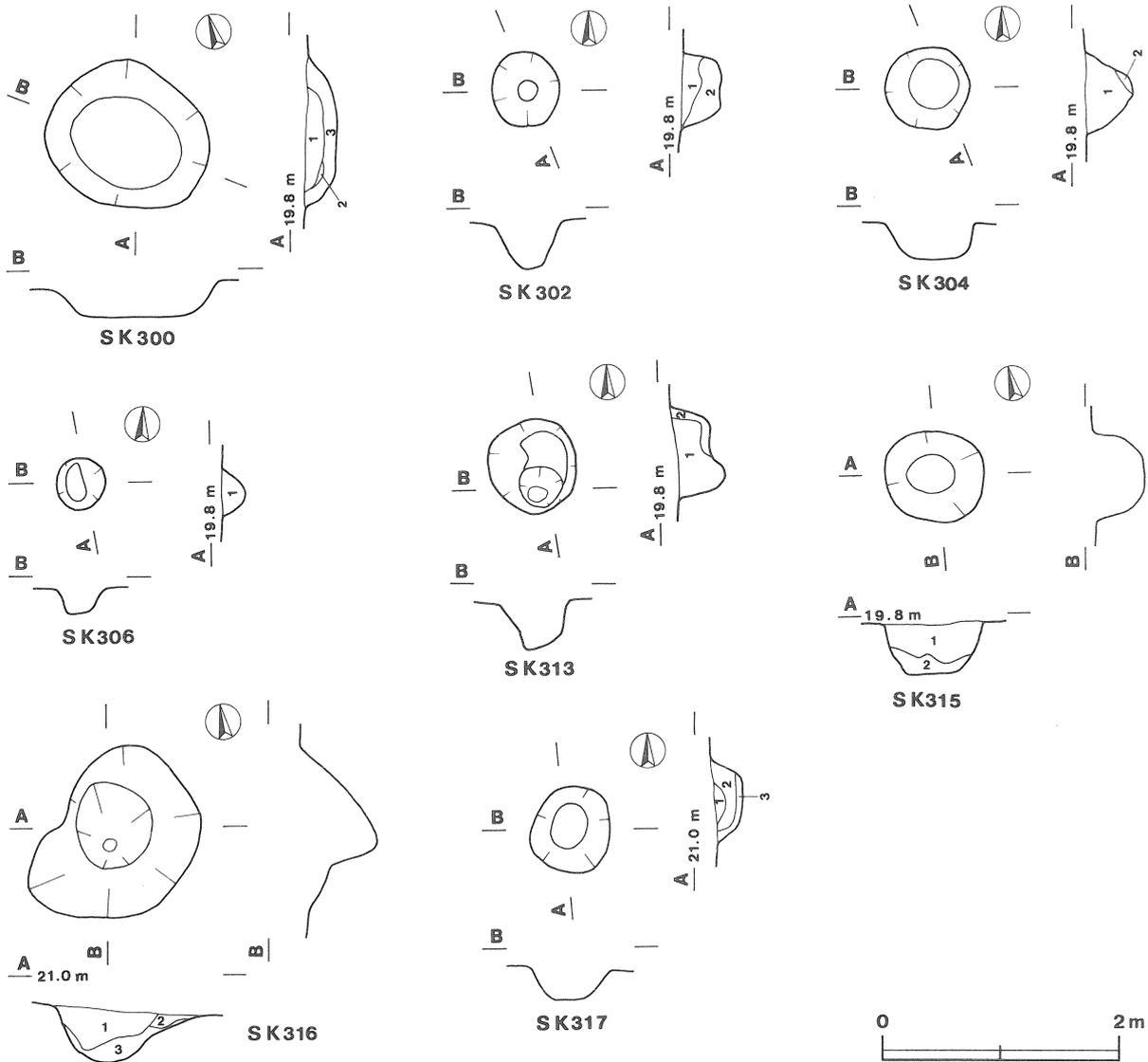
- 1 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化物微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック中量

第317号土坑土層解説

- 1 黒色 炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

表9 熊の山遺跡8区土坑一覧表

土坑番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な遺物	備考
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
300	N9b8	N-37°-W	楕円形	1.37 × 1.20	28	外傾	平坦	人為	土師器10	
302	N9e8		円形	0.62 × 0.56	40	外傾	傾斜	自然		
304	N9e8		円形	0.74 × 0.70	35	外傾	平坦	自然		
306	N9e8		円形	0.42 × 0.41	24	外傾	傾斜	自然		
313	N9c8		円形	0.80 × 0.75	42	外傾	傾斜	自然		
314	N9e9	N-0°	楕円形	0.87 × 0.74	22	外傾	平坦	人為	土師器(坏), 火打ち金	
315	N9e9		円形	0.84 × 0.76	45	外傾	平坦	自然	土師器14 須恵器1	
316	N8o7	N-45°-E	不整楕円形	1.52 × 1.08	50	外傾	傾斜	自然	土師器3	
317	N8b7		円形	0.72 × 0.66	30	外傾	平坦	自然		



第540図 8区土坑実測図

(4) 井戸

調査8区において、井戸3基を検出した。以下、その特徴と出土遺物について記載する。

第4号井戸（第541図）

位置 調査8区中央部，N9d₂区。

規模と形状 掘り方は、平面形が一辺3.50mほどの円形をしており、確認面から65cmの深さまでは緩傾斜を持ち、そこから下95cmは円筒形をしている。深さは、1.6mである。

覆土 8層からなり、自然堆積と考えられる。

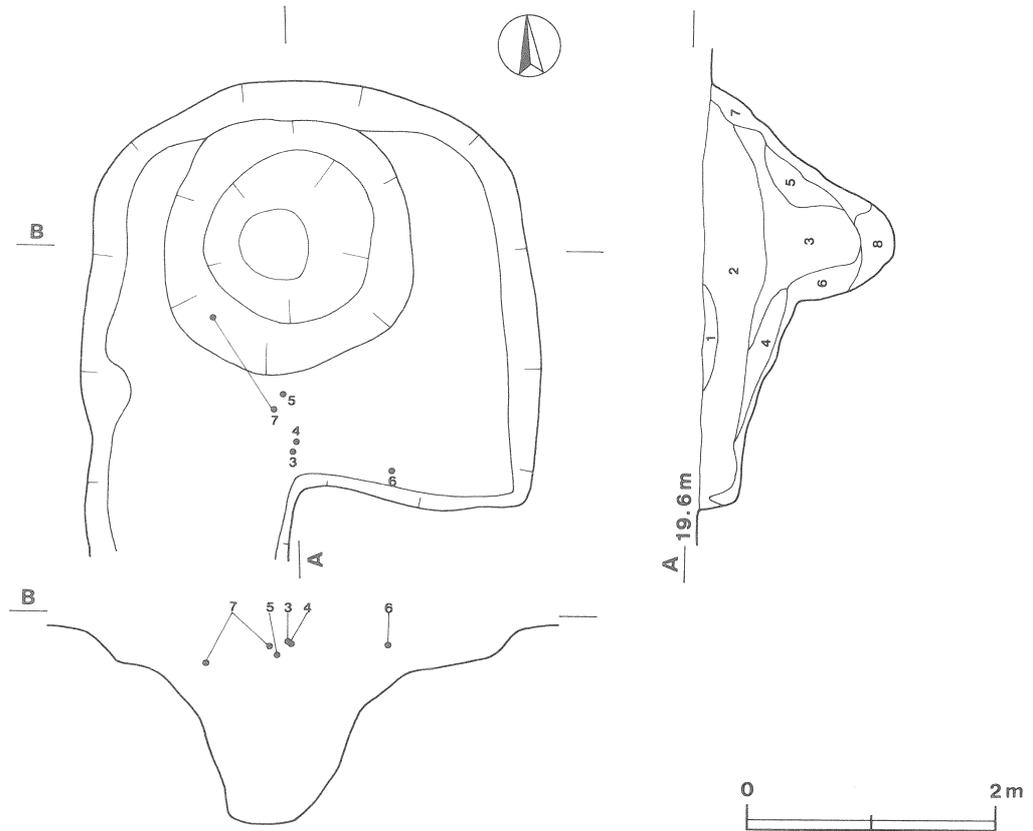
土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子極微量
- 2 黒褐色 炭化物・炭化粒子・粘土粒子少量，焼土粒子極微量
- 3 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 粘土粒子少量，炭化粒子微量，焼土粒子極微量
- 5 黒褐色 ローム粒子中量，炭化粒子微量
- 6 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子極微量

- 7 黒褐色 ローム粒子・粘土小ブロック中量
- 8 暗褐色 粘土粒子多量, ローム粒子中量, 炭化粒子少量

遺物 土師器片773点, 須恵器片120点, 鉄滓1点が出土している。3の土師器小形甕, 6の須恵器甕が南側覆土上層から, 4の須恵器坏が3の北側の覆土上層から, 5の須恵器坏が中央やや南寄りの覆土上層から出土している。7の須恵器甕は, 中央寄り, 南側寄りの覆土上層から出土した破片と接合している。1の土師器坏, 2の小形甕, 8の須恵器長頸瓶(壺G), 9の須恵器短頸壺がそれぞれ覆土中から出土している。

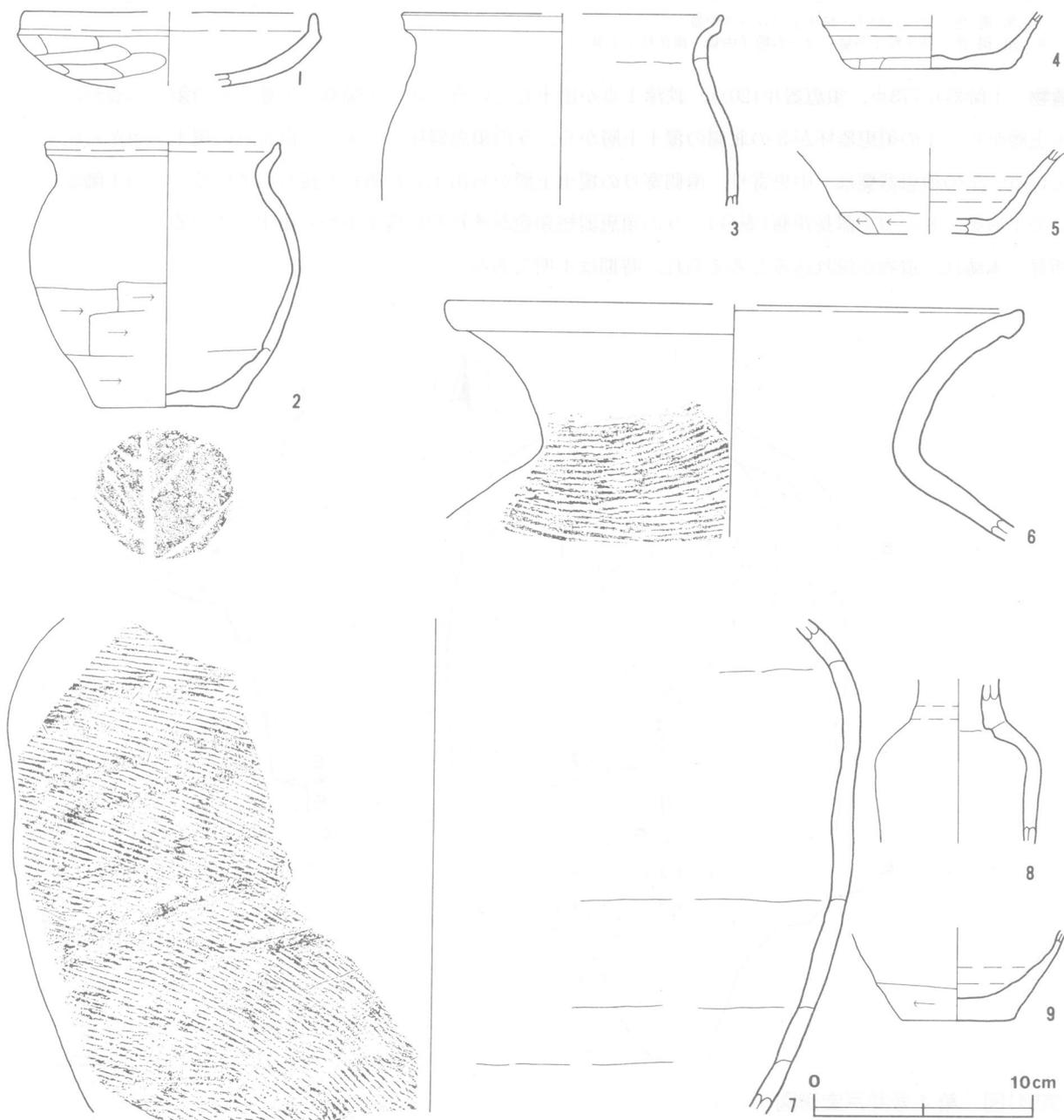
所見 本跡は, 遺物が流れ込みと考えられ, 時期は不明である。



第541図 第4号井戸実測図

第4号井戸出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第542図 1	坏 土師器	A[13.2] B(3.4)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり, 体部と口縁部の境に稜をもつ。口縁部はやや内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面磨減。	砂粒・雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P2242 20% 覆土中
2	小形甕 土師器	A 10.6 B 12.3 C 6.4	平底。体部は内彎して立ち上がり, 最大径を中位にもつ。口縁部は短く外反し, 端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面中位から下位にかけてへラ削り。内面へラナデ。内面に輪積み痕。底部木葉痕。	砂粒・雲母・スコリア・石英 橙色 普通	P2243 70% 覆土中
3	小形甕 土師器	A[14.6] B(8.9)	体部中位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は外反し, 端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面へラナデ。内面に輪積み痕。	砂粒・雲母・スコリア・石英 にぶい橙色 普通	P2244 25% 南側覆土上層



第542図 第4号井戸出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第542図 4	坏 須恵器	B(2.7) C 7.0	底部から体部にかけての破片。平底。 体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端・ 底部手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 灰白色 普通	P2245 30% 3の北側覆土上層
5	坏 須恵器	B(4.0) C[6.0]	底部から体部にかけての破片。平底。 体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端・ 底部手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 灰黄色 普通	P2246 20% 南寄り覆土上層
6	甕 須恵器	A[26.2] B(10.2)	体部上位から口縁部にかけての破片。 口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横 位の平行叩き。	砂粒・雲母・石英 灰色 普通	P2247 15% 南側覆土上層
7	甕 須恵器	B(22.7)	体部片。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面平行叩き後、部分的に横位 のナデ。内面ナデ。内面に輪積み痕。	砂粒・雲母 暗灰色 普通	P2248 10% 中央寄り・ 南側寄り覆土上層

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第542図 8	長頸瓶 須恵器	B(7.6)	体部片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部外面に自然釉付着。内面に輪積み痕。	砂粒・雲母 黄灰色 普通	P2249 20% 覆土中 壺G
9	短頸壺 須恵器	B(4.3) C 5.0	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端・底部手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母・スコリア 黄灰色 普通	P2250 50% 覆土中

第5号井戸（第543図）

位置 調査8区西部，N8b3区。

重複関係 第501号住居跡を掘り込んでいるので，本跡が新しい。

規模と形状 掘り方は，平面形が一辺87cmほどの円形をしており，確認面から20cm下は，径80cmほどの円筒形をしている。深さは，1.5mである。

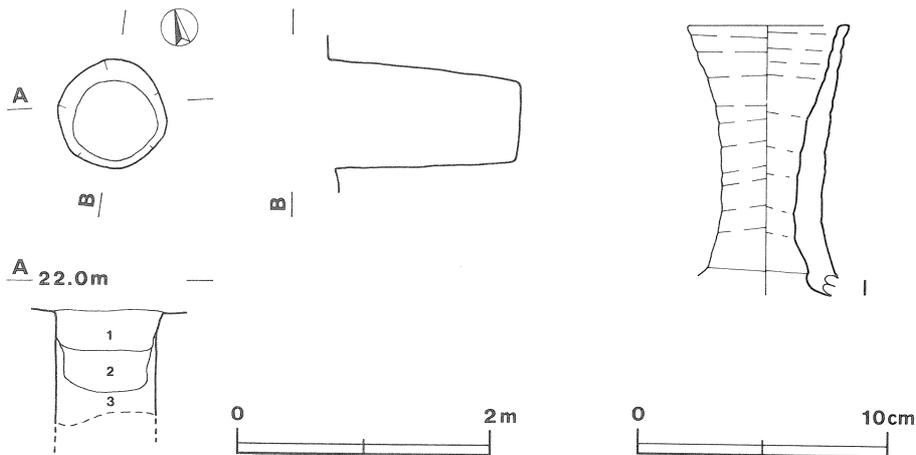
覆土 3層からなり，人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 砂多量，粘土粒子少量，ローム粒子微量，焼土粒子極微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子・砂少量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量

遺物 土師器片16点，須恵器片1点，礫4点が出土している。1の須恵器長頸瓶（壺G）が覆土中から出土している。

所見 本跡は，遺物が細片で流れ込みと考えられ時期判断は難しいが，第502号住居跡を掘り込んでいることから，時期は奈良時代以降と考えられる。



第543図 第5号井戸・出土遺物実測図

第5号井戸出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第543図 1	長頸瓶 須恵器	A 6.5 B(10.9)	頸部から口縁部にかけての破片。頸部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から頸部にかけて内・外面ロクロナデ。頸部内・外面に自然釉付着。	砂粒 灰白色 普通	P2251 30% 覆土中 壺G

第6号井戸（第544図）

位置 調査8区東部，N9d7区。

重複関係 第4号掘立柱建物跡と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状 掘り方は，平面形が長径1.25m，短径1.1mの楕円形をしており，確認面から50cmの深さまでは急傾斜を持ち，そこから下3.1mは径60cmほどの円筒形をしている。深さは，（3.6）mである。

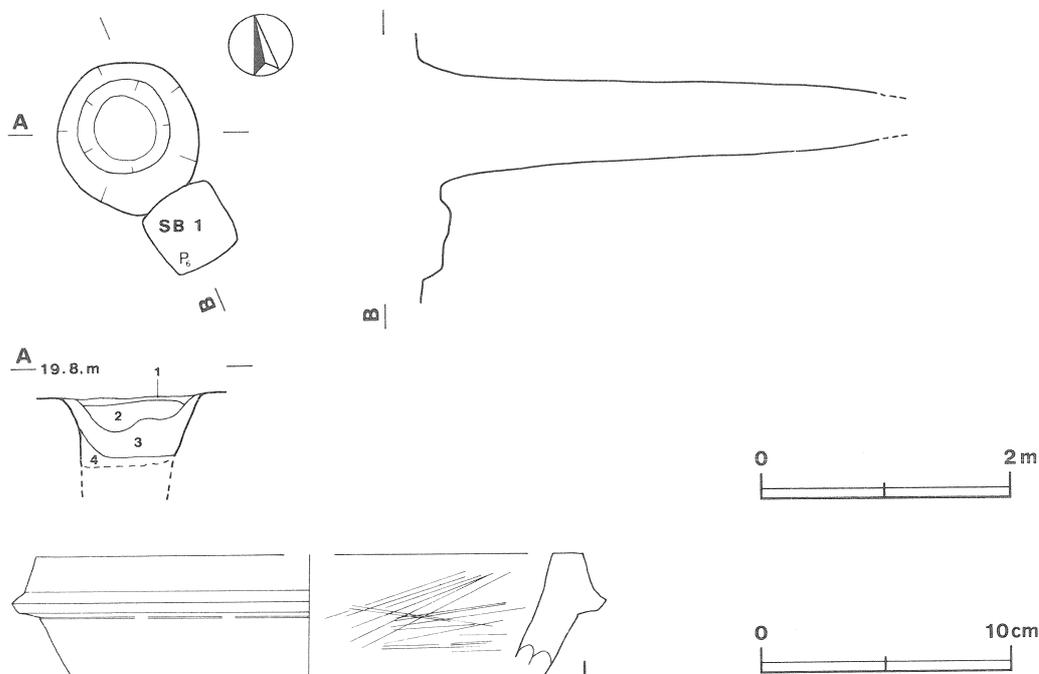
覆土 4層からなり，人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|---------------------|------------------------|
| 1 極暗褐色 炭化粒子・ローム粒子微量 | 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 ローム小ブロック少量 | 4 暗褐色 ローム中ブロック少量 |

遺物 土師器片8点，須恵器片3点，陶器片3点，石製品1点が出土している。1の石鍋が覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は，遺物が少なく細片のため不明である。



第544図 第6号井戸・出土遺物実測図

第6号井戸出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調	備考
第544図 1	石鍋 石製品	A[22.0] B(5.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，体部と口縁部の境に鏝を有し，口縁部はやや内傾する。	内・外面とも鉄製工具による削りだし。	滑石にぶい黄橙色	Q2009 5% 覆土中

表10 熊の山遺跡 8区井戸一覧表

井戸 番号	位 置	平 面 形	規 模		壁面	底面	覆土	主 な 遺 物	備 考
			長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
4	N9d2	円 形	3.50×3.50	160	緩傾	平坦	自然	土師器(坏, 甕) 須恵器(坏, 甕, 長頸瓶)	時期不明
5	N8b3	円 形	0.87×0.87	150	急傾	平坦	人為	須恵器(長頸瓶)	奈良時代以降
6	N9d7	楕 円 形	1.25×1.10	360	急傾	平坦	人為	石製品(石鍋)	時期不明

(5) 溝

調査8区において、東部から溝1条を検出した。以下、その特徴と出土遺物について記載する。

第16号溝 (第545図)

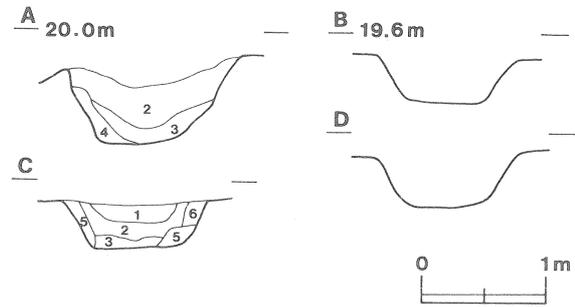
位置 調査8区東部, N9e6区～N9b6区。

重複関係 上部に第517号住居跡が構築されているので、本跡が古い。

規模と形状 北側と南側が調査区域外のため、確認された長さは(16.3)m, 上幅1.07～1.35m, 下幅0.55～0.75m, 深さ40～45cmで、断面形はU字形である。

方向 N9e6区から北北東(N-6°-E)の方向に、ほぼ直線的に延びている。

覆土 6層からなり、自然堆積である。



第545図 第16号溝断面図

土層解説

- 1 黒褐色 焼土小ブロック・ローム中ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 褐色 ローム小ブロック少量, 砂微量
- 4 褐色 ローム中ブロック多量
- 5 にぶい褐色 ローム小ブロック多量
- 6 褐色 ローム粒子中量

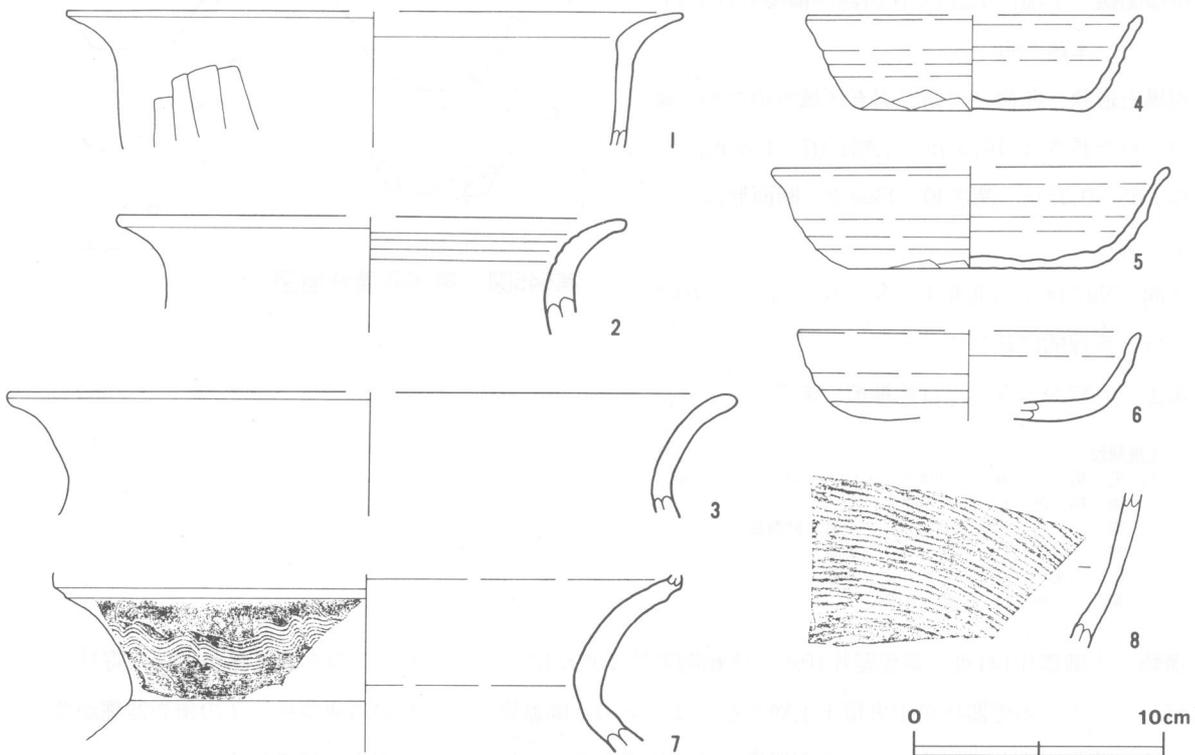
遺物 土師器片141点, 須恵器片10点, 灰釉陶器片1点が出土している。1の土師器甕が中央南寄りの覆土上層から, 4の須恵器坏が中央覆土上層から, 2, 3の土師器甕, 5, 6の須恵器坏, 7の須恵器甕が覆土中からそれぞれ出土している。8は須恵器甕の体部片で、外面に横位の平行叩きが施されている。

所見 本跡は、上部に平安時代の第517号住居跡が構築されていることから、時期は9世紀中葉以前と考えられる。

第16号溝出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第546図 1	甕 土 師 器	A [24.6] B (5.5)	体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。	砂粒・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P2235 10% 中央南 寄り覆土上層
2	甕 土 師 器	A [20.2] B (4.7)	口縁部片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部内面は工具を使用した横ナデと思われ、4条の沈線のような工具痕を残す。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P2236 5% 覆土中

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第546図 3	甕 土師器	A[28.8] B(5.0)	口縁部片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・石英 にぶい橙色 普通	P 2237 5% 覆土中
4	坏 須恵器	A[12.7] B 3.9 C 9.0	平底。体部は外傾して立ち上がり、 口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて内・外面ロ クロナデ。体部下端・底部手持ちへ ラ削り。	砂粒・雲母・スコリ ア・石英 黄灰色 普通	P 2238 60% 中央覆土上層
5	坏 須恵器	A[15.8] B 4.1 C[9.6]	底部から口縁部にかけての破片。平 底。体部は内彎して立ち上がり、口 縁部は短く外反する。	口縁部から体部にかけて内・外面ロ クロナデ。体部下端・底部手持ちへ ラ削り。	砂粒・雲母・石英 黄灰色 普通	P 2239 40% 覆土中
6	坏 須恵器	A[13.6] B 3.6 C[9.8]	底部から口縁部にかけての破片。平 底。体部は内彎気味に立ち上がり、 口縁部に至る。	口縁部から体部にかけて内・外面ロ クロナデ。体部下端回転へラ削り。 底部手持ちへラ削り。	砂粒・雲母・石英 黄灰色 普通	P 2240 20% 覆土中
7	甕 須恵器	B(7.2)	口縁部片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面ナデ。外面に7条1 組の櫛歯状波状文。	砂粒・雲母・石英 暗灰色 普通	P 2241 5% 覆土中

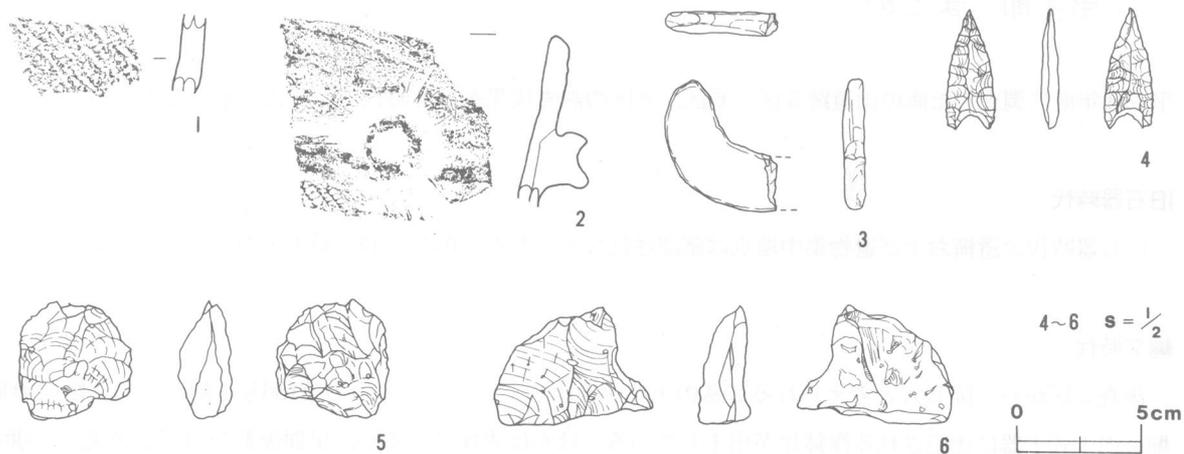


第546図 第16号溝出土遺物実測図

(6) 遺構外遺物 (第547図)

調査8区の遺構外遺物は、試掘、表土除去、遺構確認の調査で出土した遺物である。その中から、特色あるものを抽出し、拓影図、実測図、及び一覧表で掲載した。

第547図1は縄文土器深鉢の胴部片で、縄文が施されている。縄文時代中期前葉の阿玉台ⅢからⅣ式土器である。2は縄文土器深鉢の口縁部片で、口縁部直下に隆帯を巡らし、円筒形状の突起が施されている。縄文時代後期中葉の堀ノ内Ⅰ式土器である。



第547図 8区遺構外出土遺物実測図

8区遺構外出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第547図3	鋤先形土製品	5.3	(4.5)	(1.0)	(18)	表面採集		D P 2035 50%
4	石 鏃	3.2	1.3	0.5	1.64	表面採集	チャート	Q2010 100%
5	剥片	3.2	2.9	1.5	13	表面採集	黒曜石	Q2011
6	剥片	3.1	6.1	1.4	11	表面採集	黒曜石	Q2012

第4節 まとめ

平成8年度に調査した熊の山遺跡5区、6区、8区の調査成果を、各時代ごとにまとめておきたい。

旧石器時代

旧石器時代の遺構および遺物集中地点は確認されなかったが、削器、剥片が表土中から出土している。

縄文時代

調査5区から、陥し穴と考えられる2基の土坑を検出している。その中の第186号土坑からは、後期中葉の堀ノ内Ⅰ式土器に比定される深鉢片が出土している。ほかは表採であるが、早期後葉の田戸上層式、前期中葉の浮島Ⅱ式、中期前葉の阿玉台Ⅲ、Ⅳ式、後期中葉の堀ノ内Ⅰ式に比定される土器片が出土している。石器では、打製石斧、石鏃、石匙などが出土していることから、縄文時代の住居跡は確認できなかったが、当時の人々が生活の場として利用していたことが考えられる。

古墳時代

4期に分けることができる。

第1期（4世紀）

調査5区から1軒、調査6区から16軒の竪穴住居跡を検出した。第133、142、152、168、173、176、194、206、212、267、279、286、288、292、323、328、372号住居跡が該当する。とくに6区の中央付近から北側で検出されている。住居跡の平面形は、方形または隅丸方形を呈しており、規模は⁽¹⁾一辺が6m前後の大形の住居跡と、一辺が4m前後の小形の住居跡から構成されている。炉は支柱穴を結んだ方形のやや内側に位置している。貯蔵穴は南東コーナーに位置していることが多く、間仕切り溝を持つ住居跡も2軒検出した。出土遺物は土師器甕、器台、埴などである。

第2期（5世紀）

第131、167、179、211、290、316号住居跡の6軒が該当する。すべて調査6区から検出されている。住居跡の規模は、一辺が6mほどの方形を呈している。炉の位置は、1期よりも北壁際に移動している。出土遺物は、土師器碗、高坏、甕、小形壺、埴などである。第131号住居跡からは碧玉製の勾玉が出土している。また第211号住居跡から出土した小形壺中には、土器の赤彩に使用したと考えられる赤色顔料（ベンガラ）が多量に残っていた。

第3期（6世紀）

調査5区から6軒、調査6区から16軒の竪穴住居跡を検出した。第132、137、141、143、159、162、198、204、213、215、255、259、281、305、318、336、341、342、347、352、362、370号住居跡が該当する。これまでは平坦部に立地していたが、調査5区の南斜面からも検出されるようになる。住居跡の規模は、一辺が8mほどの大形住居跡と、一辺が5mほどの中形住居跡で構成されており、平面形は方形または長方形を呈している。主軸方向はN—0°～40°—Wの範囲であるが、その中でも多いのはN—15°～40°—Wを指す住居跡である。また、東竈（第132、143、318号住居跡）の住居跡も3軒検出されている。出土遺物は土師器坏、碗、高

坏, 甕, 甌, 小形甕が主で, 須恵器坏, 甌, 平瓶などである。高坏, 坏は黒色処理を施しているものが多い。第281号住居跡からは, 貯蔵穴付近と南西壁際の床面直上から完形の土師器坏, 高坏, 小形甕, 甌が26点出土している。

第4期(7世紀)

調査5区から9軒, 調査6区から22軒, 調査8区から6軒の竪穴住居跡を検出している。第138, 165, 174, 175, 197, 228, 231, 235, 243, 250, 253, 260, 274, 289, 295, 309, 325, 327, 330~332, 334, 348, 349, 354, 355, 358, 363, 368, 371, 376, 506, 508~510, 516, 527号住居跡が該当する。調査区全域の広い範囲から検出されており, この傾向は前年度の調査²⁾においても同様であった。住居跡の規模は, 一辺が5mほどの中形住居跡と, 一辺が3.5mほどの小形住居跡で構成され, 平面形は方形または長方形を呈している。主軸方向はN-0°~94°-Wの範囲であるが, その中でも多いのはN-0°~20°-Wを指す住居跡である。出土遺物は土師器坏, 鉢, 甕, 甌, 須恵器坏, 甌, 平瓶なども少量出土している。第510号住居跡からは, 県内では2例目となる, 鋤先形土製品が出土している。

奈良・平安時代

本遺跡の中心となる時期で, 3期に分けることができる。

第1期(8世紀)

調査5区で6軒, 調査6区で35軒, 調査8区で8軒の竪穴住居跡を検出している。当時期は, 調査区全域から検出される傾向がみられる。住居跡の規模は, 一辺が4m前後の小形住居跡で, 方形または長方形を呈している。主軸方向はN-19°-W~N-20°-Eの範囲であるが, その中でも多いのがN-0°~20°-Eを指す住居跡で, 25軒みられる。出土遺物は土師器坏, 甕, 須恵器坏, 高台付坏, 盤, 蓋, 甕などである。当時期の須恵器は, 当遺跡から北西15kmほどにある新治窯跡群の製品が大部分を占めている。須恵器坏は底径が大きく, 器高が低い様相を呈し, 底部は回転ヘラ切り後, ヘラ削り調整を行っている。第216号住居跡からは, 須恵器坏, 高台付坏が3点重なり合って出土している。また, 蓋も出土している。坏は底部が丸底気味で, 高台付坏は高台が低い。蓋は短いかえりがつくものと, 折り返しがつくものが出土している。様相から8世紀前葉と考えられる。

第2期(9世紀)

調査5区から4軒, 調査6区から26軒, 調査8区から4軒の竪穴住居跡を検出している。住居跡の規模は, 一辺が5m前後の中形住居跡と, 一辺が3.5m前後の小形住居跡から構成され, 平面形は方形または長方形である。主軸方向はN-20°-W~N-29°-Eの範囲であるが, その中でも多いのがN-5°-W~N-10°-Eを指す住居跡で, 23軒みられる。出土遺物は土師器坏, 高台付坏, 甕, 須恵器坏, こね鉢, 甕, 甌, 高盤, 灰釉陶器が出土している。また鉄鏃, 鉄鎌, 刀子などの出土も多く見られる。須恵器坏は, 1期より底径が小さくなり, 器高が高くなる様相を呈する。後半になると, ロクロ成形の土師器が多くみられるようになる。坏は内面をヘラ磨きをした後, 黒色処理を施しているものが多い。高台付坏は, 高台が高く, 高台径も大きい様相を呈する。また第249, 299号住居跡からは, 猿投窯黒笹90号窯式と考えられる灰釉陶器長頸瓶が出土している。

第3期（10世紀以降）

調査5区から2軒，調査6区から72軒，調査8区から3軒の竪穴住居跡を検出している。前年度の調査においても，調査6区周辺に集中する傾向が見られる。また住居跡の形態にも変化がみられ，平面形は一辺が4m前後の長方形が多く，住居の掘り込みも浅く柱穴は明瞭でない。主軸方向もN-70°~110°-Eを指す竪穴住居跡が46軒と，東に竈を持つ住居跡が多くなる。出土遺物は須恵器がほとんどみられなくなり，土師器坏，碗，高台付坏，高台付碗，足高高台坏，甕，甑，小皿などが出土している。また，雁股等の鉄鏝も多く出土しているのが特長である。10世紀前葉では，高台付碗は2期より高台が低く，高台径も小さくなり，体部の腰が張る様相を呈する。また，内面はヘラ磨きをおこない，黒色処理を施しているものが多い。甕は外面を縦方向のヘラ削りや，ロクロナデによる調整が見られる。中葉になると，前葉よりさらに高台高が低くなり，高台径も小さくなる。また，黒色処理を施さないものが増えてくる。坏の底部は回転系切り無調整が多くなり，小皿の出土も増える。後葉以降は，土師器碗，小皿が土器組成の中心をなす様相を呈する。

近 世

調査5区西部の，第200号土坑から元豊通寶（1695）が出土しており，墓壇の可能性が考えられる。

註・参考文献

- （1） 竪穴住居跡の規模は，30㎡以上を大形，30㎡未満20㎡以上を中形，20㎡未満を小形とした。
- （2） 茨城県教育財団「（仮称）島名・福田坪地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ 熊の山遺跡」
『茨城県教育財団文化財調査報告120集』1997年3月

付 章

熊の山遺跡出土赤色物質の成分分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

古墳時代中期の住居跡から検出された小形の壺形土器に赤色物質が認められた。今回は検出された赤色物質の素材を明らかにするために、X線回析（粉末法）分析を実施する。

1 試 料

試料は、調査6区第211号住居跡出土の細粒赤色物質である。

2 分析方法

あらかじめ105°Cで2時間乾燥させた細粒赤色物質を粉碎器を用いて微粉碎した。この微粉碎試料をX線回析用アルミニウムホルダーに充填し、以下の条件でX線回析を行った。（足立，1980：日本粘土学会，1987）

検出された物質の同定解析は、測定回析線の主要ピークと回析角度から原子面間隔および相対強度を計算し、それに該当する化合物または鉱物をX線粉末回析線総合解析プログラム（五十嵐，未公表）により検索した。

3 結果および考察

結果を図1に示す。

今回分析した細粒赤色物は約15°（2θ）からベースが高くなっており酸化鉄を含む事が明らかである。ピークとして検出された鉱物は、赤鉄鉱、石英の2種類である。この内、赤色を呈する鉱物は赤鉄鉱であり、赤色物質の素材はベンガラと判断される。

なお、赤鉄鉱の他に石英が検出されたが、石英は岩石や土壤にごく一般的に認められる鉱物であることから、赤色物質採取時に混在した土壌由来の鉱物と推定される。

（引用文献）

足立吟也(1980)「6章粉末X線回析法 機器解析のてびき3」. p64—76 化学同人.

日本粘土学会編(1987)「粘土ハンドブック 第二版」. 1289p, 技報堂出版.

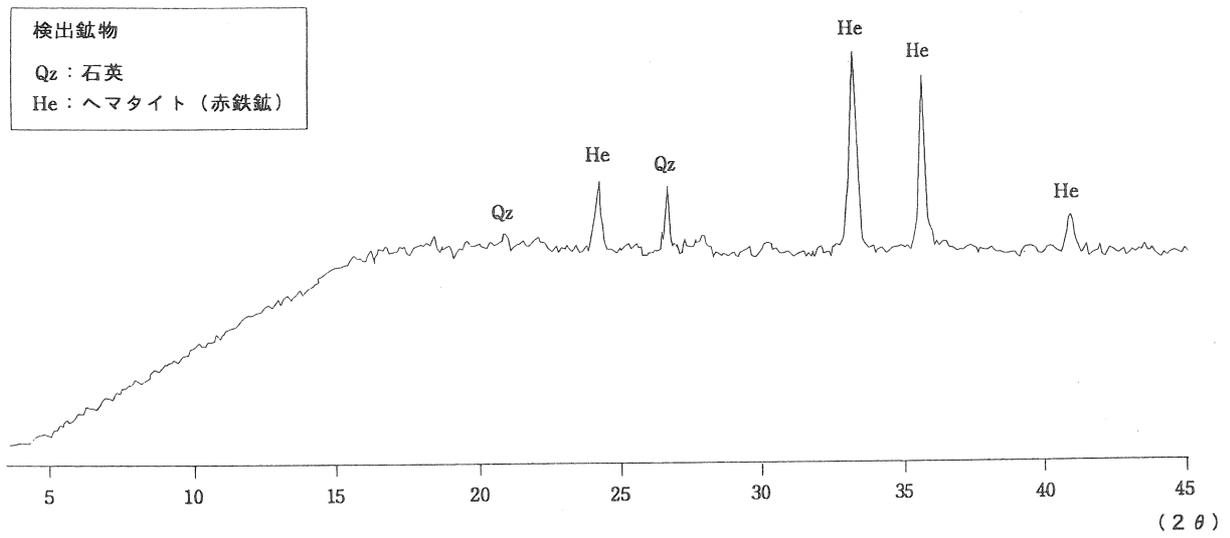


図1 調査6区第211号住居跡出土細粒赤色物X線回折図

熊の山遺跡竈灰層の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

熊の山遺跡は東谷田川右岸台地上に立地する。今回の発掘調査により古墳時代前期・中期・後期と奈良・平安時代の集落跡が検出された。今回、古墳時代後期と平安時代の住居跡のカマドの灰層について水洗選別が行われ、当時の食物残渣と考えられる貝や骨片が豊富に検出された。また、灰層には当時の燃料材として利用されたイネ科植物の痕跡が残留しているものと期待された。

そこで、今回の自然科学分析調査では、抽出された貝や骨片の種類を明らかにするために骨・貝同定を行うとともに、当社でさらに灰層について水洗選別を行い種子や骨片など微細な動植物遺体の抽出を試みる。また、灰層を対象として植物珪酸体分析を行い、イネ科植物の燃料材に関する試料を得る。

1 試料

調査対象は、古墳時代後期の第198号住居跡と平安時代の第308号住居跡のカマド計2基である。198号住居跡および308号住居跡のカマド灰層の水洗選別により、貝片や骨片などが回収された。(試料名：SI—198No18貝・SI—198No19骨・SI—308カマド内)。また、198号住居跡のカマドでは灰層とされる動植物遺体などを抽出するための水洗選別試料に分割した。

2 分析方法

(1) 植物珪酸体分析

近藤・佐瀬(1986)の方法を参考にし、とくに組織片の産状に注目した。植物体の葉や茎に存在する植物珪酸体は、列などの組織構造を呈している。植物体が土壌中に取り込まれた後は、ほとんどが土壌化や攪乱などの影響によって分離し単体となるが、植物が燃えた後の灰には組織構造が植物珪酸体列などの形で残されている場合が多い(例えば、パリノ・サーヴェイ株式会社, 1993)。そのため、組織片の産状により、当時の燃料材の種類が明らかになると考えられる。

(2) 種実遺体・貝・骨片の洗い出し

198号住居跡カマドからは、貝片や骨片などの物理・化学的に壊れやすいものが含まれている可能性があった。一方、炭化種子などはこれに比べてやや強い。今回は強度の異なるものの選別を同時に行う必要があるので、種実同定で用いている通常の方法をやや変更した。

(3) 骨・貝同定

ルーペあるいは実体顕微鏡を用いて貝・骨の形態的特徴を観察し、種類・部位の同定を行う。なお、同定は早稲田大学金子浩昌先生にお願いした。

3 198号住居跡カマドの燃料材と食物残渣について

(1) 結果

a. 組織片・植物珪酸体の産状

特徴的な植物珪酸体を包含しない不明組織片がわずかに認められるにすぎない。また、単体の植物珪酸体は

認められなかった。

b. 動・植物遺体の産状

①植物遺体

植物遺体では、微細な材片が微量に検出されたのみであり、樹種の同定は不能であった。

②動物遺体

SI-198NO18貝試料中にはヤマトシジミの右殻が3点、左殻が10点、ハマグリの中殻1点が認められた。

また、本試料中②は細片化して種類の同定が不能なものも含まれていた。

SI-198、NO19骨試料ではキジの中足骨左右が認められたほか、種類は不明の獣骨片が含まれていた。

SI-198カマド灰試料は当社の水洗選別で抽出された試料であるが、貝片・魚骨・獣骨・鳥骨が認められている。貝ではカキと思われる小片10数片、ヤマトシジミ小片10数片、魚骨ではコイあるいはフナ類の腹椎2点、咽頭歯片1点、切り鋸歯を持つ鱗棘微少片1点、キジ類の基節骨2点と脛骨片1点が確認される。

(2) 考 察

試料中からは不明組織片がわずかに認められたことから、カマドの燃料材について検討することは困難である。発掘調査ではカマドの火床上面に灰層が認められたとされているが、植物珪酸体の保存状況を考慮すれば、採取された試料は純粋な灰層ではなく、カマド内に溜まった灰が外へ掻き出された可能性も考えられ、その結果、燃料材に由来するイネ科植物が保存されなかったのかも知れない。なお、カマドの燃料材として周囲に生息していたススキ属やササ類などのイネ科植物やイネなどのイネ科作物が利用されていた例がこれまでの分析調査で見られる(佐瀬, 1982; 大越, 1985; パリノ・サーヴェイ株式会社, 1993など)。今回の平安時代のカマドでも同様なことが想像されるが、この点はさらに他の住居跡のカマド灰層との比較検討や、当時代の本遺跡周辺のイネ科植物相に関する情報も蓄積することによって、明らかにされるであろう。

一方、食物残渣とみられる骨片では加工痕は認められなかったが、しかし貝および骨片はいずれも加熱を受けた痕跡が認められることから、調理された残渣と考えられる。また、貝類でハマグリやカキと思われる海水類の貝殻片が検出されていることから、おそらく海で採取されたものが持ち運ばれて食用されていたと考えられる。

4 308号住居跡カマドの食物残渣について

(1) 結 果

獣骨骨片では主にシカが検出された。その部位は2+3手根骨・左中間手根骨・右脛骨1点・上腕骨遠位端片・大腿骨遠位端(外側顆)が各1点ずつ、大腿骨骨体片3点、部位不明が1点である。また、イノシシかシカかは判断できないが、四肢骨破片が多く認められている。さらに種類は不明であるが、魚骨の鱗棘片も認められた。

5 総 括

今回の分析調査では、カマドで用いられたイネ科植物の燃料材に関する情報を試みた。しかし、植物珪酸の保存状態が悪く、その情報を得ることはできなかった。ただし、これまでの調査例からみて、このような調査は過去の燃料材の実体を知る上でも今後有効であると考えられる。今後とも、周辺の遺跡においてもカマド覆土に灰層が認められた場合は、自然堆積とともにカマド灰層の燃料材に関する分析調査を行い、周辺植生との関連性を含めて検討したい。

また、本遺跡では、古墳時代後期の住居跡カマドから検出された獣骨と平安時代の住居跡から検出された貝・骨の種類が異なる結果が得られた。これが本遺跡周辺における漁労・狩猟の変遷を反映している可能性もあるが、今回の結果のみで判断することは難しい。今後もさらに情報を蓄積することによって、本遺跡周辺における漁労・狩猟に関する試料が得られると期待される。

(引用文献)

近藤錬三・佐瀬 隆(1986) 植物珪酸体分析, その特性と応用。第四紀研究, 25, p 31—64

大越昌子(1985) プラント・オパール分析, 平賀遺跡群発掘調査報告書, p 803—815 平賀遺跡調査会

バリノ・サーヴェイ株式会社(1993) 自然科学分析からみた人々の生活(1), 慶応義塾藤沢校地埋蔵文化財調査室編「湘南藤沢キャンパス内遺跡 第1巻 総論」, p 347—370, 慶應義塾,

佐瀬 隆(1982) 古墳時代住居跡の炉に関する焼土について, 一植物起源粒子の植物珪酸体から見て一, 東京都埋蔵文化財センター調査報告書第2集「多摩ニュータウン遺跡—昭和58年度—(第3分冊集)」, p 303—307, 東京埋蔵文化財センター

熊の山遺跡出土須恵器壺Gの胎土分析

(株) 第四期地質研究所 井上 巖

1 目 的

熊の山遺跡からは、須恵器壺Gと思われる4点の土器片が出土している。これらの遺物において蛍光X線分析を行い、元素の組成を調べ胎土の特徴を明らかにし、生産地を特定することを目的とした。

2 分析結果

(1) X線回析試験結果

①タイプ分類

表1胎土性状表には熊の山遺跡の壺Gとともに、既分析の静岡県助宗窯、花坂島橋窯、大阪府の大庭寺窯の土器も記載してある。第1表に示すように土器胎土はA～Dの4タイプに分類された。熊の山遺跡の壺Gとともにその多くは高温で焼成されているために、胎土中の粘土鉱物と造岩鉱物はガラスに変質し、4分析は検出されない。以上のように、熊の山遺跡の壺Gは高温で焼成され、すべてDタイプとなる。

②石英・斜長石の相関について

土器胎土中に含まれる砂の粘土に対する混合比は粘土の材質、土器の焼成温度との大きな関わりがある。土器を作成する過程で、ある粘土にある量の砂を混合して素地土を作るということは、個々の集団が持つ土器作成上の固有の技術であると考えられる。

自然の状態における各地の砂は、固有の石英と斜長石比を有している。この比は後背地の地質条件によって各々異ってくるものであり、言い換えれば、各地の砂は各々固有の石英と斜長石比を有していると言える。ここでは助宗、花坂島橋、大庭寺の各窯と比較、検討した。

1図に示すように、熊の山遺跡の壺Gは助宗窯の土器と同じグループに集中する。その選出強度は石英が1000～1800、斜長石が50～150の範囲にあり、集中度は高い。熊の山遺跡の4個の壺Gは比較的狭い領域でグループを形成し、混合比の類似性は高い。花坂島橋遺跡の壺Gとは明らかに異質である。

(2) 化学分析結果

表2化学分析表には熊の山遺跡の壺Gとともに、既分析の静岡県助宗窯、花坂島橋窯、大阪府の大庭寺窯の土器も記載してある。

①SiO₂-Al₂O₃の相関について

2図SiO₂-Al₂O₃図に示すように熊の山遺跡の壺Gは助宗窯のグループに近いところでグループを形成し、集中度も良い。熊の山遺跡の壺Gは花坂島橋遺跡の壺Gと他の土器を含め明らかにグループが異なり、異質である。

②Fe₂O₃-MgOの相関について

3図Fe₂O₃-MgO図に示すように、熊の山遺跡の壺Gは助宗窯の土器と重複するように集中してグループを

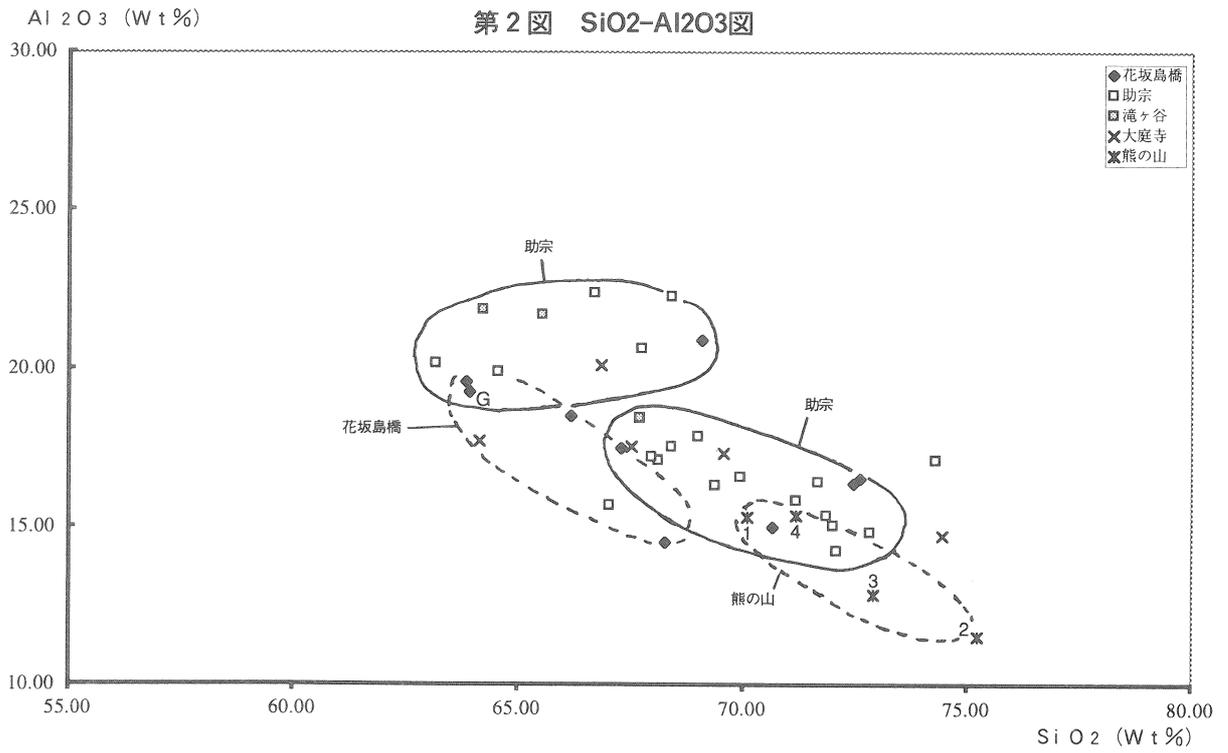
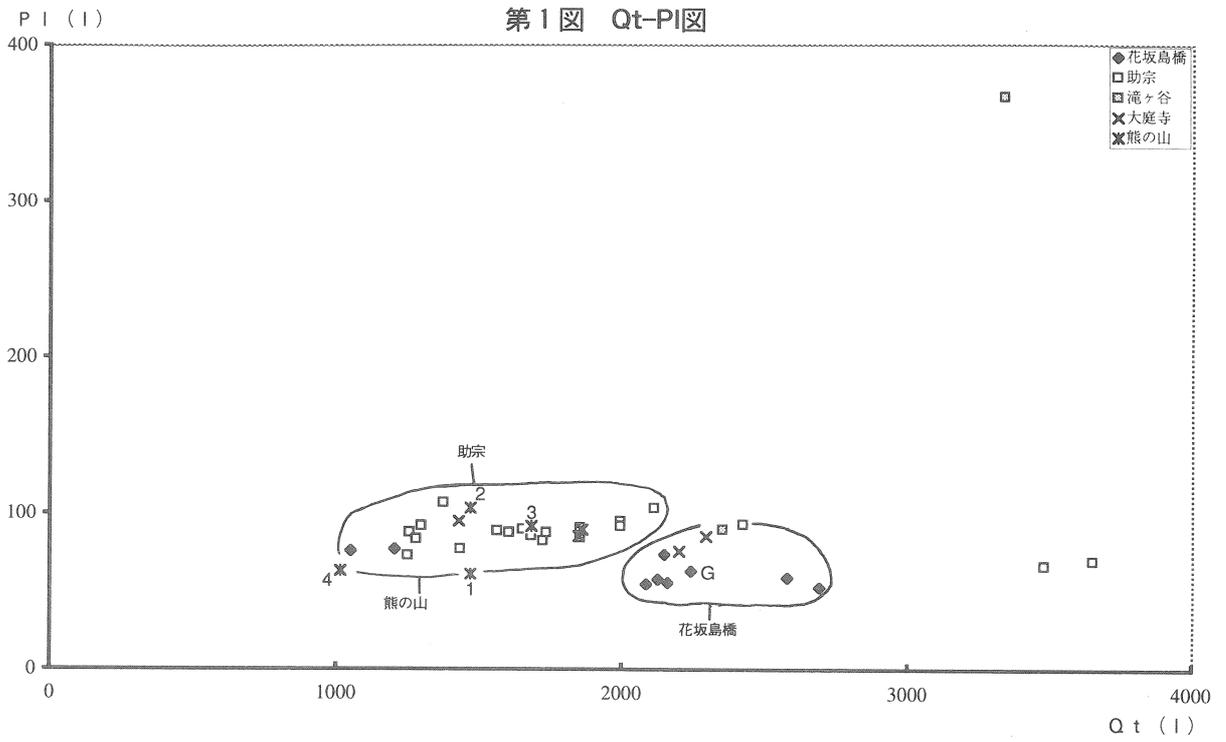
形成する。Fe₂O₃は6～9%，MgOは1～2.5%の狭い領域にある。熊の山遺跡の壺Gは花坂島橋遺跡の壺Gと他の土器を含め、明らかにグループが異なり、異質である。

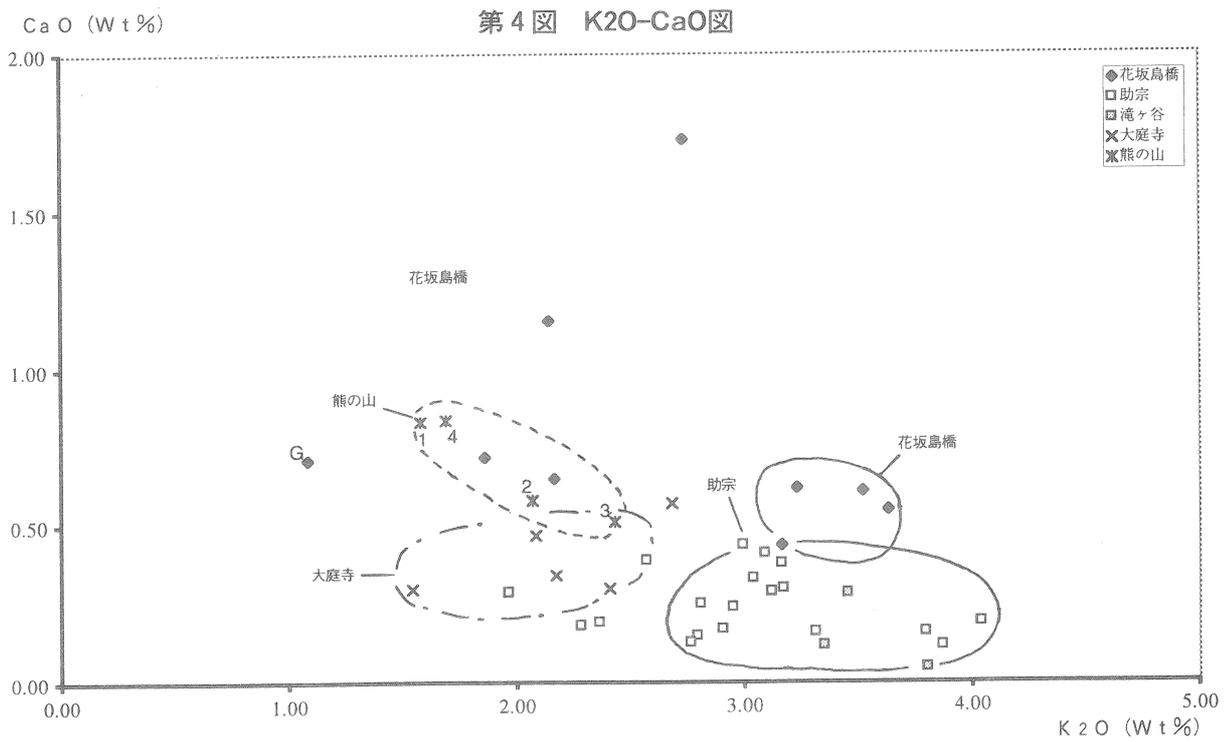
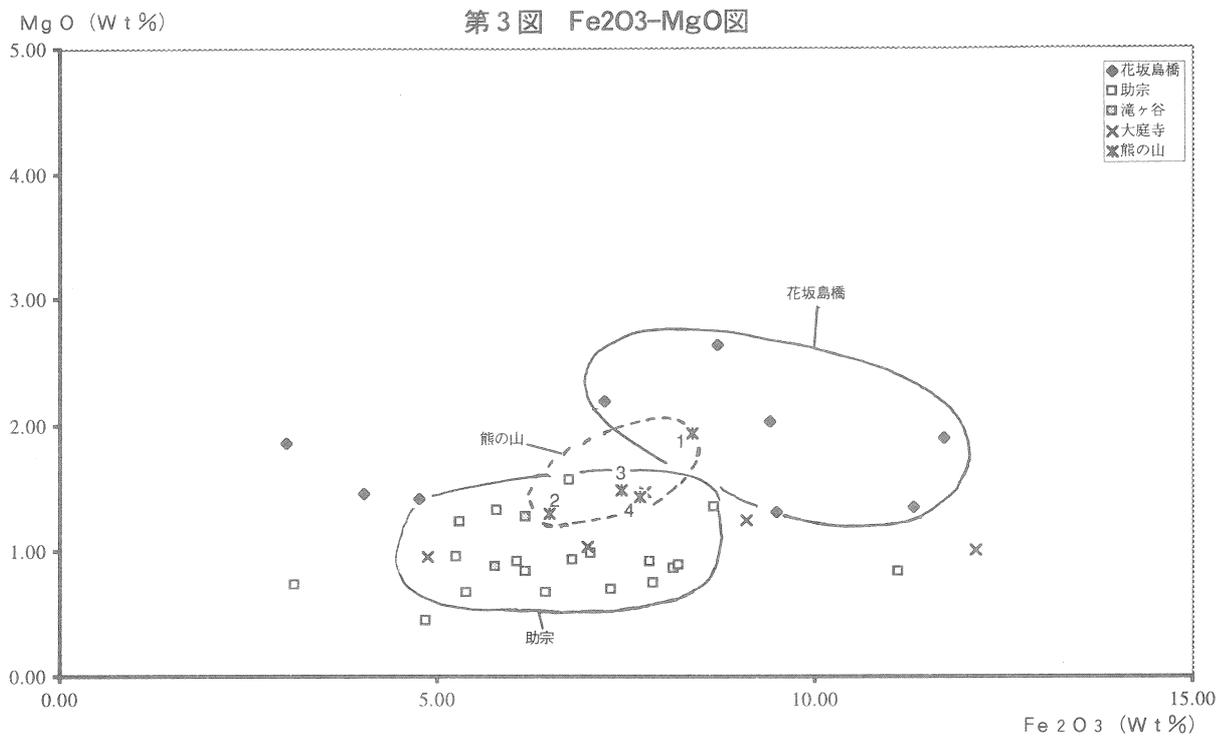
③K₂O-CaOの相関について

4 図K₂O-CaO図に示すように、熊の山遺跡の壺GはK₂Oの値が1.5～2.5%の狭い範囲で集中し、助宗窯の土器とは異なるグループを形成する。

3 ま と め

- (1) 土器胎土は高温で焼成されているために、鉱物がガラスに変質し、Dタイプが4個である。
- (2) X線回析試験に基づくQt-Pl相関では助宗窯の土器と共存し、関連性が伺われる。
- (3) 化学分析結果では、熊の山遺跡の壺GはSiO₂-Al₂O₃、Fe₂O₃-MgOの相関では助宗窯の土器と近い関係にあるが、K₂O-CaOではいくぶん異なる。花坂島橋遺跡の土器とは明らかに異なる。
- (4) 4個の熊の山遺跡の壺GはX線回析試験と化学分析の両方で分析値が近く、同じ胎土に基づく土器であることがわかる。また、分析値を他の遺跡の土器と比較したとき、新治窯と木葉下窯の茨城県のものとは明らかに異質であり、壺Gとの関連する静岡県土器と比較したとき、助宗窯の土器の分析値が最も近い関係にあるように見受けられる。





茨城県教育財団文化財調査報告第133集

(仮称) 島名・福田坪地区特定土地地区画
整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ

熊の山遺跡

(中 巻)

平成10(1998)年3月16日 印刷

平成10(1998)年3月20日 発行

発 行 財団法人 茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
T E L 029-225-6587

印 刷 (有) ミツギ印刷社
〒311-4153 水戸市河和田町4433-33
T E L 029-252-8481